

次期「彦根市子ども・若者プラン」 策定に係る調査結果報告書

令和6年6月
彦根市

目 次

I. 調査の概要	1
1 調査目的	1
2 実施要領	1
3 報告書の見方	2
II. 調査結果	3
II-1. 就学前児童調査・小学生児童調査	3
1 お住まいの地域	3
2 お子さんご家族の状況について	4
3 子どもの育ちをめぐる環境について	8
4 保護者の就労状況	18
5 平日の定期的な教育・保育事業の利用状況（就学前のみ）	21
6 地域の子育て支援事業の利用状況	29
7 土日・祝日、長期休業中の「定期的」な幼稚園・保育所等の利用希望（就学前のみ）	32
8 病気の際の対応	35
9 不定期の教育・保育事業や宿泊を伴う一時預かり等の利用について（就学前のみ）	42
10 放課後の過ごし方	44
11 子育て観やサービスの満足度などについて	47
12 育児休業や短時間勤務制度など職場の両立支援制度について	58
II-2. 若者の意識調査（18 歳～39 歳の市民用調査）	71
1 回答者について	71
2 将来について	76
3 ご自身の状況について	78
4 居場所について	93
5 仕事と家庭、子育てについて	95
6 世話をしている人について	105
7 全体を通して	108
II-3. 子どもの生活に関する調査	113
A 回答者について	113
B お子さんについて	115
C 世帯の状況	133
D 暮らしの状況	145
E 市の取り組み	153
II-4. 子どもの生活に関する資源量調査（団体対象）	164
1 機関・団体について	164
2 困難な家庭の状況	165
3 現行の支援の取組と課題	170

4	今後必要な支援制度と連携による支援体制、具体的な支援方法	176
II-5.	子どもへの支援に関する調査（保幼小中高大対象）	181
II-6.	子どもへの調査（学習支援児童生徒対象）	191

I. 調査の概要

1 調査目的

本調査は、令和2年3月に策定した第2期「彦根市子ども・若者プラン」の見直しにあたり、市内にお住まいのお子さんのいるご家庭、18歳～39歳の若者、施設・団体等を対象に、子育てに関する実態や子どもたちの生活実態、市民のみなさまのご意見などをおうかがいし、今後の市の子育て支援、子ども・若者支援に係る事業計画策定の基礎資料として活用することを目的として実施したものです。

2 実施要領

	調査対象	配布数	回収数	回収率	調査期間	調査方法
就学前児童調査・小学生児童調査	市内の小学校入学前(0～5歳児)の子どもがいる世帯	1,874	805人	43.0%	令和6年 4月1日～ 4月19日	郵送配布・ 郵送又は WEB回収
	市内の小学生(1～4年生)の子どもがいる世帯	3,888人 (無作為抽出)	1,191人	30.6%	令和6年 3月19日～ 4月11日	学校経由配 布・WEB 回収
若者の意識調査	市内の18歳～39歳の若者	1,000人	153人	15.3%	令和6年 4月1日～ 4月19日	郵送配布・ 郵送又は WEB回収
子どもの生活に関する調査	市内の小学5年生、中学2年生の子どもがいる世帯	2,044人 (悉皆調査)	582人	28.5%	令和6年 3月19日～ 4月11日	学校経由配 布・WEB 回収
	市内の支援団体・行政機関・児童福祉施設	31カ所	23カ所	74.2%	令和6年 4月1日～ 4月19日	郵送配布・ WEB回収
	市内の保育所・幼稚園・認定子ども園・小学校・中学校・高校・大学	79カ所	39カ所	49.4%		郵送配布・ WEB回収
	定期的な学習支援を利用している児童・生徒	60人	26人	43.3%		郵送配布・ 郵送又は WEB回収

3 報告書の見方

- (1) 図表中の「N (number of case)」は、有効標本数（集計対象者総数）を表しています。
- (2) 回答結果の割合「%」は有効サンプル数に対して、それぞれの回答数の割合を小数点以下第2位で四捨五入したものです。そのため、単数回答であっても合計値が100.0%にならない場合があります。
- (3) 複数回答の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの割合を示しています。そのため、合計が100.0%を超える場合があります。
- (4) 図表中に次のような表示がある場合は、複数回答を依頼した質問を示しています。
 - ・ MA % (Multiple Answer) : 回答選択肢の中からあてはまるものをすべて選択する場合
- (5) 図表中において「無回答」とあるものは、回答が示されていない、または回答の判別が著しく困難なものです。

Ⅱ. 調査結果

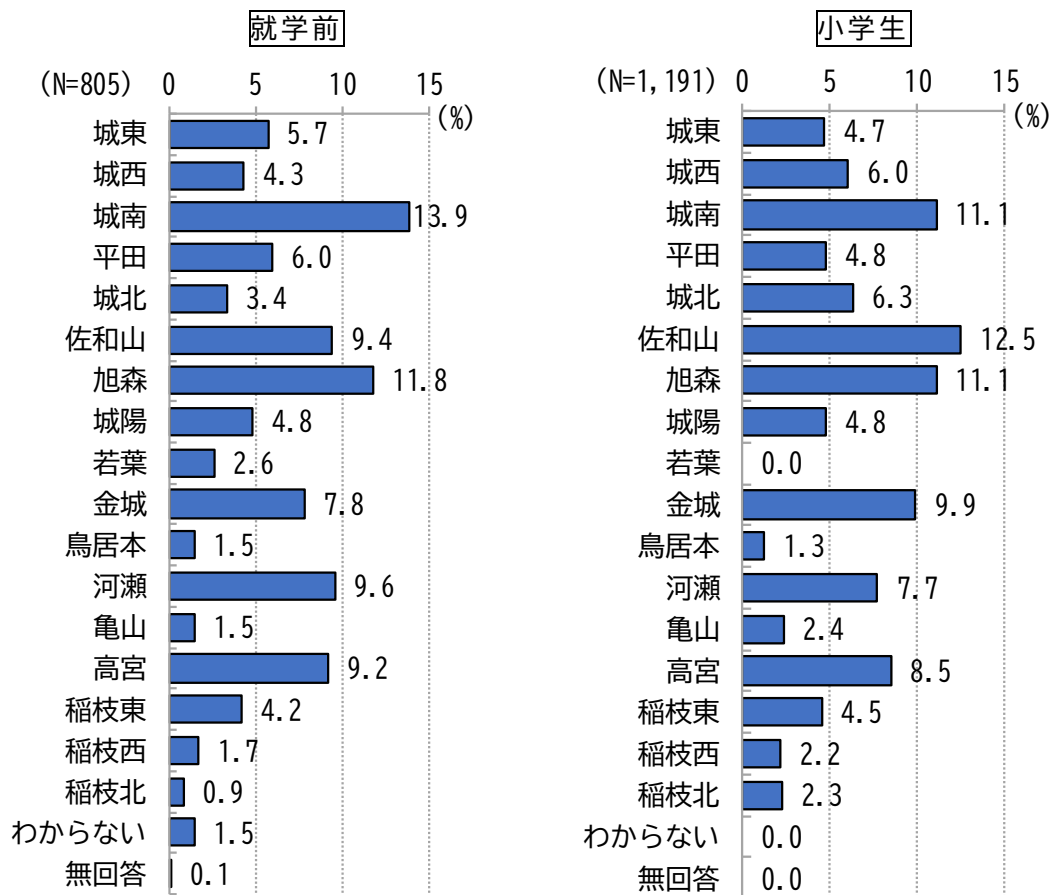
Ⅱ-1. 就学前児童調査・小学生児童調査

1 お住まいの地域

〔1〕居住する小学校区

【 就学前：問1 / 小学生：問1 】

お住まいの小学校区はどちらですか。当てはまる番号1つに○をつけてください。



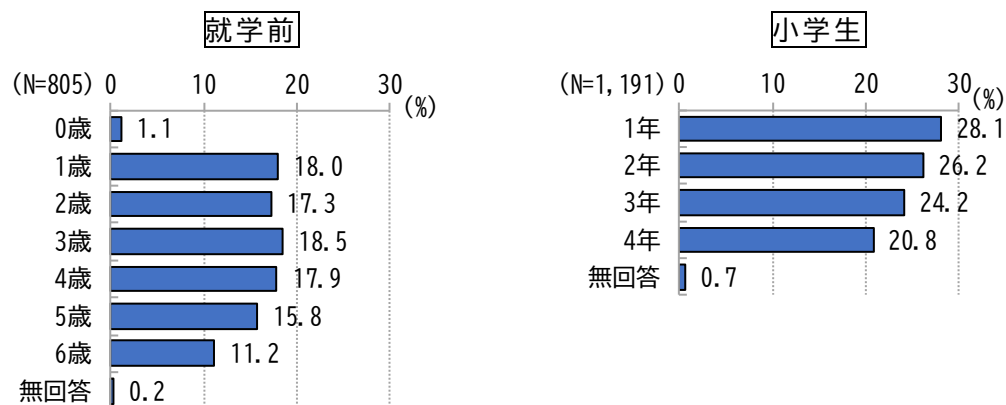
回答者の居住地（小学校区）は、就学前では「城南」が13.9%と最も多く、小学生では「佐和山」が12.5%と最も多くなっています。

2 お子さんご家族の状況について

〔1〕対象の子どもの年齢と学年（令和6年3月1日現在）

【 就学前：問2／小学生：問2 】

お子さんの年齢／学年（令和6年3月1日現在）をお答えください。当てはまる番号1つに○をつけてください。



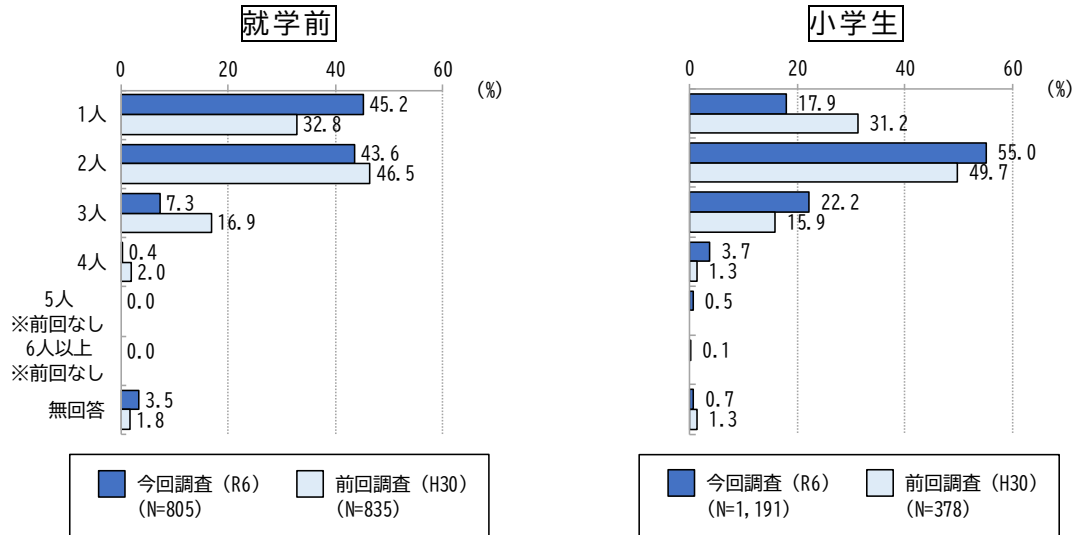
対象の子どもの年齢は、就学前では「3歳」が18.5%と最も多く、小学生では「1年」が28.1%と最も多くなっています。

〔2〕きょうだいの人数

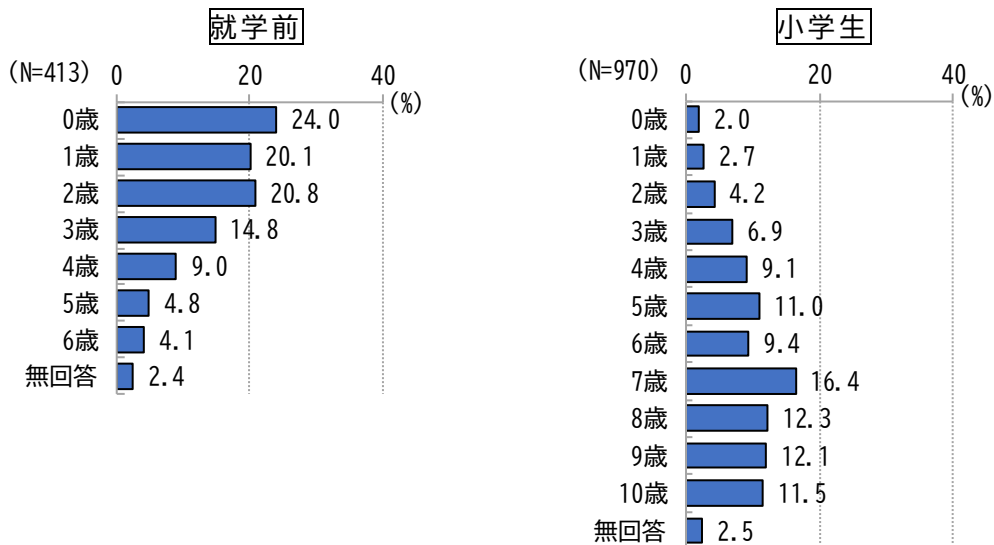
【 就学前：問3／小学生：問3 】

お子さんのきょうだいは、お子さんを含め何人いらっしゃいますか。お2人以上のお子さんがいらっしゃる場合は、末子の方の年齢を（令和6年3月1日現在）をお答えください。当てはまる番号1つに○をつけてください。

■きょうだいの人数



■きょうだい2人以上いる場合の末子の年齢



きょうだいの人数は、就学前では「1人」が45.2%と最も多く、小学生では「2人」が55.0%と最も多くなっています。

また、きょうだい2人以上いる場合の末子の年齢は、就学前では「0歳」が24.0%と最も多く、小学生では「7歳」が16.4%と最も多くなっています。

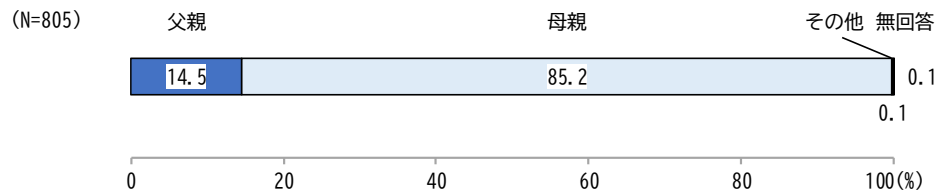
Ⅱ-1. 就学前児童調査・小学生児童調査

〔3〕調査票の回答者

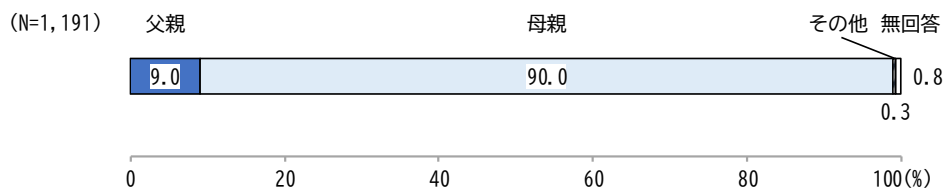
【 就学前：問4／小学生：問4 】

この調査票にご回答いただく方はどなたですか。お子さんからみた関係でお答えください。当てはまる番号1つに○をつけてください。

就学前



小学生



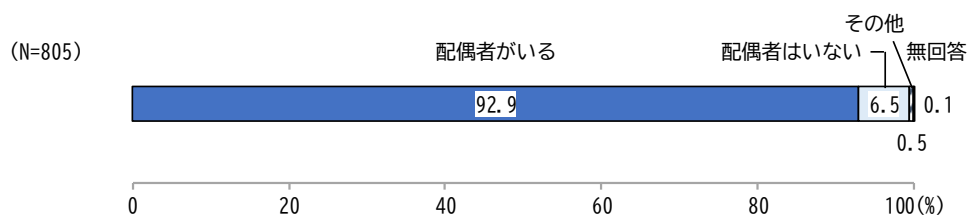
調査票の回答者は、「母親」が、就学前では 85.2%、小学生では 90.0%と最も多くなっています。

〔4〕調査票の回答者の配偶関係

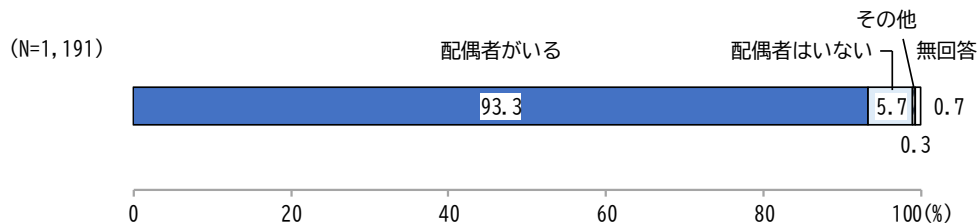
【 就学前：問5／小学生：問5 】

この調査票にご回答いただいている方の配偶関係についてお答えください。当てはまる番号1つに○をつけてください。

就学前



小学生



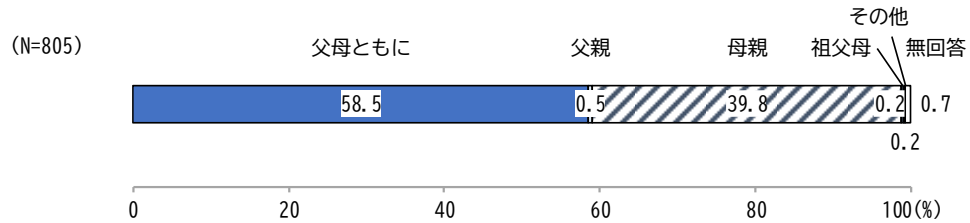
回答者の配偶関係は、「配偶者がいる」が、就学前では 92.9%、小学生では 93.3%と最も多くなっています。

〔5〕子育てを主に行っている人

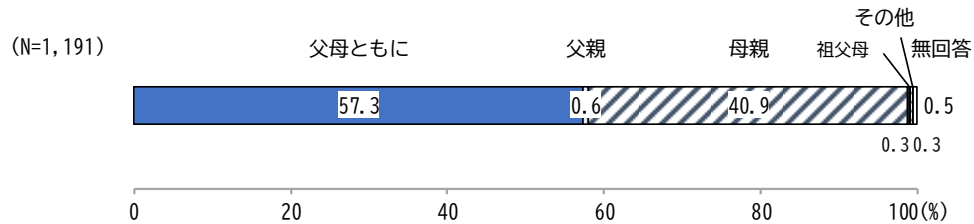
【 就学前：問6／小学生：問6 】

お子さんの子育て（教育を含む）を主に行っているのはどなたですか。お子さんから見た関係で当てはまる番号1つに○をつけてください。

就学前



小学生



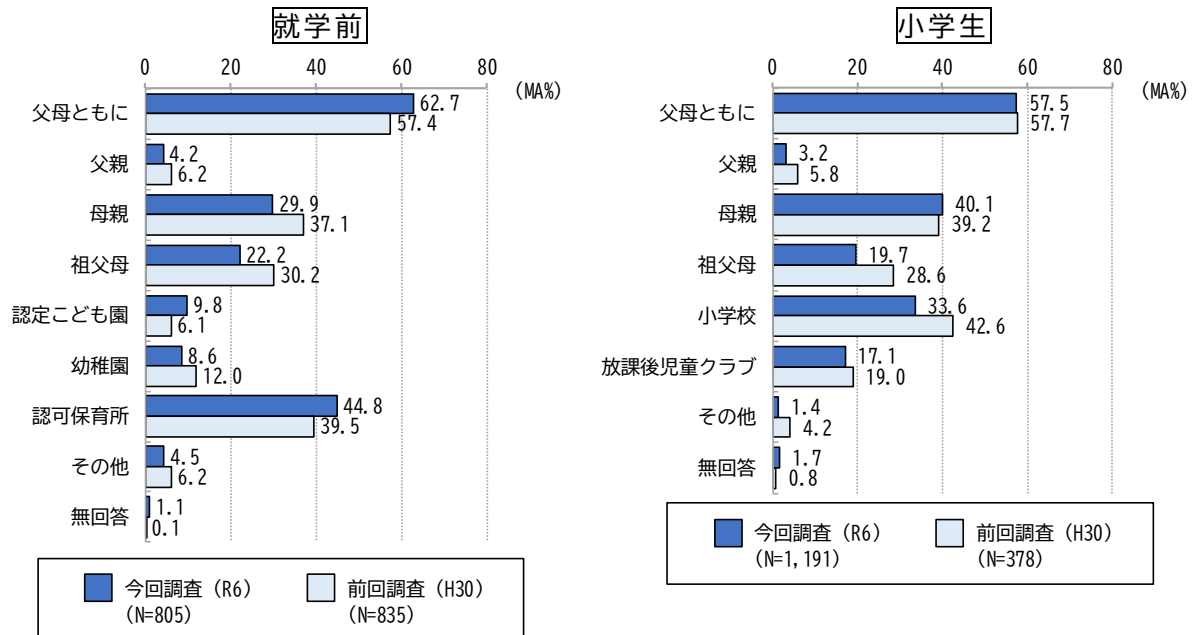
子育て（教育を含む）を主に行っている人については、「父母ともに」が、就学前では 58.5%、小学生では 57.3%と最も多くなっています。

3 子どもの育ちをめぐる環境について

〔1〕 日常的に子育てに関わっている人（施設）

【 就学前：問7／小学生：問9 】

お子さんの子育て（教育を含む）に日常的に関わっている方はどなた（施設）ですか（緊急時を除く）。お子さんからみた関係で当てはまる番号すべてに○をつけてください。

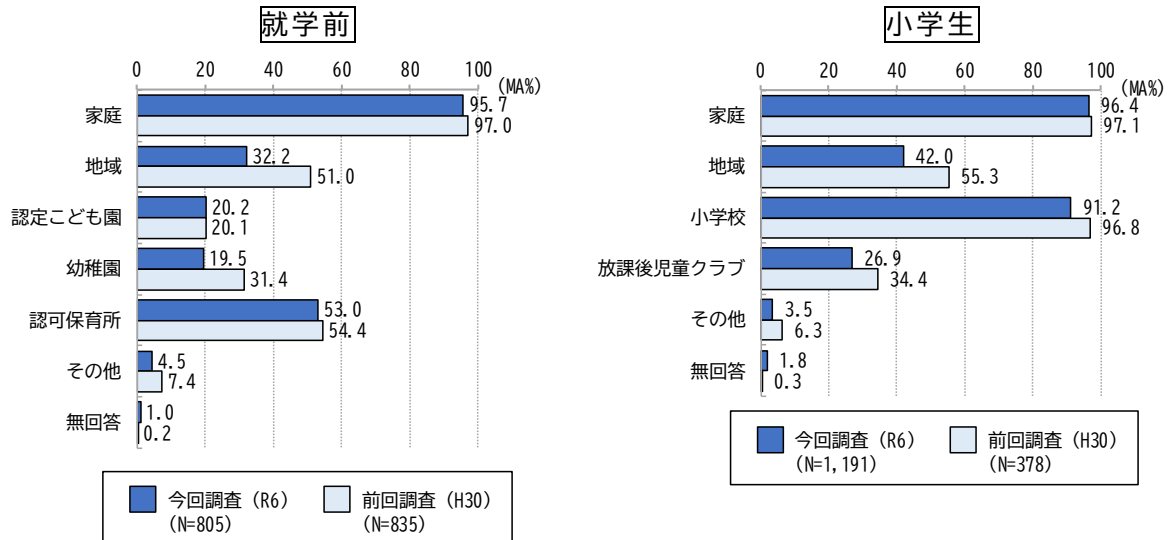


子育て（教育を含む）に日常的に関わっている人（施設）については、「父母ともに」が、就学前では 62.7%、小学生では 57.5%と最も多くなっています。

〔2〕子育てに影響すると思われる環境

【 就学前：問8／小学生：問10 】

お子さんの子育て（教育を含む）に、影響すると思われる環境はどこですか。当てはまる番号すべてに○を付けてください。

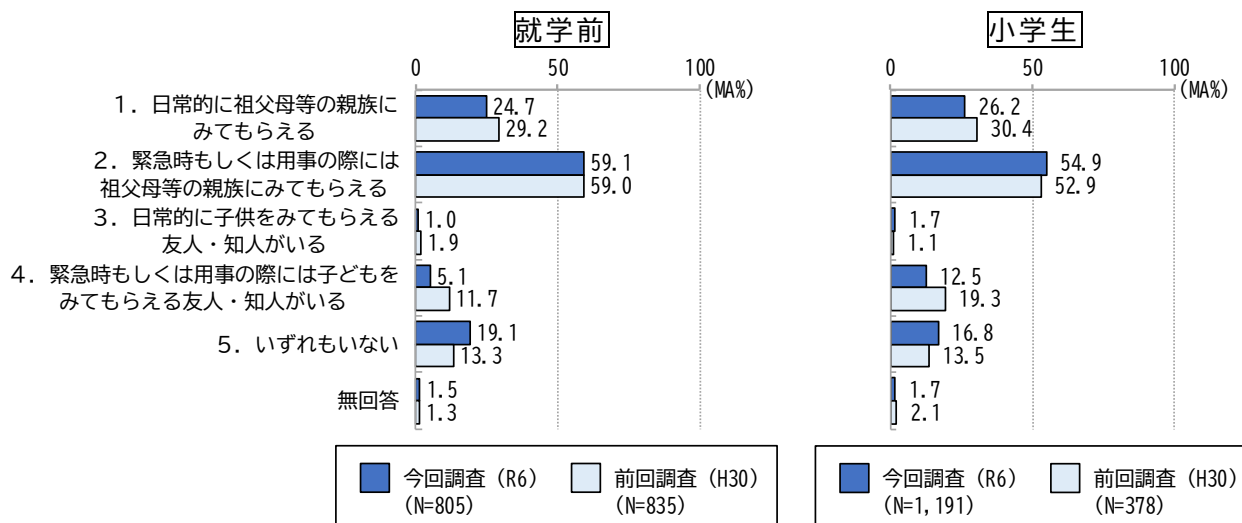


子育て（教育を含む）に影響すると思われる環境については、「家庭」が、就学前では95.7%、小学生では96.4%と最も多くなっています。

〔3〕子どもをみてもらえる親族・知人の有無

【 就学前：問9／小学生：問11 】

日頃、お子さんをみてもらえる親族・知人はいますか。当てはまる番号すべてに○をつけてください。



お子さんをみてもらえる親族・知人については、「緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる」が、就学前では59.1%、小学生では54.9%と最も多くなっています。

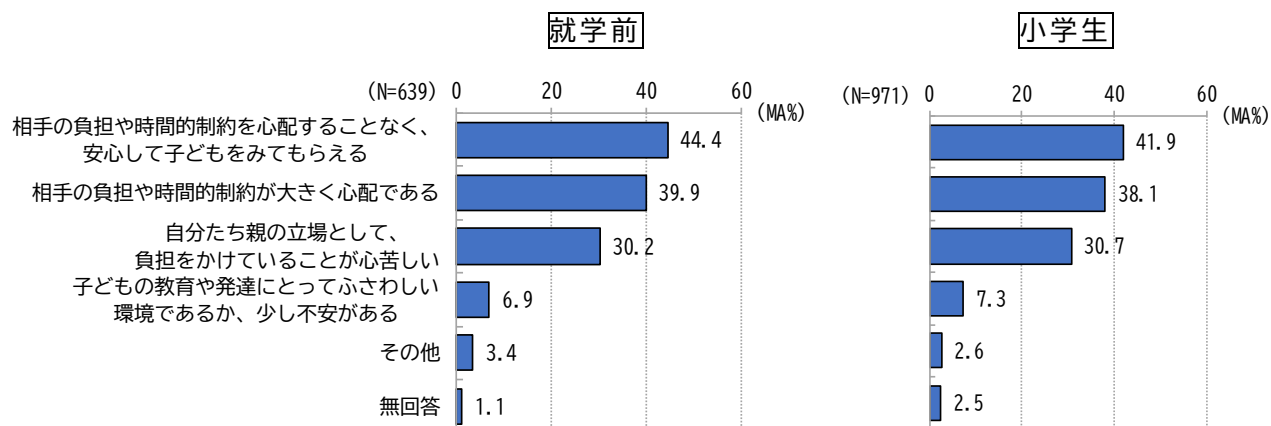
Ⅱ-1. 就学前児童調査・小学生児童調査

〔４〕親族・知人に子どもをみてもらっている状況

問 9／問 11 で「１」～「４」（お子さんをみてもらえる親族・知人がいる）を選んだ方のみ

【 就学前：問 9-1／小学生：問 11-1 】

親族・知人にお子さんをみてもらっている状況についてお答えください。当てはまる番号すべてに○をつけてください。

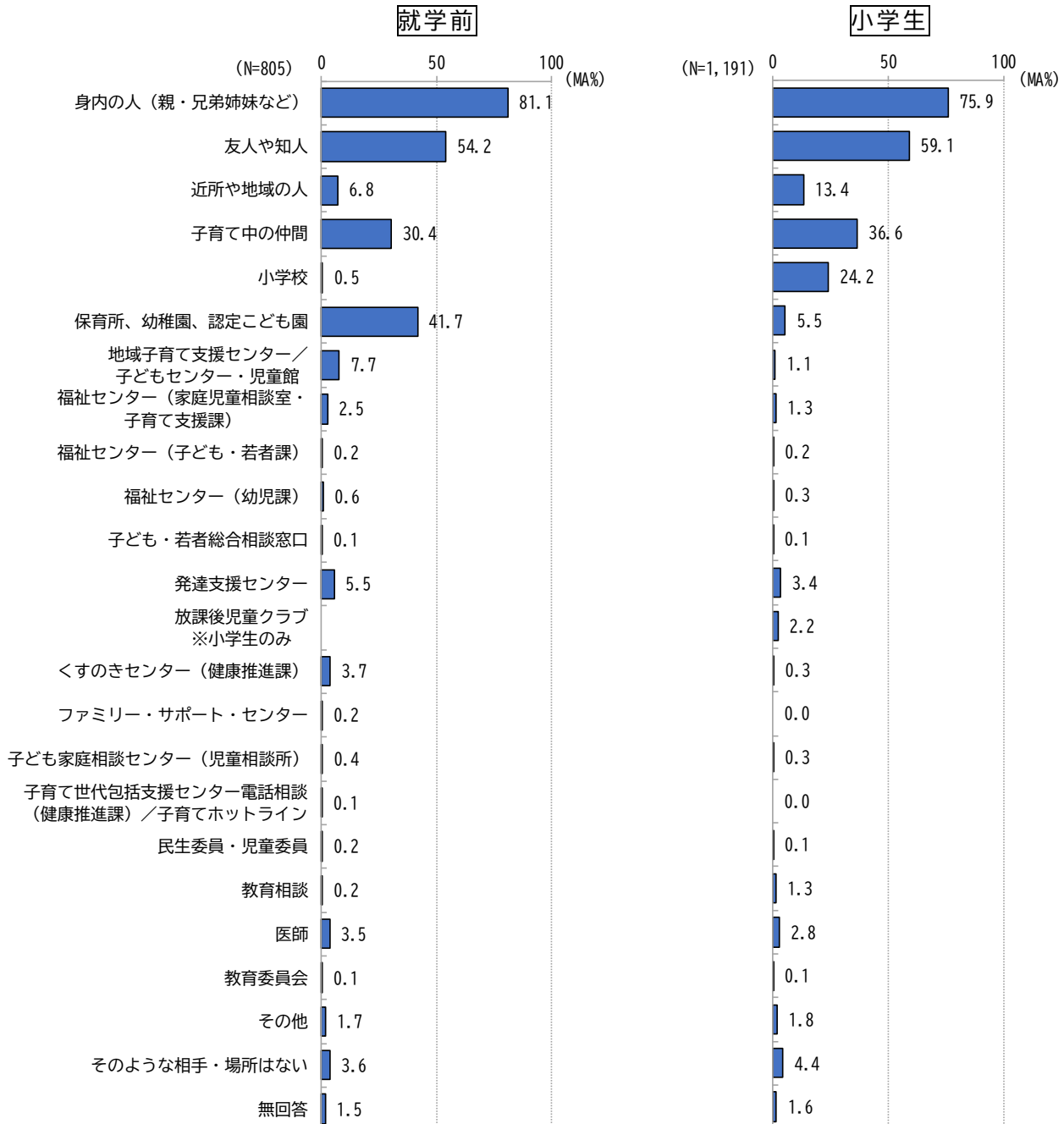


親族・知人にお子さんをみてもらっている状況については、「相手の負担や時間的制約を心配することなく、安心して子どもをみてもらえる」が、就学前では 44.4%、小学生では 41.9%と最も多くなっています。

〔5〕子育てについて相談できる人や場所

【 就学前：問10／小学生：問12 】

子どものことや子育てについて気軽に相談できる相手・場所は誰（どこ）ですか。当てはまる番号すべてに○をつけてください。



子どものことや子育てについて気軽に相談できる相手や場所については、「身内の人（親・兄弟姉妹など）」が、就学前では 81.1%、小学生では 75.9%と最も多くなっています。

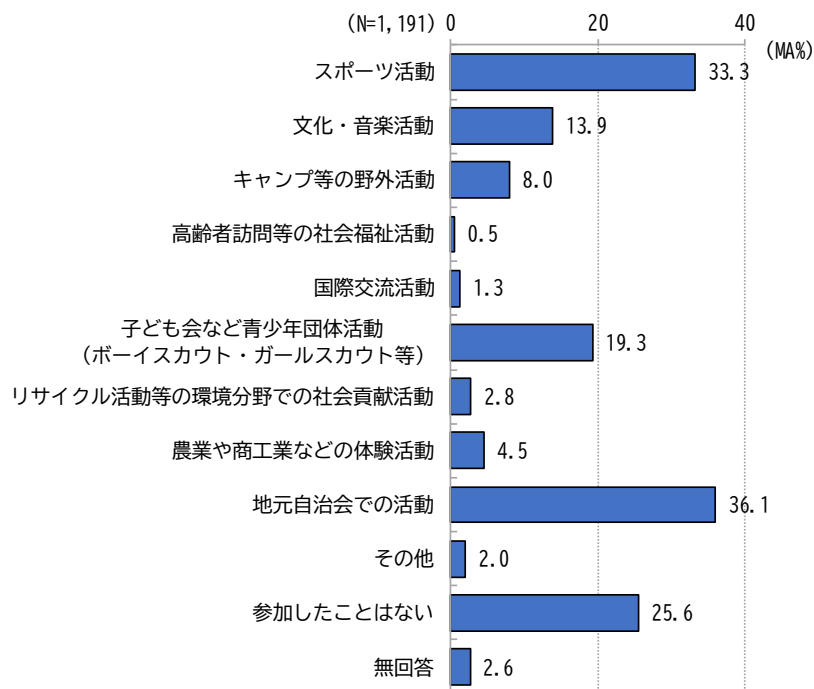
Ⅱ-1. 就学前児童調査・小学生児童調査

〔6〕地域活動やグループ活動などの参加したことがある活動（小学生のみ）

【 就学前：－／小学生：問13 】

お子さんは、地域活動やグループ活動などに参加されたことがありますか。当
てはまる番号すべてに○をつけてください。

小学生



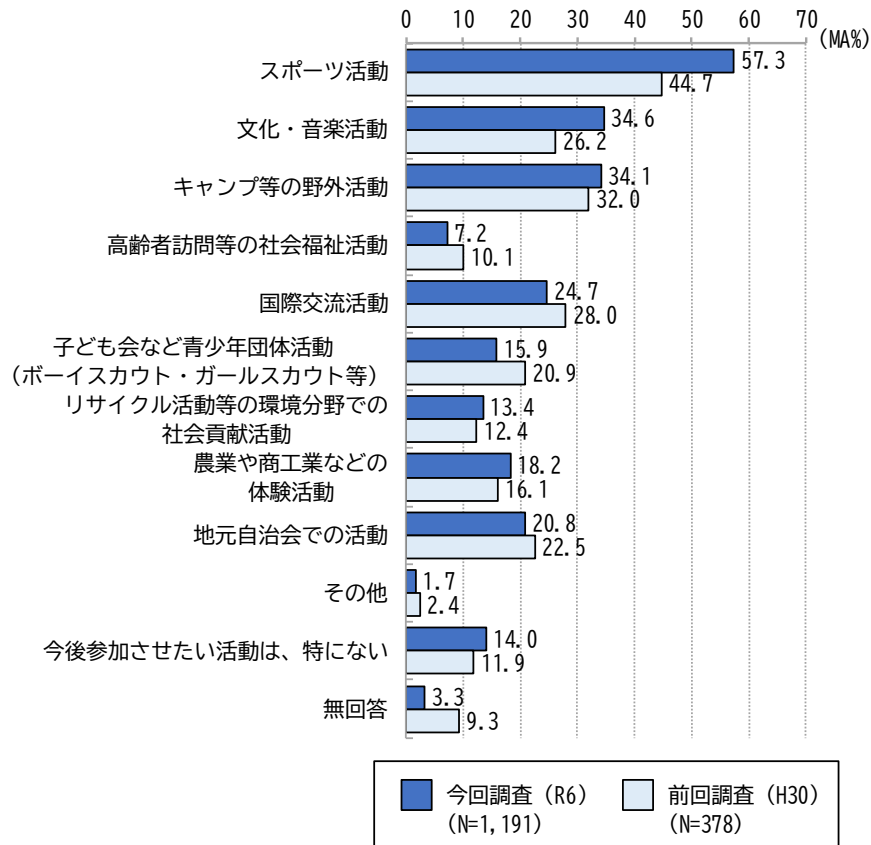
地域活動やグループ活動などの参加したことがある活動については、「地元自治会での活動」が36.1%と最も多くなっています。

〔7〕 今後参加させたい活動（小学生のみ）

【 就学前：－／小学生：問14 】

今後、参加させたいと思われる活動はありますか。また、それは何ですか。当
てはまる番号すべてに○をつけてください。

小学生



今後、参加させたいと思う活動については、「スポーツ活動」が 57.3%と最も多くなっています。

〔8〕子育てをする上で、周囲からあればよいサポート（自由記述）

【 就学前：問11／小学生：問15 】

子育て（教育を含む）をする上で、周囲（身近な人、行政担当者など）からどのようなサポートがあればよいとお考えでしょうか。ご自由にお書きください。

一時預かりまたは緊急時のサポート

〔就学前〕74件

- ・ 子供の人数や多胎などにかかわらず、無料で数時間あずけられる施設があると助かります。
- ・ 突発的な用事や1時間以内の用事の際に気軽に子どもをみてもらえるようなサポートがあると助かります。

〔小学生〕58件

- ・ 近くに頼れる親族がいないので、緊急時にサポートしてくれる何かがあれば助かります。
- ・ こどもが3人おり、土日は父親が不在であるため、身近にこども達を預けたり、自宅でみてもらえるような気軽に利用できるサービスがあればありがたい。

経済的支援

〔就学前〕42件

- ・ ベビーシッターが気軽に依頼できる補助や助成がほしい。
- ・ 金銭的支援、あるいは減税による経済支援。これだけでよいわけではないが、結局は精神的な余裕を持つためにはお金が必要。

〔小学生〕32件

- ・ 食費がとてにもかかっているの水道代とかを中学生の間まで割引きしていただけるとありがたいです。
- ・ 給食費が無料になったら助かります。

気軽な相談場所

〔就学前〕32件

- ・ いつでも相談できる環境。
- ・ 心配事を気軽に相談出来る場所があると良いと思います。

〔小学生〕29件

- ・ 学校での困り事を書き込みやメール出来るような相談窓口のHPみたいなものがあるといいなーと思う！！
- ・ 聞きたい時に答えてくれるサポート体制。時間や内容を気にせず、気軽に相談出来る場所が欲しい。

情報提供

〔就学前〕24件

- ・ 彦根市から出している療育についての情報が少ないです。どのようなサポートをしてもらえるのか、こういった内容で相談しにくるのか、分かりやすくホームページなどに載せて頂けると助かります。迷っている親はたくさんいると思います。
- ・ 育休中は、どこ行こう、何しようとかよく悩んだので、地域子育て支援センター以外での（人が多く集まるので）おすすめの場所やイベントの情報をたくさんもらえると嬉しかった。

〔小学生〕20件

- ・ 広報やLINE等による情報発信。
- ・ どのような場所があるのか、どんなサポートがあるのか分かりやすく説明してあるものがあると使いやすいと思います。

遊び場・公園等施設の充実	
〔就学前〕 17 件	・ 平日日中で未就学児までが遊べる屋内児童施設が多いとありがたいです。 ・ まんまる広場や子供センターなど、室内の施設を増やしてほしい。
〔小学生〕 25 件	・ 子どもたちが気軽に遊びにいけるような施設が増えてほしい。最近できたプロシードのような図書があったり集まれる屋内等あれば嬉しい。徒歩圏内にできてほしい。 ・ 放課後、外で遊ぶなど低学年は心配なので、見守りがある広場や公園があると助かります。
病児・病後児保育	
〔就学前〕 22 件	・ 急な病児保育も可能な施設。 ・ 病児保育の拡大。7 時台には利用出来るか知れるような病児保育があると助かります。
〔小学生〕 13 件	・ 子どもが熱を出したりした時に安心して預けられる預け先があれば助かるなと思うことがあります。 ・ 病気の際にみてもらえる場所があれば嬉しい。今は少ないと思う。
学習支援	
〔就学前〕 2 件	・ 緊急時の子守り、日常的な学習習慣やしつけ(親と違う視点で)。
〔小学生〕 25 件	・ 楽しく勉強が出来る無償の塾がほしい。 ・ 放課後に宿題をしっかりとみてもらって、わからないところは教えてもらってから帰ってきてくれると助かります。
放課後児童クラブ	
〔就学前〕 5 件	・ 学童の送迎に大人を必須としないでほしいです。
〔小学生〕 21 件	・ 共働きのため、放課後児童クラブで弁当を手配できると大変助かる。春・夏・冬の期間の弁当作成がかなり負担となっている。 ・ 学童などでもう少しの時間(1 時間程度)預かってもらえると助かる。
職場環境、働き方、意識改革	
〔就学前〕 10 件	・ できれば、融通が利く、仕事のサポート(時間や給料等)。 ・ 父親の意識改革の場。
〔小学生〕 9 件	・ 子どもの都合での急な休みがとりやすい職場環境。
学校の体制、環境、理解	
〔小学生〕 18 件	・ 学校に来る相談員(スクールカウンセラー)に子どもが相談したが、全くアドバイスをくれなかったので、子どもは人間不信になった事があるので、ちゃんとした人を派遣して欲しい。 ・ 学校の先生方はお忙しそうで大変だと思いますし年々相談しにくさを感じます。子供のトラブルがあった時などには報告を受けることもあります。若い先生は頭ごなしに決めつけられたりしますし嫌な思いもありましたので、諦めることも多くあります。
預けやすい体制の整備	
〔就学前〕 17 件	・ もっと気軽に子どもをあずけられるサポートがあると良い。 ・ 気軽に預けられる託児環境。

Ⅱ-1. 就学前児童調査・小学生児童調査

声かけ、挨拶、周囲のかかわり	
〔就学前〕 9 件	・ 新生児訪問(自宅に)のように、こちらからお願いしたり問い合わせたりしなくても、"来てもらえる前提"なのありがたいです。健診の間があく期間など…。
〔小学生〕 7 件	・ 困っている時に声を上げにくいいため、声を上げやすい環境、周囲から子育て環境の方へ「どうですか」と少しでも声をかえてもらいやすいサポート。
休日の預かり	
〔就学前〕 11 件	・ 保育園が休みの日等に預けられる施設があれば有り難いと思う。 ・ 休日の一時保育があればよいと思う。
〔小学生〕 4 件	・ 土日ワンオペなので、姉弟で予定がバラバラの日(スポ少試合など)行かない姉弟を預けられる場所があると、安心できる。
子育てに関する講座、アドバイス	
〔就学前〕 10 件	・ 具体的な体験談(実践例など)を教えてくださいと、助かる。 ・ 子どもが小さいうちは、どうしても母親主体になることが多かったので、父親も育児、子育てについて学べる機会の提供がもっとあればよいと思います。
〔小学生〕 5 件	・ 問題のある家庭にサポートとかアドバイスができる専門家。
体験教室・イベント	
〔就学前〕 4 件	・ 孤独にならないようイベントなど。
〔小学生〕 11 件	・ 子どもには人との関わりや経験を通じて色々な事を学んで欲しいと思う。気軽に参加出来る体験イベントなどを沢山開催してほしいです。 ・ 学校行事の中でも地域特有の活動、体験などに触れる機会をもっと増やしてほしい。いろんな体験をすることにより、興味、知識力を高めてほしいです。
保護者同士の交流の場	
〔就学前〕 13 件	・ 同じ年頃を育てる親子さん方と意見交流(子育ての悩みなど)が出来る気軽な場を設けてほしい(予約など不要。時間決定なしなど)。 ・ 子と同じ年の両親と集まって話す場があるといいなと思う。子と近い年齢の人達と話す機会はほばないので、彦根市の両親の人たちと情報共有できる場がほしい。
〔小学生〕 2 件	・ 気軽に集える催し物の中で、子育て中の親と話が出来る機会があればいいなと思います。
送迎	
〔就学前〕 3 件	・ 一時預かり、送迎があれば助かります。
〔小学生〕 11 件	・ 子どもの習い事などの送迎。 ・ 車をもっていないので、車を気軽にだしてもらえたりすると、助かります。送迎バスや電車だとすごく時間がかかって、行きたい所に中々いきません。

家事代行
〔就学前〕 11 件 ・ 自分が風邪をひいて一人で育児をする時に子供をつれて買い物に行くことが困難なので、食べられるもの、水分補給できるものを届けてもらえたりすると嬉しいです。子供のお昼ご飯だけでも届けてもらえたりするとすごく助かります。 ・ 家事に追われてる毎日なのでご飯を作ってもらえると子供と向き合う時間も出来るかなと思います。
〔小学生〕 3 件 ・ 送迎サービス、家事代行など共働きの母の負担が減ればいいです。
療育、発達、障害児支援
〔就学前〕 6 件 ・ 障害児差別をなくし安心して預けられる場所がほしい。
〔小学生〕 8 件 ・ 学校と発達支援センターなどの間のやり取りが曖昧。互いに双方に相談してください。拠り所はどこなのか挫けそうになった。初めて新一年生を迎える親は、学校内の支援学級制度を知らないし、聞いてない為次年度の支援学級制度に間に合わなかった。先生が把握していない。
登下校等の見守り、防犯、安全
〔就学前〕 2 件 ・ 小学校の登下校の当番や放課後の習い事までの見守りなど。
〔小学生〕 12 件 ・ 大津市のように、学童に通っている子も 17:30 など決められた時間に集団下校させてほしい。学童に迎えに行くことすら負担。 ・ 近年スクールガードをして下さる方の高齢化に伴い登下校の安全に不安があります。就労する父母が多くなり、高齢の方に依頼せざるを得ない状況なので、その辺りにサポートがあれば良いと思います。
保育環境の充実、対応の充実
〔就学前〕 12 件 ・ 保育園、こども園の拡充。 ・ 父母ともに働く人が増えている中、幼稚園の制度を保育園に近づけてほしい。あずかり保育利用中ですが、年度末や初め、学期の終りや始まりなど、利用できない日があるので、仕事に行けない日があります。60 時間以上勤務している人も増えているのでよろしくお願いします。
P T A 活動等の負担減
〔就学前〕 4 件 ・ PTA や自治会など役の免除。
〔小学生〕 6 件 ・ サポートよりも親の負担を減らしてほしい(PTA 活動、子ども会、自治会などの活動や役員割り当て)。
その他
〔就学前〕 24 件 ・ 夜間救急はひとつの市に 1ヶ所は每晚あるようにしてほしい。 ・ 3 才半以降も 1 年に 1 度は健診等してほしい。何もなければ相談に行くことがない(何を相談するかわからない)。 ・ 家庭用のゴミ袋がすぐにいっぱいになるのでオムツ用ゴミ袋の配布を検討してほしい。
〔小学生〕 32 件 ・ 長期休みの際の昼食配達。 ・ 働いていないと保育園に入れないし、保育園に入っていないと、働けないという、この蟻地獄をなんとかしてほしい。 ・ 行政には質問したことをきちんと回答して欲しい。困って質問しているのに時間をとらせて返ってきた答えが全般的なもので、頼る気がなくなる。

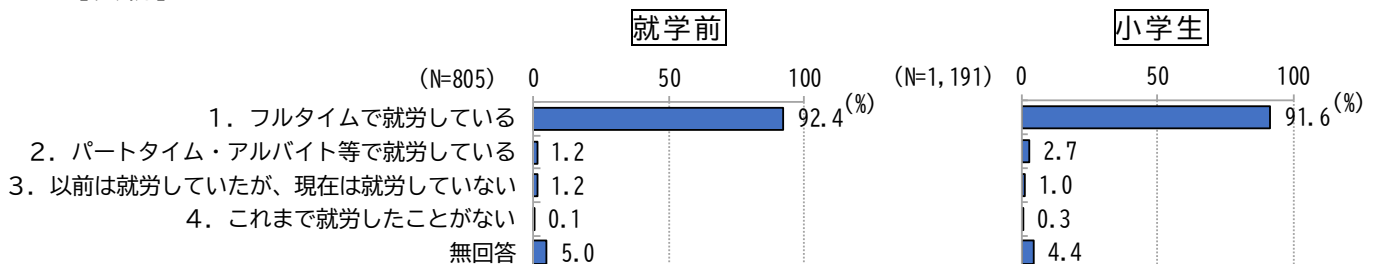
4 保護者の就労状況

〔1〕保護者の就労状況

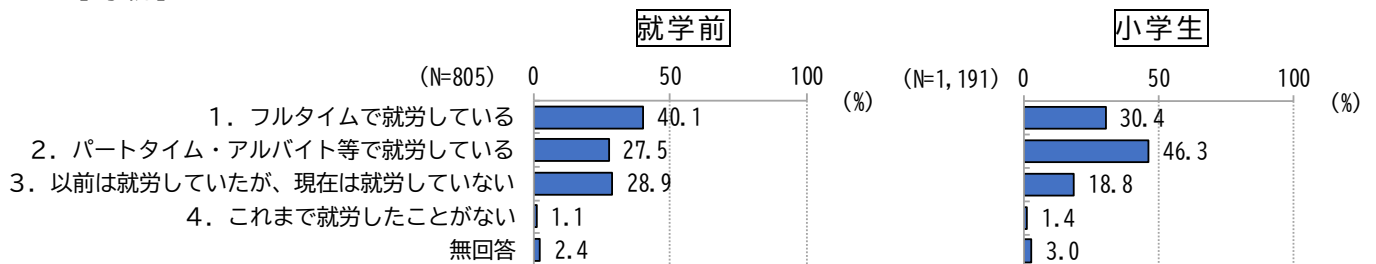
【就学前：問12、問13／小学生：問16、問17】

お子さんの父親／母親の現在の就労状況（自営業、家族従事者含む）をうかがいます。当てはまる番号1つに○をつけてください。（母子家庭/父子家庭の場合は記入は不要です。）

【父親】



【母親】



【母親・子どもの年齢／学年別】

		N	フルタイムで就労している (%)	パートタイム・アルバイト等で就労している (%)	以前は就労していたが、現在は就労していない (%)	これまで就労したことがない (%)	無回答 (%)
年齢別	全体	805	40.1	27.5	28.9	1.1	2.4
	0歳	9	22.2	22.2	55.6	0.0	0.0
	1歳	145	39.3	21.4	35.9	0.7	2.8
	2歳	139	36.7	26.6	33.1	1.4	2.2
	3歳	149	38.9	23.5	30.9	2.0	4.7
	4歳	144	42.4	27.1	27.8	1.4	1.4
	5歳	127	44.9	34.6	18.9	0.8	0.8
	6歳	90	40.0	36.7	21.1	0.0	2.2
学年別	全体	1191	30.4	46.3	18.8	1.4	3.0
	1年生	335	33.7	43.3	20.3	1.8	0.9
	2年生	312	30.1	50.0	16.3	1.6	1.9
	3年生	288	26.7	47.9	21.9	1.0	2.4
	4年生	248	31.0	45.2	16.9	1.2	5.6

父親の就労状況は、「フルタイムで就労している」が、就学前では92.4%、小学生では91.6%と最も多くなっています。

母親の就労状況は、就学前では「フルタイムで就労している」が40.1%と最も多く、小学生では「パートタイム・アルバイト等で就労している」が46.3%と最も多くなっています。

〔2〕就労時間

問12／問16で「1. フルタイムで就労している」または「2. パートタイム・アルバイト等で就労している」を選んだ方のみ

【就学前：問12-1、問12-2、問13-1、問13-2／小学生：問16-1、問16-2、問17-1、問17-2】

普段の就労時間について最も多いパターンの当てはまる番号1つに○をつけてください。

■1日当たりの就労時間

		N	1日3時間未満	8時間3時間未満以上	1時間おのおむね8時間	1日8時間超（残業が多い）	(%) 無回答
父親	就学前	754	0.1	3.6	33.0	62.3	0.9
	小学生	1,123	0.4	4.7	31.7	62.4	0.8
母親	就学前	544	2.6	52.9	34.0	10.5	0.0
	小学生	914	3.9	60.4	26.0	9.6	0.0

■主な就労パターン

		N	就主に昼間の就労	就主に夜間の就労	ずの昼れ就間もあゝ夜のい間	(%) 無回答
父親	就学前	754	62.2	1.1	21.5	15.3
	小学生	1,123	76.3	0.6	22.4	0.6
母親	就学前	544	87.9	0.7	5.3	6.1
	小学生	914	95.7	0.2	4.0	0.0

就労している母親の1日当たりの就労時間は、「1日3時間以上8時間未満」が就学前では52.9%、小学生では60.4%と最も多くなっています。

就労している母親の主な就労パターンは、「主に昼間の就労」が、就学前では87.9%、小学生では95.7%と最も多くなっています。

〔3〕フルタイムへの転換希望

問12／問16で「2」～「4」（フルタイムで就労していない）を選んだ方のみ

【就学前：問12-3、問13-3／小学生：問16-3、問17-3】

今後、フルタイム就労への転換を希望されますか。当てはまる番号1つに○をつけてください。

		N	るるり換タで見`希イき込実望ムれみ現があき`あき`転ル	いるり換タで見`希イき込実望ムれみ現があき`あき`転ル	と労ババ今ををイ`後希続トト`望け等`するこ就ル	念て労今しやせ`後た家ず`い事に子専育就	(%) 無回答
父親	就学前	21	28.6	14.3	38.1	14.3	4.8
	小学生	48	14.6	22.9	45.8	10.4	6.3
母親	就学前	463	15.3	21.0	46.9	9.7	7.1
	小学生	793	10.1	20.3	60.0	9.0	0.6

フルタイムで就労していない方に、フルタイムへの転換希望をたずねたところ、父親では、「今後(も)パート・アルバイト等の就労を続けることを希望する」が就学前では38.1%、小学生では45.8%と最も多くなっています。母親でも、「今後(も)パート・アルバイト等の就労を続けることを希望する」が就学前では46.9%、小学生では60.0%と最も多くなっています。

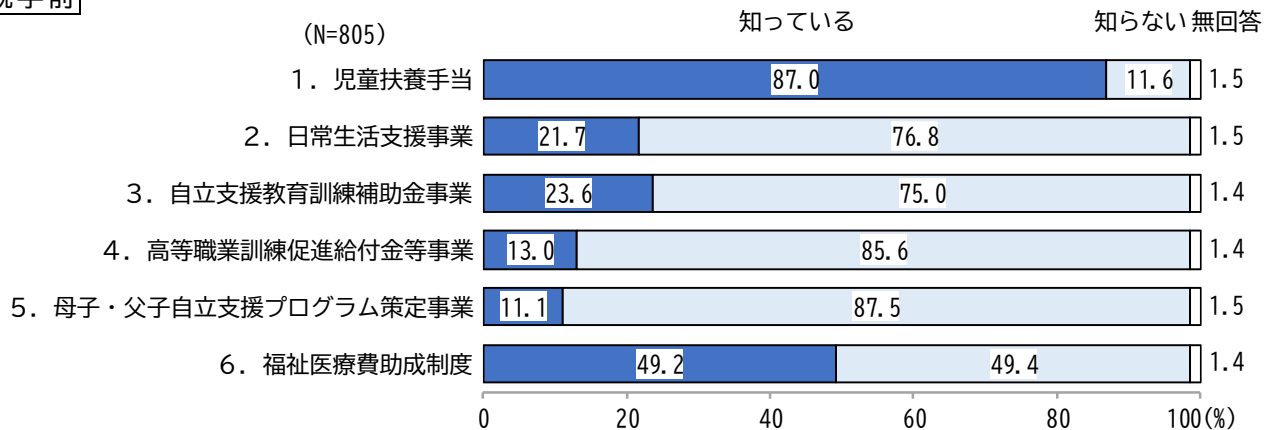
Ⅱ-1. 就学前児童調査・小学生児童調査

〔４〕ひとり親家庭のためのサービスの認知度

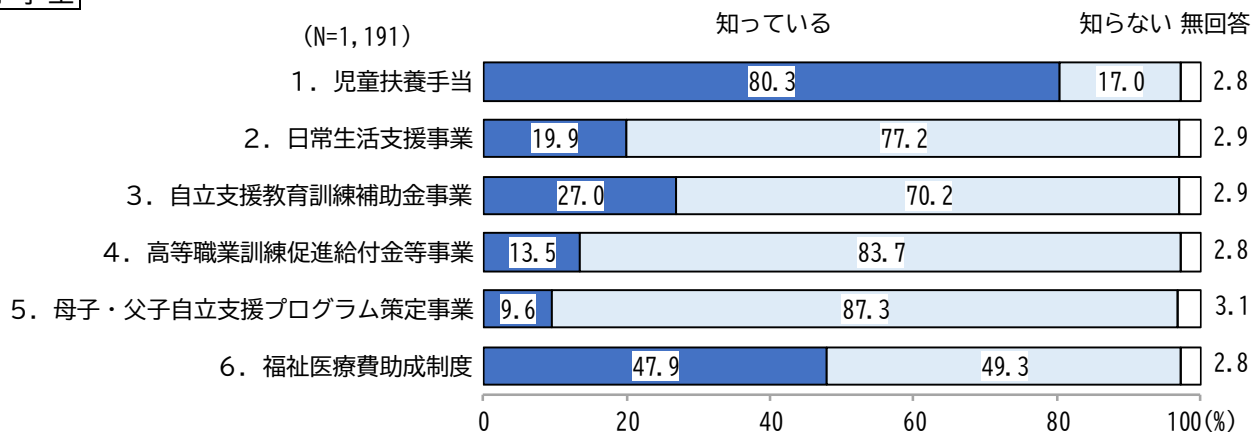
【 就学前：問14／小学生：問18 】

彦根市にはひとり親家庭のために次のような制度やサービスがあります。あなたはこれらを知っていますか。それぞれ、当てはまる番号１つに○をつけてください。

就学前



小学生



ひとり親家庭のための制度やサービスの認知度については、「児童扶養手当」の認知度が高く、「知っている」が就学前では 87.0%、小学生では 80.3%と最も多くなっています。

5 平日の定期的な教育・保育事業の利用状況（就学前のみ）

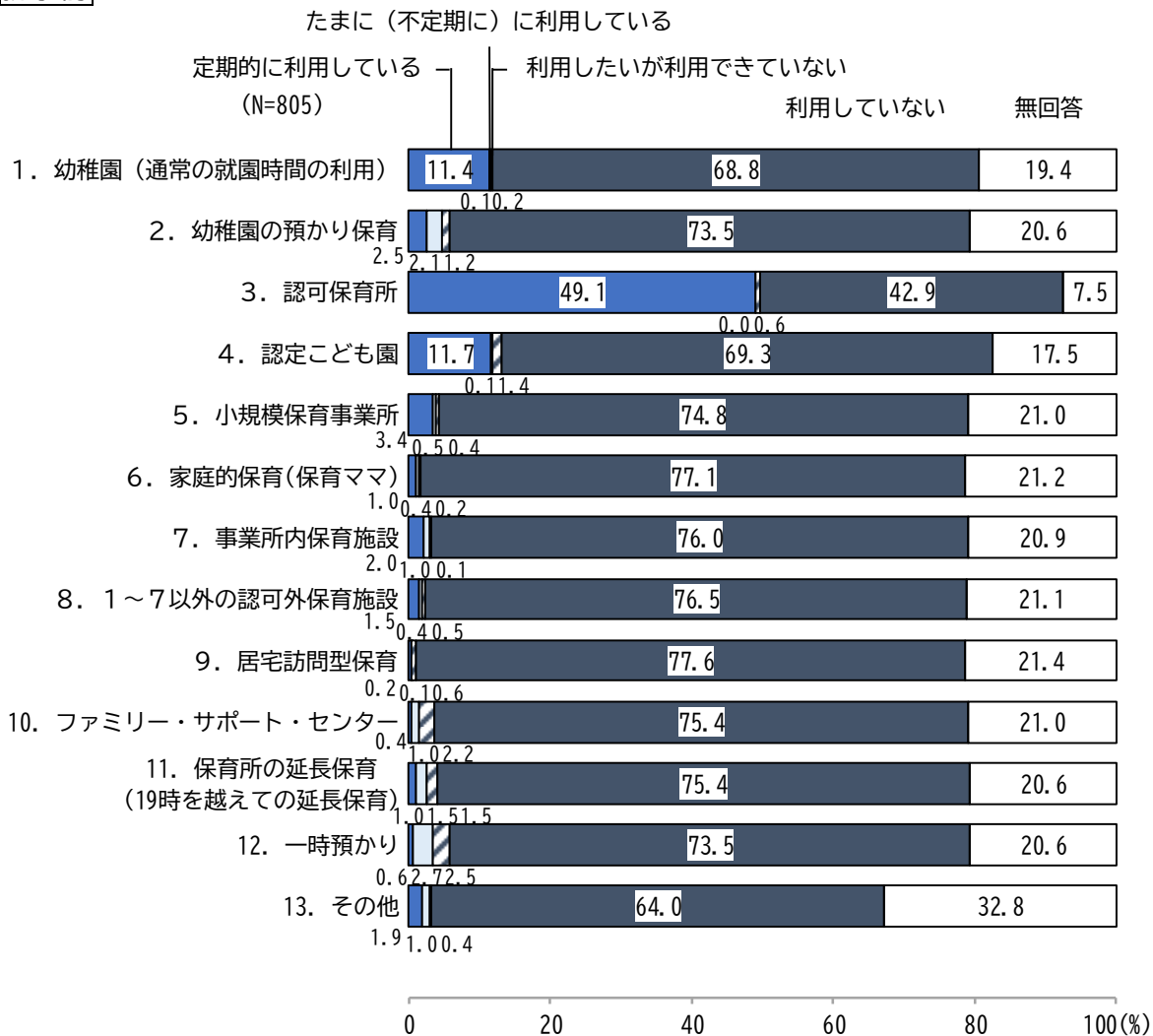
※「定期的な幼稚園・保育所等」：月単位で定期的に利用しているもの

〔1〕 平日の定期的な教育・保育事業の利用（就学前のみ）

【 就学前：問15／小学生：－ 】

お子さんは、現在以下の事業を利用していますか。それぞれの事業について、当てはまる番号１つに○をつけてください。

就学前



Ⅱ-1. 就学前児童調査・小学生児童調査

【年齢別・就労形態別（「定期的に利用している」の割合）】

		N	園幼稚園 （通常の就 園時間の利用）	幼稚園の 預かり保 育	認可保 育所	認定こ ども園	小規模 保育事業 所	家庭 的保育（保 育ママ）	事業 所内保 育施設	1歳 7歳以 外の認 可 外保 育施設	居 宅訪 問型保 育	ファミ リ・セ ンター	保育所 の延長 保育（ 19時を 越えて の延長 保育）	一時 預かり	(MA%) その他
年齢別	全体	805	11.4	2.5	49.1	11.7	3.4	1.0	2.0	1.5	0.2	0.4	1.0	0.6	1.9
	0歳	9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	1歳	145	2.1	0.0	33.8	3.4	4.1	0.7	4.1	0.7	0.0	0.7	0.0	0.0	0.0
	2歳	139	1.4	1.4	51.1	7.9	4.3	2.9	3.6	4.3	0.0	0.0	1.4	1.4	2.2
	3歳	149	6.0	0.7	45.0	8.7	6.7	0.0	1.3	2.0	0.7	0.0	1.3	0.7	1.3
	4歳	144	27.1	5.6	54.9	18.1	2.1	0.7	0.7	0.7	0.7	0.7	0.7	1.4	2.1
	5歳	127	17.3	3.1	57.5	21.3	1.6	0.8	0.8	0.8	0.0	0.8	1.6	0.0	0.8
	6歳	90	18.9	5.6	60.0	13.3	0.0	1.1	1.1	0.0	0.0	0.0	1.1	0.0	6.7
就労 状況	全体	805	11.4	2.5	49.1	11.7	3.4	1.0	2.0	1.5	0.2	0.4	1.0	0.6	1.9
	共働き(両親ともフルタイム)	301	2.3	1.0	71.8	12.0	4.0	1.3	3.0	1.0	0.3	0.7	2.3	1.0	1.0
	共働き(フルタイム×パート)	202	11.9	6.4	57.4	14.4	5.0	1.0	3.0	2.5	0.0	0.0	0.5	0.0	1.5
	専業主婦(夫)	241	24.5	1.2	12.9	9.1	1.2	0.8	0.4	1.2	0.4	0.4	0.0	0.8	3.7
	共働き(パート×パート)	6	16.7	16.7	50.0	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	無業×無業	3	33.3	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

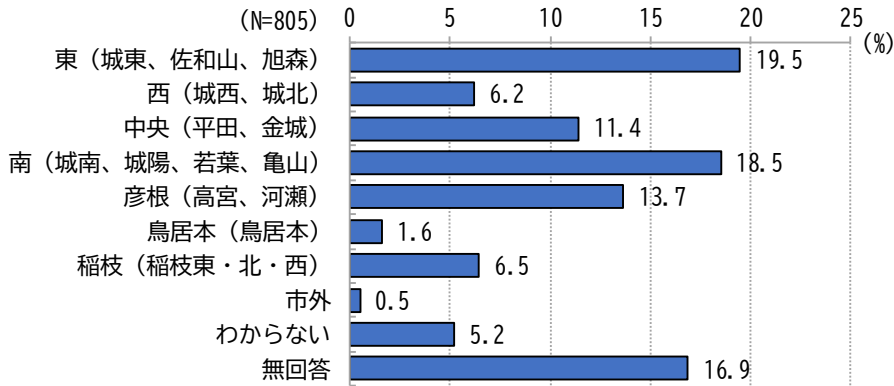
現在の定期的な教育・保育事業の利用については、「認可保育所」が最も利用されており、「定期的に利用している」が全体で49.1%となっています。

〔2〕実施場所（就学前のみ）

【 就学前：問15-1 / 小学生： - 】

現在、利用している教育・保育事業の実施場所についてうかがいます。当てはまる中学校区の番号1つに○をつけてください。なお、()内は小学校区名です。

就学前



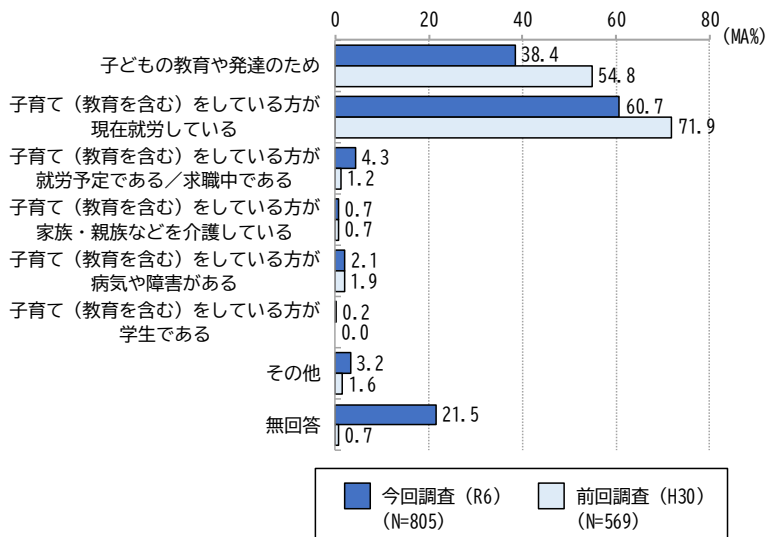
定期的に利用している教育・保育事業の実施場所は、「東（城東、佐和山、旭森）」が19.5%と最も多くなっています。

〔3〕利用している理由（就学前のみ）

【 就学前：問15-2 / 小学生： - 】

平日に定期的に教育・保育の事業を利用されている理由についてうかがいます。主な理由として当てはまる番号すべてに○をつけてください。

就学前



平日、定期的に教育・保育事業を利用している理由は、「子育て（教育を含む）をしている方が現在就労している」が60.7%と最も多くなっています。

Ⅱ-1. 就学前児童調査・小学生児童調査

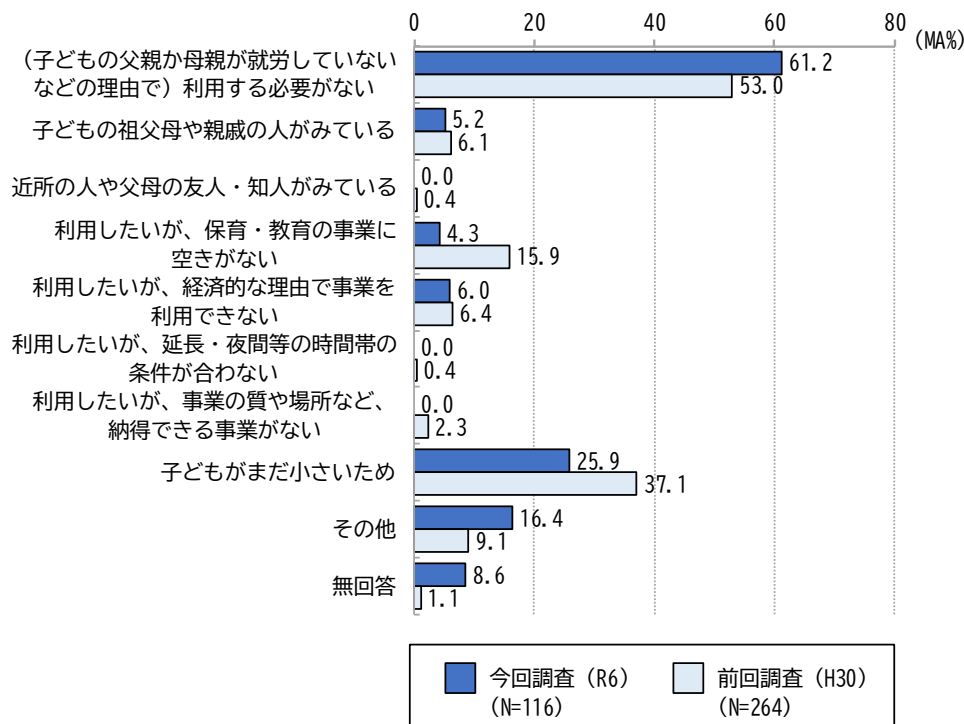
〔４〕利用していない理由（就学前のみ）

問15ですべての事業について「３」～「４」（利用できていない、利用していない）を選んだ方のみ

【就学前：問15-3／小学生：－】

教育・保育事業を利用していない理由は何ですか。理由として当てはまる番号すべてに○をつけてください。

就学前



■子どもが何歳くらいになったら利用しようと考えているか

N	1歳	2歳	3歳	4歳	(%) 無回答
30	6.7	13.3	73.3	6.7	0.0

平日、定期的に教育・保育事業を「利用していない」とお答えの方に、その理由をたずねたところ、「(子どもの父親か母親が就労していないなどの理由で) 利用する必要がない」が61.2%と最も多くなっています。

また、利用していない理由として、「子どもがまだ小さいため」とお答えの方に、子どもが何歳になったら利用したいかをたずねたところ、「3歳」が73.3%と最も多くなっています。

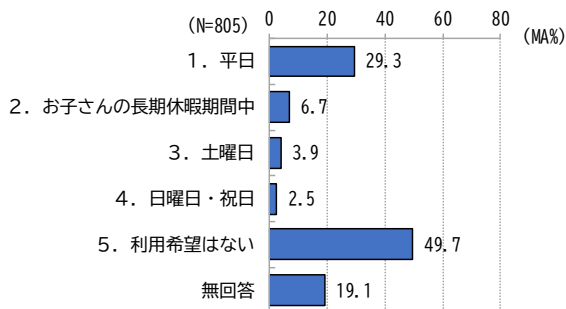
〔5〕 今後利用したい事業（就学前のみ）

【 就学前：問16／小学生：－ 】

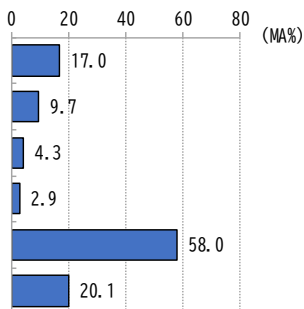
現在、利用している、利用していないにかかわらず、今後はいつ「定期的に」に教育・保育事業を利用したいですか。当てはまる番号すべてに○をつけてください。なお、これらの事業の利用には、一定の利用者負担が発生します。認可保育所の場合、世帯収入に応じた利用料が設定されています。

就学前

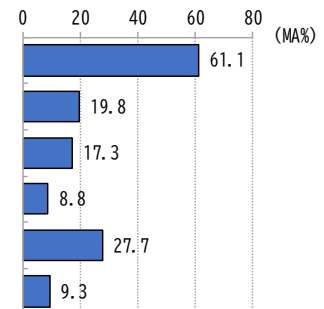
1. 幼稚園（通常の
就園時間の利用）



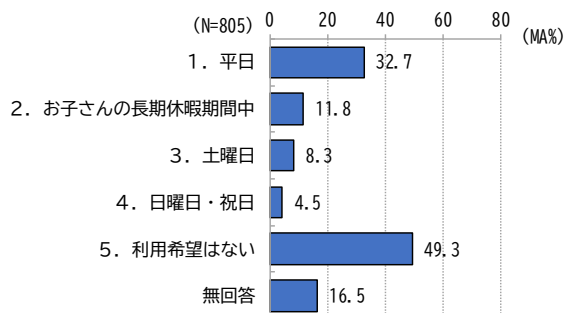
2. 幼稚園の預かり保育



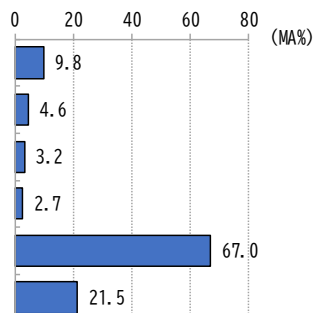
3. 認可保育所



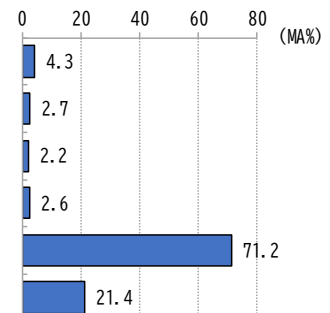
4. 認定こども園



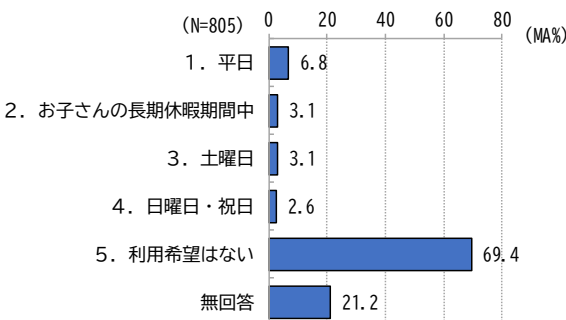
5. 小規模保育事業所



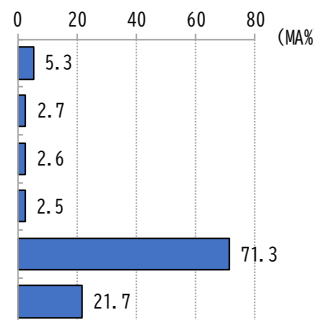
6. 家庭的保育
（保育ママ）



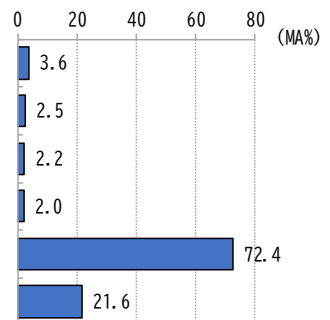
7. 事業所内保育施設



8. 1～7以外の
認可外保育施設

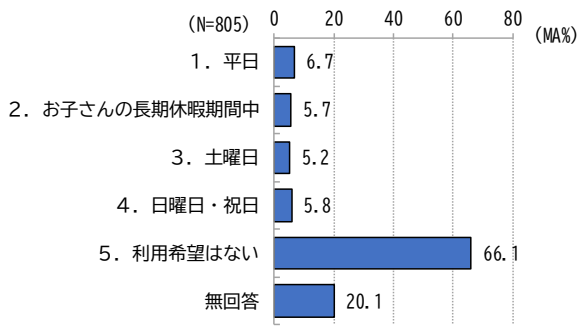


9. 居宅訪問型保育

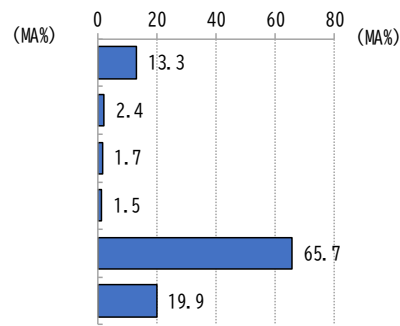


Ⅱ-1. 就学前児童調査・小学生児童調査

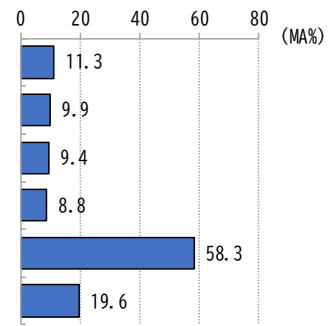
10. ファミリー・サポート・センター



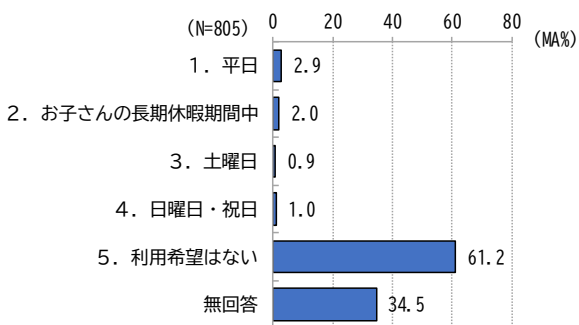
11. 保育所の延長保育 (19時を越えての 延長保育)



12. 一時預かり



13. その他



【年齢別・就労形態別（平日のデータのみ）】

		N	園幼稚園 の通常 の就	幼稚園 の預かり 保	認可 保育所	認定 こども 園	小規模 保育事 業所	家庭 的保育 (保育 ママ)	事業 所内 保育 施設	外 1 5 7 以 外 の 認 可 保 育 施 設	居 宅 訪 問 型 保 育	ポ ー ト ・ フ ァ ミ リ ー ・ セ ン タ ー	の 延 長 保 育 (19 時 を 越 え て の 保 育)	一 時 預 か り	そ の 他
年 齢 別	全体	805	29.3	17.0	61.1	32.7	9.8	4.3	6.8	5.3	3.6	6.7	13.3	11.3	2.9
	0歳	9	66.7	66.7	88.9	100.0	55.6	22.2	22.2	33.3	22.2	44.4	22.2	44.4	0.0
	1歳	145	32.4	17.9	73.1	36.6	17.9	6.9	13.1	10.3	4.8	9.7	18.6	17.2	4.8
	2歳	139	33.1	18.7	67.6	39.6	15.1	5.8	10.1	7.9	5.0	5.8	15.1	15.1	2.2
	3歳	149	32.2	18.1	57.0	34.2	8.1	3.4	5.4	3.4	2.0	6.7	11.4	8.7	2.7
	4歳	144	30.6	17.4	52.8	23.6	2.8	2.1	2.8	2.1	2.8	4.2	9.0	7.6	0.7
	5歳	127	20.5	10.2	57.5	30.7	4.7	1.6	3.1	3.1	1.6	5.5	12.6	4.7	2.4
就 労 形 態	6歳	90	20.0	14.4	53.3	24.4	5.6	5.6	4.4	2.2	4.4	5.6	12.2	12.2	5.6
	全体	805	29.3	17.0	61.1	32.7	9.8	4.3	6.8	5.3	3.6	6.7	13.3	11.3	2.9
	共働き(両親ともフルタイム)	301	12.3	7.3	76.4	28.2	7.6	5.3	5.6	5.0	4.0	8.6	19.3	9.6	2.7
	共働き(フルタイム×パート)	202	20.3	13.4	65.3	30.7	10.4	3.0	6.9	4.0	1.5	4.5	6.9	6.9	2.5
	専業主婦(夫)	241	63.1	35.3	39.8	43.6	12.4	5.4	9.5	7.5	5.8	7.5	12.4	18.3	4.1
	共働き(パート×パート)	6	33.3	16.7	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	無業×無業	3	33.3	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

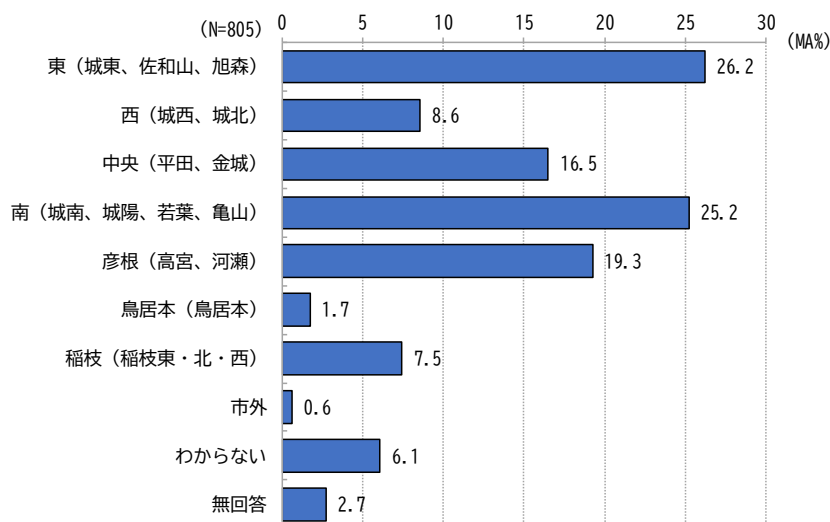
定期的な教育・保育事業の利用希望について、平日では、「認可保育所」が全体で61.1%と最も多く、次いで、「認定こども園」が32.7%、「幼稚園（通常の就園時間の利用）」が29.3%となっています。

〔6〕利用したい場所（就学前のみ）

【 就学前：問16-1 /小学生：- 】

教育・保育事業を利用したい場所についてうかがいます。当てはまる中学校区の番号すべてに○をつけてください。なお、（ ）内は小学校区名です。

就学前



定期的な教育・保育事業を利用したい場所は、「東（城東、佐和山、旭森）」が26.2%と最も多くなっています。

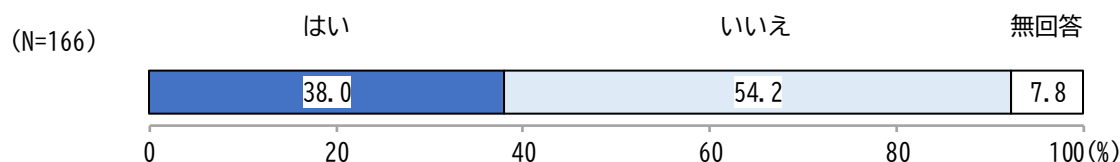
〔7〕幼稚園の利用の強い希望（就学前のみ）

問16の「1. 幼稚園（通常の就園時間の利用）」または「2. 幼稚園の預かり保育」で「1」～「4」（利用希望がある）を選び、かつ「3」～「13」でも「1」～「4」を選んだ方のみ

【 就学前：問16-2 /小学生：- 】

特に幼稚園（幼稚園の預かり保育をあわせて利用する場合を含む）の利用を強く希望しますか。当てはまる番号1つに○をつけてください。

就学前



幼稚園とそれ以外の施設のどちらも利用を希望されている方に、特に幼稚園の利用を強く希望するかたずねたところ、「はい」が38.0%、「いいえ」が54.2%となっています。

Ⅱ-1. 就学前児童調査・小学生児童調査

〔8〕幼稚園の利用を強く希望する理由（就学前のみ）

問16-2で「はい」を選んだ方のみ

【就学前：問16-3／小学生：－】

幼稚園の利用を強く希望する理由は何ですか。

教育・発達のため（24件）
・ 保育園よりもしっかり幼児教育が受けられそうだから。 ・ 教育課程があることで、保育園より質の高い教育を受けることができるイメージがあるから。 ・ コミュニケーションや発達、教育の面で家庭では限界がある為。
就労するため（18件）
・ フルタイムで就労したいから。 ・ 少しの時間だけでもパートしたい。
信頼できる（12件）
・ 信頼できる先生が居るので。 ・ 日常的に通園していて子どものことをよく理解して下さる先生方に預かってもらえると安心するから。
慣れた環境だから（9件）
・ 慣れた場所での保育が子も親も安心できるから。 ・ 幼稚園には既に子どもが通園しており、毎日毎日楽しく通っているから。
就労していないから（5件）
・ 働いていないからです。まだ子どもに手がかかり、仕事と子育ての両立ができないからです。
集団生活を学ばせたいから（4件）
・ 他の子たちとの交流だけでなく、家ではできない、複数人いないとできないこともできるから。
親の負担軽減のため（4件）
・ 子供全員をつれてやらなければいけない用事を少しでも軽減したい。
保育所に入れないから（4件）
・ 保育園に空きがない為。
長時間の保育をさせたくないから（4件）
・ 子供との時間ももって無理なく働きたい。
今後も幼稚園に通う予定のため（3件）
・ 4月から幼稚園に通う為、そのまま通園している幼稚園で利用できたら助かる為。
小学校区、友達関係（3件）
・ 学区の幼稚園に通うことによって小学校に行った時に知っている友達が多いこと（子供が人見知りのため）。
預かり保育ができるから（3件）
・ 現在も土曜保育を利用しています。私は美容室で働いており祝日や日曜もお客さまの一番多い日なので出勤したいのですが預け先がなく、仕方なくお休みを頂いています。なので接客業の母達は利用を希望したいと思います。
自宅の近所だから（3件）
・ 家から近いから。
その他（17件）
・ 子どもに障害があり、加配の先生についていただきたい為。 ・ 実際に利用していて助かったので。 ・ 上の子が幼稚園に行っているため。

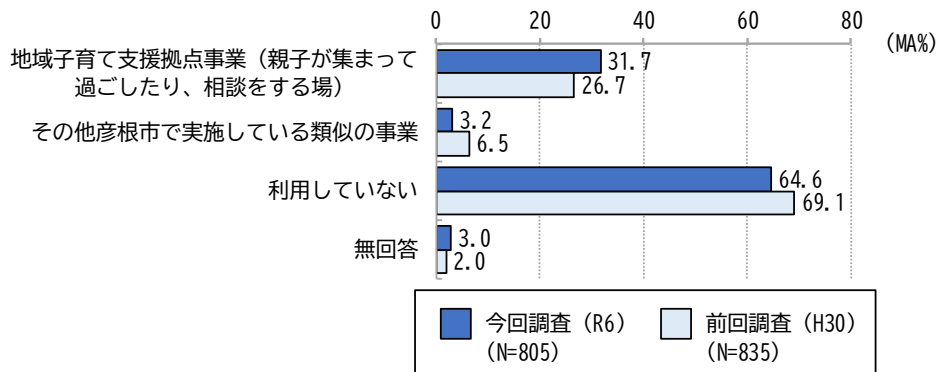
6 地域の子育て支援事業の利用状況

〔1〕地域子育て支援拠点事業の利用状況（就学前のみ）

【就学前：問17／小学生：問-】

お子さんは、現在、地域子育て支援拠点事業（親子が集まって過ごしたり、相談をしたり、情報提供を受けたりする場で、地域子育て支援センターとして「きらきらひろば」「まんまるひろば」「チャチャひろば」等と呼ばれています）を利用していますか。次の中から、利用されているものすべてに○をつけてください。

就学前



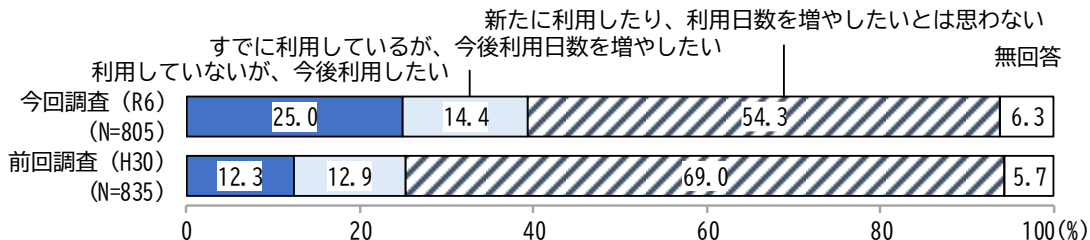
地域子育て支援拠点事業の利用状況については、31.7%の方が利用しています。

〔2〕地域子育て支援拠点事業の今後の利用意向（就学前のみ）

【就学前：問18／小学生：-】

問17のような地域子育て支援拠点事業について、今は利用していないが、できれば今後利用したいと思いますか。当てはまる番号1つに○をつけてください。なお、これらの事業の利用には、一定の利用者負担が発生する場合があります。

就学前



地域子育て支援拠点事業の今後の利用意向については、「新たに利用したり、利用日数を増やしたいとは思わない」が54.3%と最も多くなっています。

Ⅱ-1. 就学前児童調査・小学生児童調査

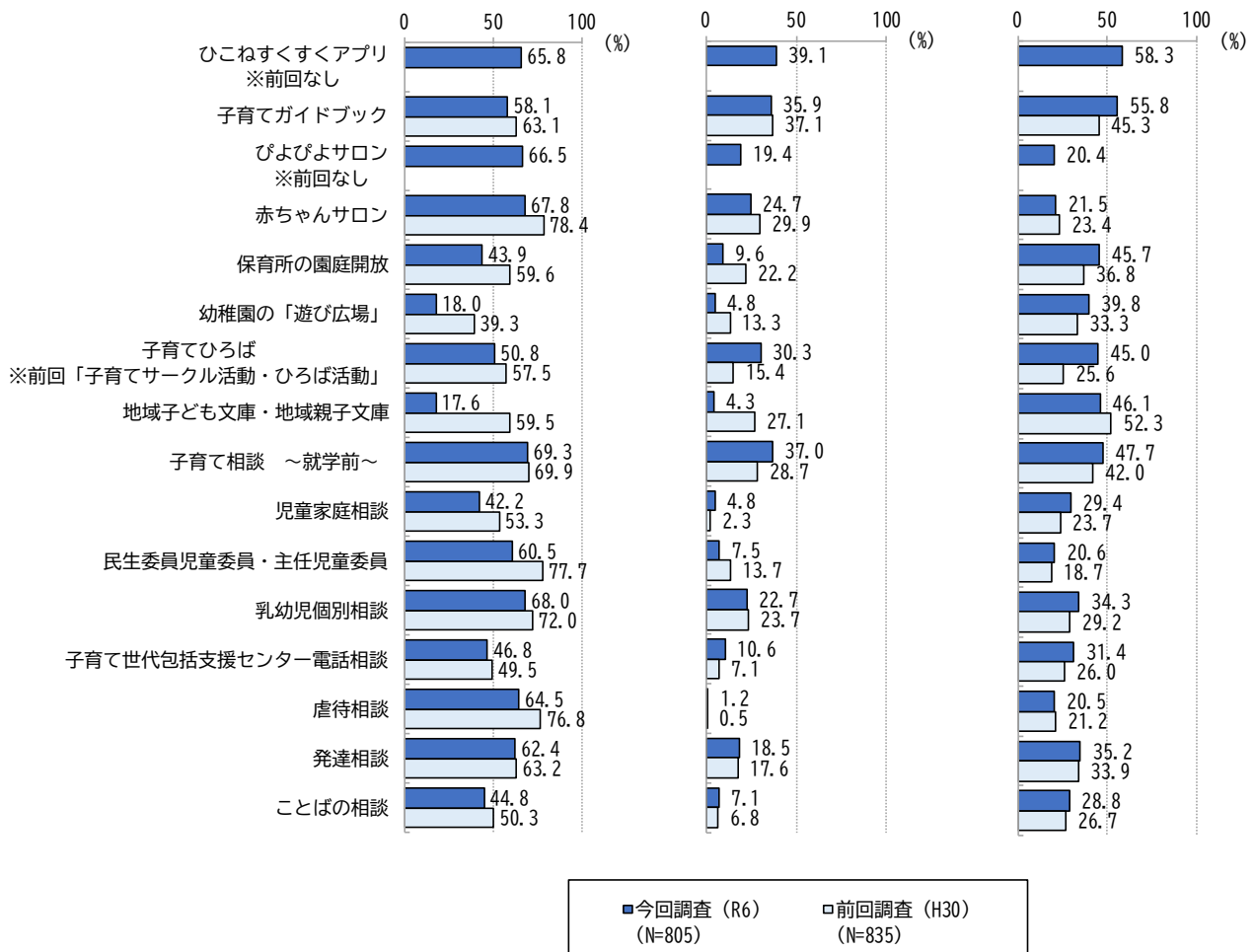
〔3〕子育て支援サービスの認知度、利用度、利用希望（就学前のみ）

【就学前：問19／小学生：－】

彦根市には次のような子育て支援サービスがありますが、知っていたり、利用したことはありますか。また、今後利用したいと思いますか。サービスごとにA、B、Cのそれぞれについて、「はい」「いいえ」のいずれかに○をつけてください。

就学前

A. 知っている B. 利用したことがある C. 今後利用したい



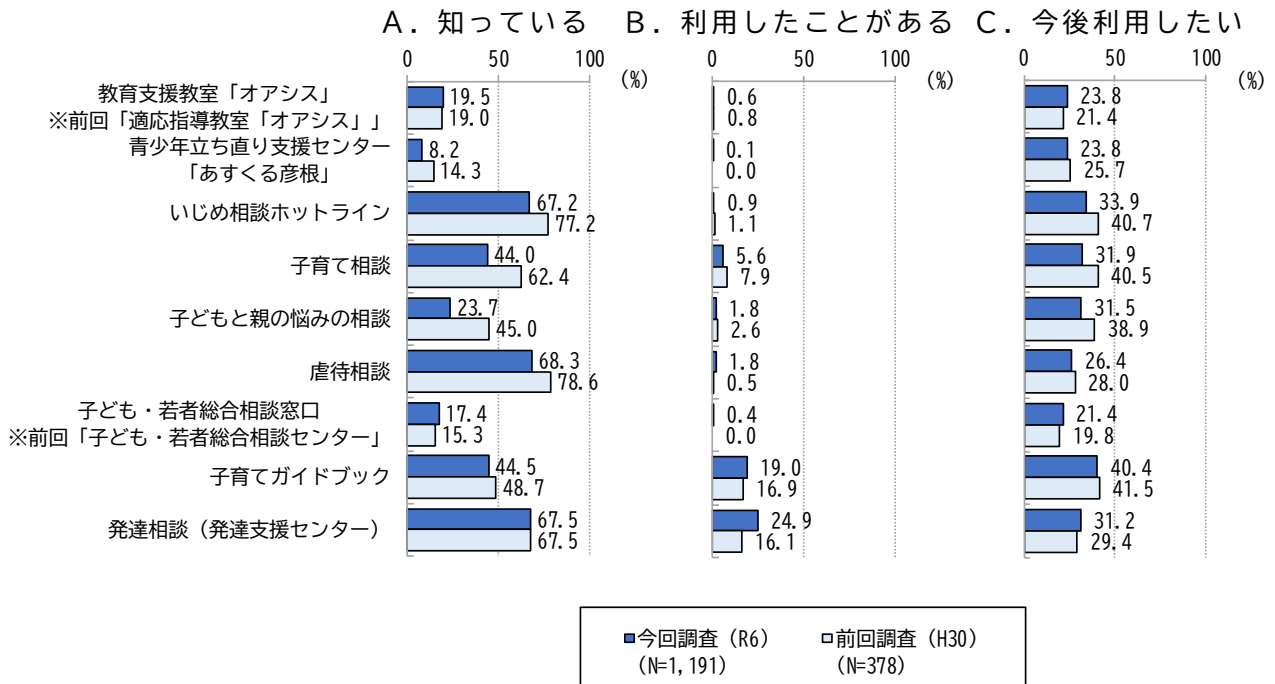
彦根市の子育て支援サービスの認知度、利用経験、利用意向について、認知度では、「子育て相談 ～就学前～」が69.3%と最も多くなっています。利用経験では、「ひこねすくすくアプリ」が39.1%と最も多くなっています。利用意向でも、「ひこねすくすくアプリ」が58.3%と最も多くなっています。

〔4〕学習支援・子育て支援サービスの認知度、利用度、利用希望（小学生のみ）

【就学前：－／小学生：問22】

彦根市には次のような学習支援・子育て支援サービスがありますが、知っていたり、利用したことはありますか。また、今後利用したいと思いますか。サービスごとにA、B、Cのそれぞれについて、「はい」「いいえ」のいずれかに○をつけてください。

小学生



彦根市の学習支援・子育て支援サービスの認知度、利用経験、利用意向について、認知度では、「虐待相談」が68.3%と最も多くなっています。利用経験では、「発達相談（発達支援センター）」が24.9%と最も多くなっています。利用意向では、「子育てガイドブック」が40.4%と最も多くなっています。

7 土日・祝日、長期休業中の「定期的」な幼稚園・保育所等の利用希望（就学前のみ）

〔1〕 土日・祝日の、定期的な教育・保育事業の利用希望（就学前のみ）

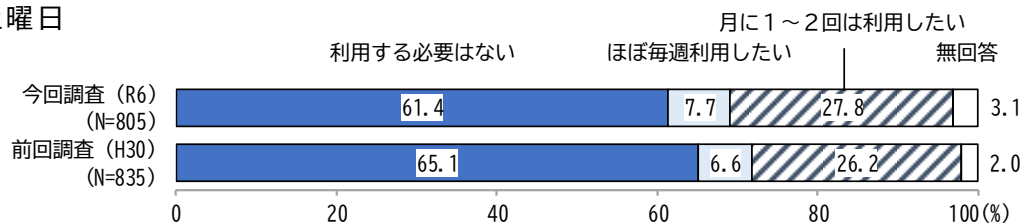
【 就学前：問20、問20-1／小学生：－ 】

お子さんについて、土曜日／日曜日・祝日に、定期的な教育・保育の事業の利用希望はありますか（一時的な利用は除きます）、当てはまる番号1つに○をつけてください。なお、これらの事業の利用には、一定の利用者負担が発生します。

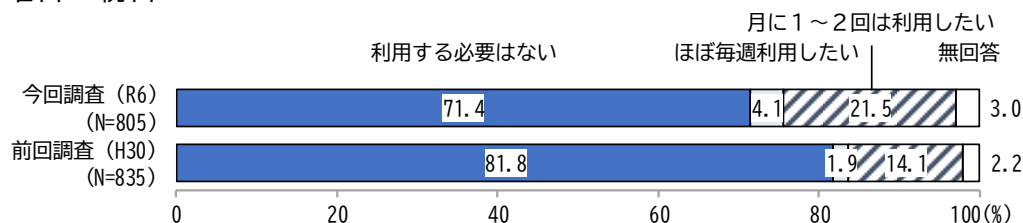
※教育・保育事業とは、保育所、幼稚園、認可外保育施設などの事業を指しますが、親族・知人による預かりは含みません。

就学前

■ 土曜日



■ 日曜日・祝日



土曜日と日曜日・祝日の定期的な教育・保育事業の利用希望については、「利用する必要はない」が、土曜日では61.4%、日曜日・祝日では71.4%と最も多くなっています。

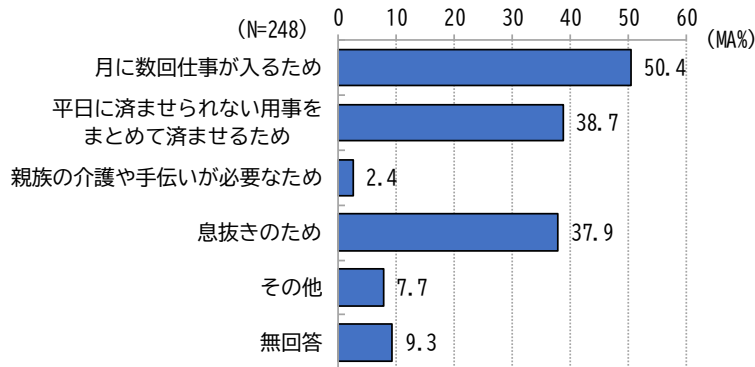
〔2〕毎週ではなく、たまに利用したい理由（就学前のみ）

問20、問20-1で、「月に1～2回は利用したい」を選んだ方のみ

【就学前：問20-2／小学生：－】

毎週ではなく、たまに利用したい理由はなんですか。当てはまる番号すべてに○をつけてください。

就学前



土曜日と日曜日・祝日の定期的な教育・保育事業の利用を「月に1～2回は利用したい」とお答えの方に、毎週ではなく、たまに利用したい理由をたずねたところ、「月に数回仕事が入るため」が50.4%と最も多くなっています。

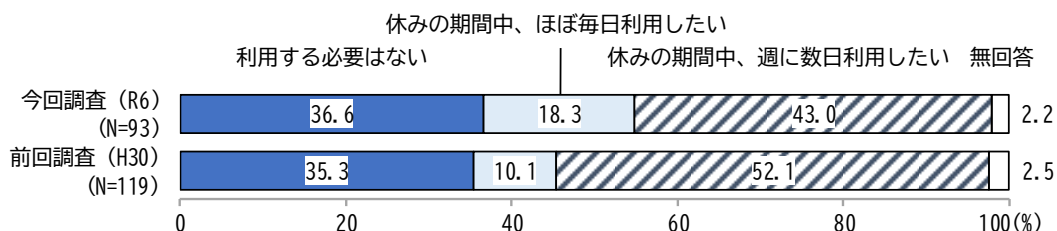
〔3〕夏休み・冬休みなど長期の休暇期間中の教育・保育事業の利用希望（就学前のみ）

「幼稚園」を利用されている方のみ

【就学前：問20-3／小学生：－】

お子さんについて、夏休み・冬休みなど長期の休暇期間中の教育・保育の事業の利用を希望しますか。当てはまる番号1つに○をつけてください。なお、これらの事業の利用には、一定の利用者負担が発生します。

就学前



夏休み・冬休みなど長期の休暇期間中の定期的な教育・保育事業の利用希望については、「休みの期間中、週に数日利用したい」が43.0%と最も多くなっています。

Ⅱ-1. 就学前児童調査・小学生児童調査

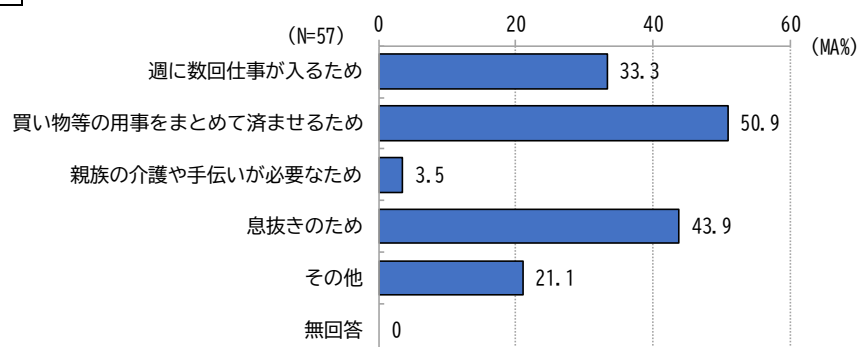
〔4〕 毎日ではなく、たまに利用したい理由（就学前のみ）

問20-3で、「週に数日利用したい」を選んだ方のみ

〔就学前：問20-4／小学生：－〕

毎日ではなく、たまに利用したい理由はなんですか。当てはまる番号すべてに○をつけてください。

就学前



夏休み・冬休みなど長期の休暇期間中の定期的な教育・保育事業の利用を「週に数日利用したい」とお答えの方に、毎日ではなく、たまに利用したい理由をたずねたところ、「買い物等の用事をまとめて済ませるため」が50.9%と最も多くなっています。

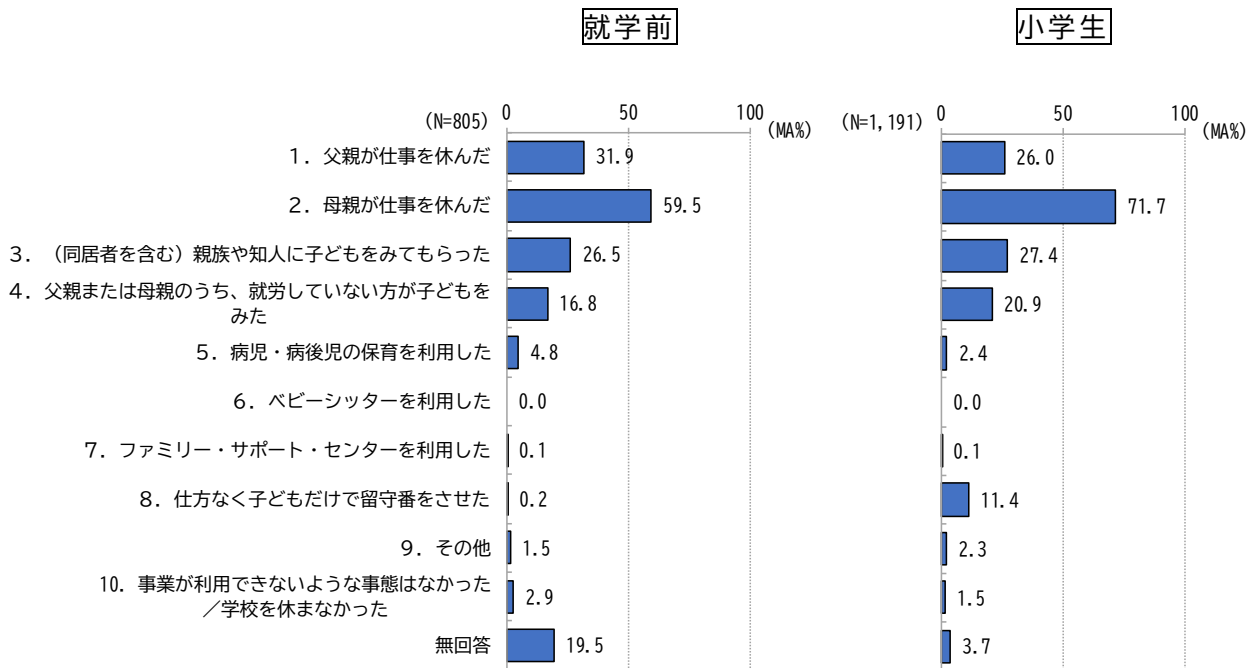
8 病気の際の対応

〔1〕子どもが病気やけがで普段利用している施設や事業が利用できなかった場合に、この1年間に行った対処方法

就学前は平日に幼稚園・保育所等を利用している方のみ

【就学前：問21／小学生：問19】

お子さんが病気やけがで通常の事業が利用できなかった場合に／病気やけがで学校を休んだ場合に、この1年間に行った対処方法として当てはまる記号すべてに○をつけてください。



お子さんが病気やけがで通常の事業が利用できなかった／病気やけがで学校を休んだ場合に、この1年間に行った対処方法についてたずねたところ、「母親が仕事を休んだ」が就学前では 59.5%、小学生では 71.7%と最も多くなっています。

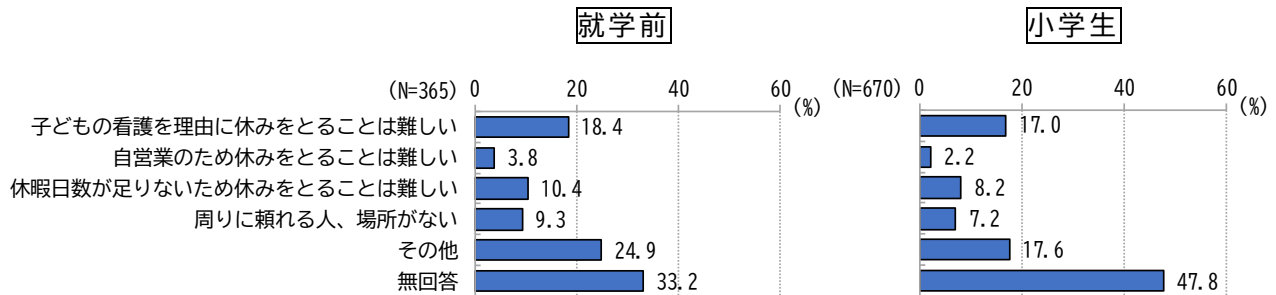
Ⅱ-1. 就学前児童調査・小学生児童調査

〔2〕子どもが病気やけがの際に仕事を休まなかった理由

問21／問19で「3」～「9」を選んだ方（父親／母親が仕事を休まなかった方）のみ

【 就学前：問21-1 ／小学生：問19-1 】

お子さんが病気やけがの際、仕事を休まなかった理由は何ですか。当てはまる番号1つに○をつけてください。



父親・母親が仕事を休まなかったとお答えの方に、その理由をたずねたところ、「子どもの看護を理由に休みをとることは難しい」が就学前では 18.4%、小学生では 17.0%となっています。

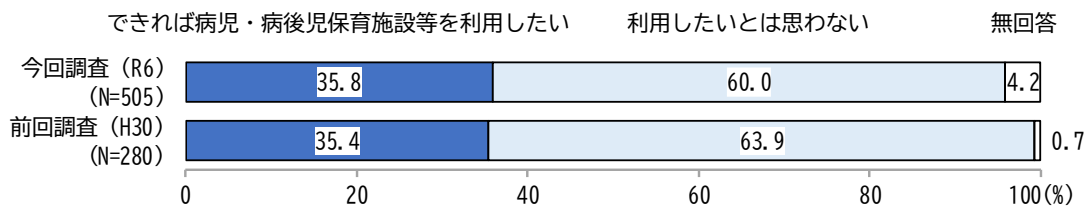
〔3〕病児・病後児保育の利用希望

問21／問19で「1. 父親が仕事を休んだ」「2. 母親が仕事を休んだ」のいずれかを選んだ方のみ

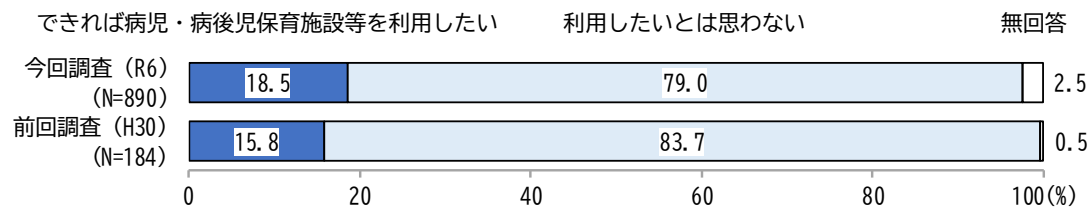
【就学前：問22／小学生：問20】

問21で「1・2」に○をつけた方にうかがいます。その際、「できれば病児・病後児のための保育施設等を利用したい」と思われましたか。当てはまる番号1つに○をつけてください。なお、病児・病後児のための事業等の利用には、一定の利用料がかかり、利用前に医師の受診が必要となります。

就学前



小学生



■病児・病後児保育施設等を利用したい方の利用希望日数

	N	1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日	8日	9日	10日以上	(%) 無回答
就学前	181	2.8	2.8	8.8	1.7	23.8	1.1	2.2	0.0	0.0	33.1	23.8
小学生	165	2.4	9.1	14.5	0.6	27.3	0.6	1.2	1.2	0.6	26.7	15.8

父親または母親が休んだとお答えの方に、「できれば病児・病後児のための保育施設等を利用したい」と思ったかをたずねたところ、「利用したいとは思わない」が就学前では60.0%、小学生では79.0%と最も多くなっています。

病児・病後児のための保育施設等を利用したいとお答えの方の利用希望日数は、就学前では「10日以上」が33.1%と最も多く、小学生では「5日」が27.8%と最も多くなっています。

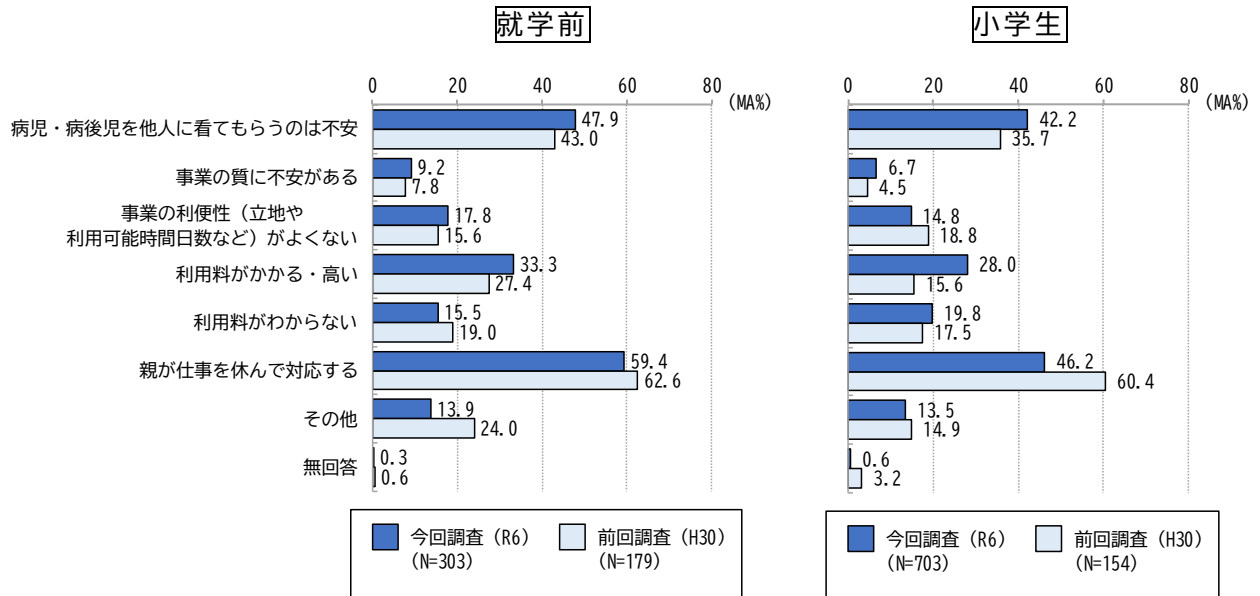
Ⅱ-1. 就学前児童調査・小学生児童調査

〔４〕利用したいと思わない理由

問22／問20で「利用したいと思わない」を選んだ方のみ

【 就学前：問22-1／小学生：問20-1 】

そうわれる理由について当てはまる番号すべてに○をつけてください。



病児・病後児のための保育施設等について「利用したいと思わない」とお答えの方に、利用したいと思わない理由をたずねたところ、「親が仕事を休んで対応する」が就学前では 59.4%、小学生では 46.2%と最も多くなっています。

〔5〕 かかりつけ医の有無（就学前のみ）

【 就学前：問23／小学生：－ 】

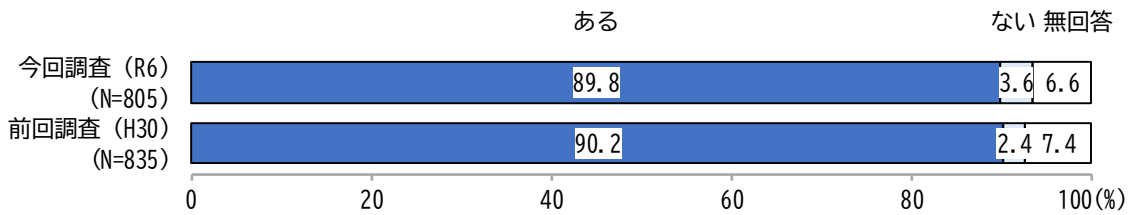
お子さんが病気やけがをした場合の、かかりつけ医はありますか。当てはまる番号１つに○をつけてください。

問23で「ある」を選んだ方のみ

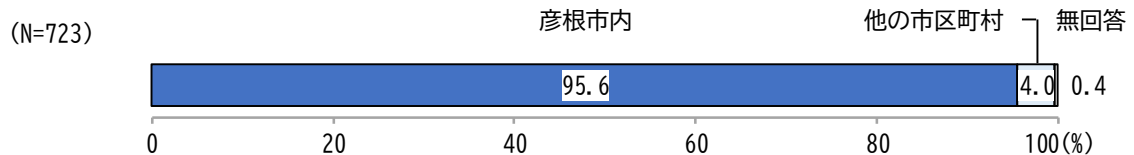
【 就学前：問23-1／小学生：－ 】

かかりつけ医の所在地について伺います。当てはまる番号１つに○をつけてください。

就学前



■ かかりつけ医の所在地



病気やけがをした場合の、かかりつけ医の有無については、「ある」が89.8%と多くなっています。

かかりつけ医のある方の、かかりつけ医の所在地は、「彦根市内」が95.6%と多くなっています。

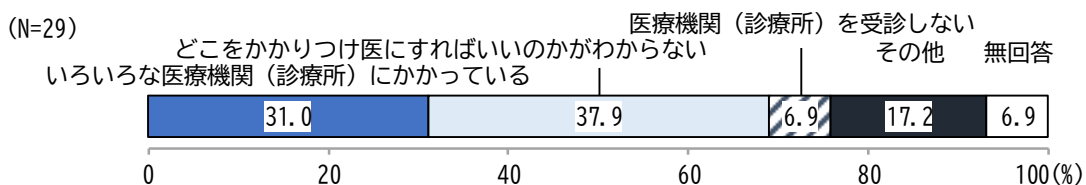
〔6〕 かかりつけ医のいない理由（就学前のみ）

問23で「ない」を選んだ方のみ

【 就学前：問23-2／小学生：－ 】

かかりつけ医のいない理由について伺います。当てはまる番号１つに○をつけてください。

就学前



かかりつけ医のいない理由は、「どこをかかりつけ医にすればいいのかわからない」が37.9%と最も多くなっています。

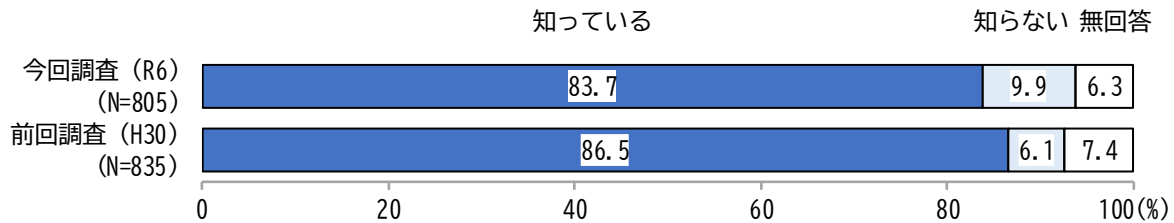
Ⅱ-1. 就学前児童調査・小学生児童調査

〔7〕 夜間・休日の小児救急電話相談（＃8000）の認知度（就学前のみ）

【 就学前：問24／小学生：－ 】

夜間・休日の小児救急電話相談（＃8000）を知っていますか。当てはまる番号1つに○をつけてください。

就学前



夜間・休日の小児救急電話相談（＃8000）の認知度は、「知っている」が83.7%と多くなっています。

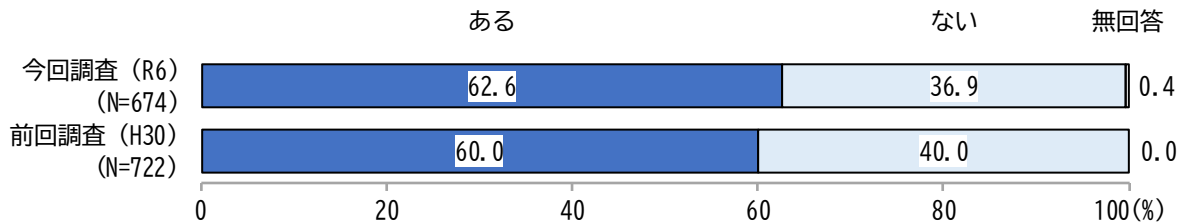
〔8〕 小児救急電話相談（＃8000）の利用状況（就学前のみ）

問24で「知っている」を選んだ方のみ

【 就学前：問24-1／小学生：－ 】

小児救急電話相談（＃8000）を利用したことはありますか。当てはまる番号1つに○をつけてください。

就学前



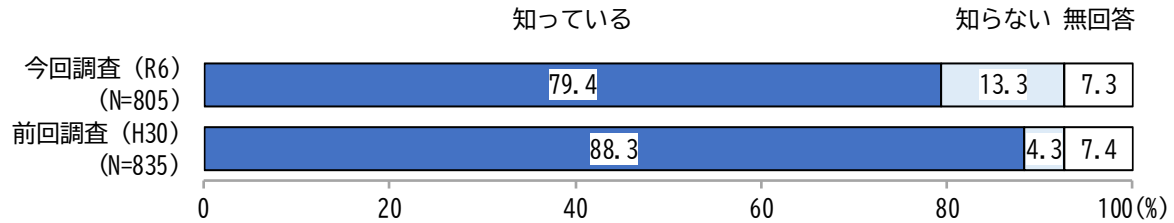
小児救急電話相談（＃8000）の利用状況については、利用したことが「ある」が62.6%と多くなっています。

〔9〕彦根休日急病診療所の認知度（就学前のみ）

【 就学前：問25／小学生：－ 】

日曜・祝日・年末年始に開設している彦根休日急病診療所を知っていますか。
当てはまる番号１つに○をつけてください。

就学前



日曜・祝日・年末年始に開設している彦根休日急病診療所の認知度については、「知っている」が79.4%と多くなっています。

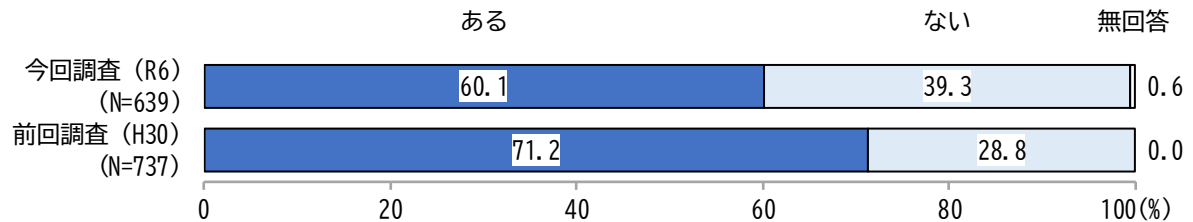
〔10〕彦根休日急病診療所の利用状況（就学前のみ）

問25で「知っている」を選んだ方のみ

【 就学前：問25-1／小学生：－ 】

彦根休日急病診療所を利用したことはありますか。当てはまる番号１つに○をつけてください。

就学前



彦根休日急病診療所の利用状況については、利用したことが「ある」が60.1%と多くなっています。

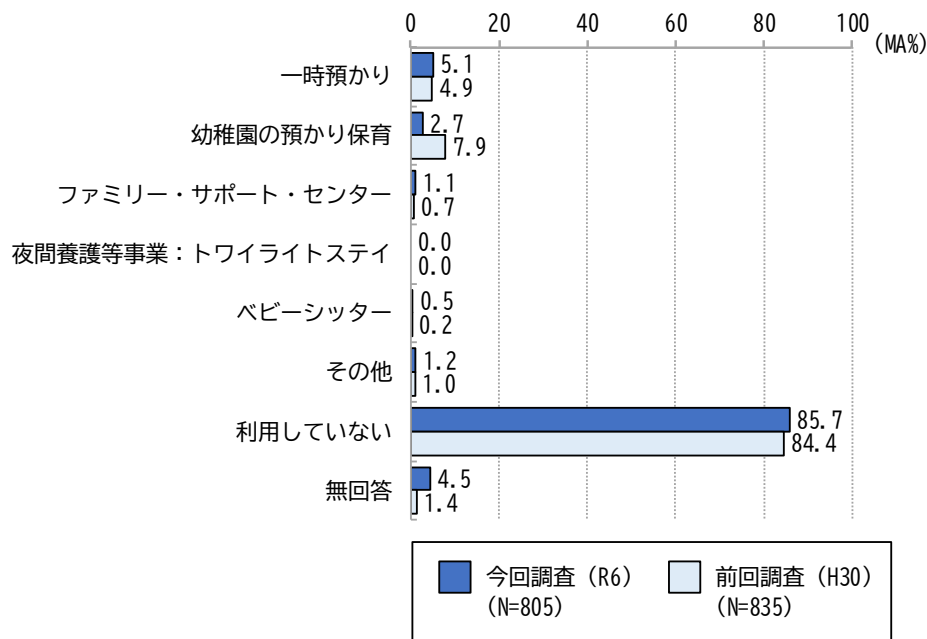
9 不特定の教育・保育事業や宿泊を伴う一時預かり等の利用について（就学前のみ）

〔1〕リフレッシュ、親の通院、不特定の就労等の目的で不定期的に利用している事業（就学前のみ）

【 就学前：問26／小学生：－ 】

お子さんについて、日中の定期的な保育や病気のため以外に、リフレッシュ、親の通院、不特定の就労等の目的で不定期的に利用している事業はありますか。ある場合は、当てはまる番号すべてに○をつけてください。

就学前



不定期的に利用している事業については、「一時預かり」が 5.1%と最も多くなっています。

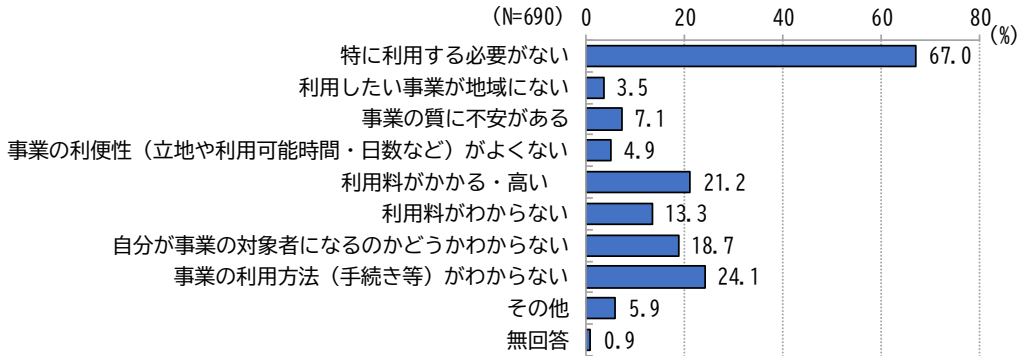
〔2〕利用していない理由（就学前のみ）

問26で「利用していない」を選んだ方のみ

【 就学前：問26-1／小学生：－ 】

現在利用していない理由は何ですか。当てはまる番号すべてに○をつけてください。

就学前



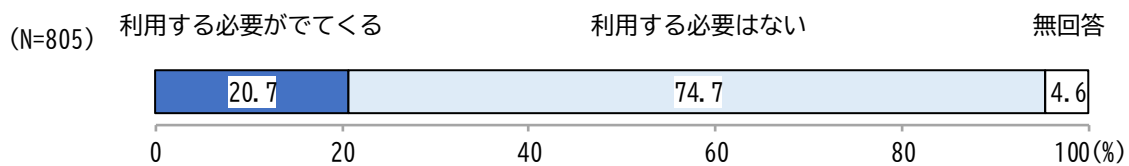
不定期に利用する事業を「利用していない」とお答えの方に、その理由をたずねたところ、「特に利用する必要がない」が67.0%と最も多くなっています。

〔3〕保護者の用事などにより泊まりがけで預ける必要性の有無

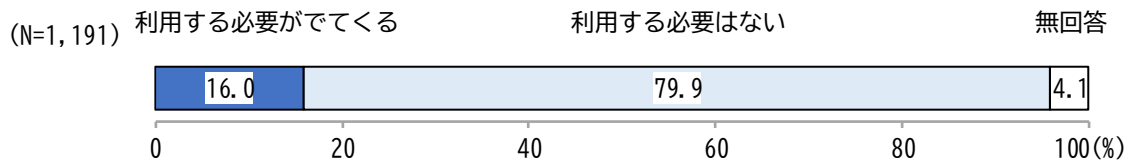
【 就学前：問27／小学生：問21 】

今後、リフレッシュ、親の通院、不特定の就労等の目的で不定期にお子さんを泊まりがけで家族以外に預ける必要が出てくると思いませんか。当てはまる番号1つに○をつけてください。

就学前



小学生



今後、リフレッシュ、親の通院、不特定の就労等の目的で不定期にお子さんを泊まりがけで家族以外に預ける必要性の有無については、「利用する必要はない」が、就学前では74.7%、小学生では79.9%と最も多くなっています。

10 放課後の過ごし方

〔1〕放課後（平日の小学校終了後）過ごさせたい場所

就学前はお子さんが令和6年4月から小学校に入学する方のみ

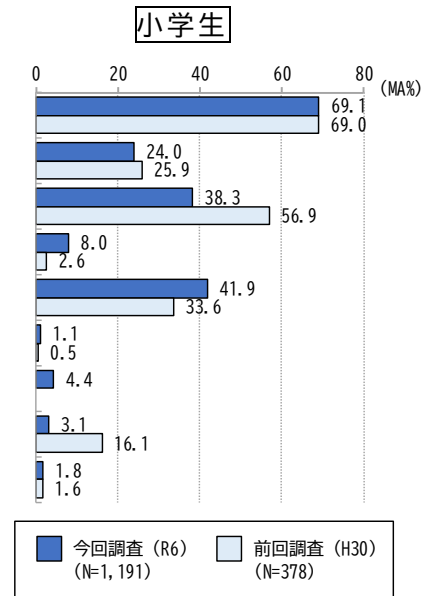
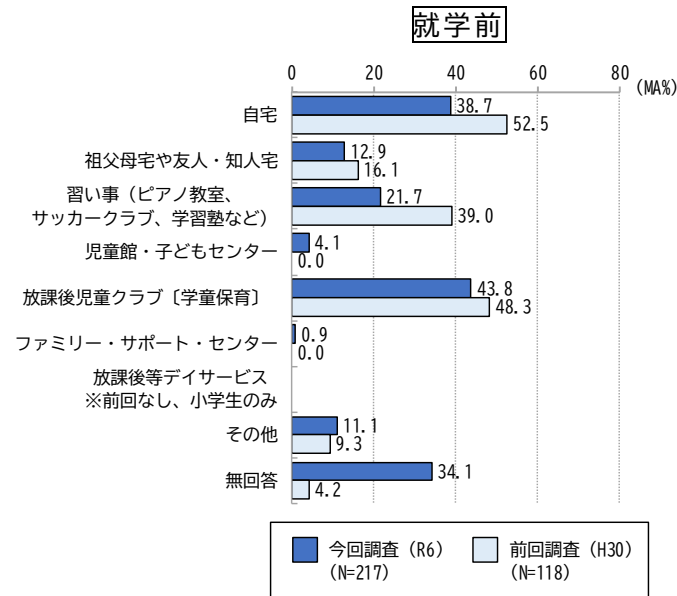
【就学前：問28】

お子さんについて、小学校入学後、放課後（平日の小学校終了後）の時間をどのような場所で過ごさせたいと思いますか。低学年・高学年のそれぞれ当てはまる番号すべてに○をつけてください。

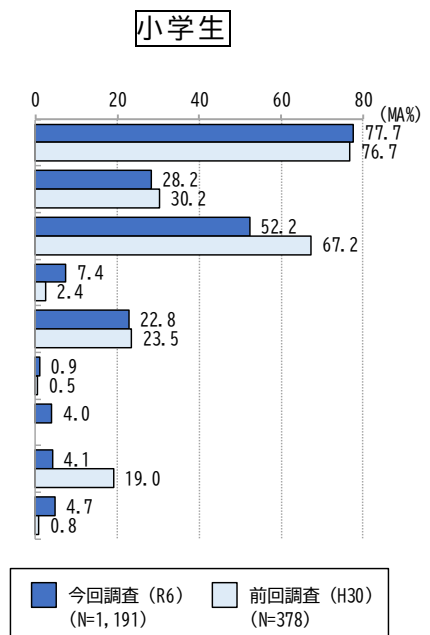
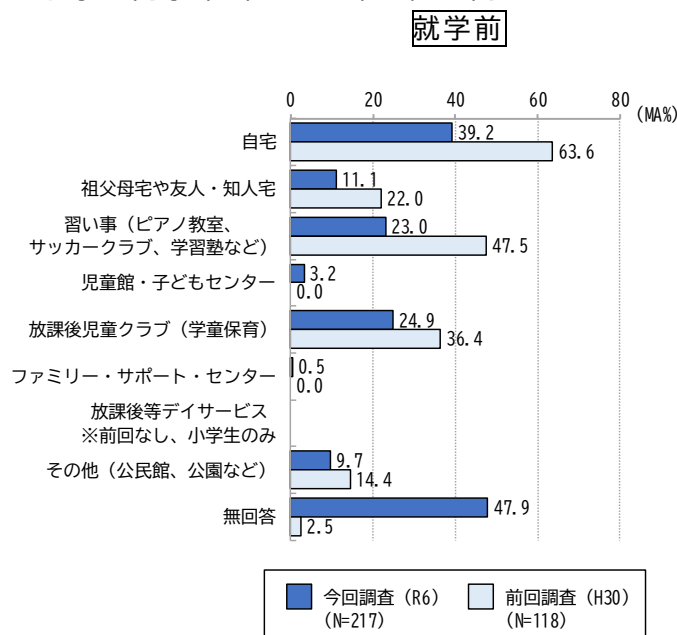
【小学生：問7】

お子さんについて、放課後（平日の小学校終了後）の時間をどのような場所で過ごさせたいと思いますか。低学年（1～3年生）の場合と高学年（4～6年生）になった場合とでそれぞれ当てはまる番号すべてに○をつけてください。

■小学生低学年（1～3年生）の間



■小学生高学年（4～6年生）の間



【就労形態別】

小学生

	N	自宅	祖父母宅や友人・知人宅	習い事（ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など）	児童館・子どもセンター	放課後児童クラブ（学童保育）	ファミリー・サポート・センター	※放課後等デイサービス、小学生のみ	その他（公民館、公園など）	無回答
【小学生低学年】										
全体	1191	69.1	24.0	38.3	8.0	41.9	1.1	4.4	3.1	1.8
共働き（両親ともフルタイム）	337	46.6	19.6	26.7	5.0	70.0	2.1	5.6	1.5	0.9
共働き（フルタイム×パート）	518	76.1	25.7	41.7	6.8	35.9	1.0	4.1	3.1	1.7
専業主婦（夫）	232	90.5	28.4	51.3	14.2	14.7	0.0	3.4	5.6	0.4
共働き（パート×パート）	27	63.0	18.5	25.9	14.8	29.6	0.0	3.7	3.7	3.7
無業×無業	11	100.0	27.3	45.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
【小学生高学年】										
全体	1191	77.7	28.2	52.2	7.4	22.8	0.9	4.0	4.1	4.7
共働き（両親ともフルタイム）	337	70.0	24.6	43.9	4.5	39.5	0.9	3.3	1.5	2.7
共働き（フルタイム×パート）	518	82.2	29.2	54.6	6.8	19.3	1.4	4.8	4.8	3.1
専業主婦（夫）	232	83.2	32.3	63.8	12.1	9.1	0.0	3.4	6.0	7.3
共働き（パート×パート）	27	77.8	22.2	51.9	14.8	11.1	0.0	3.7	3.7	7.4
無業×無業	11	90.9	27.3	54.5	0.0	0.0	0.0	9.1	9.1	0.0

希望する放課後の過ごし方は、小学生低学年の間は、「自宅」が、小学生では69.1%と最も多くなっています。小学生高学年の間も、「自宅」が、小学生では77.7%と最も多くなっています。

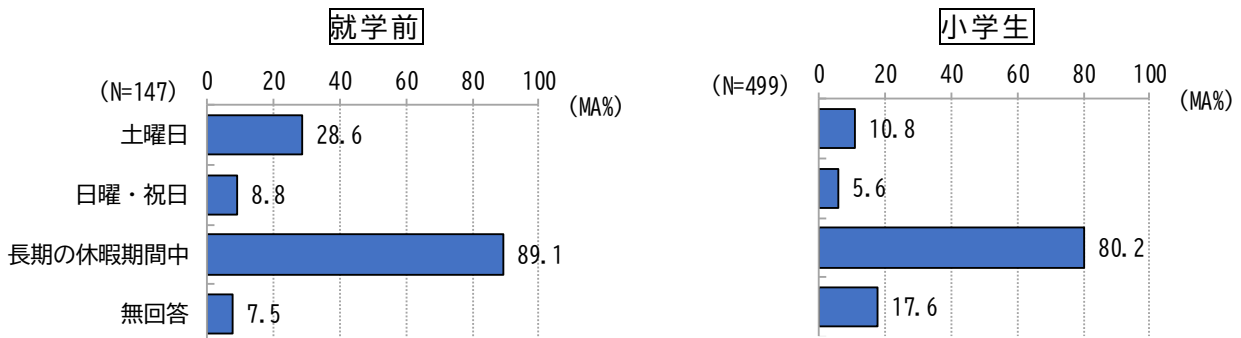
〔2〕土日・祝日の放課後児童クラブの利用希望

問28／問7で「放課後児童クラブ〔学童保育〕」を選んだ方のみ

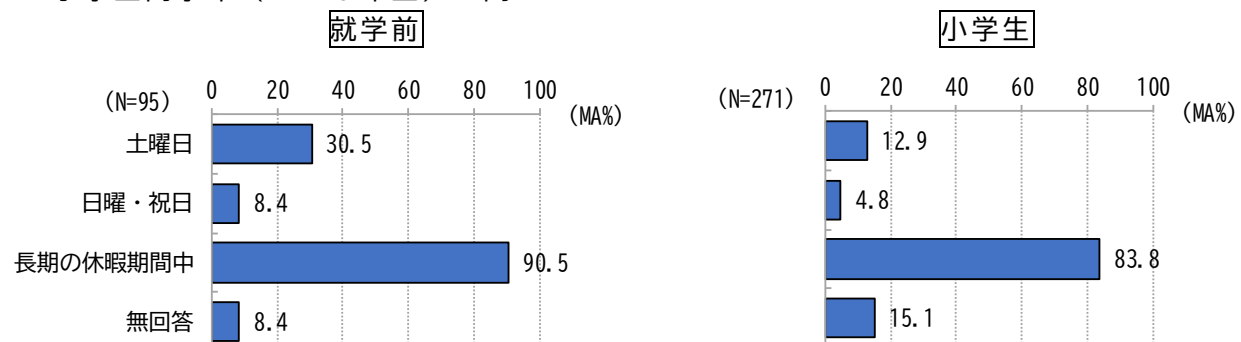
【就学前：問29／小学生：問8】

土曜日、日曜日・祝日、長期の休暇期間中に放課後児童クラブの利用希望はありますか。事業の利用には、一定の利用料がかかります。低学年（1～3年生）の場合と高学年（4～6年生）になった場合とでそれぞれ当てはまる番号すべてに○をつけてください。

■小学生低学年（1～3年生）の間



■小学生高学年（4～6年生）の間



Ⅱ-1. 就学前児童調査・小学生児童調査

【就労形態別】

小学生

	N	土曜日	日曜日・祝日	間長期の休暇中	(MA%) 無回答
【小学生低学年】					
全体	499	10.8	5.6	80.2	17.6
共働き(両親ともフルタイム)	236	11.4	6.8	86.0	12.3
共働き(フルタイム×パート)	186	8.6	3.2	75.8	21.5
専業主婦(夫)	34	11.8	5.9	61.8	35.3
共働き(パート×パート)	8	25.0	25.0	62.5	25.0
無業×無業	0	0.0	0.0	0.0	0.0
【小学生高学年】					
全体	271	12.9	4.8	83.8	15.1
共働き(両親ともフルタイム)	133	11.3	3.8	88.0	11.3
共働き(フルタイム×パート)	100	10.0	5.0	81.0	18.0
専業主婦(夫)	21	28.6	4.8	66.7	28.6
共働き(パート×パート)	3	33.3	0.0	66.7	33.3
無業×無業	0	0.0	0.0	0.0	0.0

「放課後児童クラブ〔学童保育〕」の利用を希望している方に、土曜日、日曜日・祝日、長期休暇期間中の利用希望をたずねたところ、小学生低学年の間は、「長期の休暇期間中」が、就学前では 89.1%、小学生では 80.2%と最も多くなっています。小学生高学年の間も、「長期の休暇期間中」が、就学前では 90.5%、小学生では 83.8%と最も多くなっています。

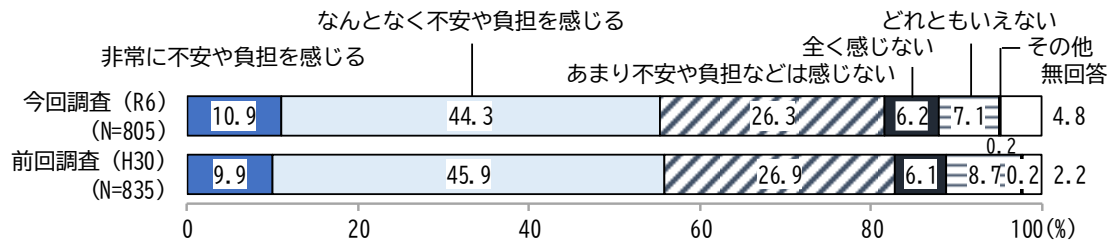
11 子育て観やサービスの満足度などについて

〔1〕子育てに関する不安や負担の有無

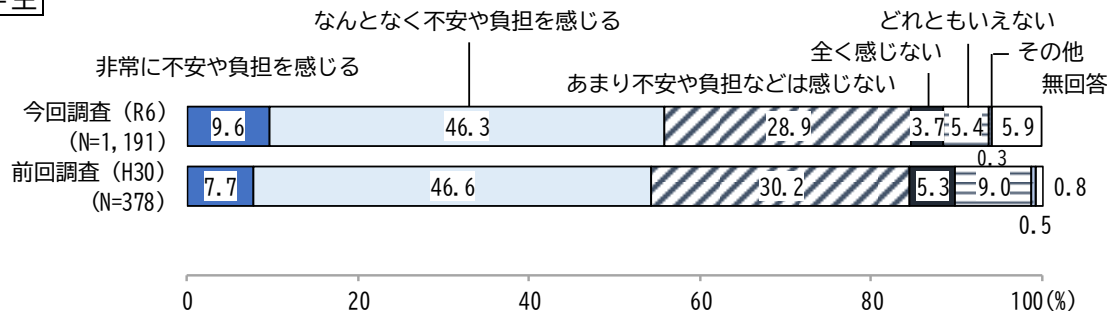
【就学前：問30／小学生：問23】

あなたは、子育てに関して不安や負担などを感じていますか。当てはまる番号1つに○をつけてください。

就学前



小学生



【就労形態別】

		N	非常に不安や負担を感じる	なんとなく不安や負担を感じる	あまり不安や負担などは感じない	全く感じない	どれともいえない	その他	無回答	不安や負担を感じる(合計)
就学前	全体	805	10.9	44.3	26.3	6.2	7.1	0.2	4.8	55.2
	共働き(両親ともフルタイム)	301	11.3	48.8	23.9	6.0	6.0	0.7	3.3	60.1
	共働き(フルタイム×パート)	202	10.9	42.1	30.2	6.4	5.9	0.0	4.5	53.0
	専業主婦(夫)	241	10.4	46.1	26.6	5.8	7.1	0.0	4.1	56.5
	共働き(パート×パート)	6	0.0	16.7	66.7	0.0	0.0	0.0	16.7	16.7
	無業×無業	3	0.0	33.3	33.3	0.0	33.3	0.0	0.0	33.3
小学生	全体	1191	9.6	46.3	28.9	3.7	5.4	0.3	5.9	55.9
	共働き(両親ともフルタイム)	337	9.2	51.9	28.8	3.6	3.3	0.6	2.7	61.1
	共働き(フルタイム×パート)	518	8.3	43.4	33.2	3.3	6.6	0.4	4.8	51.7
	専業主婦(夫)	232	12.5	49.1	27.2	4.3	5.6	0.0	1.3	61.6
	共働き(パート×パート)	27	14.8	29.6	25.9	3.7	11.1	0.0	14.8	44.4
	無業×無業	11	18.2	36.4	0.0	18.2	18.2	0.0	9.1	54.6

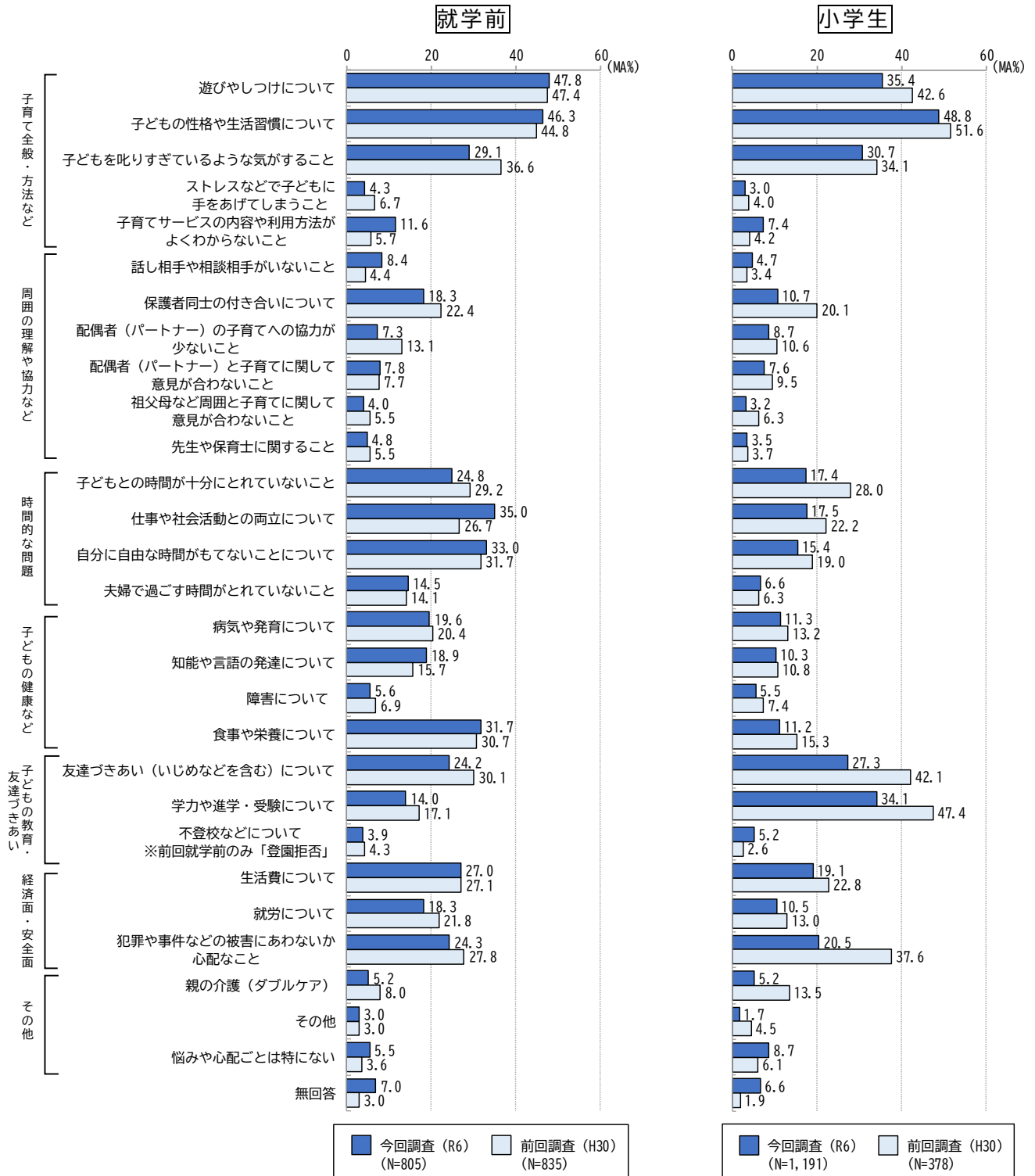
子育てに関する不安や負担については、「非常に不安や負担を感じる」と「なんとなく不安や負担を感じる」を合わせた『不安や負担を感じる』が就学前では55.2%、小学生では55.9%と多くなっています。

Ⅱ-1. 就学前児童調査・小学生児童調査

〔2〕悩みや心配の内容

【 就学前：問31／小学生：問24 】

子育てに関する悩みや心配ごとはありますか。また、その内容はどのようなことですか。1～28までのうち、当てはまる番号すべてに○をつけてください。



【子育てに関する不安や負担の有無別】

		N	遊びやしつけについて	子どもの性格や生活習慣について	子どもを叱りすぎているような気がする	ストレスなどで子どもに手をあげてしまうこと	子育てサービスの内容や利用方法がよくわからないこと	話し相手や相談相手がいないこと	保護者同士の付き合いについて	配偶者が少ないこと	配偶者（パートナー）の子育てへの協力がないこと	配偶者（パートナー）と子育てに関して意見が合わないこと	祖父祖母など周囲と子育てに関して意見が合わないこと	先生や保育士に関する事	子どもとの時間が十分にとれていないこと	仕事や社会活動との両立について	自分に自由な時間がもてないことに ついて
就学前	全体	805	47.8	46.3	29.1	4.3	11.6	8.4	18.3	7.3	7.8	4.0	4.8	24.8	35.0	33.0	
	不安や負担を感じる	445	62.9	58.9	37.5	7.2	16.4	14.2	24.9	10.6	11.2	5.6	6.7	33.7	45.8	48.5	
	不安や負担を感じない	262	30.2	31.7	16.4	0.8	6.5	0.4	10.3	3.1	4.2	1.5	1.5	12.6	21.0	12.6	
小学生	全体	1191	35.4	48.8	30.7	3.0	7.4	4.7	10.7	8.7	7.6	3.2	3.5	17.4	17.5	15.4	
	不安や負担を感じる	665	47.8	62.4	42.0	5.1	10.5	7.1	14.1	13.5	11.7	5.3	4.4	23.8	25.6	23.0	
	不安や負担を感じない	388	21.4	36.1	18.0	0.5	4.1	1.5	6.4	2.6	2.3	0.5	2.6	10.6	8.5	7.0	

(MA%)																		
		夫婦で過ごす時間がとれていないこと	病気や発育について	知能や言語の発達について	障害について	食事や栄養について	友達づきあい（いじめなどを含む）について	学力や進学・受験について	※前回就学前のみ「登園拒否」	不登校などについて	生活費について	就労について	心配なこと	犯罪や事件などの被害にあわないか	親の介護（ダブルケア）	その他	悩みや心配ごとは特にな	無回答
就学前	全体	14.5	19.6	18.9	5.6	31.7	24.2	14.0	3.9	27.0	18.3	24.3	5.2	3.0	5.5	7.0		
	不安や負担を感じる	21.1	27.0	25.8	7.4	39.8	31.9	17.3	5.6	33.7	24.9	31.7	7.4	2.9	0.7	0.7		
	不安や負担を感じない	5.7	8.8	9.9	2.3	21.4	13.7	9.5	1.1	18.3	8.8	15.3	2.7	2.3	14.5	5.7		
小学生	全体	6.6	11.3	10.3	5.5	11.2	27.3	34.1	5.2	19.1	10.5	20.5	5.2	1.7	8.7	6.6		
	不安や負担を感じる	8.7	17.0	14.9	8.1	13.5	34.9	45.4	8.1	28.1	16.1	25.4	7.1	2.0	0.8	0.2		
	不安や負担を感じない	4.9	4.6	5.2	2.8	9.5	18.6	22.9	1.5	8.2	3.1	14.9	3.6	1.3	23.5	1.5		

子育てに関する悩みや心配ごとについては、就学前では「遊びやしつけについて」が 47.8%と最も多く、次いで、「子どもの性格や生活習慣について」が 46.3%、「仕事や社会活動との両立について」が 35.0%となっています。

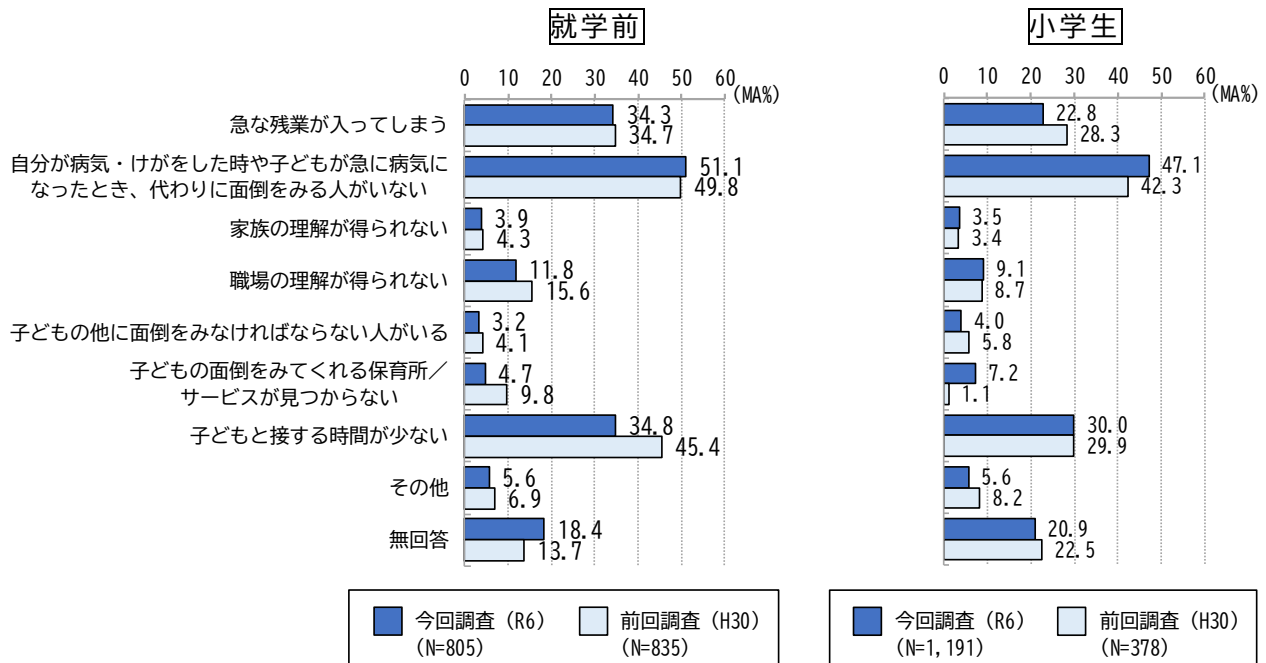
小学生では「子どもの性格や生活習慣について」が 48.8%と最も多く、次いで、「遊びやしつけについて」が 35.4%、「学力や進学・受験について」が 34.1%となっています。

Ⅱ-1. 就学前児童調査・小学生児童調査

〔3〕仕事と子育てを両立させる上で大変なこと

【 就学前：問32／小学生：問25 】

仕事と子育てを両立させる上で大変だと思われることは何ですか。当てはまる番号すべてに○をつけてください。



仕事と子育てを両立させる上で大変なことについては、「自分が病気・けがをした時や子どもが急に病気になったとき、代わりに面倒をみる人がいない」が就学前では51.1%、小学生では47.1%と最も多くなっています。

〔4〕父親の子育て参加の有無

【 就学前：問33／小学生：問26 】

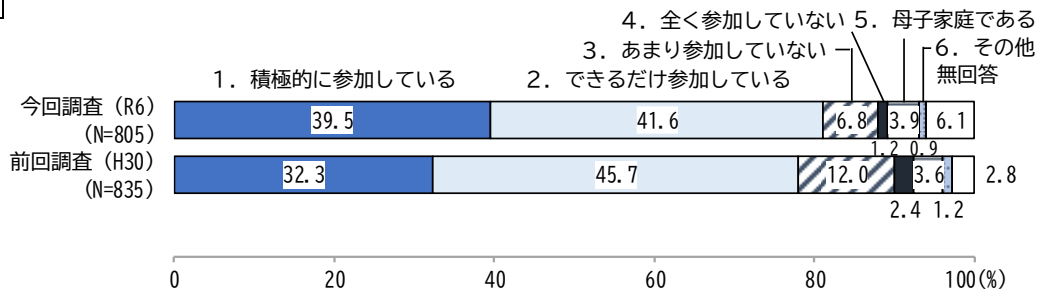
お父さんは、子育てに積極的に参加されていますか。当てはまる番号1つに○をつけてください。

問33で「1」～「3」（子育てに参加している）を選んだ方のみ

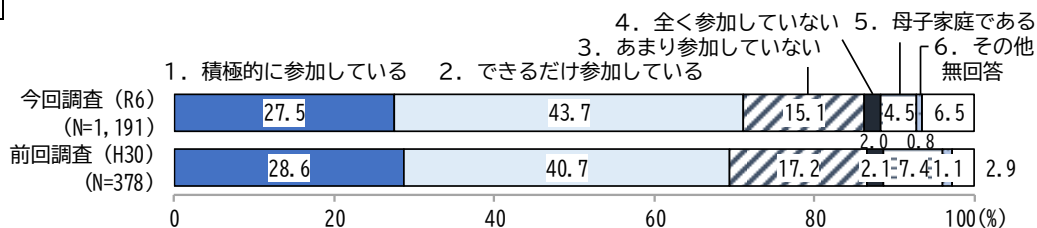
【 就学前：問34／小学生：問27 】

お父さんは、どのような子育てに参加されていますか。当てはまる番号すべてに○をつけてください。

就学前

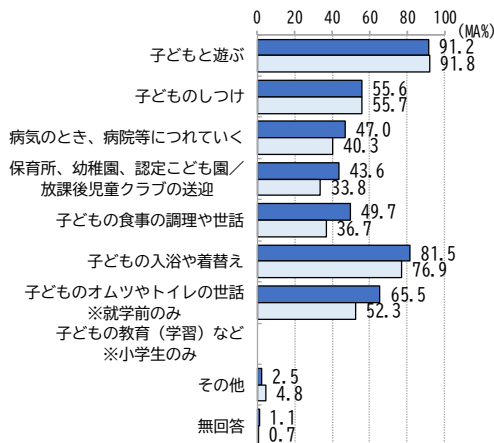


小学生

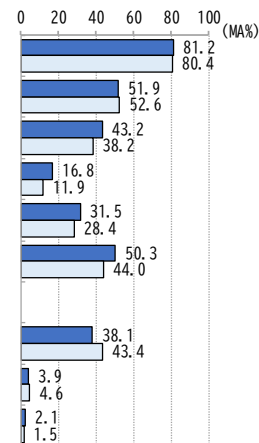


■父親が参加している子育ての内容

就学前



小学生



父親の子育て参加の有無については、「できるだけ参加している」が就学前では41.6%、小学生では43.7%と最も多くなっています。

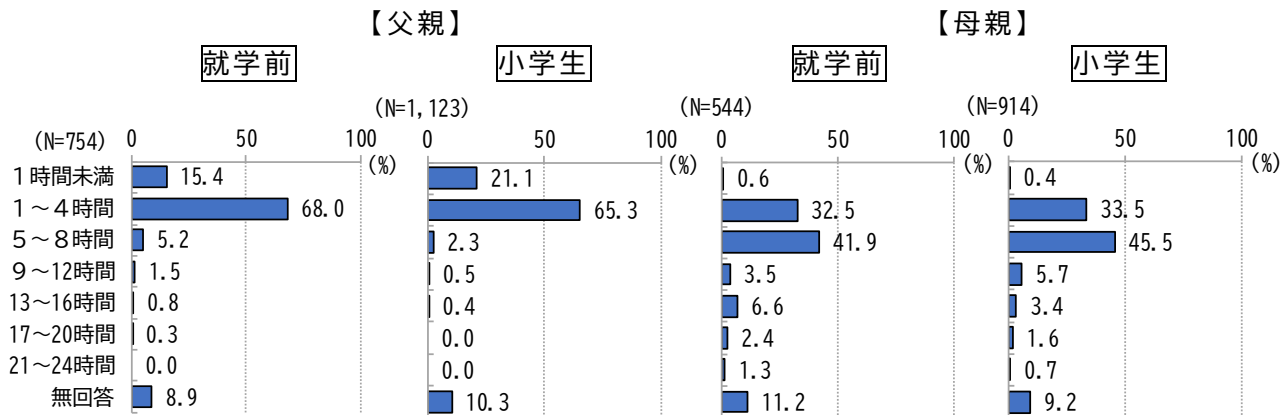
父親が参加している子育ての内容については、「子どもと遊ぶ」が就学前では91.2%、小学生では81.2%と最も多くなっています。

〔5〕子どもと過ごす時間

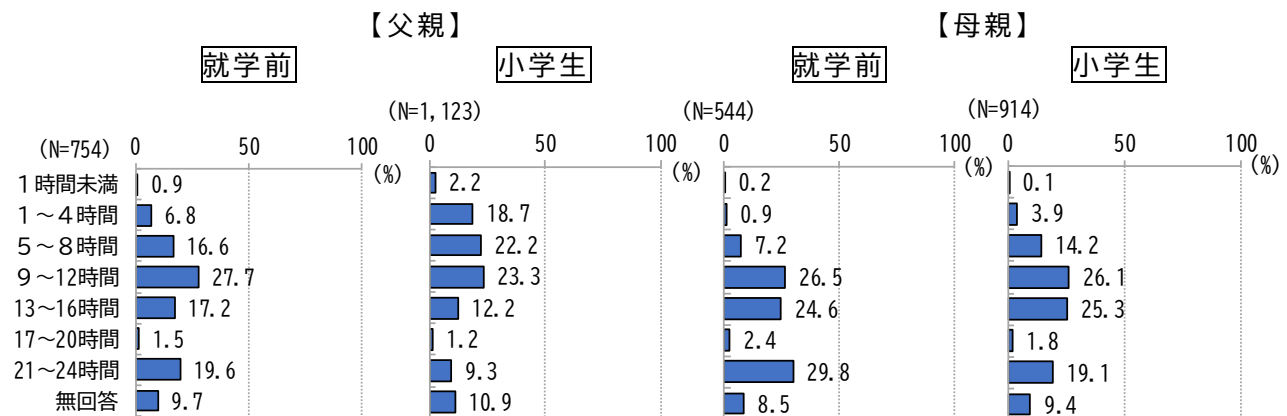
【 就学前：問35／小学生：問28 】

子どもと過ごす時間はどのくらいありますか。仕事のある日、仕事のない日それぞれについて、1日当たりの「子どもと過ごす時間」をお答えください。時間が一定でない場合は、もっとも多いパターンについてお答えください。また、時間は（ ）内に数字でご記入ください。

■ 仕事のある日



■ 仕事のない日



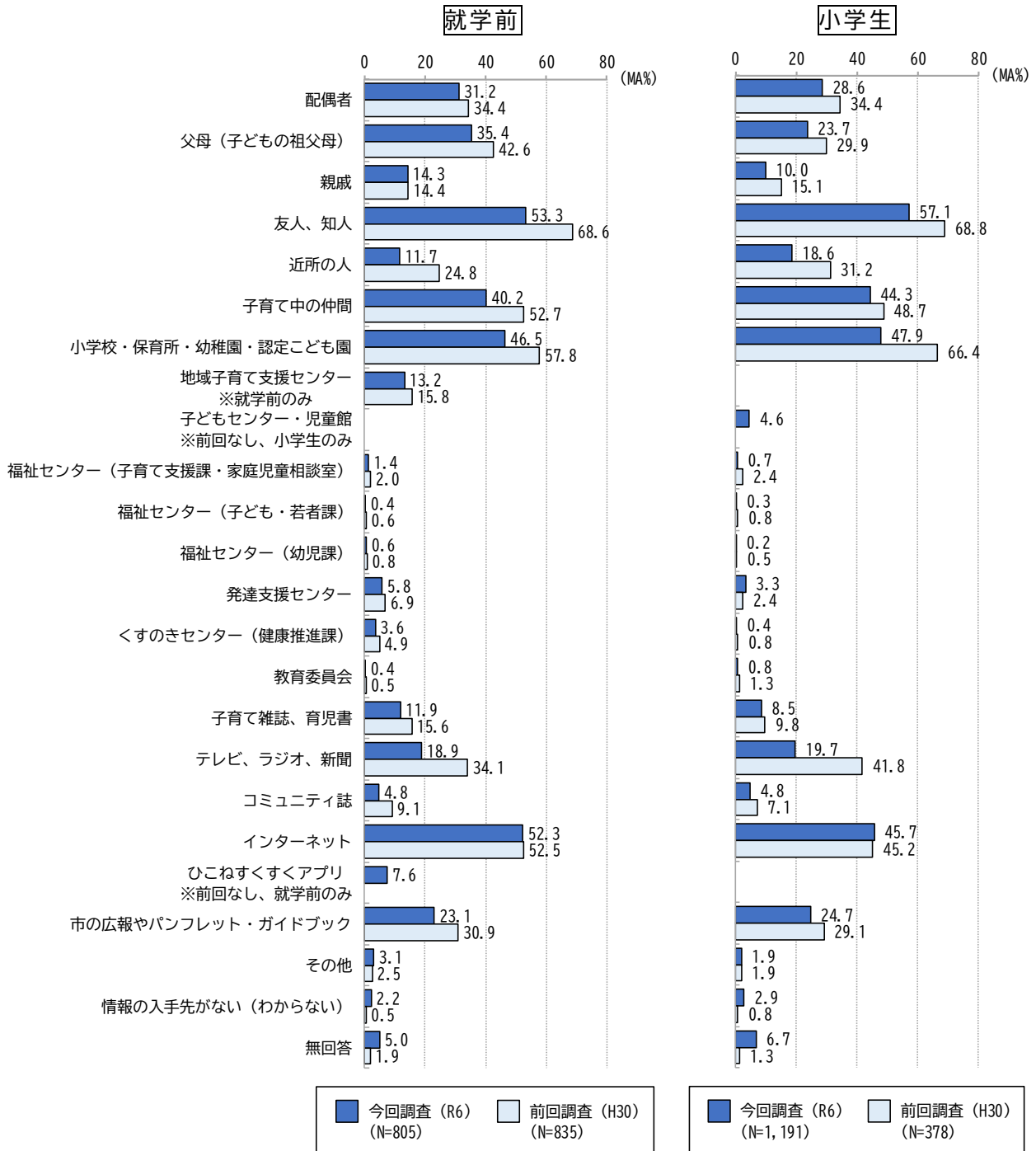
平日（仕事のある日）に子どもと過ごす時間は、父親については、「1～4時間」が就学前では68.0%、小学生では65.3%と最も多くなっています。母親についても、「5～8時間」が就学前では41.9%、小学生では45.5%と最も多くなっています。

休日（仕事のない日）については、父親については、就学前では「9～12時間」が27.7%、小学生では23.3%と最も多くなっています。母親については、就学前では「21～24時間」が29.8%と最も多く、小学生では「9～12時間」が26.1%と最も多くなっています。

〔6〕子育てに関する情報の入手方法

【 就学前：問36／小学生：問29 】

子育てに関する情報をどのように入手されていますか。当てはまる番号すべてに○をつけてください。



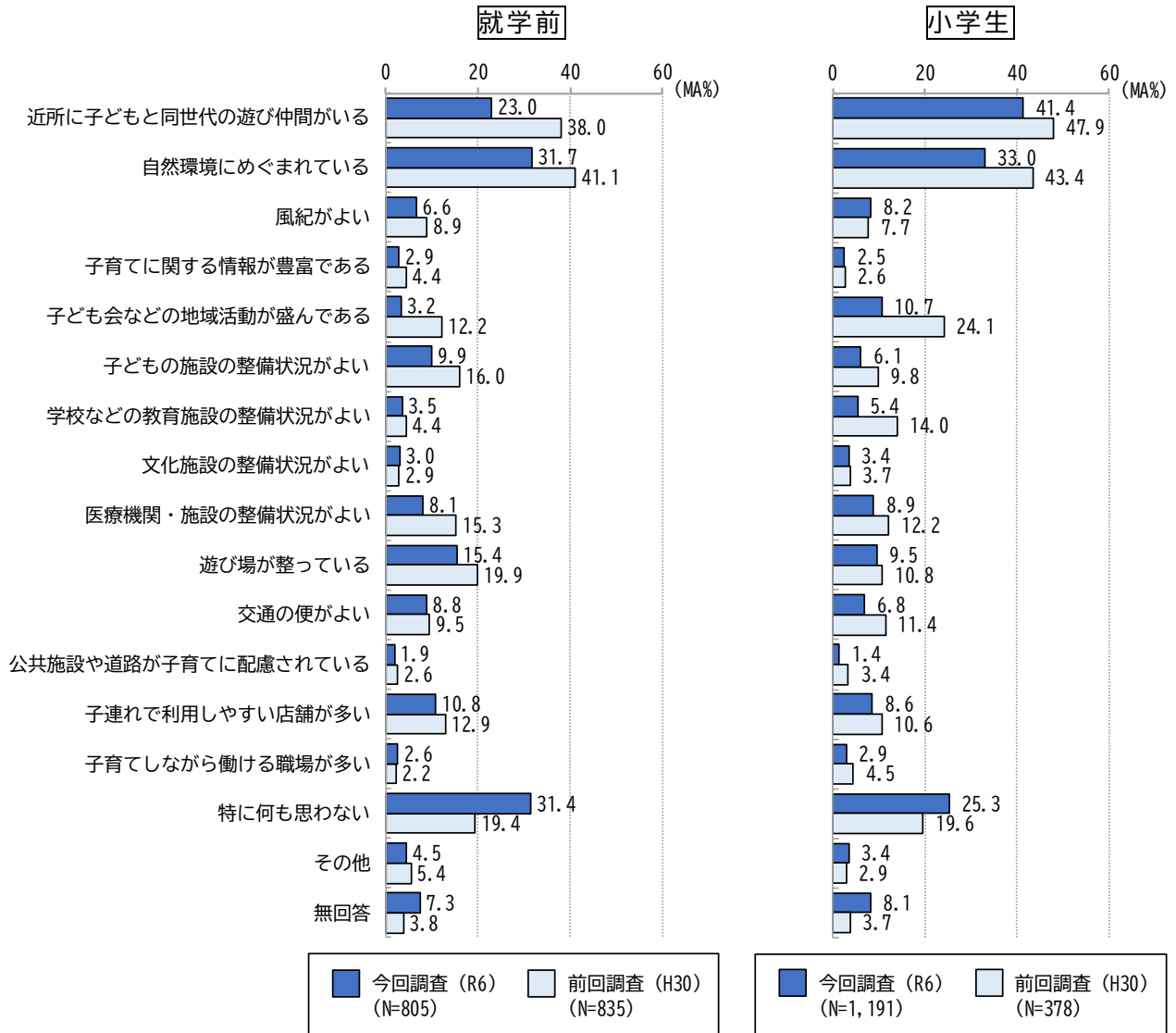
子育てに関する情報の入手方法は、「友人、知人」が就学前では 53.3%、小学生では 57.1%と最も多くなっています。

Ⅱ-1. 就学前児童調査・小学生児童調査

〔7〕彦根市の子育て環境について

【 就学前：問37／小学生：問30 】

彦根市の子育て環境についてどう思いますか。当てはまる番号すべてに○をつけてください。



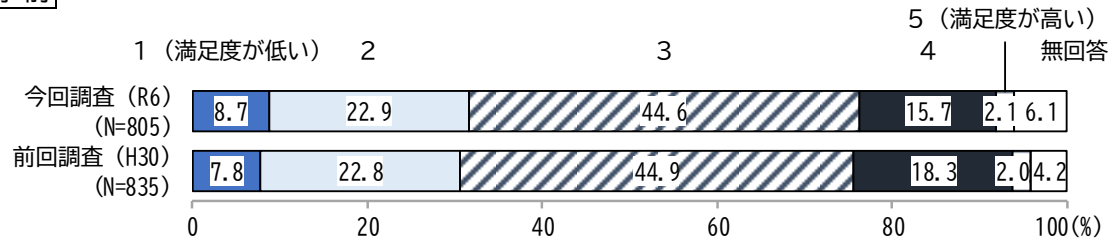
彦根市の子育て環境は、就学前では「自然環境にめぐまれている」が31.7%と最も多く、小学生では「近所に子どもと同世代の遊び仲間がいる」が41.4%と最も多くなっています。

〔8〕 地域における子育て環境や支援についての満足度

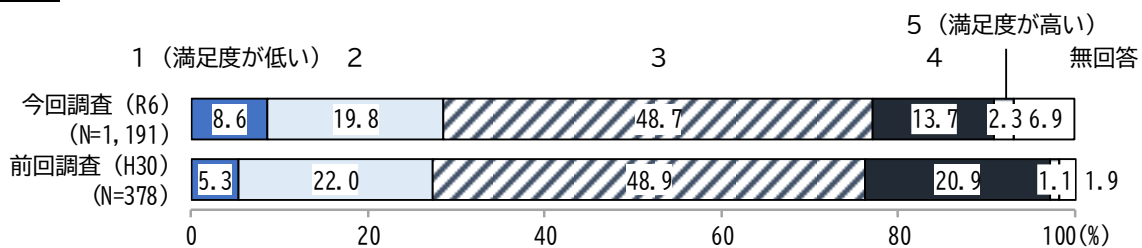
【 就学前：問38／小学生：問31 】

お住まいの地域における子育ての環境や支援への満足度について当てはまる番号1つに○をつけてください。

就学前



小学生



地域における子育ての環境や支援への満足度については、「3」（中程度）が就学前では 44.6%、小学生では 48.7%と最も多くなっています。

Ⅱ-1. 就学前児童調査・小学生児童調査

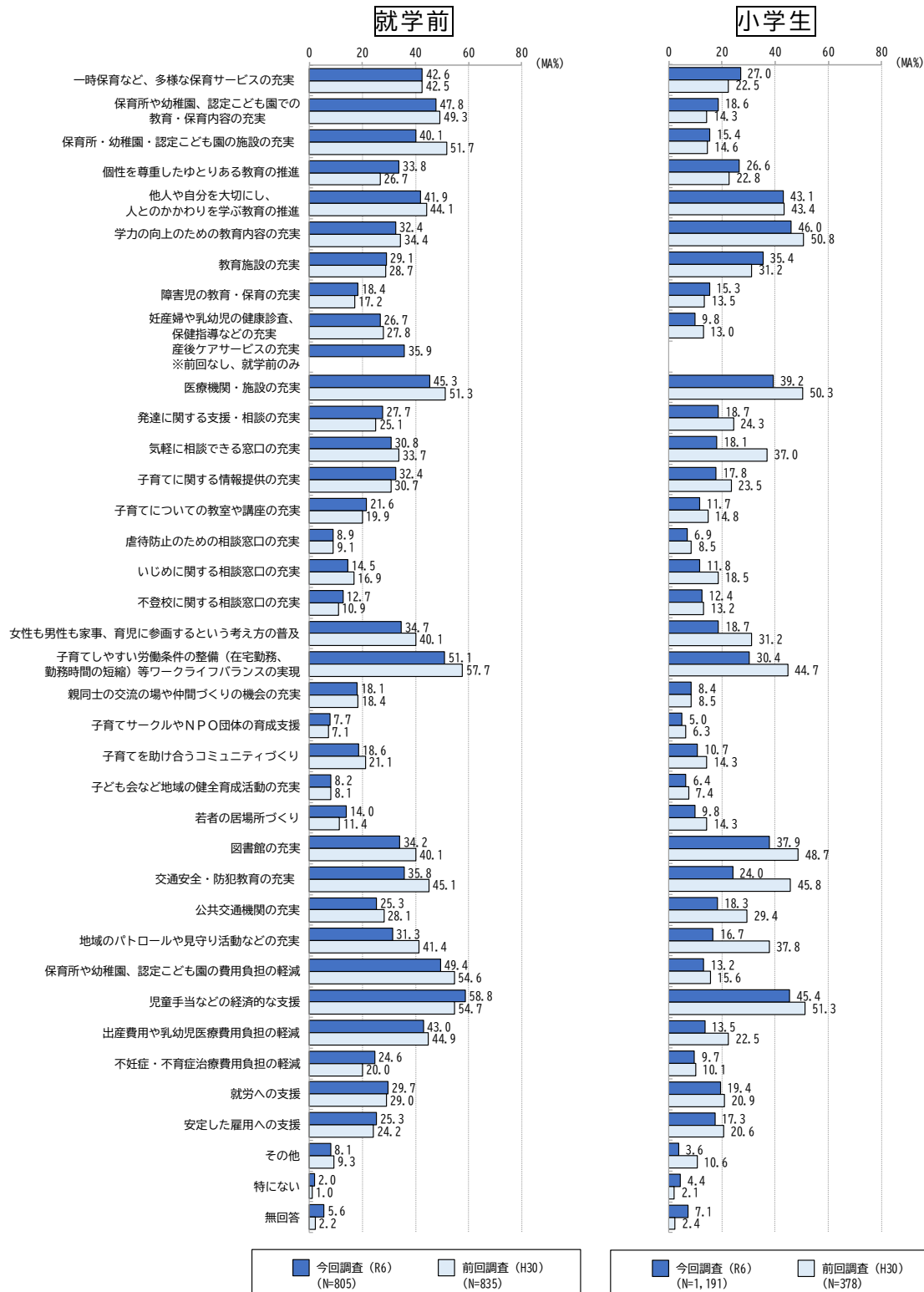
〔9〕彦根市のこれからの子育て支援施策で期待すること

【 就学前：問39 】

彦根市のこれからの子育て支援施策について、どのようなことを期待しますか。1～37までのうち、当てはまる番号すべてに○をつけてください。

【 小学生：問32 】

彦根市のこれからの子育て支援施策について、どのようなことを期待しますか。1～36までのうち、当てはまる番号すべてに○をつけてください。



Ⅱ-1. 就学前児童調査・小学生児童調査

【子育てに関する不安や負担感別】

		N	一時保育など、多様な保育サービスの充実	保育所・幼稚園・認定こども園での教育・保育内容の充実	保育所・幼稚園・認定こども園の施設の充実	個性を尊重したゆとりある教育の推進	他人や自分を大切にし、人とのかわりを学ぶ教育の推進	学力の向上のための教育内容の充実	教育施設の充実	障害児の教育・保育の充実	妊産婦や乳幼児の健康診査、保健指導などの充実	※前回なし、就学前のみ	産後ケアサービスの充実	医療機関・施設の充実	発達に関する支援・相談の充実	気軽に相談できる窓口の充実	子育てに関する情報提供の充実	子育てについての教室や講座の充実	虐待防止のための相談窓口の充実	いじめに関する相談窓口の充実	不登校に関する相談窓口の充実	女性も男性も家事、育児に参画するという考えの普及
就学前	全体	805	42.6	47.8	40.1	33.8	41.9	32.4	29.1	18.4	26.7	35.9	45.3	27.7	30.8	32.4	21.6	8.9	14.5	12.7	34.7	
	不安や負担を感じる	445	52.1	55.7	44.7	38.7	46.7	37.1	34.6	22.0	30.3	41.8	49.9	34.6	39.3	40.0	26.5	9.7	15.7	14.8	41.6	
	不安や負担を感じない	262	33.2	41.2	36.3	28.2	38.2	29.4	24.8	16.0	24.8	32.8	43.5	19.5	21.0	25.2	17.2	8.0	13.7	11.1	27.9	
小学生	全体	1191	27.0	18.6	15.4	26.6	43.1	46.0	35.4	15.3	9.8	-	39.2	18.7	18.1	17.8	11.7	6.9	11.8	12.4	18.7	
	不安や負担を感じる	665	32.0	22.0	17.3	32.0	48.7	49.6	39.2	19.4	11.3	-	42.9	24.7	24.4	22.4	14.1	8.4	14.9	16.8	23.5	
	不安や負担を感じない	388	22.7	16.2	14.9	22.7	42.5	49.0	35.3	11.1	8.8	-	38.9	11.9	11.3	12.9	9.5	4.6	8.2	7.0	14.2	

		(MA%)																		
		無回答	特にな い	その他	安定した雇用への支援	就労への支援	不妊症・不育症治療費用負担の軽減	出産費用や乳幼児医療費用負担の軽減	児童手当などの経済的な支援	保育所や幼稚園、認定こども園の費用負担の軽減	地域のパトロールや見守り活動などの充実	公共交通機関の充実	交通安全・防犯教育の充実	図書館の充実	若者の居場所づくり	子ども会など地域の健全育成活動の充実	子育てを助け合うコミュニティづくり	子育てサークルやNPO団体の育成支援	親同士の交流の場や仲間づくりの機会の充実	子育てしやすい労働条件の整備（在宅勤務、勤務時間の短縮）等ワークライフバランスの実現
就学前	全体	5.6	2.0	8.1	25.3	29.7	24.6	43.0	58.8	49.4	31.3	25.3	35.8	34.2	14.0	8.2	18.6	7.7	18.1	51.1
	不安や負担を感じる	0.9	0.7	9.7	28.1	33.9	26.3	46.5	64.7	57.8	31.0	29.2	40.0	37.5	16.0	8.5	23.1	8.8	19.8	58.4
	不安や負担を感じない	1.9	4.2	7.3	24.0	26.0	24.4	42.0	55.3	43.9	34.7	22.9	32.8	32.1	12.6	8.0	12.6	6.5	16.8	46.2
小学生	全体	7.1	4.4	3.6	17.3	19.4	9.7	13.5	45.4	13.2	16.7	18.3	24.0	37.9	9.8	6.4	5.0	8.4	30.4	34.4
	不安や負担を感じる	0.8	3.6	3.8	22.6	25.3	11.9	15.8	49.8	16.2	18.3	20.9	26.2	40.3	12.2	7.5	13.1	10.2	37.4	37.4
	不安や負担を感じない	2.3	5.2	4.1	12.4	6.7	12.4	12.4	46.1	10.8	15.2	17.3	21.6	41.0	7.0	5.4	8.5	5.9	24.2	24.2

彦根市のこれからの子育て支援施策で期待することは、就学前では「児童手当などの経済的な支援」が58.8%と最も多く、次いで、「子育てしやすい労働条件の整備(在宅勤務、勤務時間の短縮)等ワークライフバランスの実現」が51.1%、「保育所や幼稚園、認定こども園の費用負担の軽減」が49.4%となっています。

小学生では「学力の向上のための教育内容の充実」が46.0%と最も多く、次いで、「児童手当などの経済的な支援」が45.4%、「他人や自分を大切に、人とのかわりを学ぶ教育の推進」が43.1%となっています。

12 育児休業や短時間勤務制度など職場の両立支援制度について

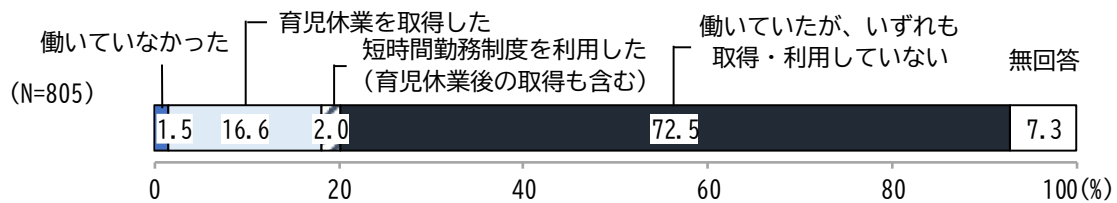
〔1〕 育児休業の取得状況

【 就学前：問40／小学生：問33 】

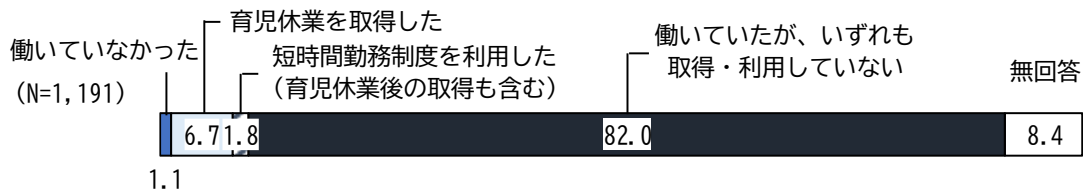
お子さんが生まれた時、父母のいずれかもしくは双方が育児休業または短時間勤務制度を取得しましたか。父親、母親それぞれについて、当てはまる番号１つに○をつけてください。また、取得していない方はその理由のすべてに○をつけてください。（自営業の方等は「４．働いていたが、いずれも取得・利用していない」に○をつけてください。）

【父親】

就学前

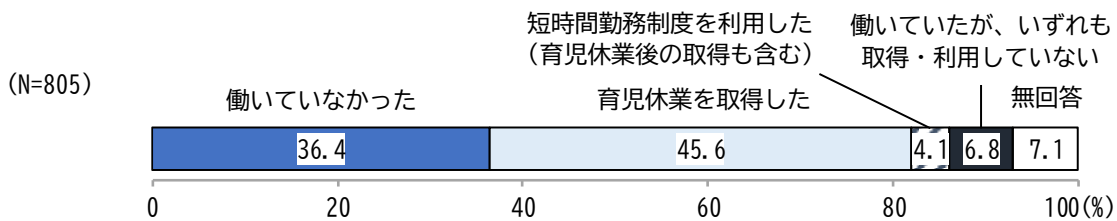


小学生

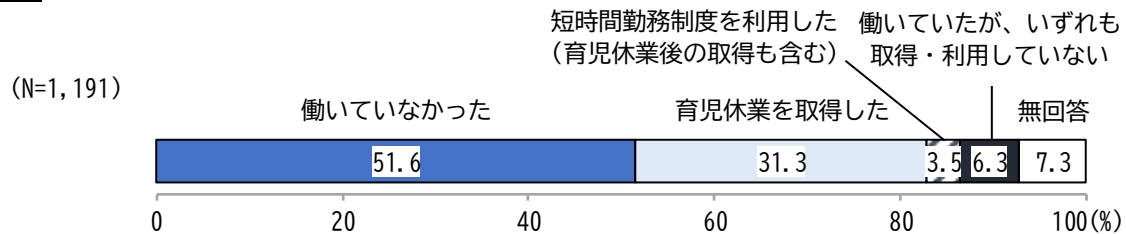


【母親】

就学前

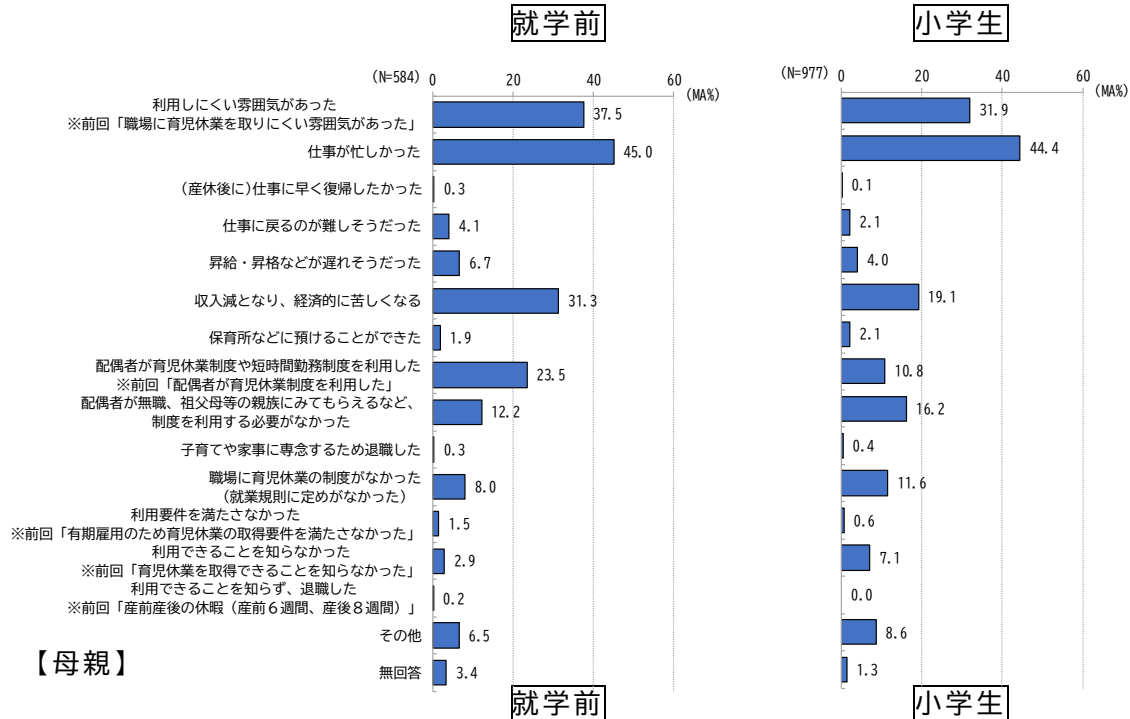


小学生

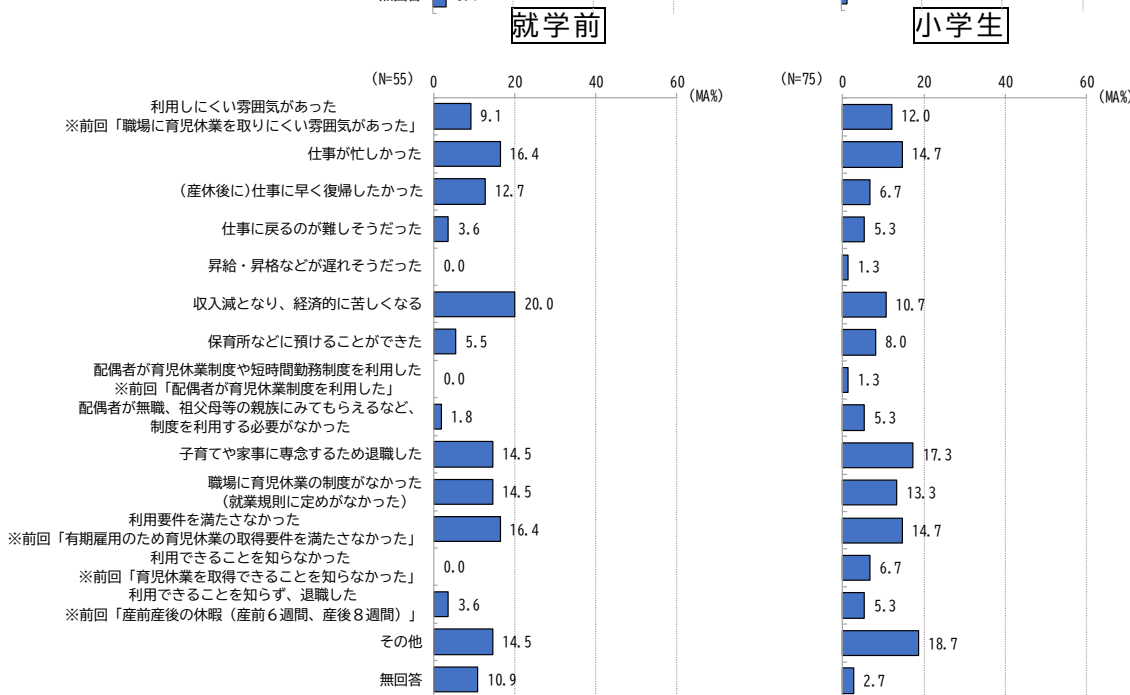


■ 育児休業を取得していない理由

【父親】



【母親】



育児休業の取得の有無については、父親については、「働いていたが、いずれも取得・利用していない」が就学前では 72.5%、小学生では 82.0%と最も多くなっています。母親については、就学前では「育児休業を取得した」が 45.6%と最も多く、小学生では「働いていなかった」が 51.6%と最も多くなっています。

育児休業を取得していない理由については、父親については、「仕事が忙しかった」が就学前で 45.0%、小学生では 44.4%と最も多くなっています。母親については、就学前では「収入減となり、経済的に苦しくなる」が 20.0%、小学生では「子育てや家事に専念するため退職した」が 17.3%と多くなっています。

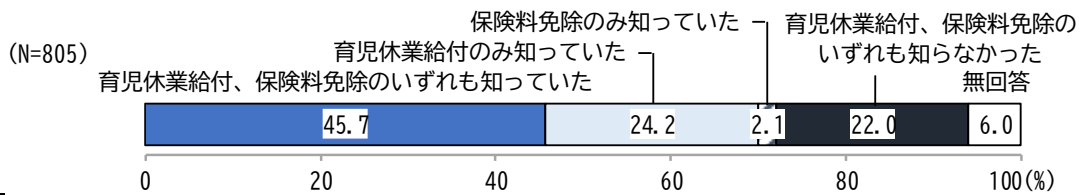
Ⅱ-1. 就学前児童調査・小学生児童調査

〔2〕健康保険及び厚生年金保険の保険料が免除になる仕組みの認知度

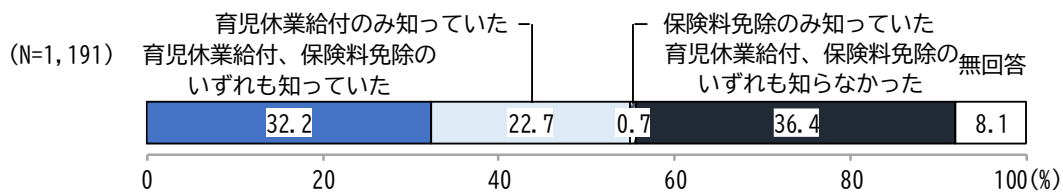
【 就学前：問40-1 / 小学生：問33-1 】

子どもが原則1歳（保育所における保育の実施が行われないなど一定の要件を満たす場合は1歳6か月、または2歳）になるまで育児休業給付が支給される仕組み、子どもが満3歳になるまでの育児休業等（法定の育児休業及び企業が法定を上回る期間設けた育児休業に準ずる措置）の期間について一部の健康保険及び厚生年金保険の保険料が免除になる仕組みがありますが、そのことをご存じでしたか。当てはまる番号1つに○をつけてください。

就学前



小学生



育児休業等期間について一部の健康保険及び厚生年金保険の保険料が免除になる仕組みの認知度は、就学前では「育児休業給付、保険料免除のいずれも知っていた」が45.7%と最も多く、小学生では「育児休業給付、保険料免除のいずれも知らなかった」が36.4%と最も多くなっています。

〔3〕育児休業取得後の職場復帰の有無

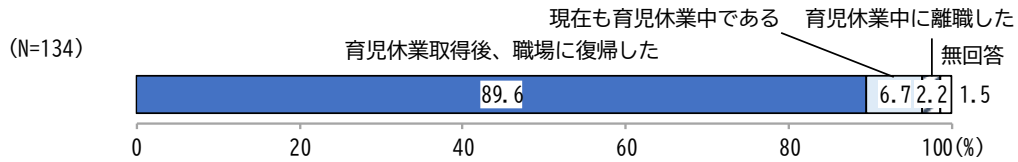
問40／問33で「育児休業を取得した」を選んだ方のみ

【就学前：問40-2-(1)、問40-2-(2)／小学生：問33-2-(1)、問33-2-(2)】

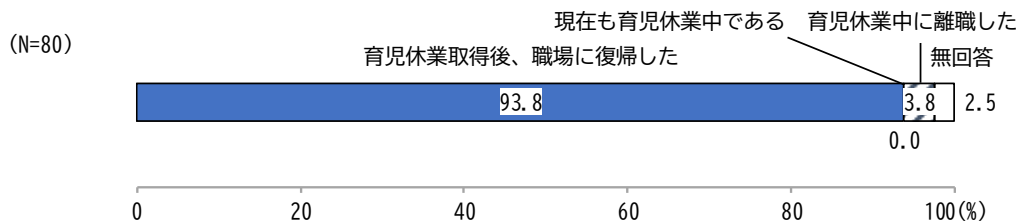
育児休業取得後、職場に復帰しましたか。当てはまる番号1つに○をつけてください。

【父親】

就学前

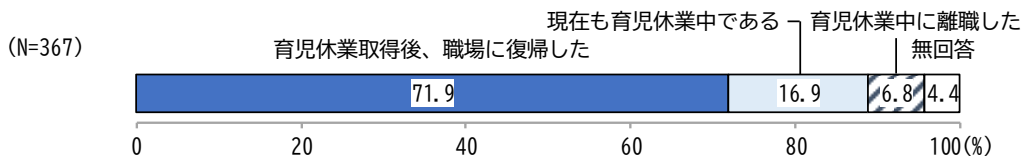


小学生

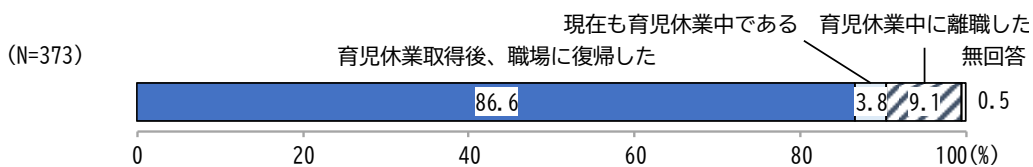


【母親】

就学前



小学生



育児休業を「取得した」とお答えの方に、職場復帰の有無についてたずねたところ、父親については、「育児休業取得後、職場に復帰した」が就学前では89.6%、小学生では93.8%と最も多くなっています。母親についても、「育児休業取得後、職場に復帰した」が就学前では71.9%、小学生では86.6%と最も多くなっています。

Ⅱ-1. 就学前児童調査・小学生児童調査

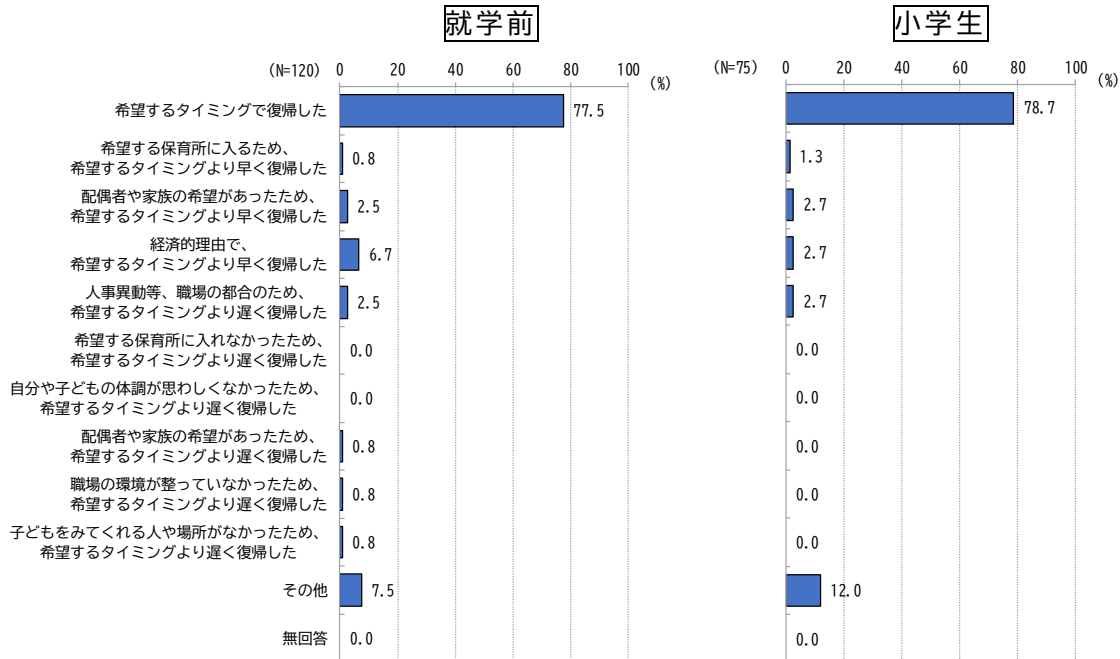
〔４〕育児休業取得後に希望のタイミングで職場に復帰できたか

問40-2／問33-2で「育児休業取得後、職場に復帰した」を選んだ方のみ

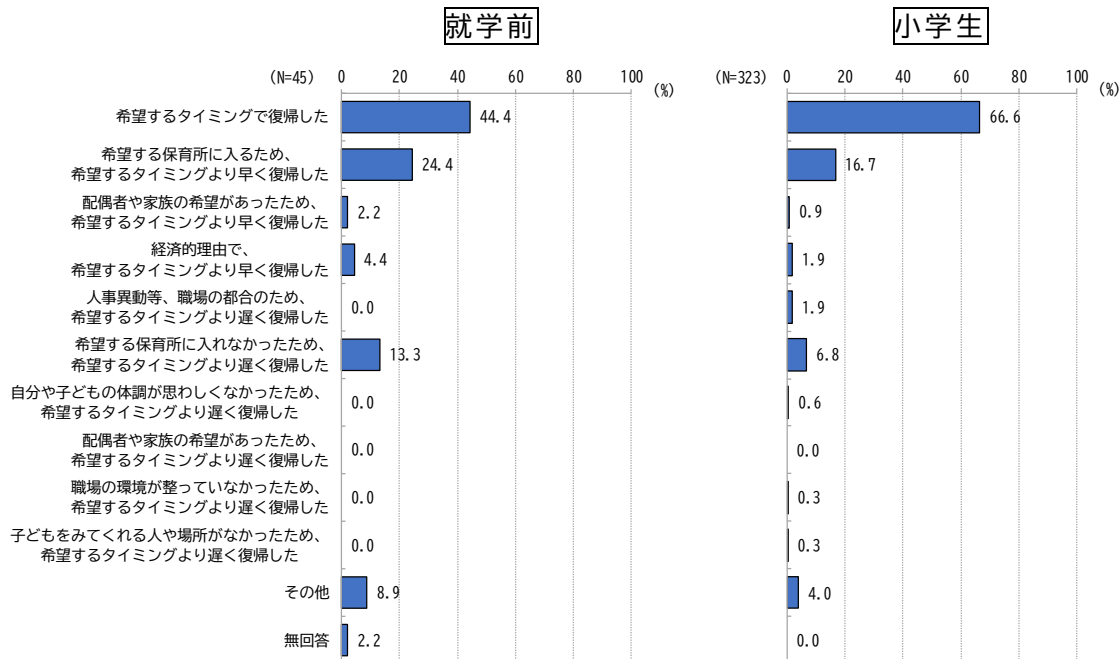
【就学前：問40-3／小学生：問33-3】

希望するタイミングで育児休業から職場に復帰することができましたか。父親、母親それぞれに、当てはまる番号１つに○をつけてください。

【父親】



【母親】



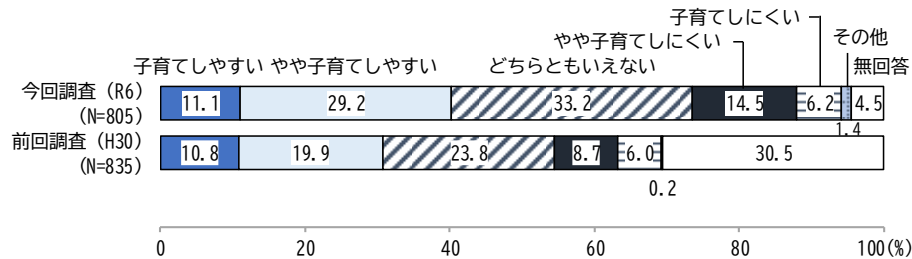
「育児休業取得後、職場に復帰した」とお答えの方に、育児休業から職場に復帰したタイミングをたずねたところ、父親については、「希望するタイミングで復帰した」が就学前では 77.5%、小学生では 78.7%と多くなっています。母親についても、「希望するタイミングで復帰した」が就学前では 44.4%、小学生では 66.6%と多くなっています。

〔5〕彦根市は子育てしやすいところだと思いますか

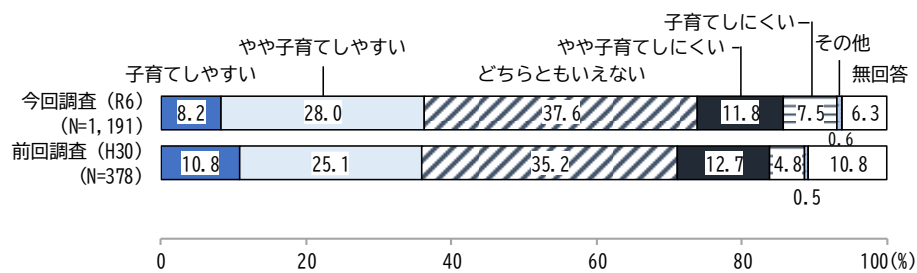
【 就学前：問41／小学生：問34】

総合的にみて、彦根市は子育てしやすいところだと思いますか。当てはまる番号一つに○をつけてください。

就学前



小学生



彦根市は子育てしやすいところだと思うかについては、「子育てしやすい」と「やや子育てしやすい」を合わせた『子育てしやすい』が就学前では 40.3%、小学生では 36.2%となっています。

〔6〕自由意見

【 就学前：問42／小学生：問35 】

最後に、教育・保育環境の充実など子育ての環境や支援に関してご意見がございましたら、ご自由にご記入ください。

遊び場、公園等の充実

〔就学前〕66件

- ・もう少し、無料で遊べる施設を増やして欲しい。まんまるひろばを利用したときに、人数が多すぎて安心して遊べないと感じました。彦根はキッズコーナーも少ないと感じます。年齢に応じた遊び場が増えると嬉しいです。
- ・未就学児、赤ちゃんが利用できる公園が少なく市外へ出ることが多いです。金亀公園の駐車場が遠すぎて小さい子供やベビーカーで行くのが辛いです。不便になり利用している人も少なくなりました。使いにくい公園ばかりで改善してほしいです。

〔小学生〕41件

- ・児童館のような、放課後に自由に遊べる場が増えて欲しい。
- ・中学、高校生が過ごせる公園などが少ない。公園は小さな子用ばかりである。バスケットコートや、広場などがほしい。

経済的支援について

〔就学前〕44件

- ・経済的な支援がさらに充実すればとてもありがたい。
- ・経済的な負担が大きく感じるので、継続的な給付金など、改善策の検討をお願いします。

〔小学生〕39件

- ・給食費、学級費、備品代、校外学習費用など、義務教育に係る費用は、積み重なると負担なので、少しでも公的に補助していただきたい。
- ・児童手当を手厚くしてほしい。

子育て支援の充実

〔就学前〕28件

- ・支援センターの内容がもっと充実してくれたらいい。土日祝に行ける支援センターが少ないのもう少し開けてもらえると嬉しい。
- ・もっと子どもを連れていける支援センターが欲しい。今あるところはどこも古かったり、狭くて人が多く集まるので遊ばせられない。

〔小学生〕38件

- ・近隣他市町とくらべ、子どもおよびその親、環境に対する投資が少ないと感じる。
- ・子育て支援にもっと予算を割いてほしい。

保育園・幼稚園・こども園の増設、増員

〔就学前〕42件

- ・認定こども園の数をもっと増やしてほしいと思いました。1人目が年少時に2人目の育児休業中だったため、保育所に入れず幼稚園に入りましたが、1年で仕事に復帰したので別の保育園へ転園し幼稚園の友達と離れることになりました。こども園に入っていれば、同じ施設で利用時間を増やせたのかな…と考えます。今はこども園が人気でなかなか入園できません。
- ・保育園の先生を増やして、先生の心にゆとりのある状態で子供と接してほしいです。

〔小学生〕9件

- ・保育園では、乳幼児はまだ幼く、思ったことも言えない状況にあると思います。幼い心の成長を支援するべく、人数が多い保育園の保育士の増員整備をお願いします。

保育園利用条件について	
〔就学前〕43件	・ 幼児が2人以上いる場合、保育園の利用について、下の子供が原則1歳で上の子は退園は厳しいのではないかと、出来れば下の子3歳になるまでは預かってほしい。3～4歳が一番手がかかり母親の負担が大きいと思う。 ・ 保育園に入れる基準を見直してほしい。なかなか入れない。
〔小学生〕7件	・ 働いていなくても保育園が利用出来ると良い。もしくは夏休みなどの長期休みの時に預けられる施設があると良い。
幼稚園・保育園・学校での給食について	
〔就学前〕14件	・ 完全に無添加の給食を希望します。 ・ 幼稚園でも給食が出る様にしてほしい(家では好きなものになりがちで、他のものを出してもなかなか食べないが、一時保育では集団の力もあり、食べてくれるため)。
〔小学生〕32件	・ 義務教育の間の給食費を無償化にしてほしいです。 ・ 小学校の新学期の給食スタートが、来年度より遅くなると聞きました。仕事をしているので、今まで通り新学期がはじまってすぐに給食スタートしてほしいです。
学校や園の環境改善	
〔就学前〕9件	・ クラスの人数を減らして欲しい。できれば20人くらいが望ましい。
〔小学生〕36件	・ 学校の老朽化が気になります。温暖化が顕著なので、体育館も空調があればいいと思います。 ・ 小学校が古くて、特にトイレが旧式すぎるため、キレイにしてほしい。特に女の子が不便です。
教育・学習環境の充実	
〔就学前〕5件	・ 気軽に利用できる明るい図書館が早く欲しいです。教育・保育環境に留まらず、生涯学習環境の充実を希望します。
〔小学生〕37件	・ 子供達の将来の進路が決めやすいように、色々な分野の授業、勉強方法を取り入れてほしい。これから社会に出る為に興味のわきそうなことを増やし、選択肢を与えてほしい。経済、美容、医療、なんでも良いので。大学で専攻しても遅い。 ・ 自然が豊かで遊びのびと子育てができる環境は魅力的です。ただ、好奇心や向上心が強い子が学べる学校が見当たらないため、県外に引っ越すしかないという結論に至っています。歴史的、文化的にも非常に魅力的な町だと思うのでこの点が非常に残念です。
図書館の充実	
〔就学前〕15件	・ プロシードアリーナの児童書を借りられるようにしてほしいです。引越す前は毎週10冊位図書館で借りていました。借りにいく図書館が少し遠いので、まだ行っていません。新しい図書館ができるまで、1人2冊位でもいいので、貸して頂けるととてもうれしいです。 ・ 図書館をきれいにしてほしいです。
〔小学生〕25件	・ 図書館が他の市に比べて、古くて蔵書が少ないので、予算をあげてほしいです。 ・ 図書館に自習できるスペースがないので、設けて欲しいです。

Ⅱ-1. 就学前児童調査・小学生児童調査

放課後児童クラブの充実	
〔就学前〕 17 件	・ 学童を増やして欲しい、高学年まで入れるようにしてほしい。 ・ 学童の駐車場がほとんど車が停められなくて、駐車場トラブルになりそうでいつも怖いです。駐車場から学童までの距離も遠くて駐車場待ちが長いのも問題。
〔小学生〕 21 件	・ 長期休暇中の学童保育における給食やお弁当の提供をしていただければ、本当に助かります（有料で、希望するしないの選択制でも良いので）。 ・ 放課後児童クラブの閉所時間を延長してほしい。せめて 19 時とか。迎えに間に合わない。長期休みの時の開所時間を 7:30 など早めてほしい。仕事に間に合わないので困っている。
医療費の無償化等について	
〔就学前〕 13 件	・ 児童手当の拡充。まるふくの拡充。 ・ 子どもの医療費免除を 18 歳までに拡大してもらいたいです。他の地域がうらやましいです。
〔小学生〕 24 件	・ 給食費、高校卒業までの医療費を無料にしていきたいです。 ・ 子供の医療費無償が拡大されて良かった。
道路・交通について	
〔就学前〕 15 件	・ 細い道が多く、子供が歩くすぐそばを車が通ったりすることがあるので、怖いと思う。道の整備がもっと進んだら、もっと安心して子育てできると思う。 ・ 子供と一緒に散歩する道がない。一本入ると歩道がない道が多く、車が近くを通り危ない。道幅を広くしてほしい。
〔小学生〕 19 件	・ 歩道がベビーカーや車椅子での移動に適した作りではないので、不便。 ・ 通学路にガードレールを設置して欲しい。
保育士・教員等の質、園・学校の対応	
〔就学前〕 11 件	・ 就労しながらの子育てでは、子どもが保育園ですごす時間が大変長く、保育の質が乳幼児期の人格形成や人生に及ぼす影響が大きいと思います。現在通園している保育園には、満足していますが、忙しくなると保育士さんにも余裕がなくなることが考えられます。そのため、保育士さんがゆとりを持って子どもと関われるように、国の基準以上に人員を配置していただきたいと思います。子どもが大切にされ、安心してすごすことができることが、大変重要だと思います。どうぞよろしくお願いいたします。 ・ 保育園等と民間の習い事との連携を密にしてほしい。
〔小学生〕 22 件	・ タブレットを学校で使っているが、特に低学年は発達途中なので、目など悪くなるのでやめてほしい。学校以外でもスマホやテレビなどの画面を見ない日はないくらい溢れているのに、学校でも使うともっと目や精神面でよくないと思います。鉛筆を使って紙に字を書く感覚を大切にしてほしい。 ・ タブレット学習、ドリルでの学力向上は難しいと思います。感染症予防もかねて、授業中も水筒をデスクに置き、好きなタイミングで水分補給を先生も含め、可能にすればよいのでは（お茶などこぼれては困る授業を除く）。
保育料について	
〔就学前〕 25 件	・ 保育料が高く、家庭の負担になっている。 ・ 私のようにパート程度で働きたいと思う者には、0～2 歳の保育料が高すぎる。
〔小学生〕 8 件	・ 3 人目以降は保育料の負担を無くすなどしてほしい。3 人も産んでいるのに同じ期間に通園している兄弟がいない場合、1 子として保育料の全額負担をするのは厳しすぎる。

医療機関の充実
〔就学前〕16件 ・ 入りたい保育園に希望者全員が入れるようになると良いです。また子供が熱を出した時に、受診できないこともあります。曜日によっては診療自体がやっていないことも多く、困るので、だれでも、いつでも受診できる医療施設の充実を願います。 ・ 小児科の数を増やしてほしい。クリニックは3つほどあるみたいですが、いつもどこもいっぱい、なかなか予約が取れない。くすの木センターや発達支援センターの方々はすごく丁寧に対応して下さり、本当にありがたく思っています。彦根の方はあたたかい方が多いので、このままここで子育てしていきたいと思っています。これからよろしくをお願いします。
〔小学生〕14件 ・ 小児科が少ない、もっと増やしてほしい。 ・ 医療機関をもっと誘致して欲しい。小児科はもちろん内科や皮膚科、耳鼻科など、いつもどこも混んでいて診察に行くのがおっくうになる。
情報提供について
〔就学前〕15件 ・ 子育てに関する情報誌をたくさん発行してほしい。すくすくアプリ、利用しています！ ・ 彦根に引っ越して来たら、子どものための施設やイベントなどの情報を知らないままですごくしているの、彦根内での子どものためになる情報を知れる場所や、パンフレット(情報紙)などがあれば助かると思いました。
〔小学生〕13件 ・ 他県から来た人にわかりづらいことが多いので、わかりやすい環境にしてほしい。 ・ ファミリーサポート等、共働き世帯に必要な情報を SNS 等で知らせていただけると助かります。
働き方・職場の意識改革等について
〔就学前〕13件 ・ 職場も口では子育てに対して良い事を言っているが中身は全然ちがって働きにくく、子育てしながら働くのがおずかしく理解が得られなかったの、復帰後すぐ退職しました。具体的な子育てへの案などなかったです。男の人の考え方(昔の人)がかわらないと無理そう。 ・ 小学生の間は、短時間勤務制度ができるようにしてほしい。高学年になっても、1人で帰宅できるのか心配です。両親の帰宅が18時頃になると親子の会話する時間もないし、色々と不安です。6年生までは短時間勤務ができるように変えて下さい。
〔小学生〕10件 ・ 母親の育児休業復帰後、時短勤務を選びやすい会社が少ないように思うので、もっと推奨してほしい。 ・ 公園が少ない。学費がかかりすぎる。中小企業での採用場面で、小さな子どもがいると不利。かといって預る施設も少なく、高い。
病児・病後児保育について
〔就学前〕18件 ・ 病児保育の充実…時間が短く、遅刻、早退を結局しなければいけないためフルタイムで働いていると現在の条件は合わない。長引くことが多いため、回復期は積極的に利用しやすい条件だとありがたいです。 ・ 子供が風邪をひいていても預けられる施設があればいいなと思います。
〔小学生〕4件 ・ 病児保育に関してもう少し、入れる人数を増やして欲しいです。

Ⅱ-1. 就学前児童調査・小学生児童調査

保育士や教員等の待遇改善	
〔就学前〕 5 件	・ どんぐり保育園はとても良い保育園です。先生方には毎日感謝しかありません。保育士さんのお給料をもっと上げてあげてほしい。お金が心のゆとりをもたらしてくれるから、そうすることでもっと良い保育園がたくさんできると思う。
〔小学生〕 15 件	・ 小学校の先生も色々大変だと思うので教育者へのケアなども充実させて、子供にとって良い先生が増えたら良いなと思います。 ・ こどもに関わるお仕事をする先生や職員の方々の負担が大きくてとても大変だと思う。それによってこどもやその保護者たちへのフォローが行き届かないということに繋がると思うので、まずは働く方々の人数を増やしたり待遇を改善して、余裕のある人員で余裕のある支援ができるようになるのが理想だと思います。
相談できる場所について	
〔就学前〕 12 件	・ 乳幼児個別相談に月に 1 回通いました。初めての育児ですごく支えられて助けられました。しっかり話を聞き、助言して下さってありがとうございました。また、カルテのようなものに記録して下さり、次に行った時に話を分かって下さるのが嬉しかったです。 ・ 相談が平日のみなので働く親としては相談しにくいと感じることがあります。月に 1 回でも休日に対応してもらえる等を検討してもらいたいです。
〔小学生〕 8 件	・ 分かりにくい。行政の業務が分散され過ぎてて繋がらない。相談する場がよくわからない。
核家族・ひとり親家庭などへのサポート	
〔就学前〕 13 件	・ ある程度、収入があっても、正直、生活が苦しい為、ひとり親制度の見直しをしてほしい。手当てをもらう収入はまず生活できず、ありえない空想的な額であり、収入をごまかさないと当たらないからその辺を孝えてほしい!母子も大事ですけど、父子も孝えてほしい。 ・ 受給者証持ちの方に、6歳で切れるのにそれに対してのサポートがゼロに近い。更新できたら親からしたら少し楽になります。
〔小学生〕 5 件	・ ひとり親に対する臨時給付金は年収等で対象が限定されてしまう。子どもとの生活のために働いているのだから、ひとり親対象の支援に年収縛りや制限をかけないでほしい。どのひとり親も平等に支援してほしい。
保育時間（延長、休日）について	
〔就学前〕 15 件	・ 土日に保育園を利用することができたらとても助かります。毎週でなくてよく、午前中だけでもすごく楽になります。土日もずっと気を張っている必要があり、気力体力的にしんどいと感じているので、数時間気を休められるだけでまた頑張れます。 ・ 夫婦のどちらか一人が土日祝に仕事の場合でも、土曜保育を利用できるようにしてもらいたい。待期児童が多い。
〔小学生〕 3 件	・ 年度末や長期休暇中の希望保育や延長保育が少ない。保育料の負担が大きい。家庭保育に協力させるのであればその分の給食費の返還や負担額の減額をしてほしい。
イベント・講座等の開催希望	
〔就学前〕 9 件	・ 月 1 回あった子育て教室が今年度からなくなりさみしい。地域で同世代のママさんと仲よくなる場が少なくなった。稲枝でやっている、いのばた会ギも月 2 回で少ない。そういう行きやすい、しゃべりやすい場を増やしてほしい。特に子どもが 1 才未満の時は、保育園もいかないため、交流する所がない。お願いします。
〔小学生〕 7 件	・ 広報で親子参加のイベントを見ますが、土曜日が多いです。土曜日に仕事している者は参加できないので、検討して頂きたい。

アンケートへの意見	
〔就学前〕 8 件	・ 大変忙しい時期なので、落ち着いて回答できないので時期を考えていただければ有り難いです。
〔小学生〕 7 件	・ アンケートが長すぎる。長すぎるため、後半は適当に答える人が多いのではと感じる。そうすると、アンケートの信憑性がなくなると思う。改善を期待します。
市職員の対応について	
〔就学前〕 8 件	・ 家族がコロナ疑いの時、検査できる所がなかなか見付からず大変苦勞しました。子供の為にも早く解決したかったので、市役所に TEL しましたが、自力で病院を探して下さいと言われたのみでした。もう少し何かアドバイスなどあれば良かったのですが、残念でした。
〔小学生〕 5 件	・ 行政に相談しても俗に言うお役所対応され、所詮は他人事というのが透けて見える担当さんがおられる。担当さんの負担軽減のため平準化された対応というのは理解できるが、これでは相談する気も無くなる。もう少し何とかならないのか？と思います。
行事・PTA 等の負担について	
〔就学前〕 3 件	・ 幼稚園の PTA 活動や親が出向くのを少なくすむように見直してほしい。
〔小学生〕 10 件	・ PTA の活動を市内全般減らして欲しい。 ・ PTA、自治会など、自分の子育て以外の負担が大きい。自分の通っている学校への奉仕活動などは積極的に参加したいと思うが、研修会や講座など極力辞めて欲しい。フルタイムの家庭が多く時代に合っていない。
教育費について	
〔就学前〕 2 件	・ 子どもたちが安心して学業に専念できるように世帯収入関係なく高校授業料無償化が実現するように願います。
〔小学生〕 10 件	・ 大学無償化の話が出ているように彦根も進めてほしい。彦根は何事も遅いので他の地域と比べて生活も厳しいと思う。毎日の議員のニュースでうんざりしています。せめて小学校の給食費を無償化にしてほしい。 ・ 給食費、学校教材、制服等の補助か、費用免除。税金関係、住民税、固定資産税等の助成金。
療育・発達支援について	
〔就学前〕 6 件	・ 発達障害児に対するサポートにももう少し積極的に取り組んでいただけたら助かります。子どもの親とはいえ、専門家ではないので、どのようにサポート、どのタイミングでサポートをうけるのがよいとか本当に正しくサポートしてあげられているのか不安です。親の希望が本当に子どものためになっているのか、第三者の目を見て分析してもらえたら少しは不安もへるのかと思います。
〔小学生〕 6 件	・ 小学校の支援学級のあり方について見直してほしいです。障がいのある子どもが、2つのクラスを行き来しそれぞれの場所で教室で居場所を確保するのは難しいです。

Ⅱ-1. 就学前児童調査・小学生児童調査

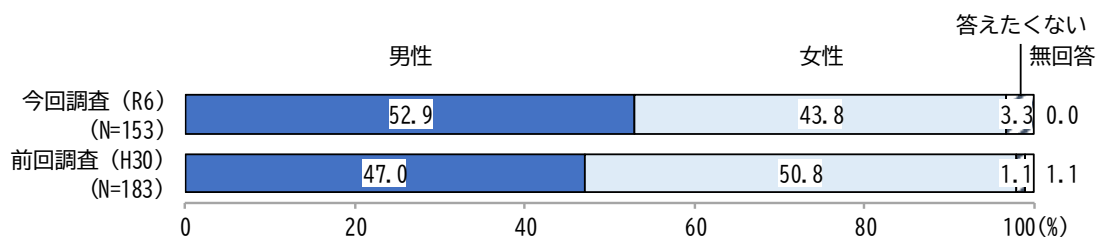
一時預かりについて
〔就学前〕10件 ・ 病院、レストランで、子供を少しの間でもみてくれる人がいればと思う。 ・ ハローワークで相談する為に子供の預かり場所などの紹介してほしい。
〔小学生〕1件 ・ 一時預かりの保育所がとにかく少ないと思う。働きたい専業主婦に優しくない。働きたくても子供の預け先が無く、保育園の二次募集にしか応募できない。二次募集で空いてる保育園は凄く遠くて結局通えない。保育園と幼稚園募集が同時期でどちらかしか応募できない。働きに出たい気持ちは凄くあるのに、彦根市から働くな家で子供をみてもと強く言われている。子供が多くなればなるほどお金がいるのに、彦根市から社会に出して貰えない、という気がしてる。7歳5歳3歳の子育て中です。
その他
〔就学前〕31件 ・ 1クラスの小学校が増えてきているので、少ない小学校同士を合併させるのはむずかしいのでしょうか?1クラスの小学校は少し不安です(友だち関係など)。 ・ 子育て世代みんなが往みたくなる地域になるよう期待しています。
〔小学生〕32件 ・ 不登校特例校(学びの多様化学校)を設立して欲しい。 ・ 城西学区の周りは観光客が多く、地元民以外の人との出入りが多くあります。その為治安の面で少し不安があります。不審者情報も毎月のようにあります。下校の時間帯にパトロールの強化など、安全対策をして下さると助かります。

Ⅱ-2. 若者の意識調査（18 歳～39 歳の市民用調査）

1 回答者について

〔1〕性別

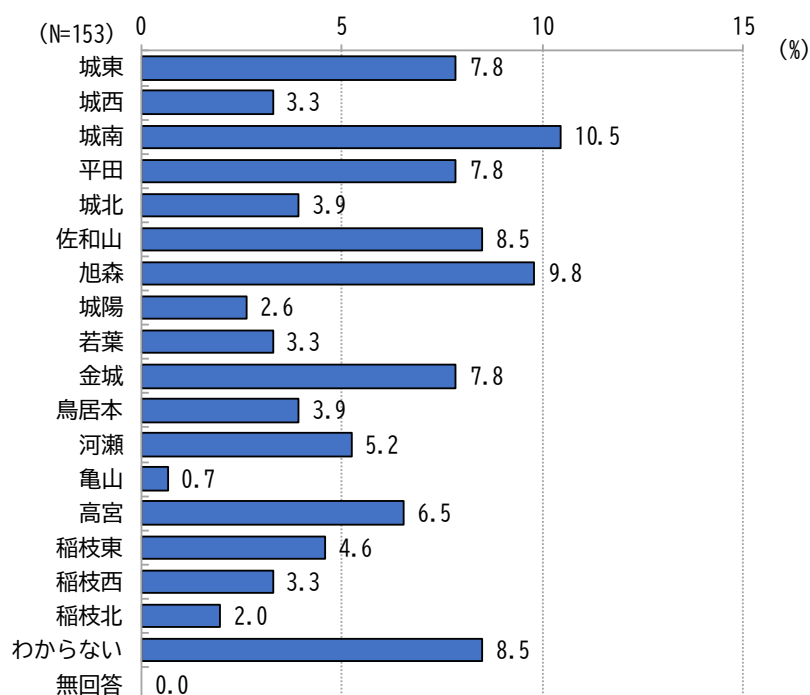
問1 性別はどちらですか。



回答者の性別は、「男性」が 52.9%、「女性」が 43.8%となっています。

〔2〕小学校区

問2 お住まいの小学校区はどちらですか。（○は1つ）

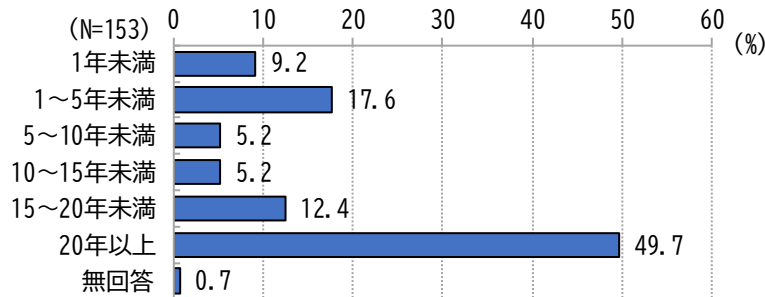


居住している小学校区は、「城南」が 10.5%と最も多く、次いで、「旭森」が 9.8%となっています。

Ⅱ-2. 若者の意識調査

〔3〕 居住年数

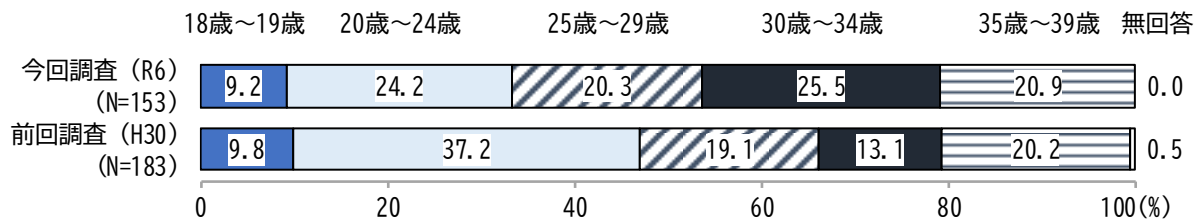
問 2-1 あなたの彦根市での居住年数（令和6年3月1日現在）をお答えください。



彦根市での居住年数は、「20年以上」が49.7%と最も多く、次いで、「1～5年未満」が17.6%となっています。

〔4〕 年齢

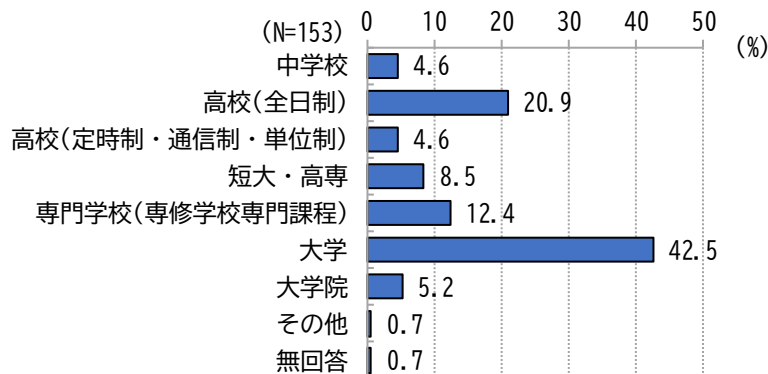
問 3 年齢についてうかがいます。（○は1つ）



年齢は、「30歳～34歳」が25.5%と最も多く、次いで、「20歳～24歳」が24.2%となっています。

〔5〕 学歴

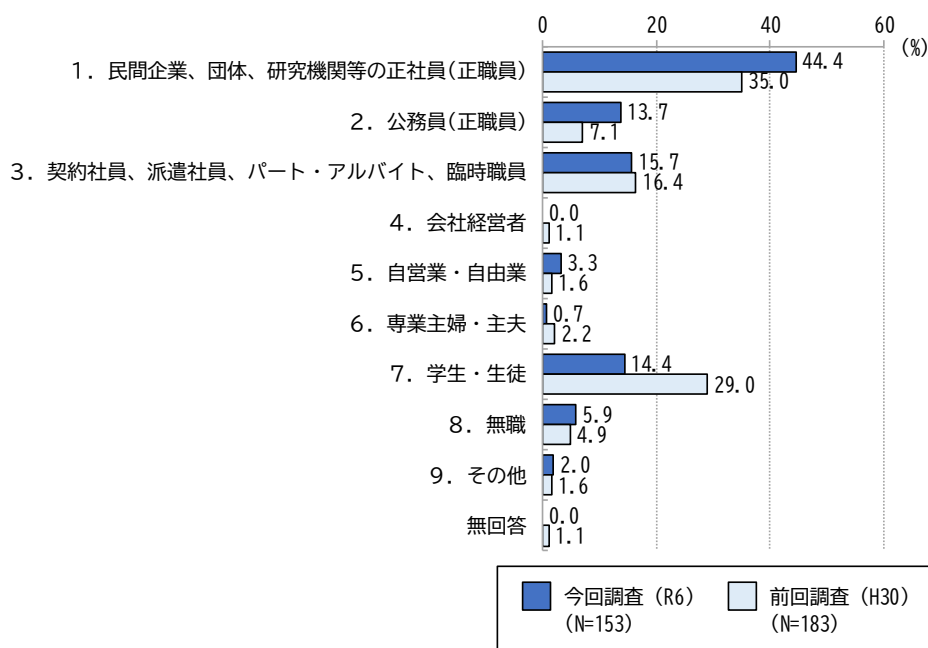
問 4 学歴（最終または現在の状況）についてうかがいます。（○は1つ）



学歴は、「大学」が42.5%と最も多く、次いで、「高校（全日制）」が20.9%となっています。

〔6〕 職業

問5 職業についてうかがいます。(○は1つ)



【性・年齢別】

		N	民間企業、団体、研究機関等の正社員(正職員)	公務員(正職員)	契約社員、パート・アルバイト、派遣社員、臨時職員	会社経営者	自営業・自由業	専業主婦・主夫	学生・生徒	無職	その他	無回答
性・年齢別	全体	153	44.4	13.7	15.7	0.0	3.3	0.7	14.4	5.9	2.0	0.0
	男性	81	54.3	12.3	9.9	0.0	4.9	0.0	9.9	6.2	2.5	0.0
	男18歳～24歳	22	36.4	9.1	13.6	0.0	0.0	0.0	36.4	4.5	0.0	0.0
	男25歳～29歳	16	68.8	18.8	6.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.3	0.0
	男30歳～34歳	24	50.0	12.5	8.3	0.0	8.3	0.0	0.0	16.7	4.2	0.0
	男35歳～39歳	19	68.4	10.5	10.5	0.0	10.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	女性	67	31.3	16.4	22.4	0.0	1.5	1.5	19.4	6.0	1.5	0.0
	女18歳～24歳	26	26.9	15.4	7.7	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0
	女25歳～29歳	15	46.7	26.7	13.3	0.0	0.0	0.0	0.0	6.7	6.7	0.0
	女30歳～34歳	14	21.4	14.3	35.7	0.0	7.1	0.0	0.0	21.4	0.0	0.0
	女35歳～39歳	12	33.3	8.3	50.0	0.0	0.0	8.3	0.0	0.0	0.0	0.0

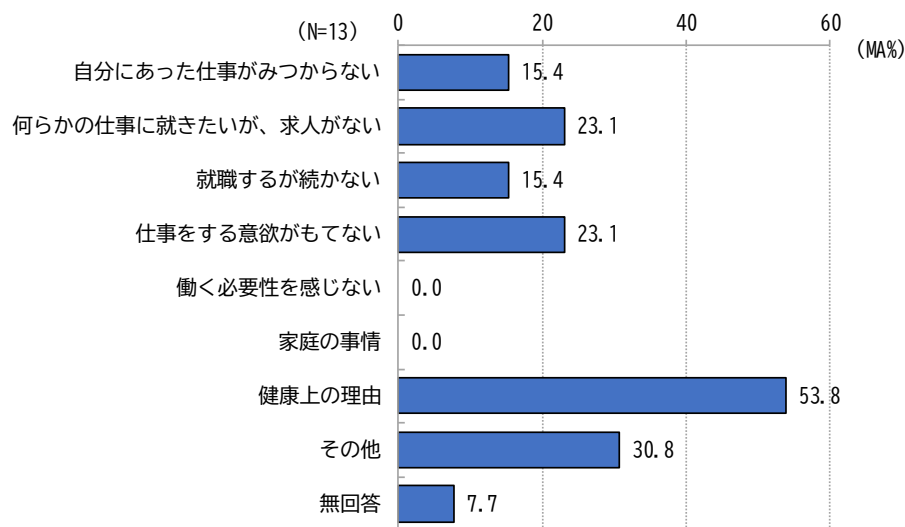
職業は、「民間企業、団体、研究機関等の正社員（正職員）」が44.4%と最も多く、次いで、「契約社員、派遣社員、パート・アルバイト、臨時職員」が15.7%となっています。

Ⅱ-2. 若者の意識調査

〔7〕就職していない理由

問5で「6」「8」「9」（働いていない）を選んだ方のみ

問5-1 あなたが就職していない理由を教えてください。（○はいくつでも）

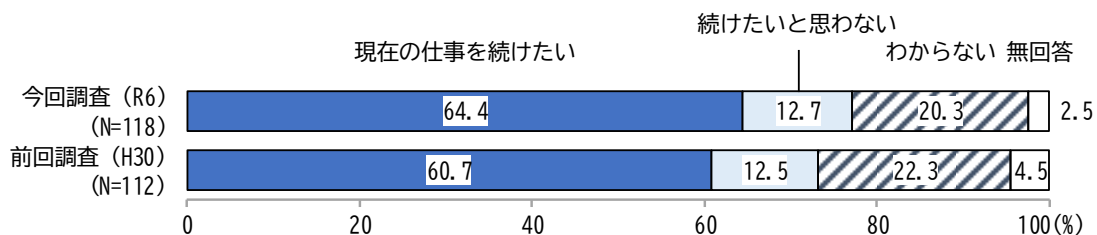


働いていない方に、その理由についてたずねたところ、「健康上の理由」が 53.8% と最も多く、次いで、「何らかの仕事に就きたいが、求人がない」、「仕事をする意欲がもてない」がそれぞれ 23.1% となっています。

〔8〕現在の仕事を続けたいか

問5で「1」～「5」（働いている）を選んだ方のみ

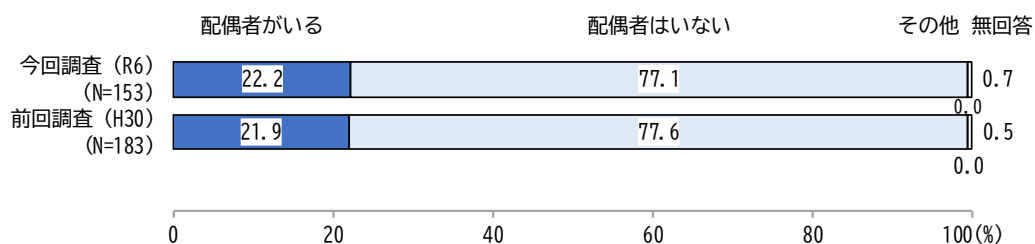
問5-2 あなたは現在の仕事を続けたいと思いますか。（○は1つ）



働いている方に、現在の仕事を続けたいと思うかについてたずねたところ、「現在の仕事を続けたい」が 64.4%、「続けたいと思わない」が 12.7% となっています。

〔9〕配偶者の有無

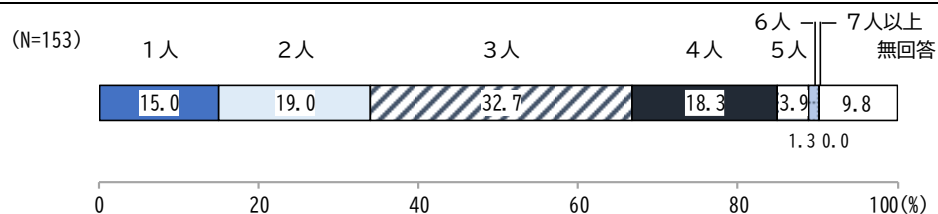
問6 あなたは配偶者がおられますか。



配偶者の有無は、「配偶者がいる」が22.2%、「配偶者がいない」が77.1%となっています。

〔10〕同居している家族の人数

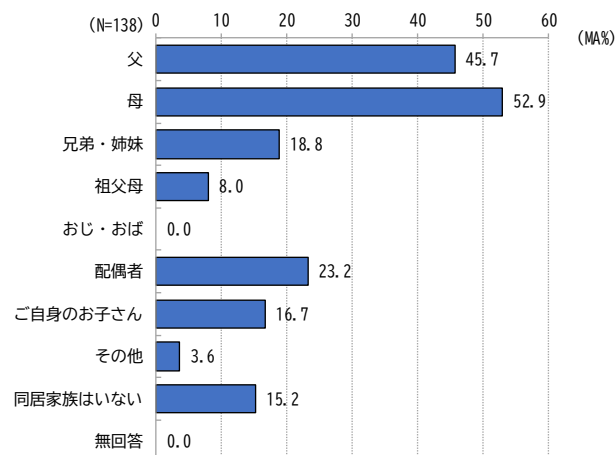
問7 同居している家族はあなたを含めて何人ですか。() 内に人数をご記入ください。



同居している家族の人数については、「3人」が32.7%と最も多く、次いで、「2人」が19.0%となっています。

〔11〕同居している家族

問7-1 同居している家族は誰ですか。(○はいくつでも)

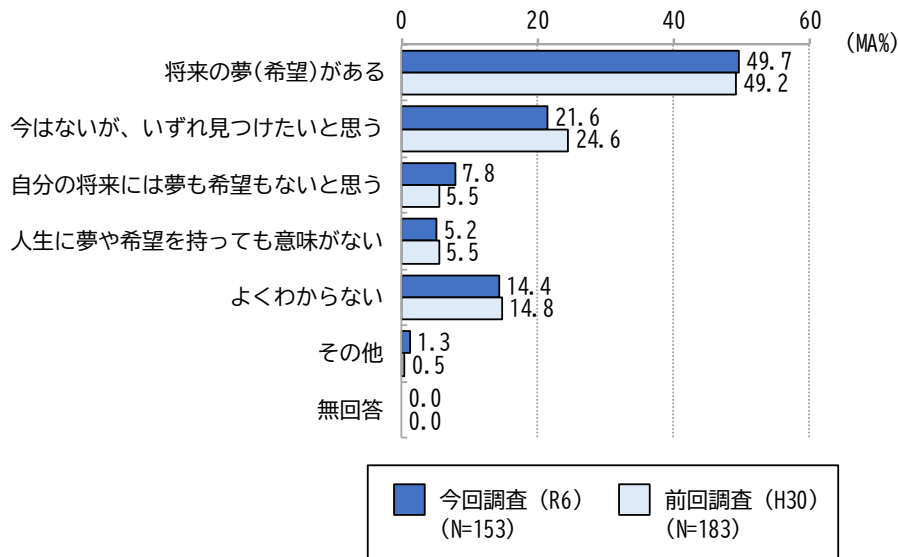


同居している家族については、「母」が52.9%と最も多く、次いで、「父」が45.7%となっています。

2 将来について

〔1〕 将来の夢や希望

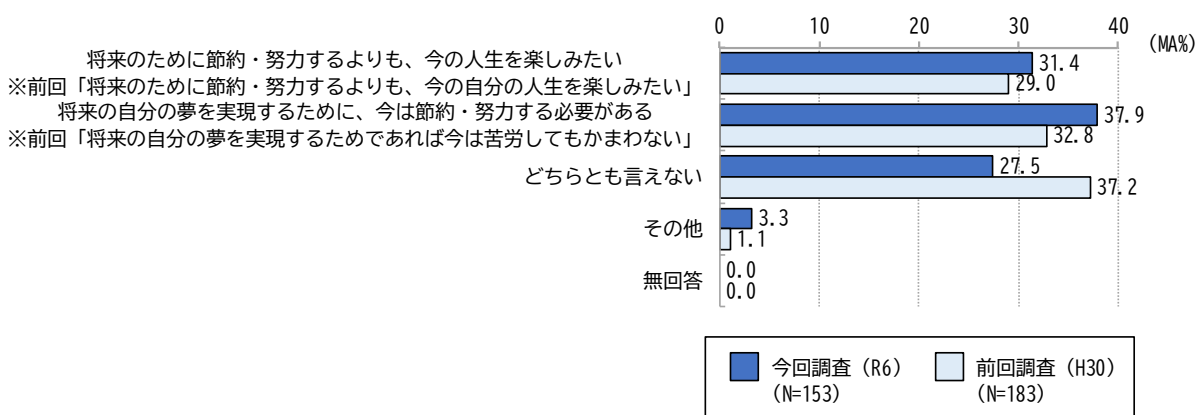
問 8 将来の夢や希望がありますか。(○は1つ)



将来の夢や希望については、「将来の夢（希望）がある」が 49.7%と最も多く、次いで、「今はないが、いずれ見つけたいと思う」が 21.6%となっています。

〔2〕 現在と将来についての考え

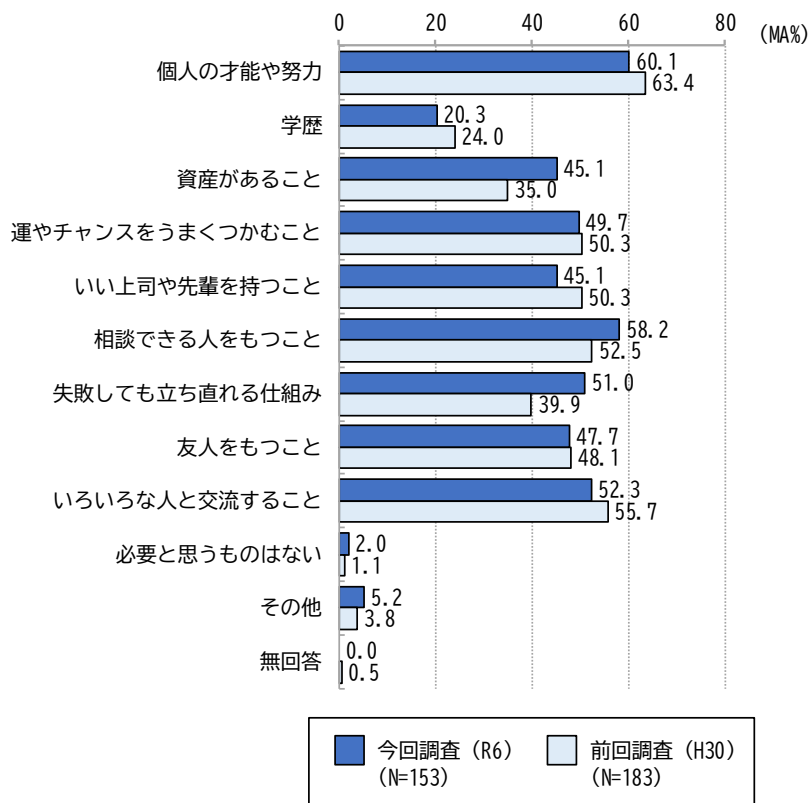
問 9 現在と将来の考えについてどのようにお考えですか。(○は1つ)



現在と将来の考えについては、「将来の自分の夢を実現するために、今は節約・努力する必要がある」が 37.9%と最も多く、次いで、「将来のために節約・努力するよりも、今の自分の人生を楽しみたい」が 31.4%となっています。

〔3〕社会で生きていくために必要なこと

問10 社会で生きていくために必要だと思うことは何ですか。(〇はいくつでも)

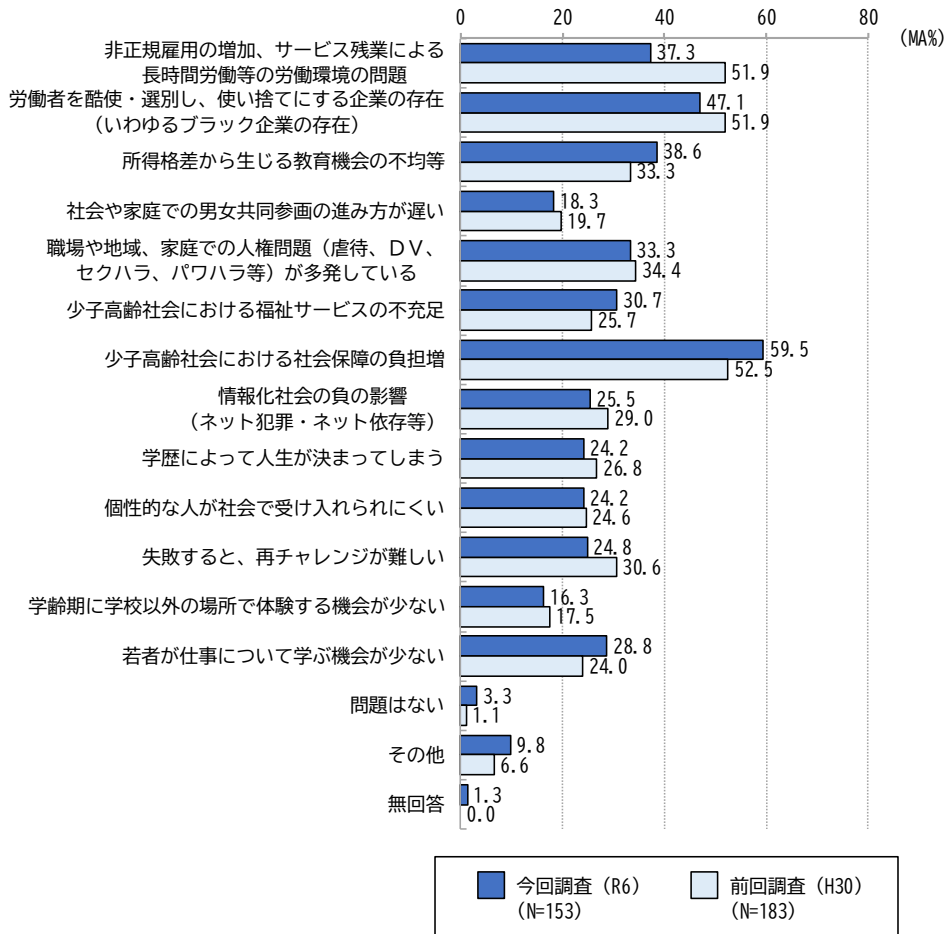


社会で生きていくために必要だと思うことは、「個人の才能や努力」が60.1%と最も多く、次いで、「相談できる人をもつこと」が58.2%となっています。

Ⅱ-2. 若者の意識調査

〔４〕日本の社会における問題点

問Ⅰ あなたが考える日本の社会における問題点は何ですか。(○はいくつでも)

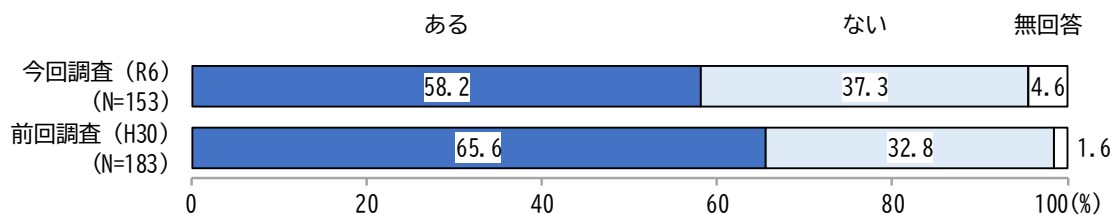


日本の社会における問題点については、「少子高齢社会における社会保障の負担増」が59.5%と最も多くなっています。

3 ご自身の状況について

〔１〕困りごとについて

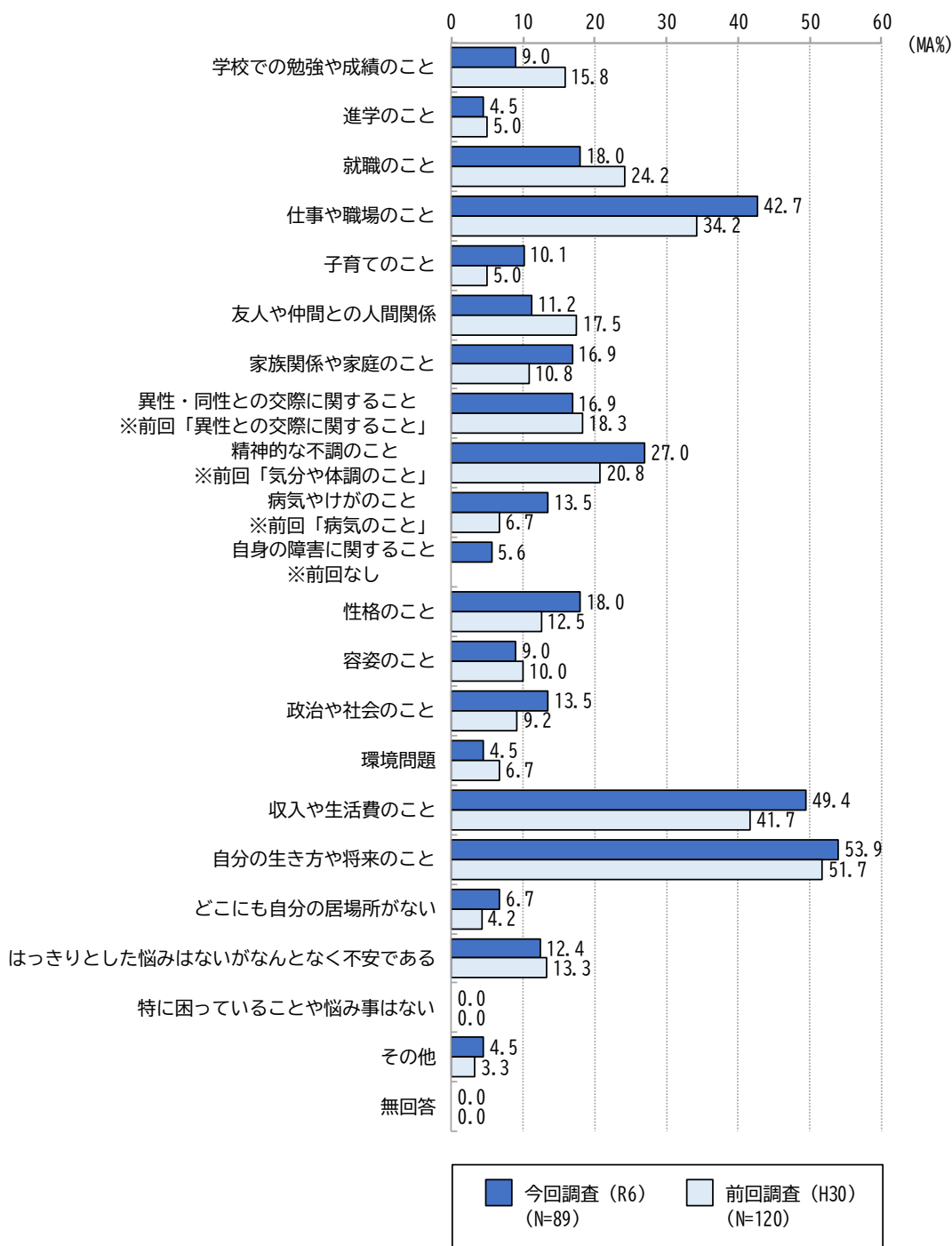
問Ⅱ 現在悩みや心配ごと、困っていることはありますか。(○は１つ)



悩みや心配ごと、困っていることについては、「ある」が58.2%、「ない」が37.3%となっています。

〔2〕 困りごとの内容

問12で「ある」を選んだ方のみ

問12-1 現在悩みや心配ごと、困っていることはどのような内容ですか。(〇は
いくつでも)

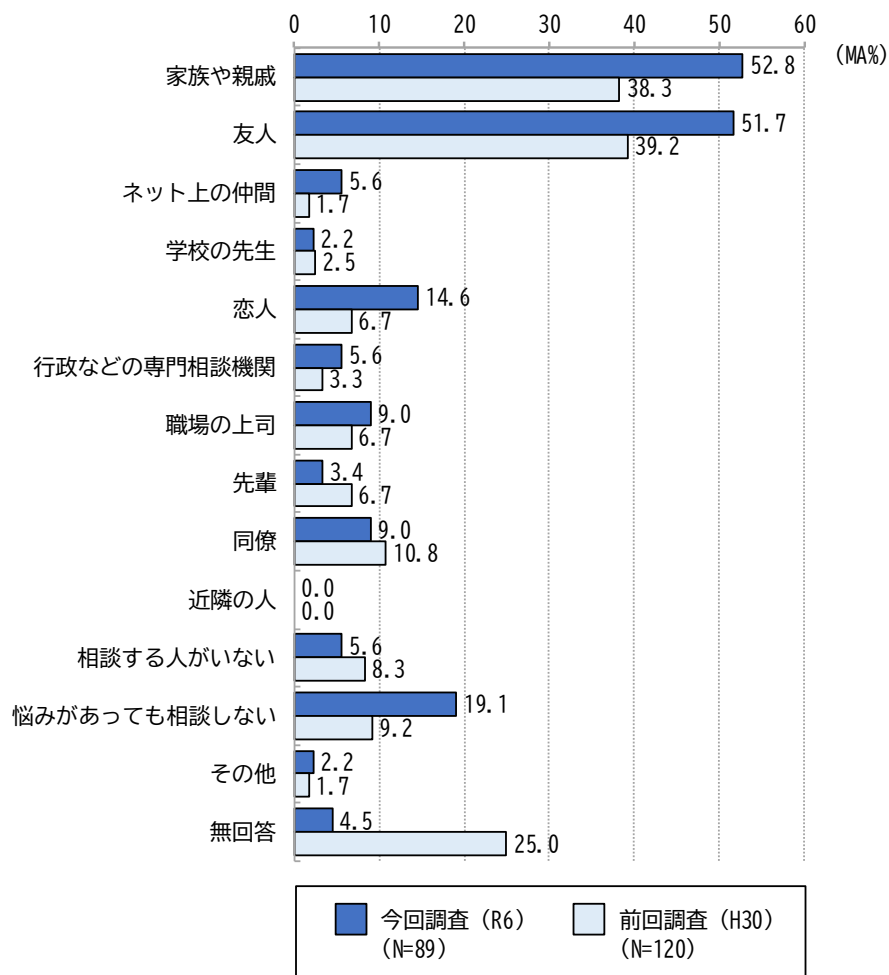
悩みや心配ごと、困っていることが「ある」とお答えの方に、困っている内容についてたずねたところ、「自分の生き方や将来のこと」が53.9%と最も多く、次いで、「収入や生活費のこと」が49.4%となっています。

Ⅱ-2. 若者の意識調査

〔3〕 困りごとの相談相手

問12で「ある」を選んだ方のみ

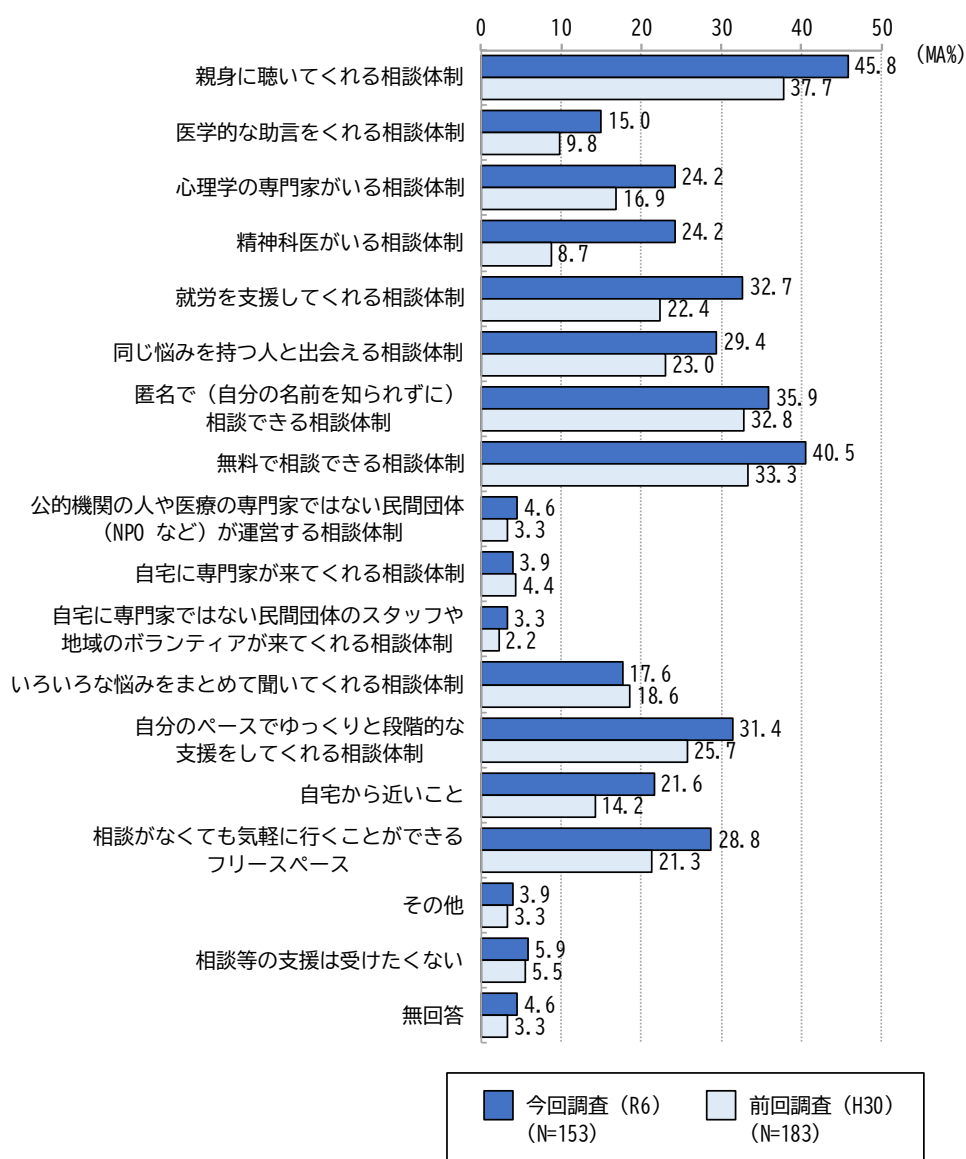
問12-2 悩みや心配ごと、困っていることについて、相談できる相手は誰ですか。
(○はいくつでも)



悩みや心配ごと、困っていることが「ある」とお答えの方に、困っている内容について相談する相手が誰かたずねたところ、「家族や親戚」が52.8%と最も多く、次いで、「友人」が51.7%となっています。

〔４〕若者を支援していくために必要だと思う相談体制

問13 若者の悩みや心配ごと、困っていることに対応していくために、あなたはどのような相談体制が必要だと思いますか。（○はいくつでも）



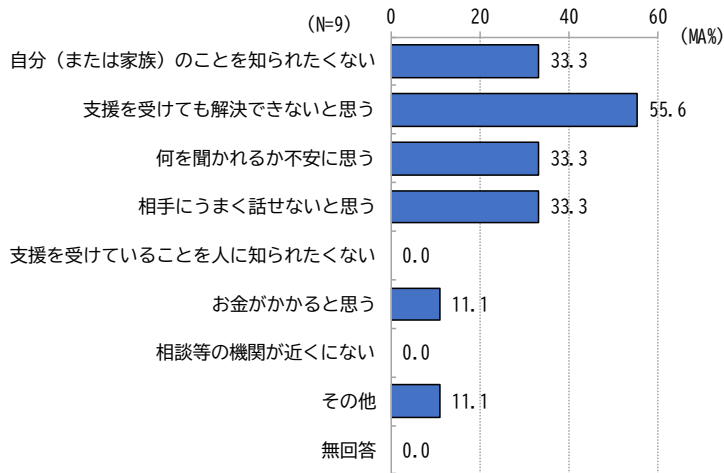
若者の悩みや心配ごと、困っていることに対応していくために必要だと思う相談体制については、「親身に聴いてくれる相談体制」が45.8%と最も多く、次いで、「無料で相談できる相談体制」が40.5%となっています。

Ⅱ-2. 若者の意識調査

〔5〕 支援を受けたくない理由

問13で「相談等の支援は受けたくない」を選んだ方のみ

問13-1 あなたが相談等の支援は受けたくないと思う理由は何ですか。(○はいくつでも)

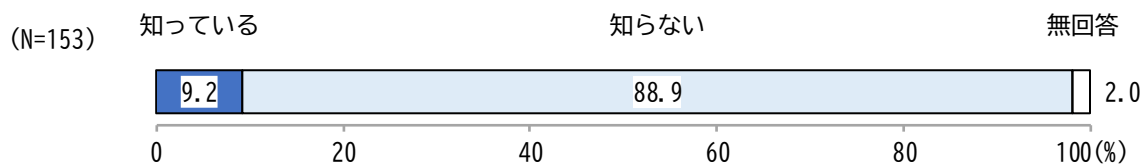


「相談等の支援は受けたくない」とお答えの方に、その理由をたずねたところ、「支援を受けても解決できないと思う」が55.6%と最も多くなっています。

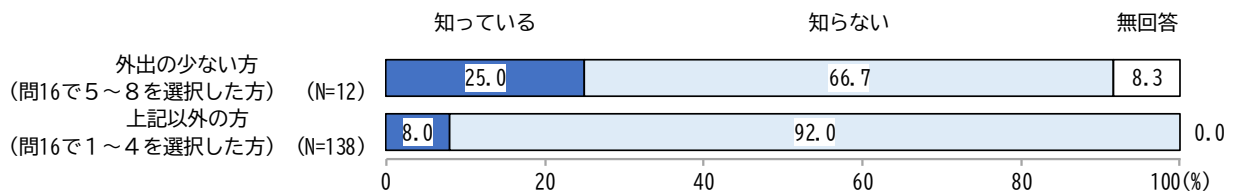
〔6〕 彦根市子ども・若者総合相談センターについて

問14 若者が抱える課題を解決するために開設している「彦根市子ども・若者総合相談窓口」※を知っていますか。(○は1つ)

※若者の相談に対応し関係機関へのつなぎや社会参加への足がかりの機会を提供します。



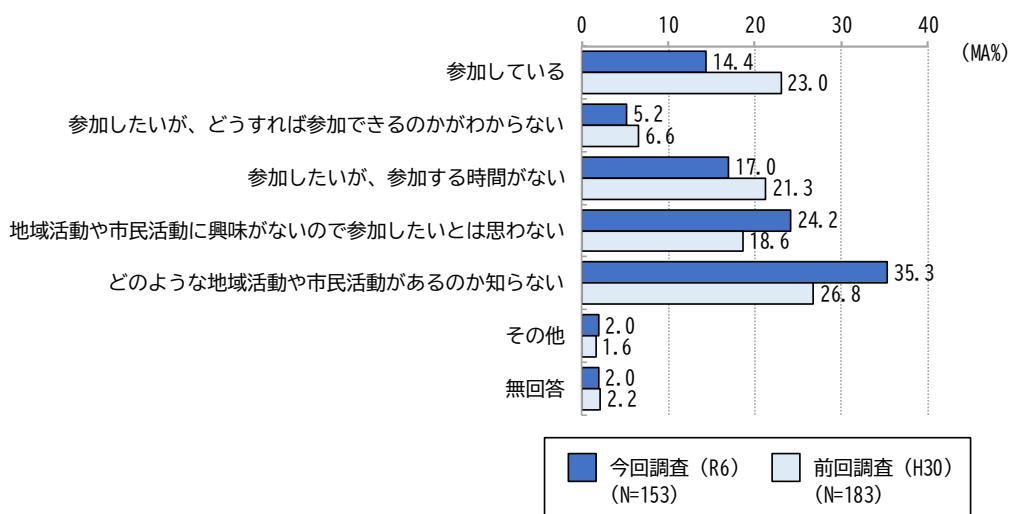
【外出の頻度別】



「彦根市子ども・若者総合相談窓口」の認知度については、「知っている」が9.2%、「知らない」88.9%となっています。

〔7〕 地域活動や市民活動への参加の有無

問15 地域や市民活動との関わりについてうかがいます。あなたは、地域活動や市民活動に参加していますか。(○は1つ)



地域活動や市民活動に参加しているかについては、「どのような地域活動や市民活動があるのか知らない」が35.3%と最も多く、次いで、「地域活動や市民活動に興味がないので参加したいとは思わない」が24.2%となっています。

Ⅱ-2. 若者の意識調査

〔8〕現在住んでいるところが好きか

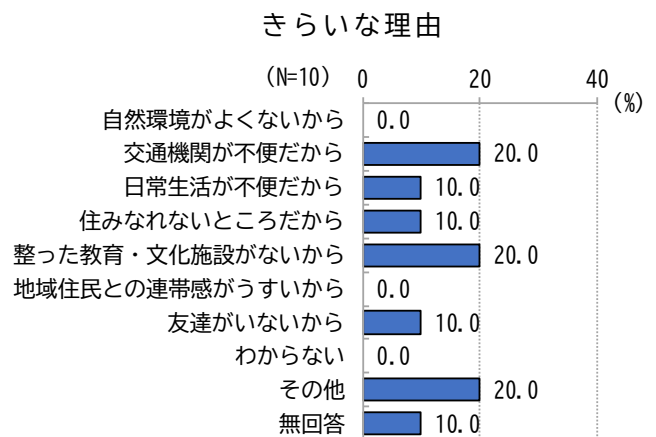
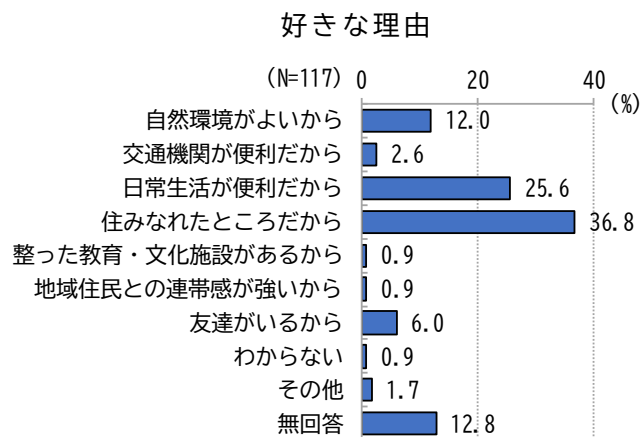
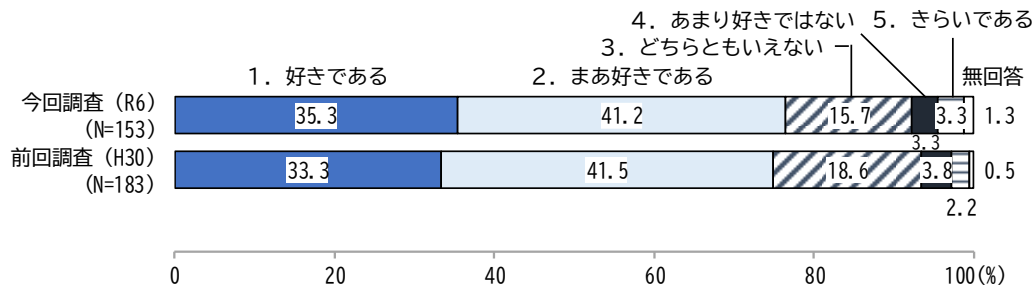
問15-1 あなたは、現在住んでいるところが好きですか。（○は1つ）

問15-1で「1」～「2」（好きである）を選んだ方のみ

問15-2 その主な理由は何ですか。

問15-1で「4」～「5」（好きではない）を選んだ方のみ

問15-3 その主な理由は何ですか。



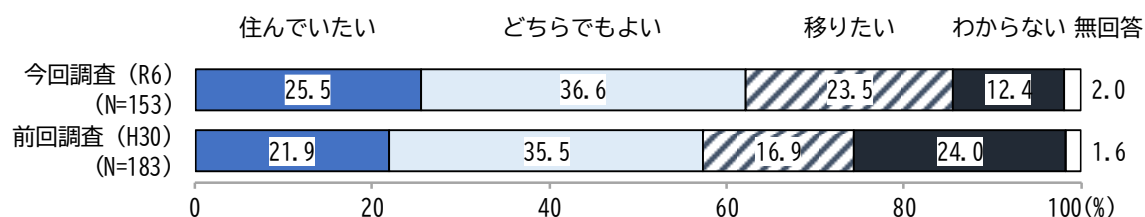
現在住んでいるところが好きかについては、「好きである」と「まあ好きである」を合わせた『好き』が76.5%となっています。

好きとお答えの方に、その理由をたずねたところ、「住みなれたところだから」が36.8%と最も多く、次いで、「日常生活が便利だから」が25.6%となっています。

きらいとお答えの方に、その理由をたずねたところ、「交通機関が不便だから」、「整った教育・文化施設がないから」がそれぞれ20.0%と最も多く、次いで、「日常生活が不便だから」、「住みなれないところだから」、「友達がいらないから」がそれぞれ10.0%となっています。

〔9〕現在住んでいるところに住み続けたいか

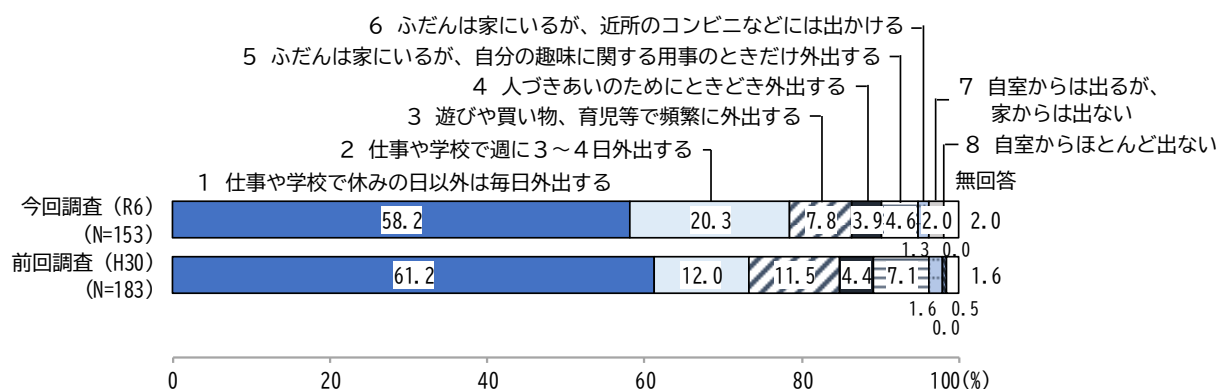
問15-4 あなたは、将来もずっと、現在住んでいるところに住んでいたいと思いますか。(○は1つ)



今後の居住意向については、「住んでいたい」が25.5%、「どちらでもよい」が36.6%、「移りたい」が23.5%となっています。

〔10〕外出について

問16 あなたはふだんどのくらい外出しますか。(○は1つ)

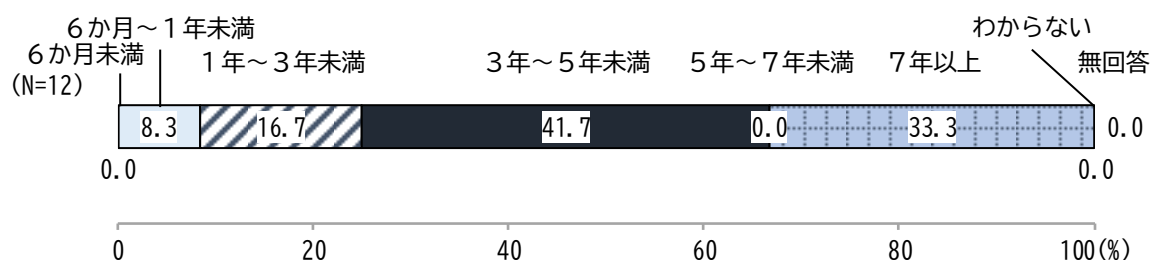


ふだんどのくらい外出するかについては、「仕事や学校で休みの日以外は毎日外出する」が58.2%と最も多くなっています。必要最低限しか出かけない方(「5」「6」「7」「8」を選択)は、合計で7.9%となっています。

〔11〕現在の状態になってからどのくらい経つか

問16で「5」「6」「7」「8」を選んだ方のみ

問16-1 あなたが現在の状態になってどのくらい経ちますか。(○は1つ)



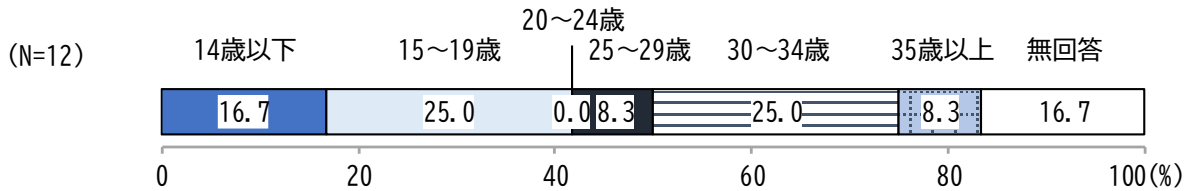
必要最低限しか出かけない方に、現在の状態になってからどのくらい経つかについてたずねたところ、「3年~5年未満」が41.7%と最も多くなっています。

Ⅱ-2. 若者の意識調査

〔12〕現在の外出頻度になった年齢

問16で「5」「6」「7」「8」を選んだ方のみ

問16-2 現在の外出頻度になったのは、あなたが何歳の頃ですか。(数字で具体的に)

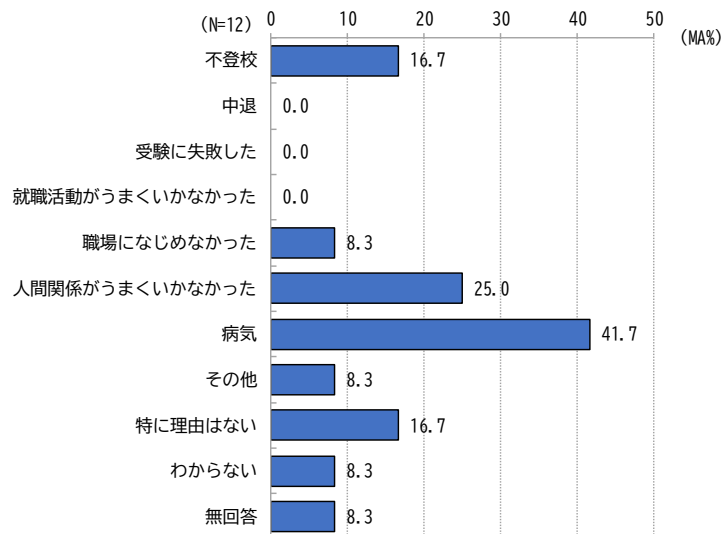


必要最低限しか出かけない方に、現在の外出頻度になった年齢についてたずねたところ、「15~19歳」、「30~34歳」がそれぞれ25.0%と最も多くなっています。

〔13〕現在の状態になったきっかけ

問16で「5」「6」「7」「8」を選んだ方のみ

問16-3 あなたが現在の状態になったきっかけは何ですか。記号がついている設問を答えた方は該当する記号もお答えください。(○はいくつでも)



■ 不登校になった時期

(MA%)				
N	小学校	中学校	高校	無回答
2	0.0	100.0	0.0	0.0

■ 人間関係がうまくいかなかった相手

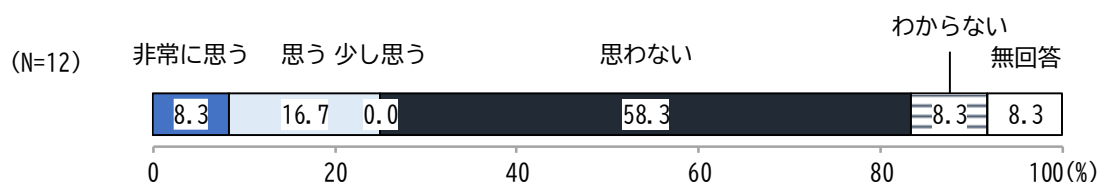
(MA%)						
N	友人	職場・場の僚上	家族	先生	その他の人	無回答
3	33.3	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0

必要最低限しか出かけないとお答えの方に、現在の状態になったきっかけについてたずねたところ、「病気」が41.7%と最も多く、次いで、「人間関係がうまくいかなかった」が25.0%となっています。

〔14〕現在の状態について関係機関に相談したいか

問16で「5」「6」「7」「8」を選んだ方のみ

問16-4 現在の状態について、関係機関に相談したいと思いますか。(○は1つ)

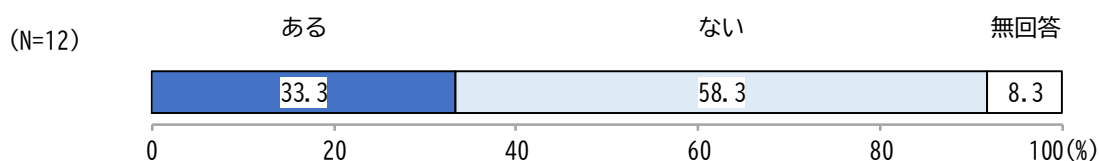


必要最低限しか出かけない方に、現在の状態について関係機関に相談したいかについてたずねたところ、「思わない」が58.3%と最も多くなっています。

〔15〕関係機関に相談したことがあるかについて

問16で「5」「6」「7」「8」を選んだ方のみ

問16-5 現在の状態について、関係機関に相談したことがありますか。または現在相談していますか。(○は1つ)



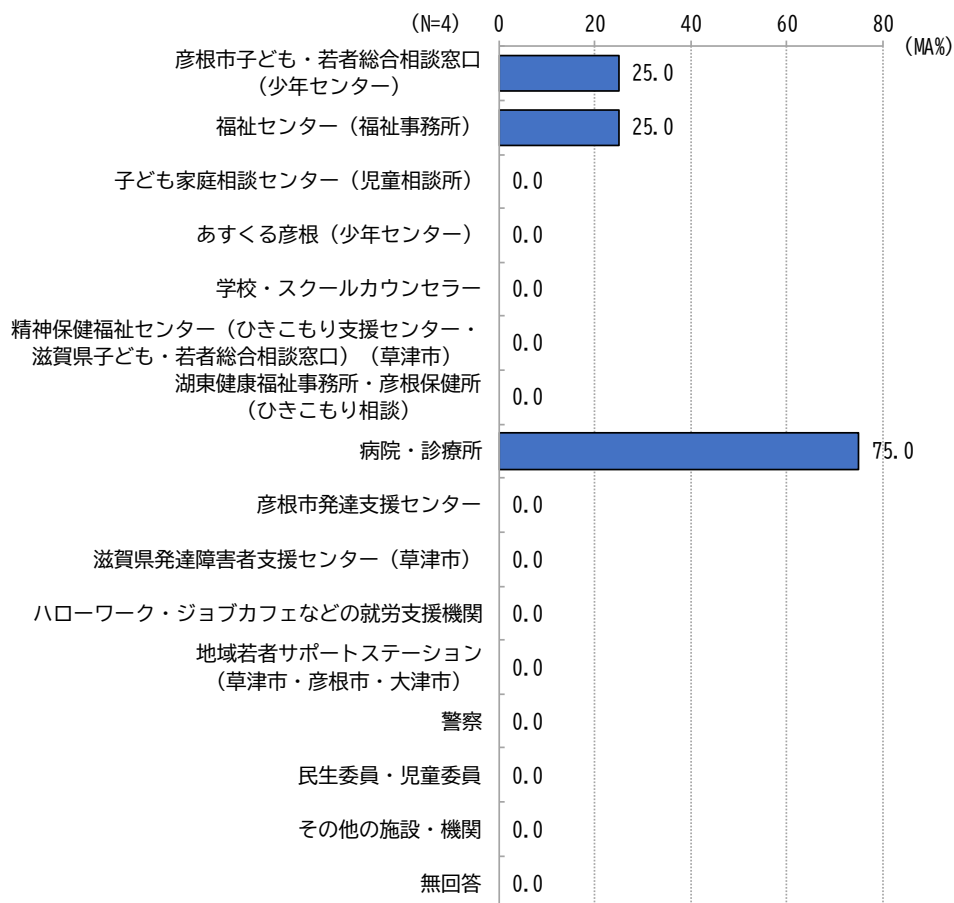
必要最低限しか出かけない方に、関係機関に相談したことがあるかをたずねたところ、「ある」が33.3%、「ない」が58.3%となっています。

Ⅱ-2. 若者の意識調査

〔16〕 相談したことがある機関

問16-5で「ある」を選んだ方のみ

問16-6 どのような機関に相談しましたか。相談したことがある機関に○をつけてください。(○はいくつでも)

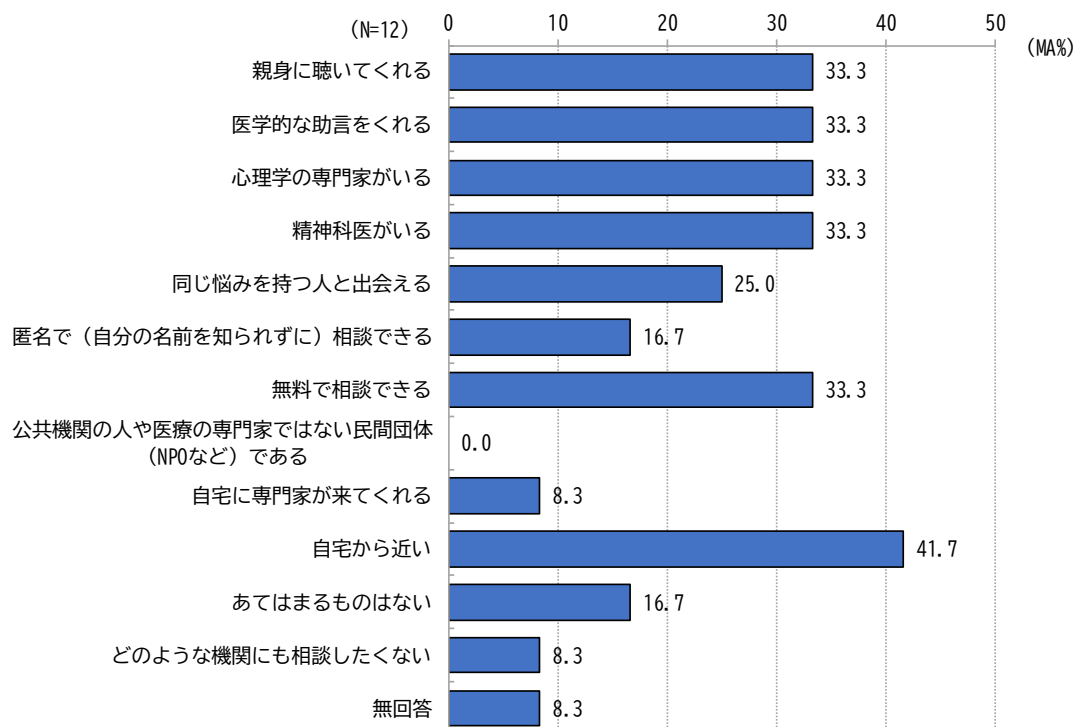


関係機関に相談したことが「ある」とお答えの方に、相談したことがある機関についてたずねたところ、「病院・診療所」が75.0%と最も多くなっています。

〔17〕 相談したいと思う機関

問16で「5」「6」「7」「8」を選んだ方のみ

問16-7 現在の状態について、関係機関に相談するとすれば、どのような相談機関であれば相談したいと思いますか。(〇はいくつでも)



必要最低限しか出かけない方に、相談したいと思う相談機関についてたずねたところ、「自宅から近い」が41.7%と最も多く、次いで、「親身に聴いてくれる」、「医学的な助言をくれる」、「心理学の専門家がいる」、「精神科医がいる」、「無料で相談できる」がそれぞれ33.3%となっています。

Ⅱ-2. 若者の意識調査

〔18〕 家族や友人等の外出の状況

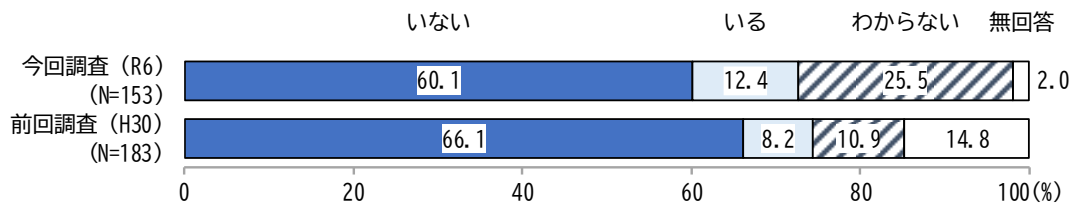
問16-8 あなたの家族や親しい友人等で、次のような状況の方はおられますか。
おられる場合は該当する番号もお答えください。(○は1つ)

問16-8で「いる」を選んだ方のみ

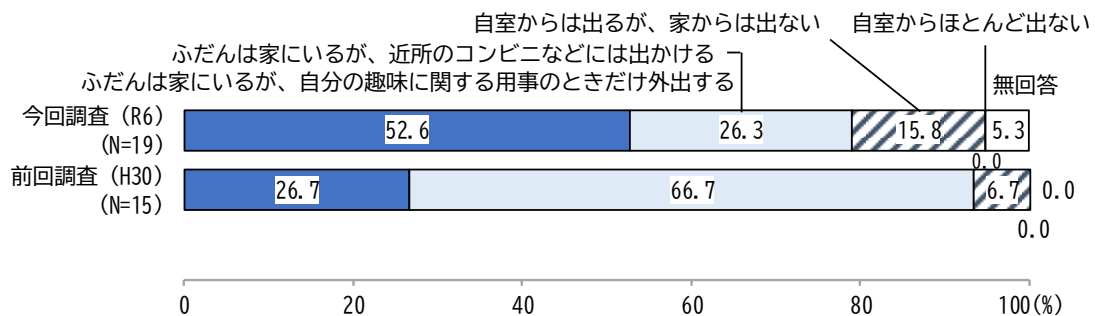
問16-9 家族や友人等は現在どのような状態ですか。(○は1つ)

【状況】

- ①ふだんは家にいるが、自分の趣味に関する用事の時だけ外出する
- ②ふだんは家にいるが、近所のコンビニなどには出かける
- ③自室からは出るが、家からは出ない
- ④自室からほとんど出ない



■ 「いる」と回答した方の現在の状況



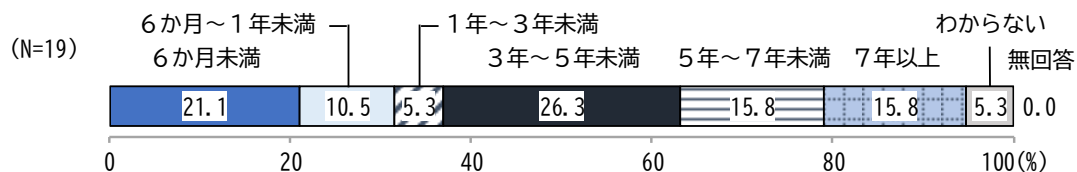
家族や親しい友人等で、必要最低限しか出かけない方の状況は、「いない」が60.1%、「いる」が12.4%となっています。

家族や友人等に必要最低限しか出かけない方が「いる」とお答えの方に、外出の状況をたずねたところ、「ふだんは家にいるが、自分の趣味に関する用事の時だけ外出する」が52.6%と最も多くなっています。

〔19〕 家族や友人等が現在の状態になってどのくらい経つか

問16-8で「いる」を選んだ方のみ

問16-10 家族や友人等が現在の状態になってどのくらい経ちますか。(○は1つ)

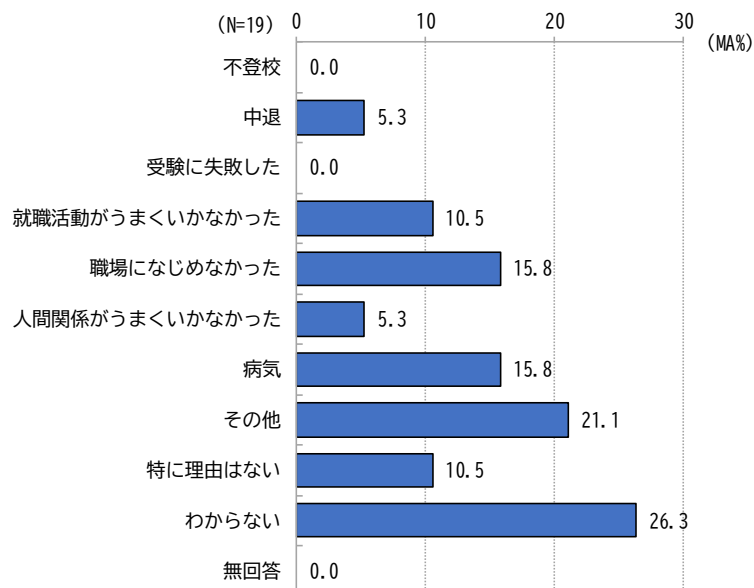


家族や友人等に必要最低限しか出かけない方が「いる」とお答えの方に、現在の状態になってどのくらい経つかについてたずねたところ、「3年～5年未満」が26.3%と最も多くなっています。

〔20〕 家族や友人等が現在の状態になったきっかけ

問16-8で「いる」を選んだ方のみ

問16-11 家族や友人等が現在の状態になったきっかけは何だと思いますか。記号がついている設問を答えた方は該当する記号もお答えください。(○はいくつでも)



■ 中退した時期

N	高校	専大・ 専・門 学・短 校・高	無回答
1	0.0	100.0	0.0

■ 人間関係がうまくいかなかった相手

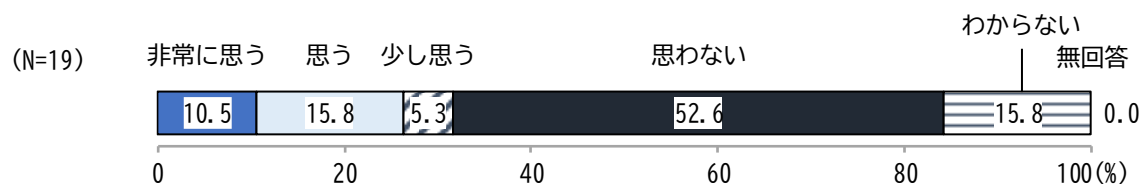
N	友人	職場・ 同僚	家族	先生	その他の人	無回答
1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0

家族や友人等に必要最低限しか出かけない方が「いる」とお答えの方に、現在の状態になったきっかけについてたずねたところ、「職場になじめなかった」、「病気」がそれぞれ15.8%と多くなっています。

〔21〕 家族や友人等の現在の状態について関係機関に相談したいか

問16-8で「いる」を選んだ方のみ

問16-12 家族や友人等の現在の状態について、関係機関に相談したいと思いますか。(○は1つ)



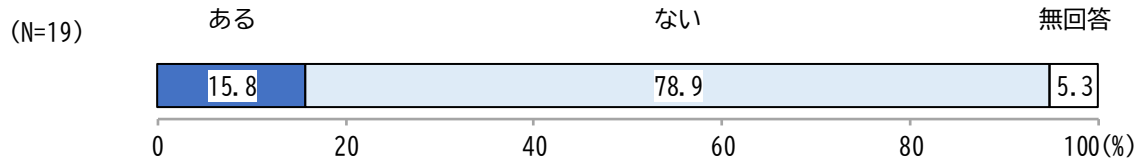
家族や友人等に必要最低限しか出かけない方が「いる」とお答えの方に、現在の状態について関係機関に相談したいかについてたずねたところ、「思わない」が52.6%と最も多くなっています。

Ⅱ-2. 若者の意識調査

〔22〕 家族や友人等の現在の状態について関係機関に相談したことがあるか

問16-8で「いる」を選んだ方のみ

問16-13 家族や友人等の現在の状態について、関係機関に相談したことがありますか。または現在相談していますか。(○は1つ)

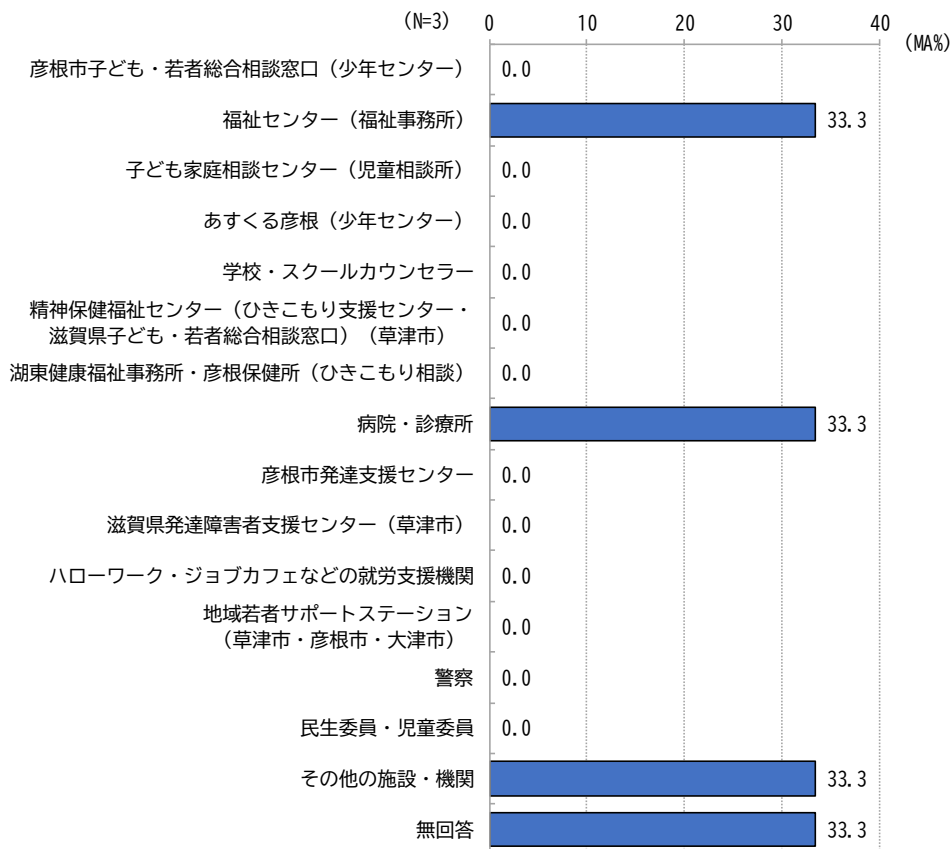


家族や友人等に必要最低限しか出かけない方が「いる」とお答えの方に、現在の状態について関係機関に相談したことがあるかについてたずねたところ、「ある」が15.8%、「ない」が78.9%となっています。

〔23〕 相談したことの機関

問16-12で「相談したことがある」を選んだ方のみ

問16-14 どのような機関に相談しましたか。相談したことの機関に○をつけてください。(○はいくつでも)

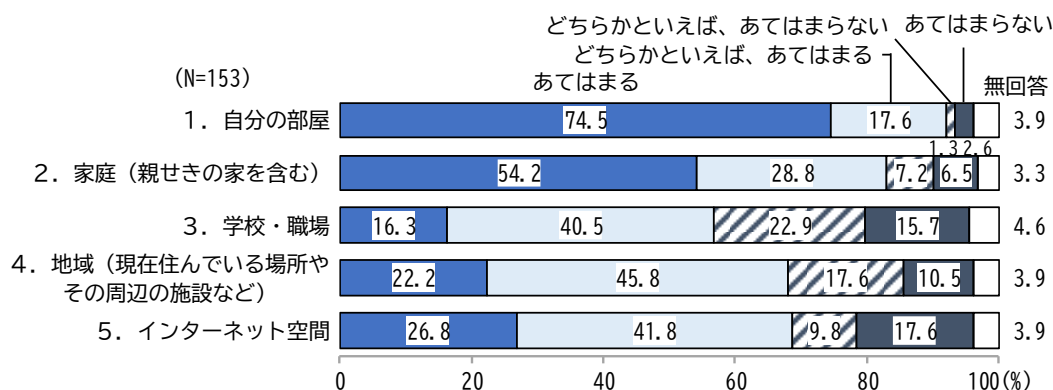


相談したことが「ある」とお答えの方に、相談したことがある機関をたずねたところ、「福祉センター (福祉事務所)」、「病院・診療所」がそれぞれ 33.3%となっています。

4 居場所について

〔1〕今の居場所について

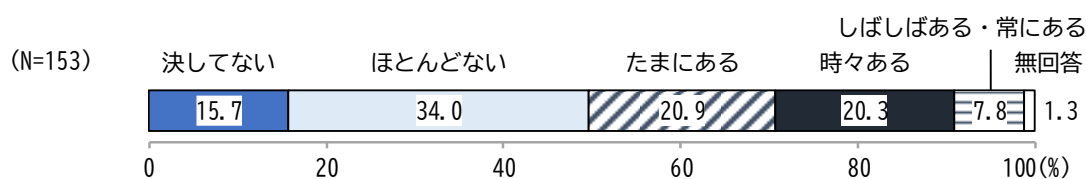
問17 次の場所は、今のあなたにとっての居場所（ほっとできる場所、居心地のいい場所など）になっていますか。それぞれ当てはまる番号に○を1つつけてください。



居場所（ほっとできる場所、居心地のいい場所など）についてたずねたところ、「あてはまる」と「どちらかといえば、あてはまる」を合わせた『あてはまる』は、「自分の部屋」が92.1%、「家庭（親せきの家を含む）」が83.0%、「インターネット空間」が68.6%、「地域（現在住んでいる場所やその周辺の施設など）」が68.0%、「学校・職場」が56.8%となっています。

〔2〕孤独であると感じているか

問18 あなたはどの程度、孤独であると感じることがありますか。（○は1つ）

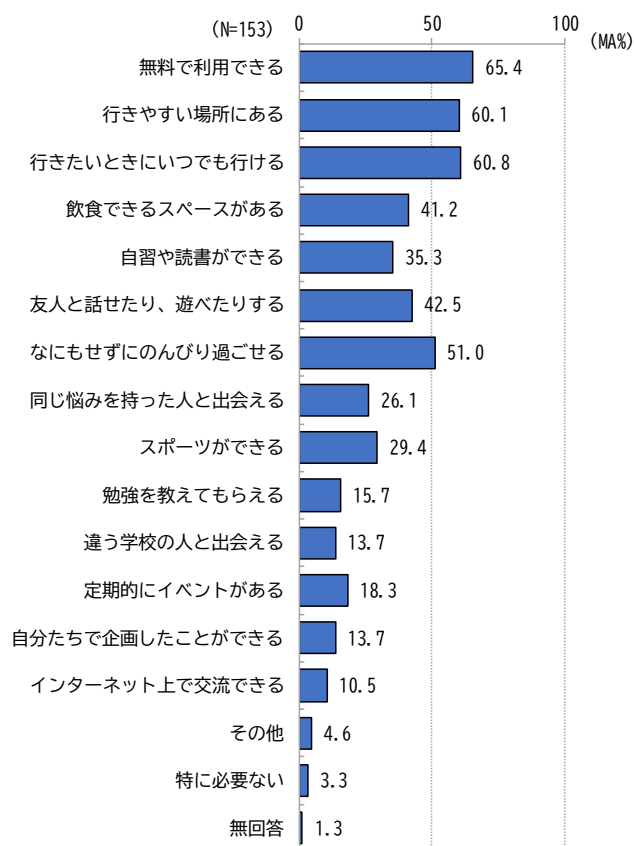


孤独であると感じることがあるかについてたずねたところ、「たまにある」と「時々ある」と「しばしばある・常にある」を合わせた『ある』が49.0%となっています。

Ⅱ-2. 若者の意識調査

〔3〕若者のための場所について

問19 若者のための場をつくるとしたら、どのような場所があるとよいと思いますか。（○はいくつでも）

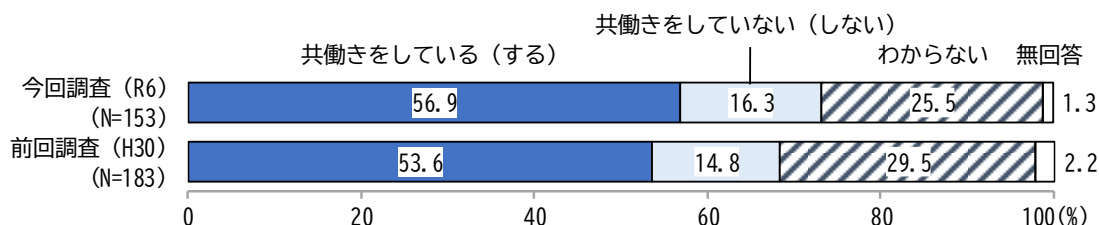


若者のための場をつくるとしたら、どのような場所があるとよいと思うかについてたずねたところ、「無料で利用できる」が 65.4%と最も多く、次いで、「行きたいときにいつでも行ける」が 60.8%、「行きやすい場所にある」が 60.1%となっています。

5 仕事と家庭、子育てについて

〔1〕共働きの状況

問20 あなたは現在共働きをしていますか。結婚していない方は、結婚したら共働きをしますか。(○は1つ)

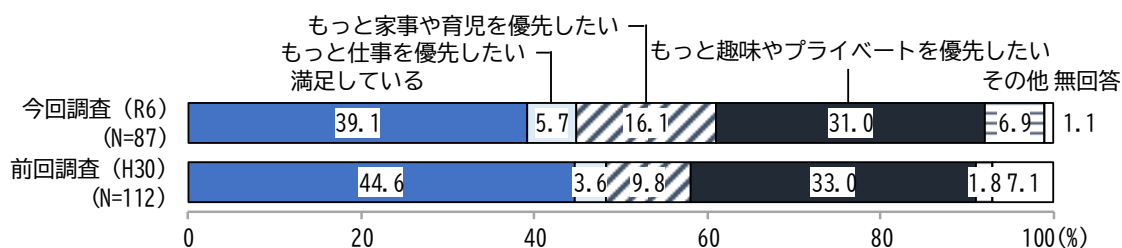


共働きの状況については、「共働きをしている (する)」が 56.9%、「共働きをしていない (しない)」が 16.3%となっています。

〔2〕仕事と家庭のバランス

現在働いている方のみ

問20-1 現在の仕事と家庭のバランス (優先度) には満足していますか。(○は1つ)



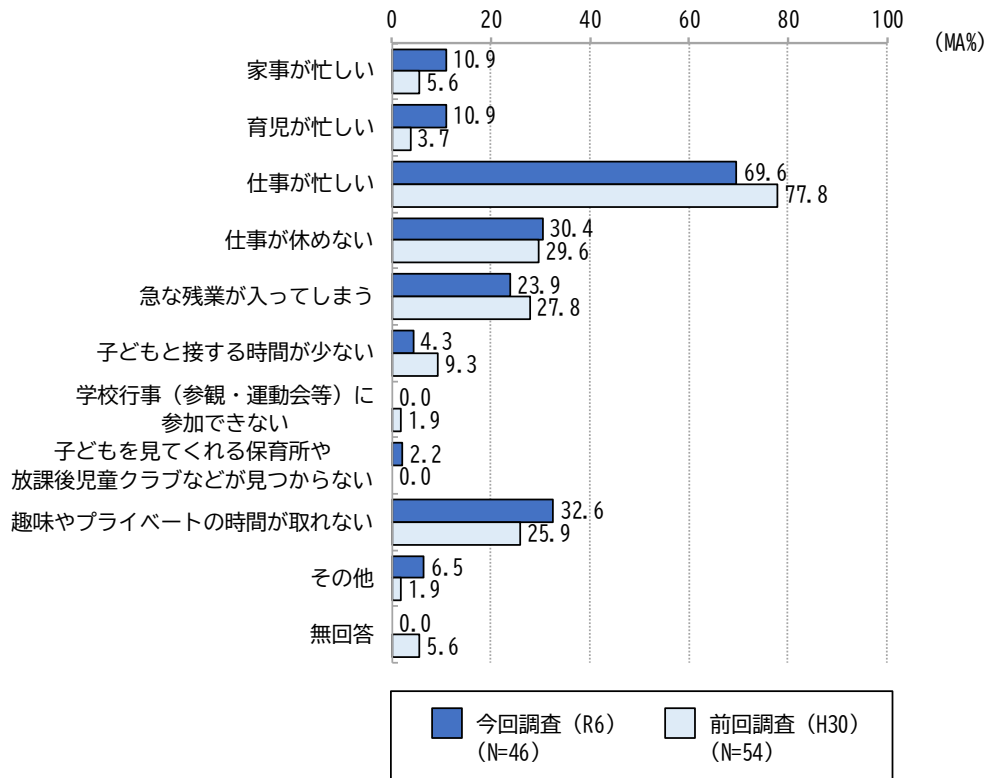
現在働いている方に、現在の仕事と家庭のバランス (優先度) に満足しているかをたずねたところ、「満足している」が 39.1%と最も多く、次いで、「もっと趣味やプライベートを優先したい」が 31.0%となっています。

Ⅱ-2. 若者の意識調査

〔3〕仕事と家庭のバランスを崩す原因

問20-1で「満足している」以外を選んだ方のみ

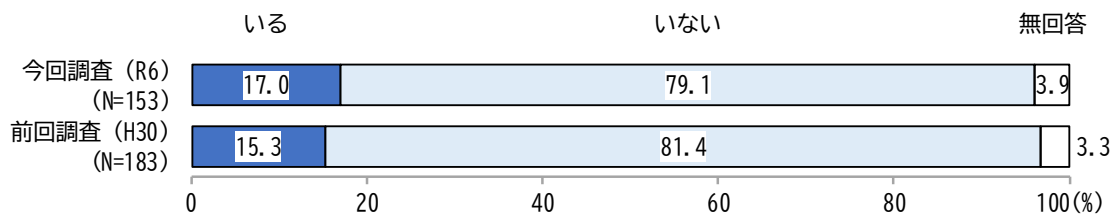
問20-2 現在の仕事と家庭のバランス（優先度）を崩す原因は何ですか。（○はいくつでも）



現在の仕事と家庭のバランスについて満足していないとお答えの方に、仕事と家庭のバランスを崩す原因についてたずねたところ、「仕事が忙しい」が69.6%と最も多く、次いで、「趣味やプライベートの時間が取れない」が32.6%となっています。

〔4〕子どもの有無

問21 あなたは子どもがいますか。（○は1つ）

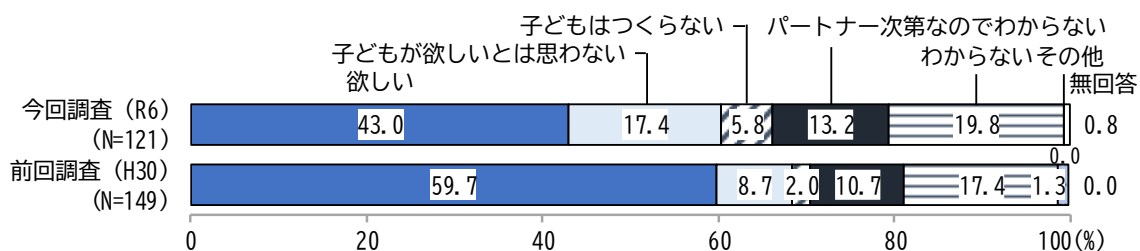


子どもの有無については、「いる」が17.0%、「いない」が79.1%となっています。

〔5〕子どもが欲しいか

問21で「いない」を選んだ方のみ

問21-1 将来、子どもは欲しいですか。(○は1つ)

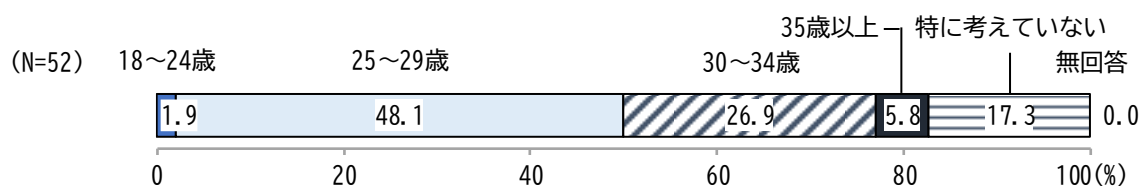


子どもが「いない」とお答えの方に、将来子どもは欲しいかたずねたところ、「欲しい」が43.0%と最も多く、次いで、「子どもが欲しいとは思わない」が17.4%となっています。

〔6〕子どもが欲しいと思う年齢

問21-1で「欲しい」を選んだ方のみ

問21-2 あなたは何歳くらいのときに子どもが欲しいと思いますか。(○は1つ)



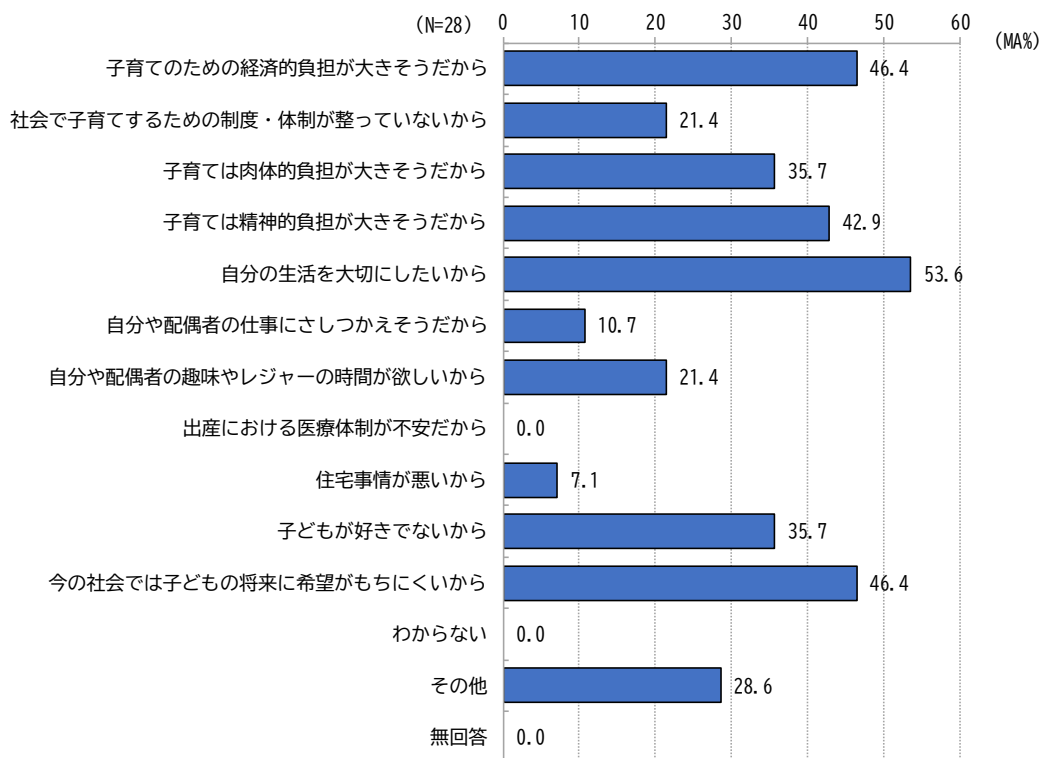
将来子どもが「欲しい」とお答えの方に、子どもが欲しいと思う年齢についてたずねたところ、「25～29歳」が48.1%と最も多く、次いで、「30～34歳」が26.9%となっています。

Ⅱ-2. 若者の意識調査

〔7〕子どもが欲しいと思わない理由

問21-1で「子どもが欲しいとは思わない」「子どもはつくらない」を選んだ方のみ

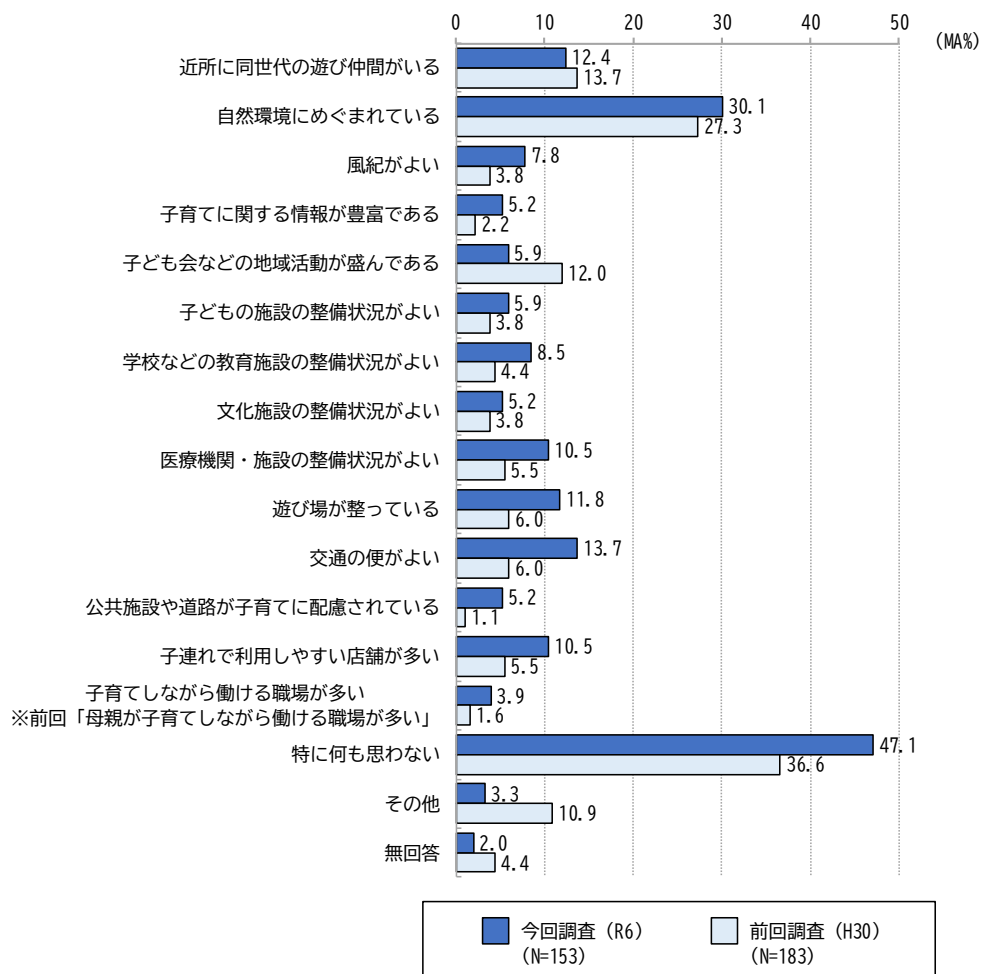
問21-3 子どもが欲しいと思わない理由は何ですか。(〇はいくつでも)



「子どもが欲しいとは思わない」「子どもはつくらない」とお答えの方に、その理由についてたずねたところ、「自分の生活を大切にしたいから」が53.6%と最も多く、次いで、「子育てのための経済的負担が大きそうだから」、「今の社会では子どもの将来に希望がもちにくいから」がそれぞれ46.4%となっています。

〔8〕彦根市の子育て環境

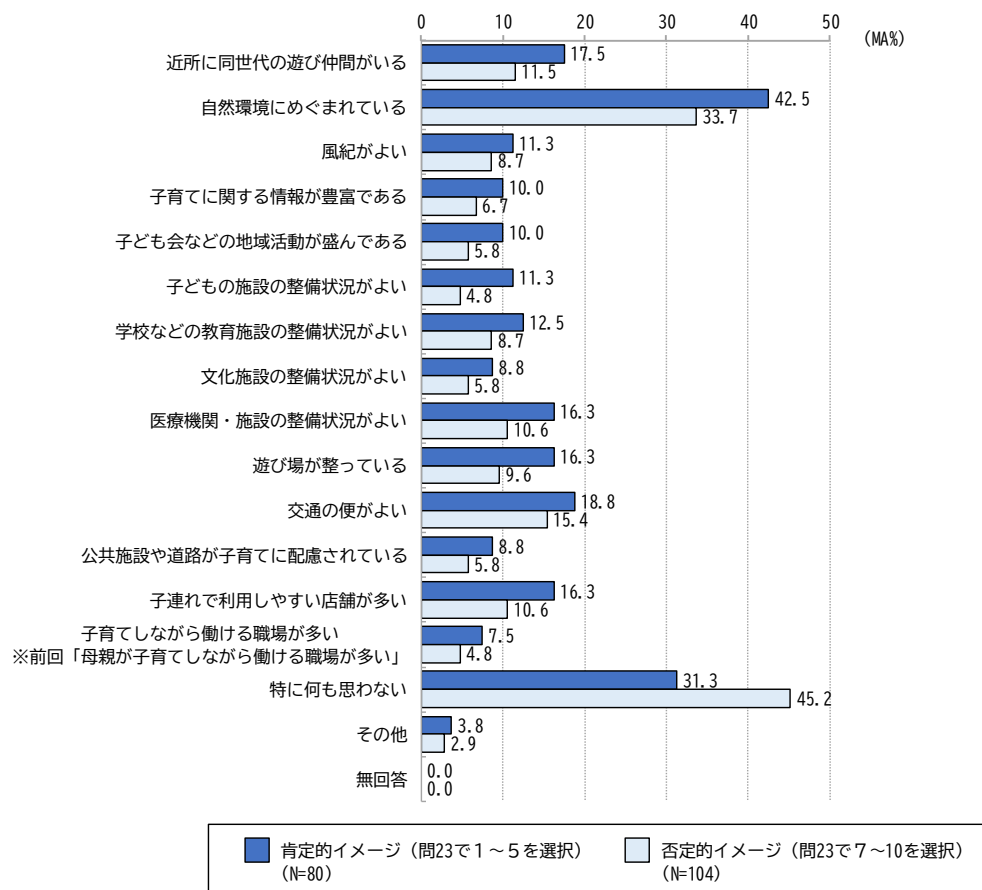
問22 彦根市の子育て環境についてどう思いますか。(〇はいくつでも)



彦根市の子育て環境については、「自然環境にめぐまれている」が30.1%と多く、次いで、「交通の便がよい」が13.7%、「近所に同世代の遊び仲間がいる」が12.4%となっています。

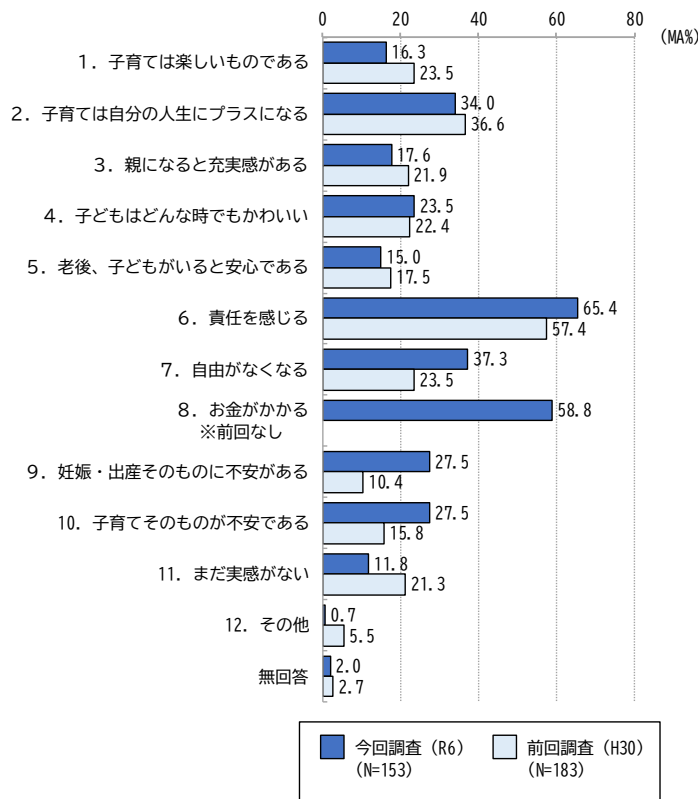
Ⅱ-2. 若者の意識調査

【子どもや子育てについてのイメージ別】



〔9〕子どもや子育てについてのイメージ

問23 子どもや子育てについて、あなたのイメージに近いものは何ですか。(〇はいくつでも)



【性・年齢別】

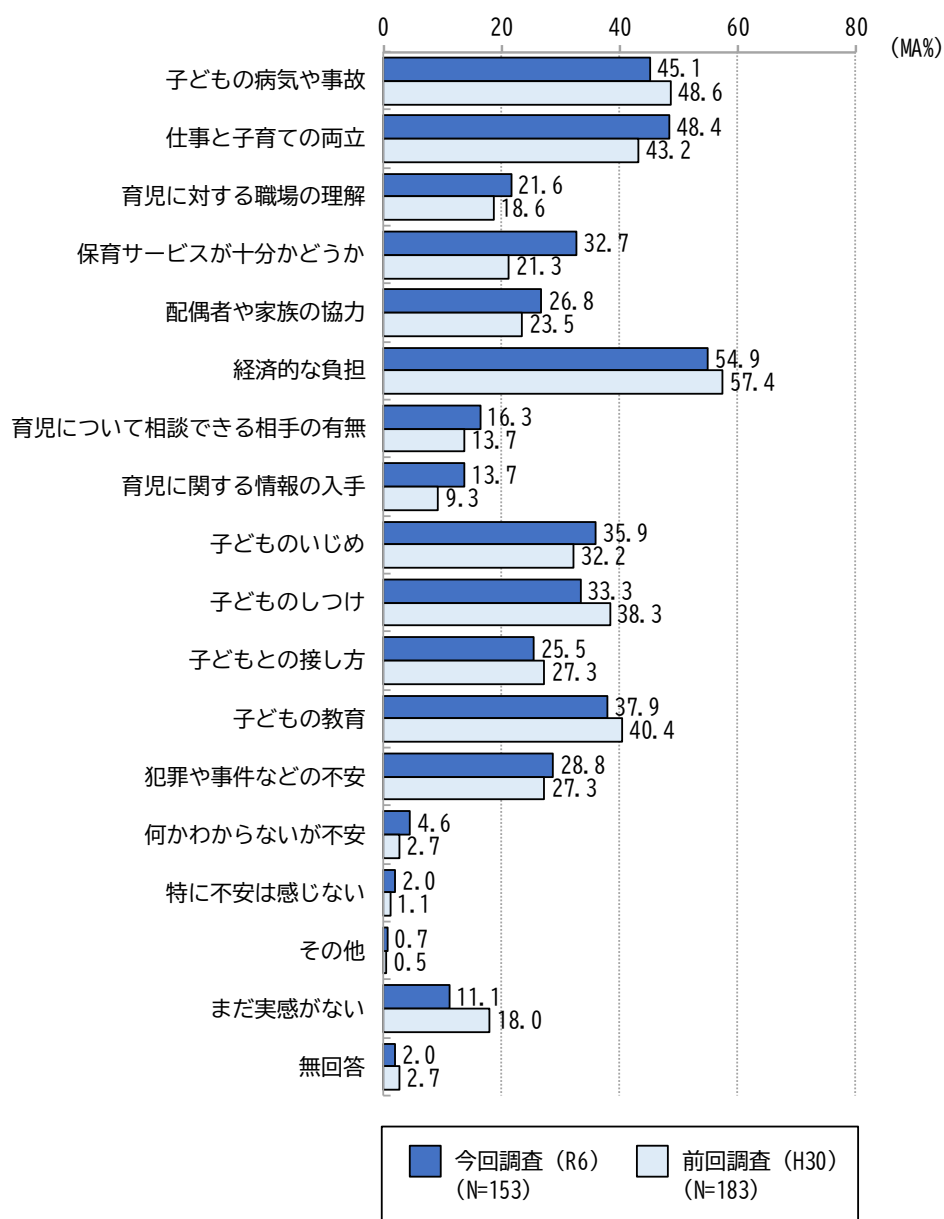
		N	子育ては楽しいものである	子育ては自分の人生にプラスになる	親になると充実感がある	子どもはどんな時でもかわいい	老後、子どもがいると安心である	責任を感じる	自由がなくなる	お金がかかる	妊娠・出産そのものに不安がある	子育てそのものが不安である	まだ実感がない	その他	無回答
性・年齢別	全体	153	16.3	34.0	17.6	23.5	15.0	65.4	37.3	58.8	27.5	27.5	11.8	0.7	2.0
	男性	81	19.8	32.1	19.8	25.9	12.3	58.0	27.2	51.9	13.6	19.8	14.8	1.2	2.5
	男18歳～24歳	22	22.7	18.2	18.2	27.3	18.2	59.1	22.7	54.5	13.6	18.2	18.2	4.5	0.0
	男25歳～29歳	16	12.5	31.3	18.8	25.0	6.3	37.5	18.8	43.8	18.8	18.8	25.0	0.0	6.3
	男30歳～34歳	24	20.8	41.7	29.2	25.0	8.3	66.7	37.5	54.2	8.3	29.2	12.5	0.0	0.0
	男35歳～39歳	19	21.1	36.8	10.5	26.3	15.8	63.2	26.3	52.6	15.8	10.5	5.3	0.0	5.3
	女性	67	11.9	35.8	16.4	22.4	17.9	73.1	47.8	67.2	43.3	34.3	7.5	0.0	1.5
	女18歳～24歳	26	11.5	30.8	15.4	23.1	19.2	73.1	42.3	69.2	53.8	38.5	7.7	0.0	0.0
	女25歳～29歳	15	6.7	13.3	13.3	13.3	6.7	66.7	66.7	60.0	40.0	40.0	13.3	0.0	6.7
	女30歳～34歳	14	21.4	50.0	21.4	21.4	21.4	78.6	35.7	71.4	35.7	28.6	7.1	0.0	0.0
	女35歳～39歳	12	8.3	58.3	16.7	33.3	25.0	75.0	50.0	66.7	33.3	25.0	0.0	0.0	0.0

子どもや子育てについてのイメージについては、「責任を感じる」が65.4%と最も多く、次いで、「お金がかかる」が58.8%となっています。

Ⅱ-2. 若者の意識調査

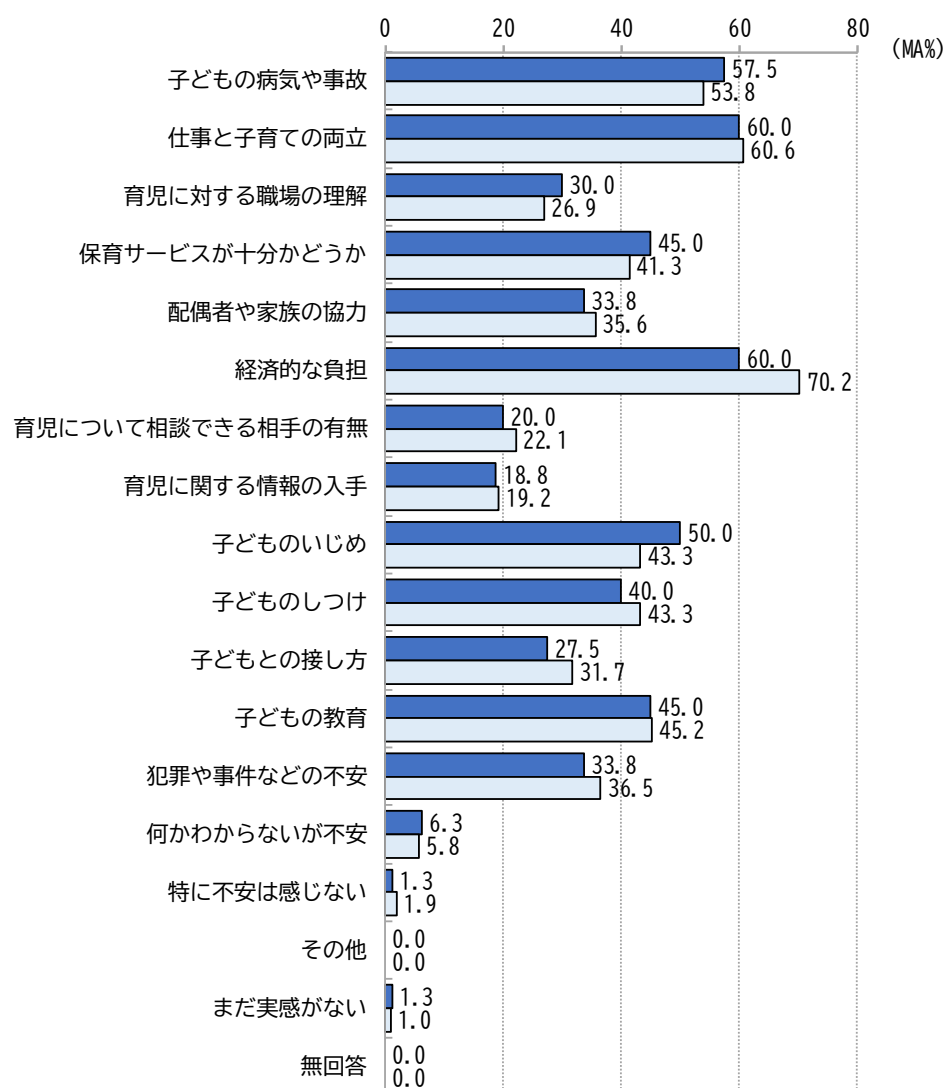
〔10〕子どもや子育てについての不安

問24 子どもや子育てについて、どのようなことに不安を感じますか。(〇はいくつでも)



子どもや子育てに関する不安については、「経済的な負担」が 54.9%と最も多く、次いで、「仕事と子育ての両立」が 48.4%、「子どもの病気や事故」が 45.1%となっています。

【子どもや子育てについてのイメージ別】

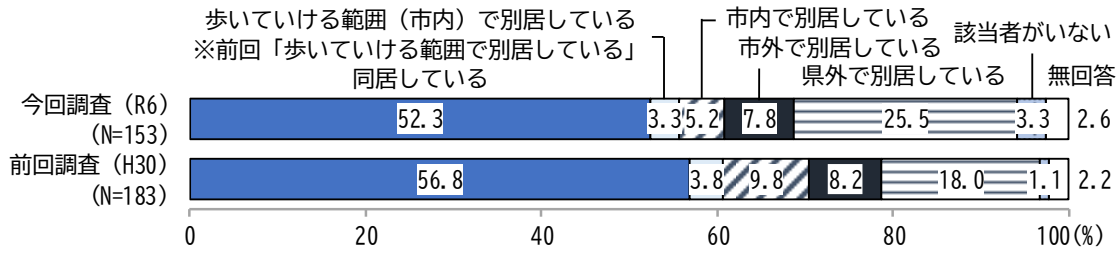


肯定的イメージ（問23で1～5を選択）（N=80）
 否定的イメージ（問23で7～10を選択）（N=104）

Ⅱ-2. 若者の意識調査

〔11〕 親との同居の状況

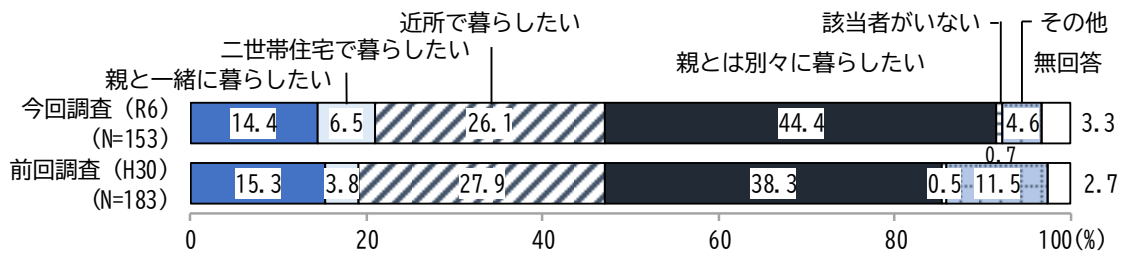
問25 あなたは自分の親と同居していますか。(○は1つ)



自分の親と同居の有無については、「同居している」が52.3%と最も多くなっています。

〔12〕 将来、親とどのように暮らしたいか

問26 将来、親とはどのように暮らしたいですか。(○は1つ)

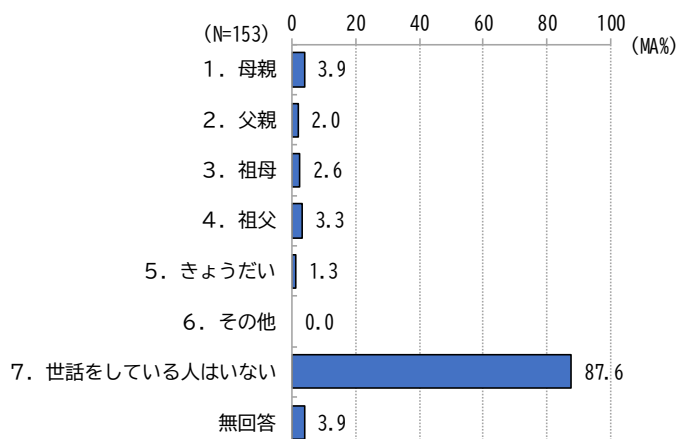


将来、親とはどのように暮らしたいかについては、「親とは別々に暮らしたい」が44.4%と最も多くなっています。

6 世話をしている人について

〔1〕世話をしている家族

問27 家族の中に、（お子さんがいる場合はお子さん以外で）あなたが世話をしている人はいますか。（○はいくつでも）

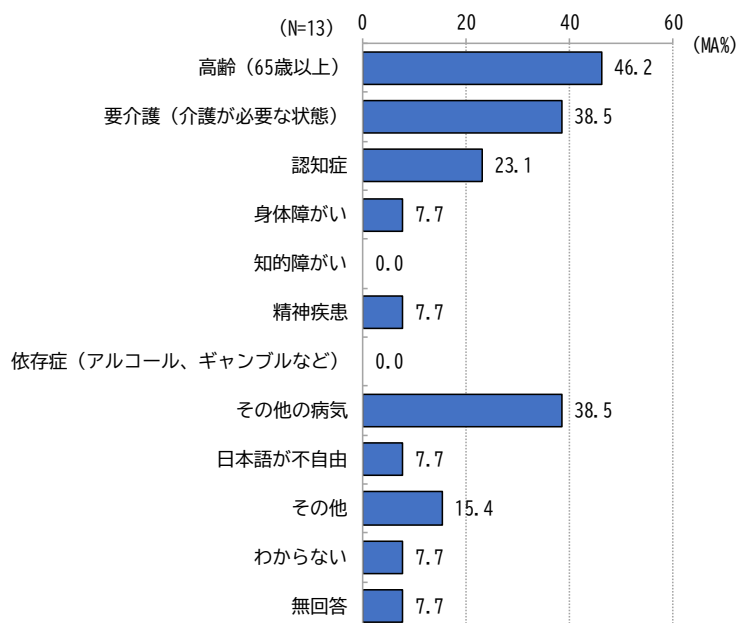


家族の中に世話をしている人がいるかたずねたところ、「母親」が 3.9%と最も多く、次いで、「祖父」が 3.3%となっています。

〔2〕世話を必要としている理由

問27で「1」～「6」を選んだ方のみ

問27-1 世話を必要としている理由はなんですか。（○はいくつでも）



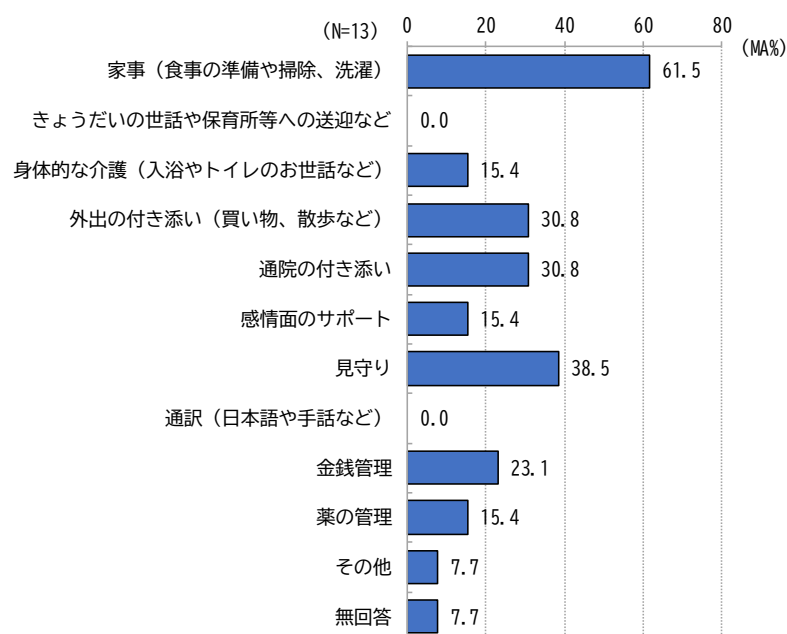
世話をしている人がいるとお答えの方々に、世話を必要とする理由をたずねたところ、「高齢（65歳以上）」が 46.2%と最も多く、次いで、「要介護（介護が必要な状態）」、「その他の病気」がそれぞれ 38.5%となっています。

Ⅱ-2. 若者の意識調査

〔3〕世話の内容

問27で「1」～「6」を選んだ方のみ

問27-2 あなたが行っている世話の内容を教えてください。(○はいくつでも)

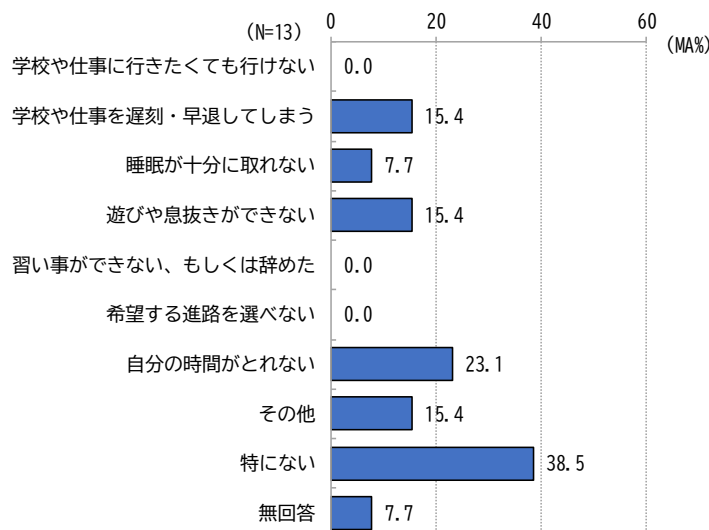


世話をしている人がいるとお答えの方に、行っている世話の内容をたずねたところ、「家事(食事の準備や掃除、洗濯)」が61.5%と最も多く、次いで、「見守り」が38.5%となっています。

〔4〕 やりたいけどできないこと

問27で「1」～「6」を選んだ方のみ

問27-3 世話をしていることで、やりたいけどできないことはありますか。(○はいくつでも)

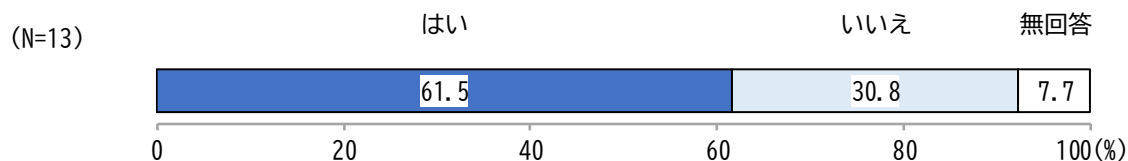


世話をしている人がいるとお答えの方に、やりたいけどできないことをたずねたところ、「自分の時間がとれない」が23.1%と多く、次いで、「学校や仕事を遅刻・早退してしまう」、「遊びや息抜きができない」がそれぞれ15.4%となっています。

〔5〕 相談や支援の必要性の有無

問27で「1」～「6」を選んだ方のみ

問27-4 世話をしていることを誰かに相談したり、支援を受けたりしたいと思いませんか。(○は1つ)

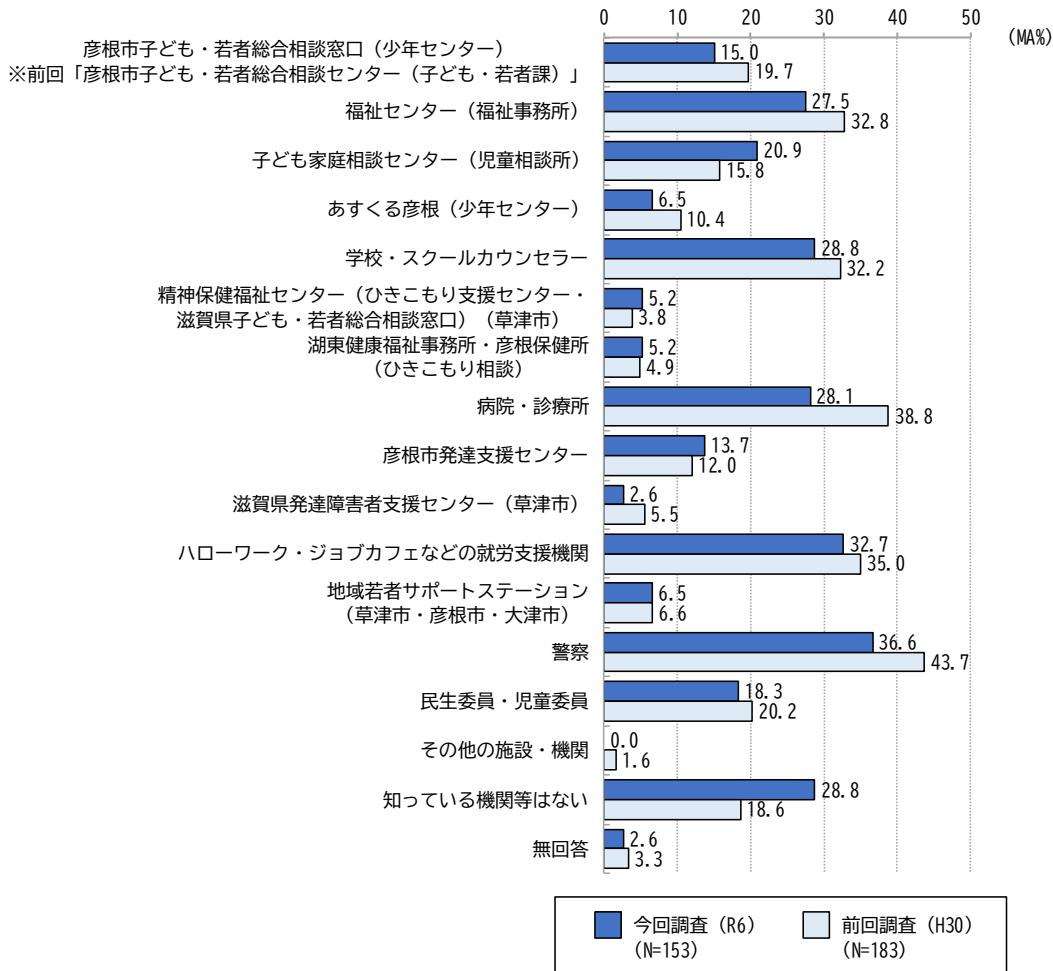


世話をしている人がいるとお答えの方に、世話をしていることを誰かに相談したり、支援を受けたりしたいと思うかについてたずねたところ、「はい」が61.5%、「いいえ」が30.8%となっています。

7 全体を通して

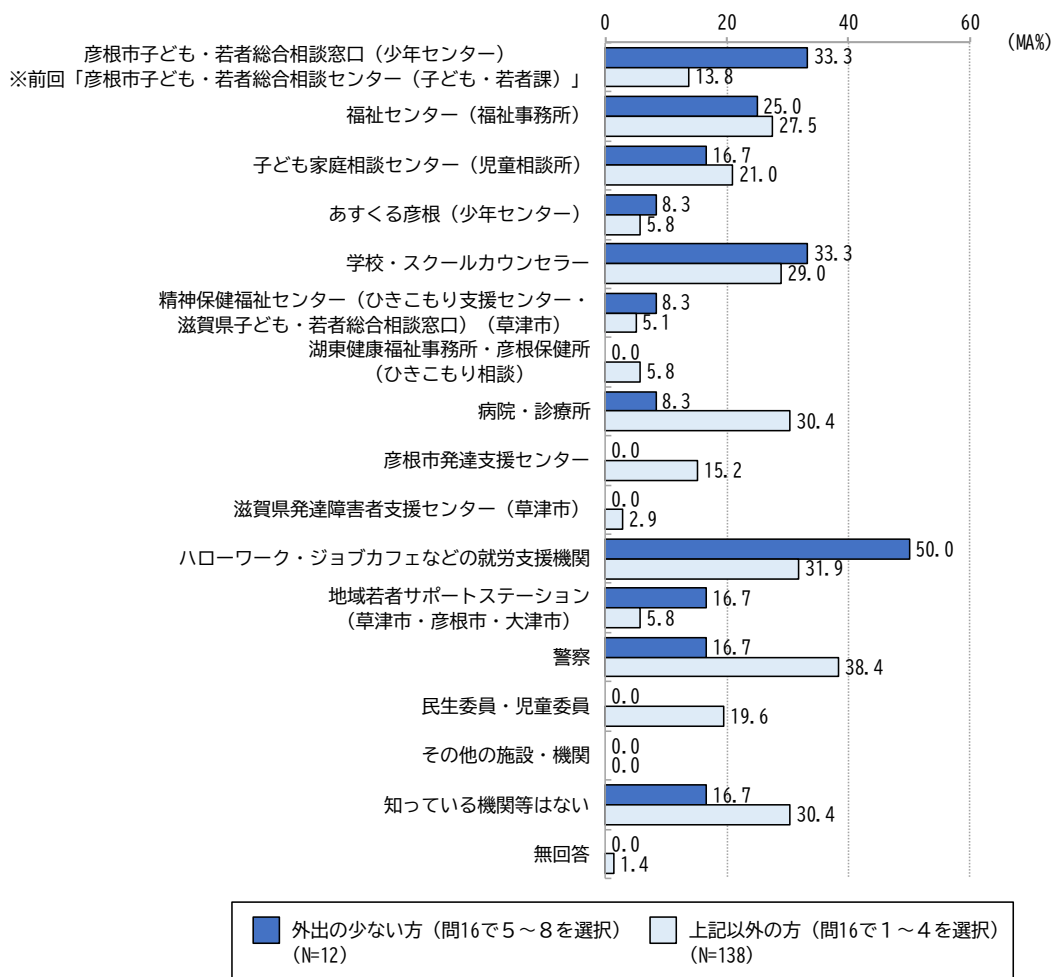
〔1〕子ども・若者を対象とした相談・支援機関の認知度

問28 あなたは、子ども・若者を対象とした相談・支援機関等を知っていますか。
知っている機関等を選んでください。（○はいくつでも）



子ども・若者を対象とした相談・支援機関等を知っているかについては、「警察」が36.6%と最も多く、次いで、「ハローワーク・ジョブカフェなどの就労支援機関」が32.7%、「学校・スクールカウンセラー」が28.8%となっています。

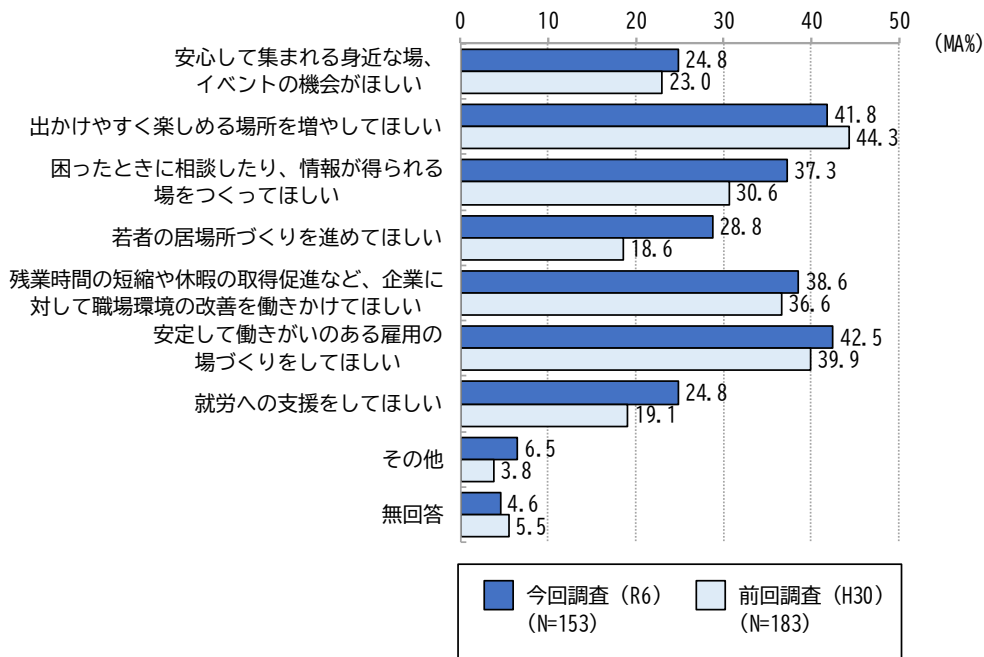
【外出の頻度別】



Ⅱ-2. 若者の意識調査

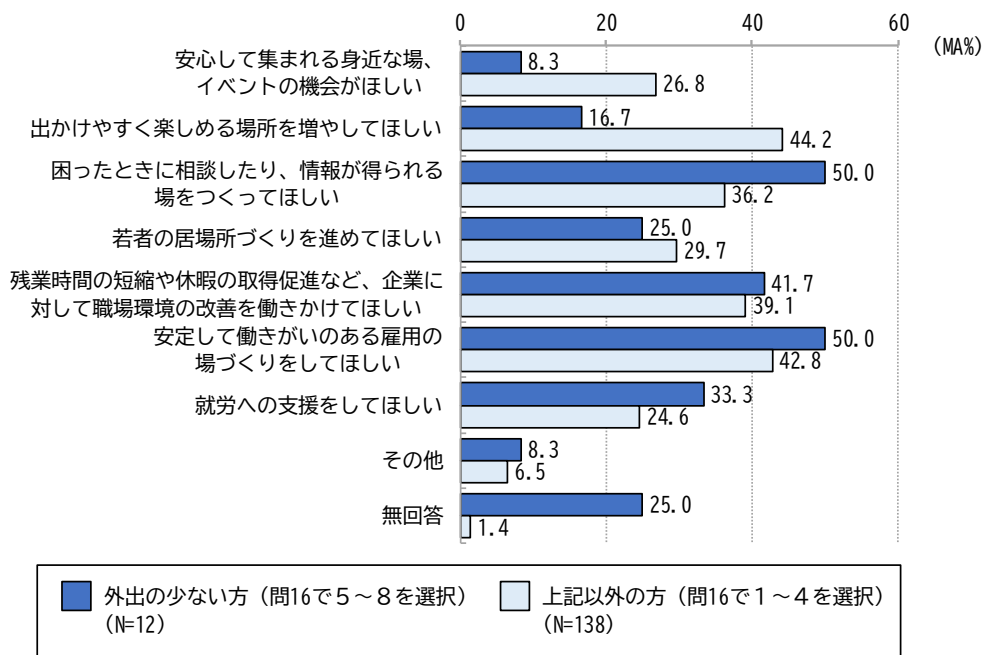
〔2〕彦根市のこれからの若者支援について期待すること

問29 彦根市のこれからの若者支援について、どのようなことを期待しますか。
(○はいくつでも)

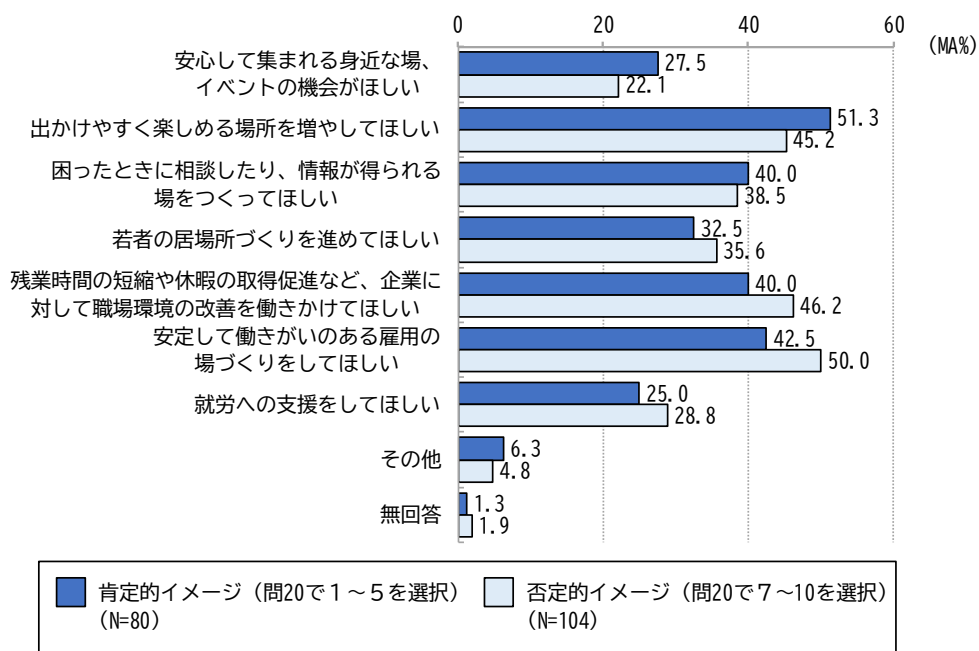


彦根市のこれからの若者支援について期待することは「安定して働きがいのある雇用の場づくりをしてほしい」が42.5%と最も多く、次いで、「出かけやすく楽しめる場所を増やしてほしい」が41.8%、「残業時間の短縮や休暇の取得促進など、企業に対して職場環境の改善を働きかけてほしい」が38.6%となっています。

【外出の頻度別】



【子どもや子育てについてのイメージ別】



Ⅱ-2. 若者の意識調査

〔3〕自由意見

問30 その他、自由なご意見を聞かせてください。
～彦根市の若者にとってもっと住みよいまちになるために、何が必要だと思えますか～

賑わい・街づくりについて(10件)

- ・ 安価で利用できる運動施設とそれを中心とした経済圏の確立。主に地域に結びつく産業かつ個人自業である店の支援として、人が多く集まる施設の周りに多く出店出来るようにすれば、より盛んで地元色になると思う。
- ・ 夜間開業している店舗が増えたらいい。

子育て支援について(9件)

- ・ 幼稚園や保育園に入園する前に、小さな子どもたちが集まれるイベントや場所があれば準備にもなるし新しい交流にもつながると思います。よろしくお願いします。
- ・ 子育てに対する経済的負担を軽減して欲しいです。

職場環境・収入・就労等について(7件)

- ・ 残業が多く、今後仕事・育児・家庭を両立していけるか非常に不安です。社会全体として、これらがバランスよく配分されるような風潮ができるとよいと思います。市役所は、休日・夜間でも灯りがついていますが、卒先して取り組んでいただきたいです。
- ・ 若年層の収入を上げること。給料が高いと仕事のやる気も変わってくるため。

居場所・人間関係・相談できる場(7件)

- ・ 学歴や年齢に関係なく、その人個人の価値観を尊重し、未来に希望が抱けるような夢を持ち、自分にも人にも優しく、思いやりの心を大切に生きていけるように、たくさんの出会いや経験が出来るような場所があればと思います。
- ・ 同じ悩みを持っている人が集まって、悩みを持っているのは自分一人だけであるかもしれない不安感からの解放の意図を含め、悩みを吐き出せる場所や環境が必要だと思う。

広報・情報提供(5件)

- ・ 相談できる場所があることの周知。
- ・ 去年越してきたばかりで、地域の機関や情報について知る機会がない。

道路・交通について(4件)

- ・ 道路渋滞を何とかしてほしい。平日・休日問わず、渋滞が発生し、ストレスである。

その他(18件)

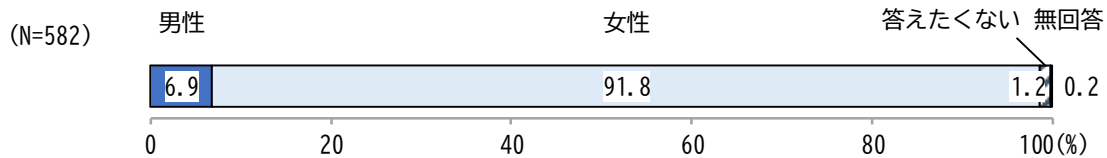
- ・ 学生(18歳未満)だけではなく、社会人や年配の方へ向けた支援や環境をもっと整えてほしい。
- ・ 家賃等の生活費支援。

Ⅱ-3. 子どもの生活に関する調査

A 回答者について

〔1〕性別

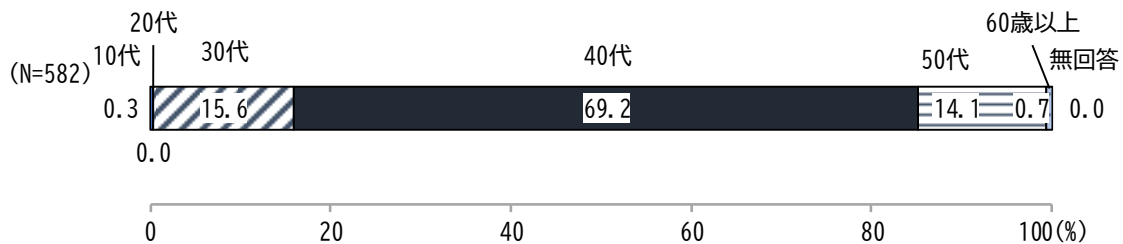
問 A 1 あなた（アンケートに回答される方）の性別を教えてください。（1つに○）



回答者の性別は、「男性」が 6.9%、「女性」が 91.8%、「答えたくない」が 1.2% となっています。

〔2〕年齢

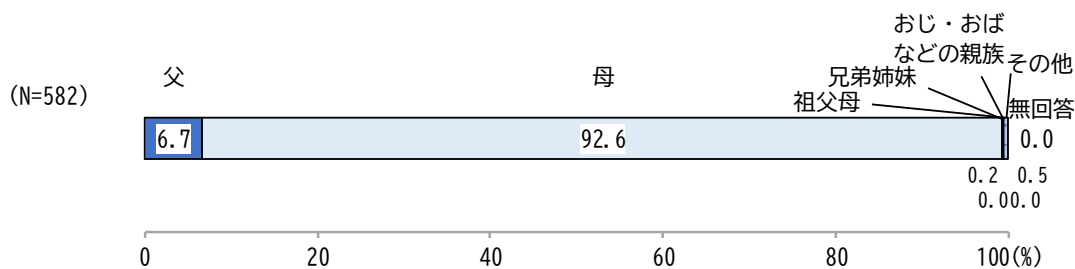
問 A 2 現在のあなたの年齢をお答えください。（1つに○）



回答者の年齢は、「40代」が 69.2%と最も多く、次いで、「30代」が 15.6% となっています。

〔3〕回答者の続柄

問 A 3 お子さんからみたあなたの続柄を教えてください。（1つに○）

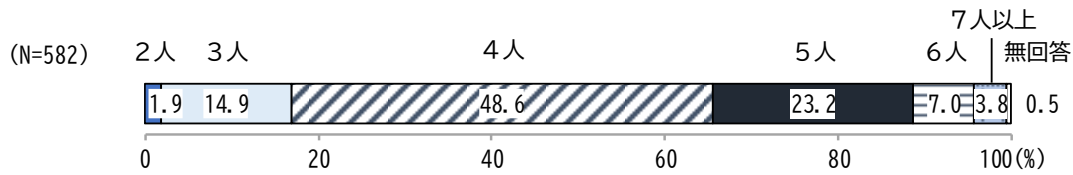


子どもからみた回答者の続柄は、「母」が 92.6%と最も多くなっています。

Ⅱ-3. 子どもの生活に関する調査

〔4〕同居者数

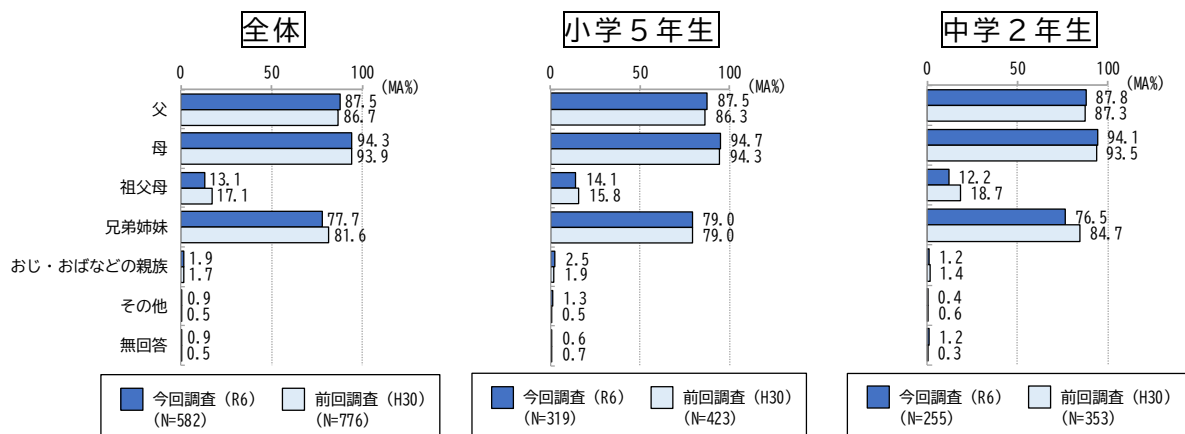
問 A 4 あなたの家庭で、生活を一緒にしている人は、あなたを含めて何人ですか。（数字を記入）



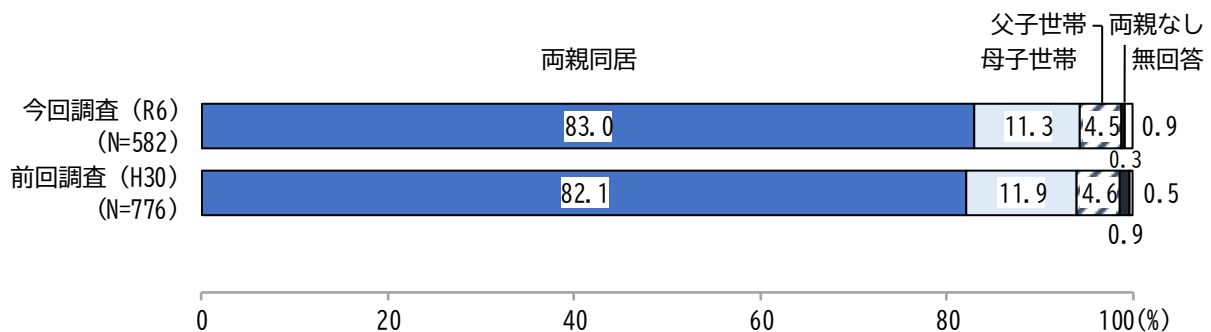
回答者の世帯人数は、「4人」が48.6%と最も多く、次いで、「5人」が23.2%となっています。

〔5〕同居者の続柄

問 A 5 生活を一緒にしている方全員について、お子さんからみた続柄を教えてください。（あてはまる番号すべてに○）



■両親が同居しているか（再集計）



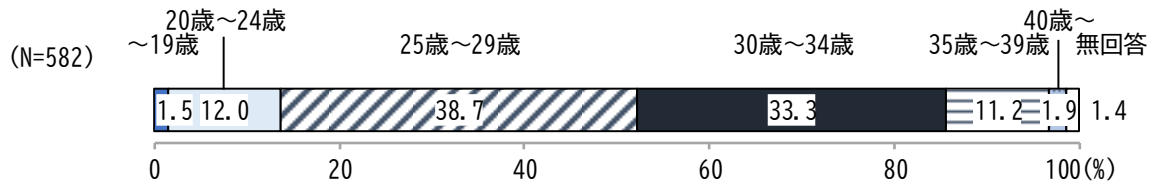
子どもからみた同居者の続柄は、「母」が94.3%と最も多く、次いで、「父」が87.5%、「兄弟姉妹」が77.7%となっています。

両親が同居しているかについては、「両親同居」が83.0%、「母子世帯」11.3%、「父子世帯」が4.5%となっています。

この報告書では、問 A 5において「父」もしくは「母」を回答していない方を「ひとり親家庭」と定義しています。また、「父」を回答していない方を「母子世帯」、「母」を回答していない方を「父子世帯」として表記しています。

〔6〕初めて子どもをもった年齢

問 A 6 初めて子どもをもった保護者の方の年齢は何歳ですか。

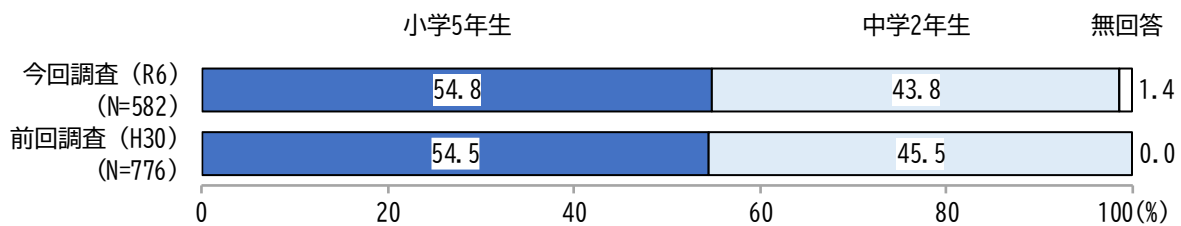


初めて子どもをもった年齢は、「25歳~29歳」が38.7%と最も多く、次いで、「30歳~34歳」が33.3%となっています。

B お子さんについて

〔1〕子どもの学年

問 B 1 お子さんの現在の学年を教えてください。(1つに○)

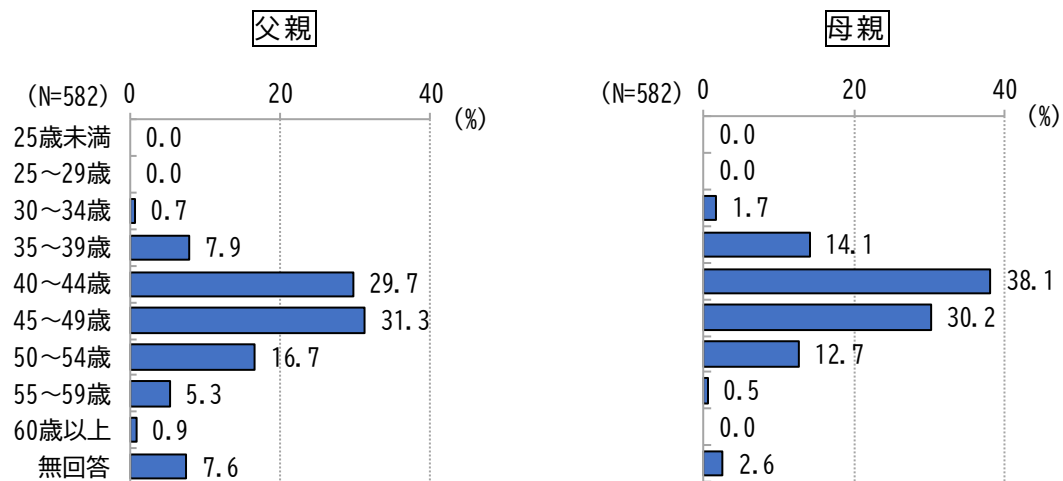


子どもの学年は、「小学5年生」が54.8%、「中学2年生」が43.8%となっています。

Ⅱ-3. 子どもの生活に関する調査

〔2〕子どもの両親の年齢

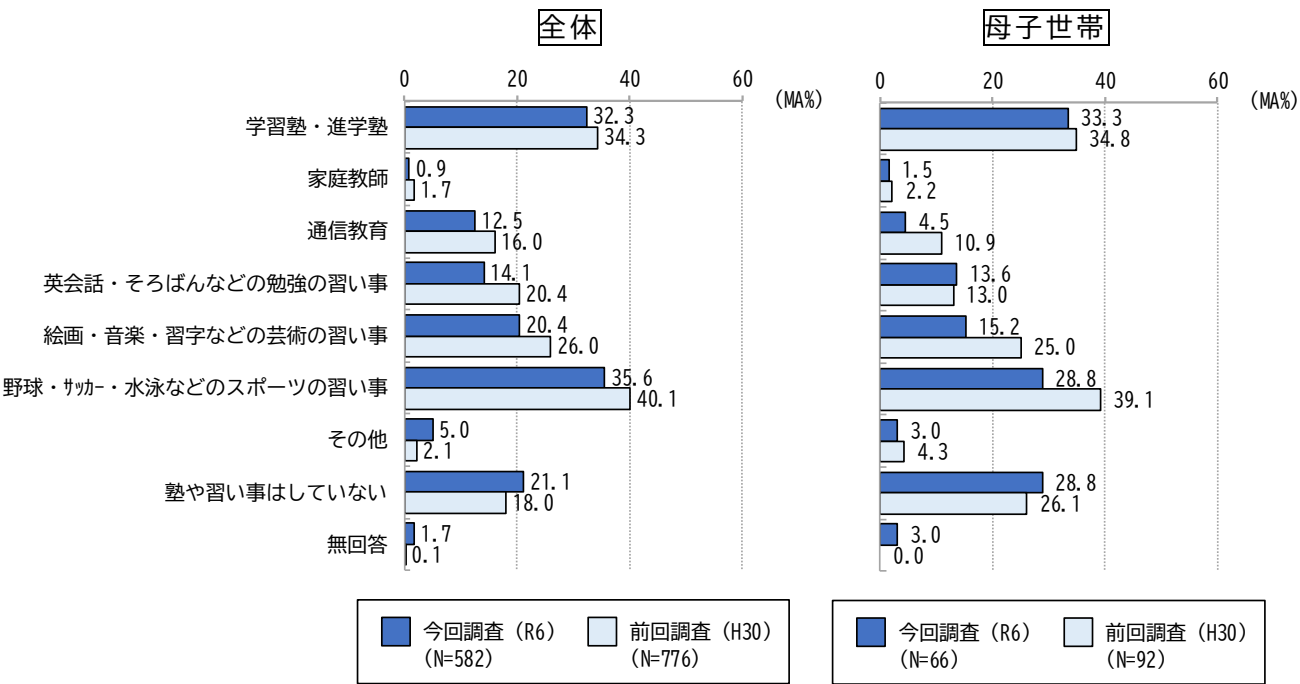
問 B 2 お子さんのご両親の年齢についてお答えください。（令和 6 年 3 月 1 日現在）ひとり親家庭の場合は、あてはまる方だけお答えください。（父親、母親それぞれ 1 つに○）



子どもの両親の年齢は、父親については、「45～49 歳」が 31.3%と最も多く、次いで、「40～44 歳」が 29.7%となっています。母親については、「40～44 歳」が 38.1%と最も多く、次いで、「45～49 歳」が 30.2%となっています。

〔3〕塾や習い事の状況

問 B 3 お子さんは、現在、塾に行ったり、習い事をしていますか。(あてはまる番号すべてに○)



【学年・生活困難度別】

			(MA%)										
			N	学習塾・進学塾	家庭教師	通信教育	英会話・そろばんなどの勉強の習い事	絵画・音楽・習字などの芸術の習い事	水泳などのスポーツ	野球・サッカー	その他	塾や習い事はしていない	無回答
生活困難度別	学年・生活困難度別	全体	582	32.3	0.9	12.5	14.1	20.4	35.6	5.0	21.1	1.7	
		全体	生活困難世帯	58	19.0	0.0	6.9	13.8	15.5	24.1	5.2	34.5	0.0
			非生活困難世帯	482	34.4	1.0	13.5	14.1	21.6	38.4	4.1	19.3	0.2
		小学5年生	生活困難世帯	35	8.6	0.0	11.4	22.9	17.1	25.7	5.7	34.3	0.0
			非生活困難世帯	263	24.0	0.4	16.3	20.9	27.0	57.0	5.3	13.3	0.0
		中学2年生	生活困難世帯	23	34.8	0.0	0.0	0.0	13.0	21.7	4.3	34.8	0.0
			非生活困難世帯	217	47.0	1.8	10.1	6.0	15.2	16.1	2.8	26.7	0.0

子どもの習い事の状況は、「野球・サッカー・水泳などのスポーツの習い事」が35.6%と最も多く、次いで、「学習塾・進学塾」が32.3%となっています。

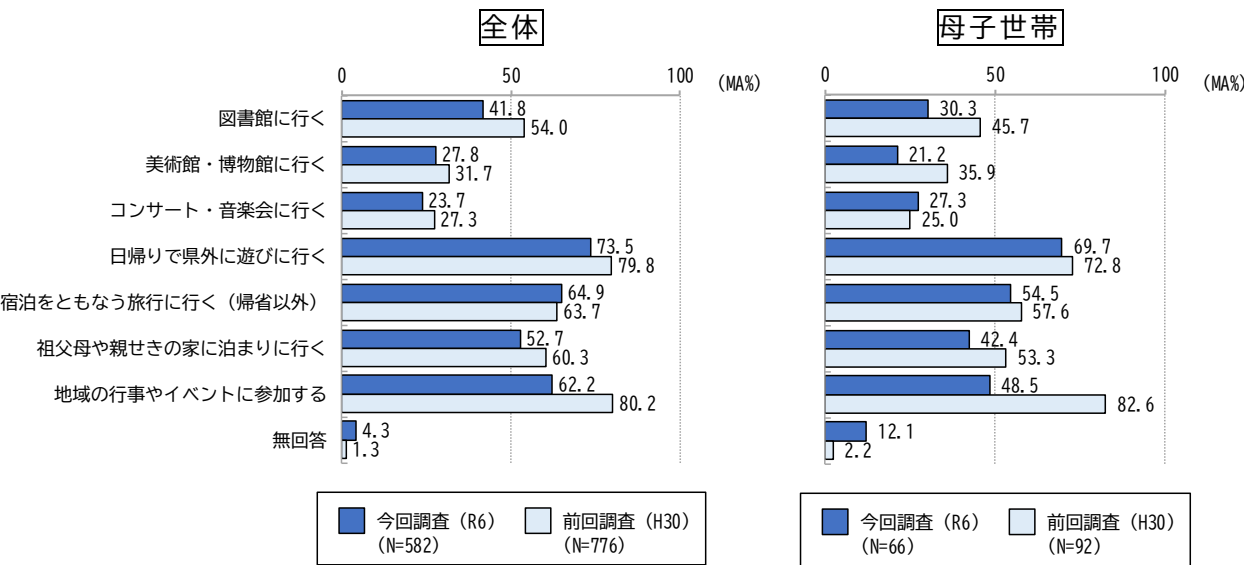
母子世帯では、「学習塾・進学塾」が33.3%と最も多く、次いで、「野球・サッカー・水泳などのスポーツの習い事」、「塾や習い事はしていない」がそれぞれ28.8%となっています。

この報告書では、問A4および問C7をもとに等価可処分所得（世帯手取り収入額÷√世帯人数）を算出し、等価可処分所得が貧困線（127万円）以下の方を「生活困難世帯」と定義しています。また、等価可処分所得が貧困線より多い方を「非生活困難世帯」と定義しています。

Ⅱ-3. 子どもの生活に関する調査

〔４〕子どもが過去１年間で体験したこと

問Ｂ４ お子さんは、過去１年間に次のような体験をしましたか。（あてはまる番号すべてに○）



【学年・生活困難度別】

		N	図書館に行く	美術館・博物館に行く	コンサート・音楽会に行く	日帰りで県外に遊びに行く	宿泊をともなう旅行に行く（帰省以外）	祖父母や親せきの家に泊まりに行く	地域の行事やイベントに参加する	無回答
生活困難度別・学年	全体	582	41.8	27.8	23.7	73.5	64.9	52.7	62.2	4.3
	全体	58	22.4	25.9	24.1	63.8	58.6	32.8	56.9	8.6
	生活困難世帯	482	45.0	28.2	24.5	75.5	67.8	57.3	64.5	1.7
	非生活困難世帯	35	31.4	34.3	20.0	65.7	65.7	42.9	68.6	8.6
	小学5年生	263	54.8	34.6	24.3	81.0	72.2	60.1	79.5	0.8
	生活困難世帯	23	8.7	13.0	30.4	60.9	47.8	17.4	39.1	8.7
	非生活困難世帯	217	33.2	19.8	24.4	69.1	62.7	53.9	46.5	2.8
	中学2年生									

子どもが過去１年間に体験したことは、「日帰りで県外に遊びに行く」が73.5%と最も多く、次いで、「宿泊をともなう旅行に行く（帰省以外）」が64.9%となっています。

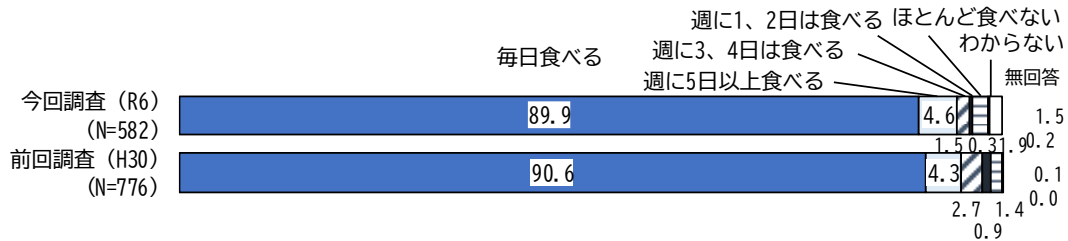
母子世帯でも、「日帰りで県外に遊びに行く」が69.7%と最も多く、次いで、「宿泊をともなう旅行に行く（帰省以外）」が54.5%となっています。

また、生活困難世帯では、そうでない非生活困難世帯に比して、「図書館に行く」、「日帰りで県外に遊びに行く」、「祖父母や親せきの家に泊まりに行く」の回答割合が低い傾向がみられます。

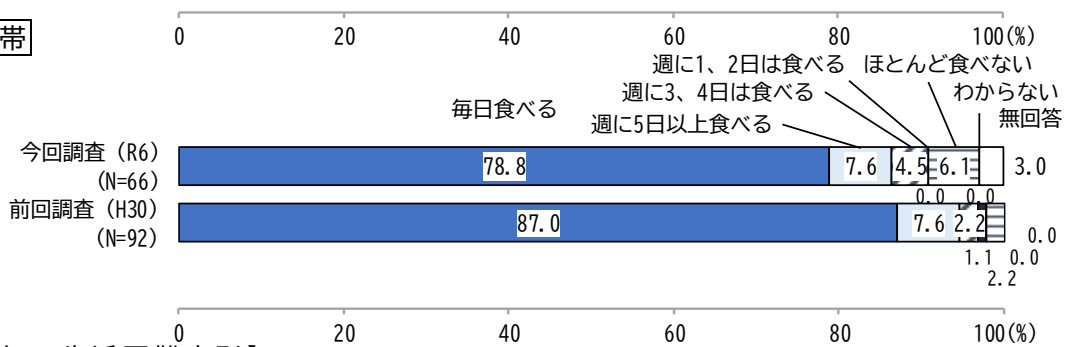
〔5〕朝食を食べる頻度

問 B 5 お子さんは、1 週間に朝食をどれくらい食べていますか。最近 1 か月の状況で、一番近いと思うものを選んでください。(1 つに○)

全体



母子世帯



【学年・生活困難度別】

			N	毎日食べる	週に5日以上食べる	週に3、4日は食べる	週に1、2日は食べる	ほとんど食べない	わからない	無回答
生活困難度別・学年	全体		582	89.9	4.6	1.5	0.3	1.9	0.2	1.5
	全体	生活困難世帯	58	82.8	5.2	1.7	0.0	10.3	0.0	0.0
		非生活困難世帯	482	91.9	4.8	1.7	0.4	1.0	0.2	0.0
	小学5年生	生活困難世帯	35	88.6	8.6	0.0	0.0	2.9	0.0	0.0
		非生活困難世帯	263	94.7	2.7	2.3	0.0	0.4	0.0	0.0
	中学2年生	生活困難世帯	23	73.9	0.0	4.3	0.0	21.7	0.0	0.0
		非生活困難世帯	217	88.5	7.4	0.9	0.9	1.8	0.5	0.0

子どもが1週間に朝食をどのくらい食べるかについては、「毎日食べる」が89.9%と最も多くなっています。

母子世帯でも、「毎日食べる」が78.8%と最も多くなっています。

また、生活困難世帯では、「毎日食べる」は82.8%と非生活困難世帯より低くなっています。

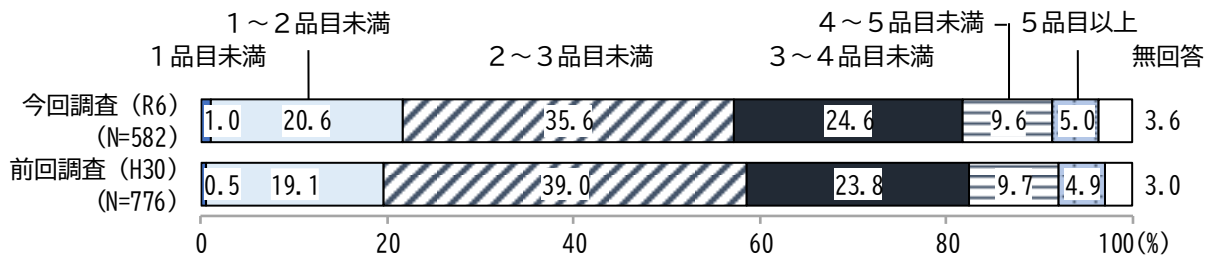
Ⅱ-3. 子どもの生活に関する調査

〔6〕最近3日間の朝食のメニュー

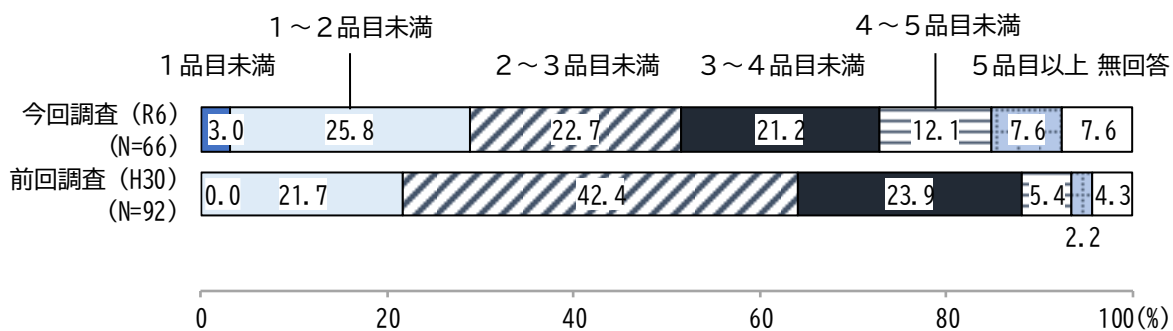
問B5-1 最近3日間の朝食のメニュー（献立）を教えてください。

例：「パン・卵焼き・牛乳」、「ごはん・味噌汁」 など

全体



母子世帯



【学年・生活困難度別】

			(MA%)						
			N	1品目未満	1～2品目未満	2～3品目未満	3～4品目未満	4～5品目未満	5品目以上
生活困難度別・学年	全体		582	1.0	20.6	35.6	24.6	9.6	5.0
	全体	生活困難世帯	58	0.0	27.6	34.5	22.4	8.6	1.7
		非生活困難世帯	482	1.2	20.1	36.1	25.9	9.5	5.2
	小学5年生	生活困難世帯	35	0.0	25.7	34.3	28.6	8.6	2.9
		非生活困難世帯	263	0.8	23.2	37.6	24.0	6.8	6.5
	中学2年生	生活困難世帯	23	0.0	30.4	34.8	13.0	8.7	0.0
		非生活困難世帯	217	1.8	16.6	34.6	28.1	12.4	3.7

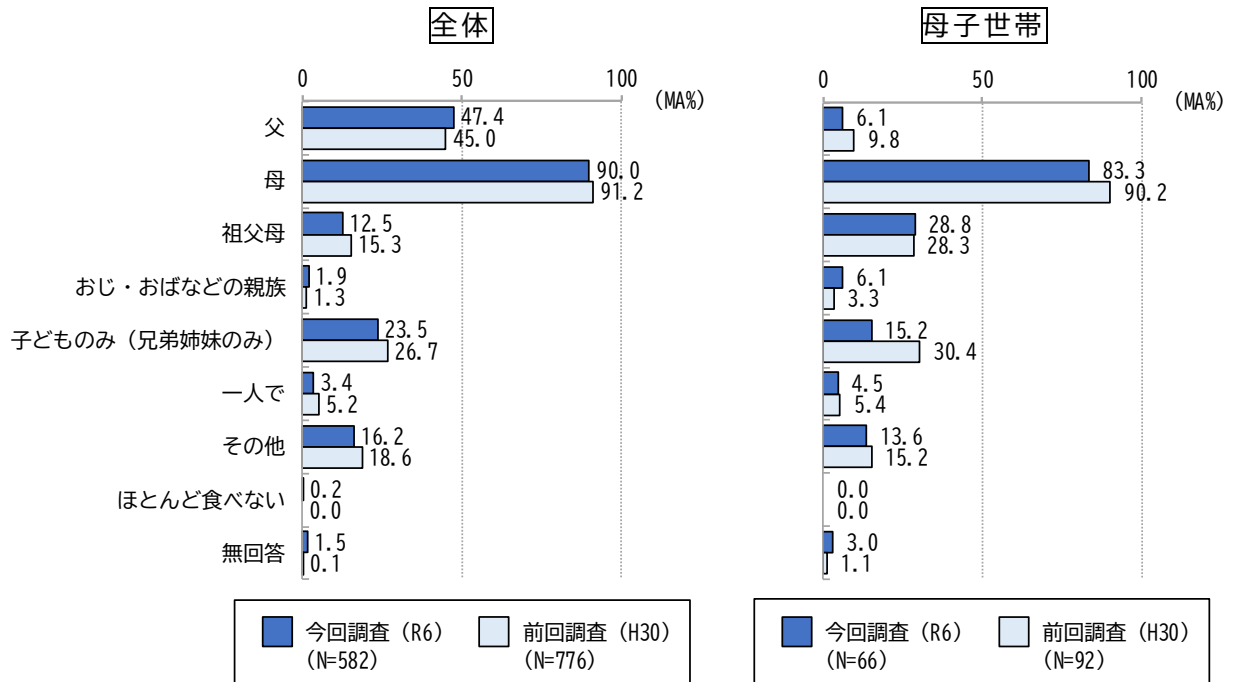
最近3日間の朝食メニューについては、「2～3品目未満」が35.6%と最も多く、次いで、「3～4品目未満」が24.6%となっています。

母子世帯では、「1～2品目未満」が25.8%と最も多く、次いで、「2～3品目未満」が22.7%となっています。

また、生活困難世帯では、「1～2品目未満」が27.6%と他に比べて高くなっています。

〔7〕夕飯を誰と食べることが多いか

問 B 6 お子さんは、夕飯を誰と食べる人が多いですか。最近 1 か月間の状況で、一緒に食べている方を選んでください。(あてはまる番号すべてに○)



【学年・母子父子世帯別】

			N	父	母	祖父母	親おじ・おばなどの族	姉妹の子どものみ (兄弟)	一人で	その他	ほとんど食べない	無回答
母子父子世帯別	全体	全体	582	47.4	90.0	12.5	1.9	23.5	3.4	16.2	0.2	1.5
		ひとり親家庭	92	22.8	78.3	25.0	5.4	15.2	3.3	15.2	0.0	3.3
		うち、母子世帯	66	6.1	83.3	28.8	6.1	15.2	4.5	13.6	0.0	3.0
		うち、父子世帯	26	65.4	65.4	15.4	3.8	15.4	0.0	19.2	0.0	3.8
	小学5年生	全体	319	48.9	91.5	14.4	1.9	25.1	2.2	16.3	0.0	0.3
		ひとり親家庭	51	23.5	80.4	31.4	3.9	17.6	0.0	15.7	0.0	0.0
		うち、母子世帯	37	8.1	83.8	37.8	5.4	13.5	0.0	13.5	0.0	0.0
		うち、父子世帯	14	64.3	71.4	14.3	0.0	28.6	0.0	21.4	0.0	0.0
	中学2年生	全体	255	46.7	90.2	10.6	2.0	22.0	5.1	16.5	0.4	0.8
		ひとり親家庭	38	23.7	81.6	18.4	7.9	13.2	7.9	15.8	0.0	0.0
		うち、母子世帯	27	3.7	88.9	18.5	7.4	18.5	11.1	14.8	0.0	0.0
		うち、父子世帯	11	72.7	63.6	18.2	9.1	0.0	0.0	18.2	0.0	0.0

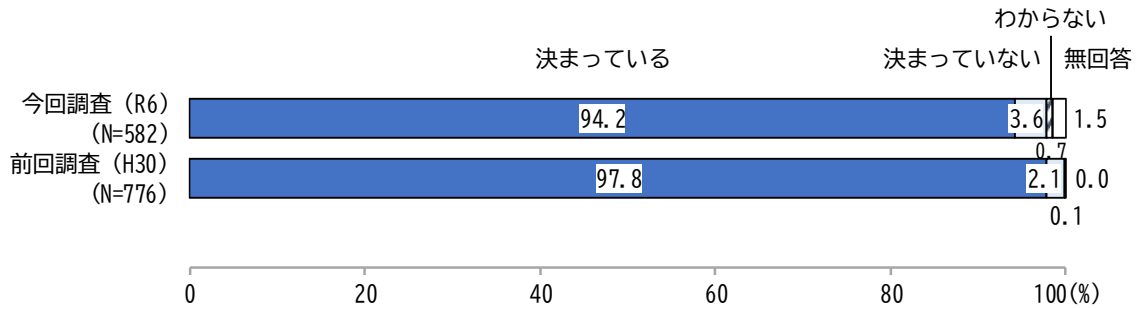
子どもが夕飯を誰と食べる人が多いかについては、「母」が 90.0%と最も多く、次いで、「父」が 47.4%となっています。

母子世帯では、「母」が 83.3%と最も多く、次いで、「祖父母」が 28.8%となっています。

Ⅱ-3. 子どもの生活に関する調査

〔8〕 平日の起床時間が決まっているか

問 B 7 お子さんが平日（月～金曜日）に起きる時間は、大体決まっていますか。
（1つに○）



【学年・母子父子世帯別／学年・生活困難度別】

			N	決ま つて いる	決ま つて い ない	わ か ら な い	無 回 答
学年・ 母子父子世帯別	全体	全体	582	94.2	3.6	0.7	1.5
		ひとり親家庭	92	91.3	5.4	0.0	3.3
		うち、母子世帯	66	89.4	7.6	0.0	3.0
		うち、父子世帯	26	96.2	0.0	0.0	3.8
	小学5年生	全体	319	97.2	2.2	0.3	0.3
		ひとり親家庭	51	96.1	3.9	0.0	0.0
		うち、母子世帯	37	94.6	5.4	0.0	0.0
		うち、父子世帯	14	100.0	0.0	0.0	0.0
	中学2年生	全体	255	92.5	5.5	1.2	0.8
		ひとり親家庭	38	92.1	7.9	0.0	0.0
		うち、母子世帯	27	88.9	11.1	0.0	0.0
		うち、父子世帯	11	100.0	0.0	0.0	0.0
学年・ 生活困難度別	全体	全体	582	94.2	3.6	0.7	1.5
		生活困難世帯	58	87.9	12.1	0.0	0.0
		非生活困難世帯	482	96.5	2.7	0.8	0.0
	小学5年生	生活困難世帯	35	97.1	2.9	0.0	0.0
		非生活困難世帯	263	97.3	2.3	0.4	0.0
	中学2年生	生活困難世帯	23	73.9	26.1	0.0	0.0
		非生活困難世帯	217	95.4	3.2	1.4	0.0

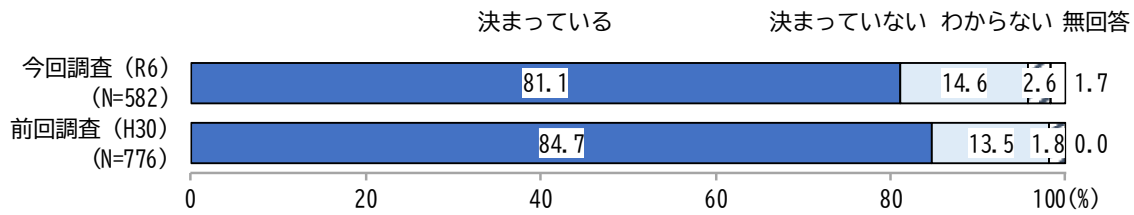
子どもの平日の起床時間については、「決まっている」が94.2%と多くなっています。

母子世帯でも、「決まっている」が89.4%と多くなっています。

また、生活困難世帯で、「決まっている」が87.9%、「決まっていない」が12.1%となっており、他の属性に比べて不規則な状況がうかがえます。

〔9〕 平日の就寝時間が決まっているか

問B8 お子さんが平日（月～金曜日）に寝る時間は、大体決まっていますか。（1つに○）



【学年・母子父子世帯別／学年・生活困難度別】

			N	(%)			
				決ま つて い る	決ま つて い ない	わ か ら ない	無 回 答
学年・ 母子父子世帯別	全体	全体	582	81.1	14.6	2.6	1.7
		ひとり親家庭	92	70.7	21.7	4.3	3.3
		うち、母子世帯	66	66.7	25.8	4.5	3.0
		うち、父子世帯	26	80.8	11.5	3.8	3.8
	小学5年生	全体	319	88.7	10.7	0.3	0.3
		ひとり親家庭	51	82.4	17.6	0.0	0.0
		うち、母子世帯	37	78.4	21.6	0.0	0.0
		うち、父子世帯	14	92.9	7.1	0.0	0.0
	中学2年生	全体	255	73.3	20.0	5.5	1.2
		ひとり親家庭	38	60.5	28.9	10.5	0.0
		うち、母子世帯	27	55.6	33.3	11.1	0.0
		うち、父子世帯	11	72.7	18.2	9.1	0.0
学年・ 生活困難度別	全体	全体	582	81.1	14.6	2.6	1.7
		生活困難世帯	58	72.4	25.9	1.7	0.0
		非生活困難世帯	482	83.4	13.5	2.9	0.2
	小学5年生	生活困難世帯	35	82.9	17.1	0.0	0.0
		非生活困難世帯	263	89.7	9.9	0.4	0.0
	中学2年生	生活困難世帯	23	56.5	39.1	4.3	0.0
		非生活困難世帯	217	75.6	18.0	6.0	0.5

子どもの平日の就寝時間については、「決まっている」が81.1%と多くなっています。

母子世帯でも、「決まっている」が66.7%と多くなっています。

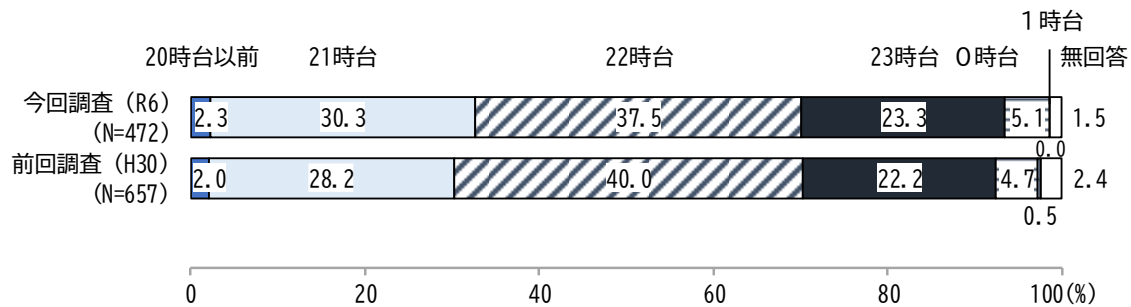
また、生活困難世帯では、「決まっている」が72.4%、「決まっていない」が25.9%と、起床時間よりもさらに不規則な生活傾向がうかがえます。

Ⅱ-3. 子どもの生活に関する調査

〔10〕 就寝時間

問 B 8 で、「決まっている」を選んだ方のみ

問 B 8-1 お子さんは何時ごろに寝ますか。24時間単位でお答えください。（数字を記入）※例えば、午後9時なら21時、深夜12時なら0時と書いてください。



【学年・母子父子世帯別／学年・生活困難度別】

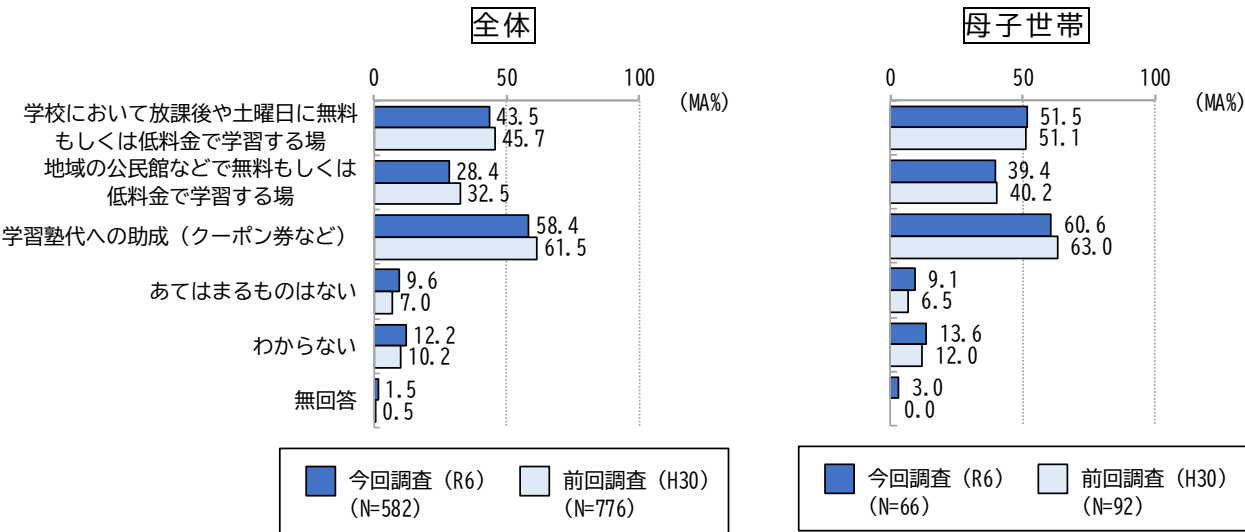
			N	20時台以前	21時台	22時台	23時台	0時台	1時台	(%) 無回答
学年・母子父子世帯別	全体	全体	472	2.3	30.3	37.5	23.3	5.1	0.0	1.5
		ひとり親家庭	65	1.5	30.8	41.5	24.6	1.5	0.0	0.0
		うち、母子世帯	44	0.0	29.5	43.2	25.0	2.3	0.0	0.0
		うち、父子世帯	21	4.8	33.3	38.1	23.8	0.0	0.0	0.0
	小学5年生	全体	283	2.1	47.3	43.1	6.0	0.4	0.0	1.1
		ひとり親家庭	42	0.0	40.5	47.6	11.9	0.0	0.0	0.0
		うち、母子世帯	29	0.0	37.9	48.3	13.8	0.0	0.0	0.0
		うち、父子世帯	13	0.0	46.2	46.2	7.7	0.0	0.0	0.0
	中学2年生	全体	187	2.7	4.3	29.4	49.2	12.3	0.0	2.1
		ひとり親家庭	23	4.3	13.0	30.4	47.8	4.3	0.0	0.0
学年・生活困難度別	全体	うち、母子世帯	15	0.0	13.3	33.3	46.7	6.7	0.0	0.0
		うち、父子世帯	8	12.5	12.5	25.0	50.0	0.0	0.0	0.0
	小学5年生	全体	472	2.3	30.3	37.5	23.3	5.1	0.0	1.5
		生活困難世帯	42	0.0	31.0	45.2	19.0	4.8	0.0	0.0
		非生活困難世帯	402	2.7	29.1	37.1	24.1	5.2	0.0	1.7
	中学2年生	生活困難世帯	29	0.0	37.9	55.2	6.9	0.0	0.0	0.0
		非生活困難世帯	236	2.5	46.6	43.2	5.9	0.4	0.0	1.3
		生活困難世帯	13	0.0	15.4	23.1	46.2	15.4	0.0	0.0
		非生活困難世帯	164	3.0	3.7	28.7	50.0	12.2	0.0	2.4

子どもの就寝時間が「決まっている」とお答えの方に、何時ごろに寝るかたずねたところ、「22 時台」が 37.5%と最も多く、次いで、「21 時台」が 30.3%となっています。

母子世帯でも、「22 時台」が 43.2%と最も多く、次いで、「21 時台」が 29.5%となっています。

〔11〕 子どもの学習に関して利用したい事業

問 B 9 お子さんの学習に関して、次のような事業があれば利用しますか。(あてはまる番号すべてに○)



【学年・生活困難度別】

		N	学校において放課後や土曜日に無料もしくは低料金で学習する場	地域の公民館などで無料もしくは低料金で学習する場	学習塾代への助成 (クーポン券など)	あてはまるものはない	わからない	無回答
生活困難度別・学年	全体	582	43.5	28.4	58.4	9.6	12.2	1.5
	生活困難世帯	58	65.5	34.5	56.9	12.1	10.3	0.0
	非生活困難世帯	482	41.7	27.6	59.5	9.5	12.0	0.0
	小学5年生	35	65.7	28.6	54.3	14.3	8.6	0.0
	非生活困難世帯	263	41.8	30.0	54.0	10.3	12.9	0.0
	中学2年生	23	65.2	43.5	60.9	8.7	13.0	0.0
	非生活困難世帯	217	41.9	24.9	65.9	8.8	11.1	0.0
	全体	582	43.5	28.4	58.4	9.6	12.2	1.5

子どもの学習に関してあれば利用する事業では、「学習塾代への助成 (クーポン券など)」が 58.4%と最も多く、次いで、「学校において放課後や土曜日に無料もしくは低料金で学習する場」が 43.5%となっています。

母子世帯でも、「学習塾代への助成 (クーポン券など)」が 60.6%と最も多く、次いで、「学校において放課後や土曜日に無料もしくは低料金で学習する場」が 51.5%となっています。

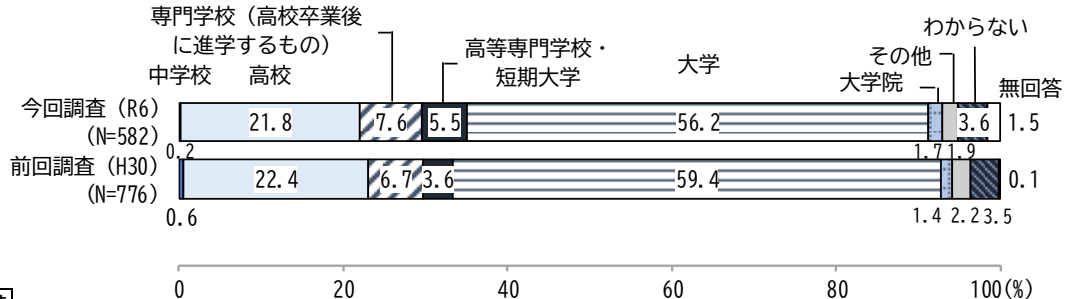
また、生活困難世帯で「学校において放課後や土曜日に無料もしくは低料金で学習する場」が 65.5%と高くなっています。

Ⅱ-3. 子どもの生活に関する調査

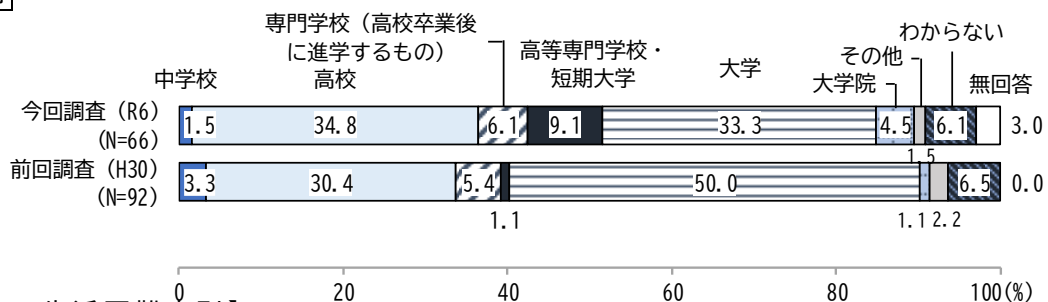
〔12〕子どもについて希望する学歴

問B10 お子さんについて、どの学校まで卒業してほしいと思いますか。(1つに○)

全体



母子世帯



【学年・生活困難度別】

		N	中学校	高校	の業専期高	大学	大学院	その他	わからない	無回答		
					（高校卒業後に進学するもの）							
生活困難度別・学年	全体	582	0.2	21.8	7.6	5.5	56.2	1.7	1.9	3.6	1.5	
	全体	生活困難世帯	58	0.0	41.4	5.2	10.3	37.9	0.0	3.4	1.7	0.0
		非生活困難世帯	482	0.0	18.5	8.3	5.0	60.6	1.9	1.7	4.1	0.0
	小学5年生	生活困難世帯	35	0.0	40.0	8.6	14.3	31.4	0.0	5.7	0.0	0.0
		非生活困難世帯	263	0.0	19.4	6.8	6.1	60.1	2.3	1.1	4.2	0.0
	中学2年生	生活困難世帯	23	0.0	43.5	0.0	4.3	47.8	0.0	0.0	4.3	0.0
		非生活困難世帯	217	0.0	17.5	9.7	3.7	61.3	1.4	2.3	4.1	0.0

子どもに望む最終学歴は、「大学」が56.2%と最も多く、次いで、「高校」が21.8%となっています。

母子世帯では、「高校」が34.8%と最も多く、次いで、「大学」が33.3%となっています。

また、生活困難世帯では「大学」が37.9%と低くなっています。

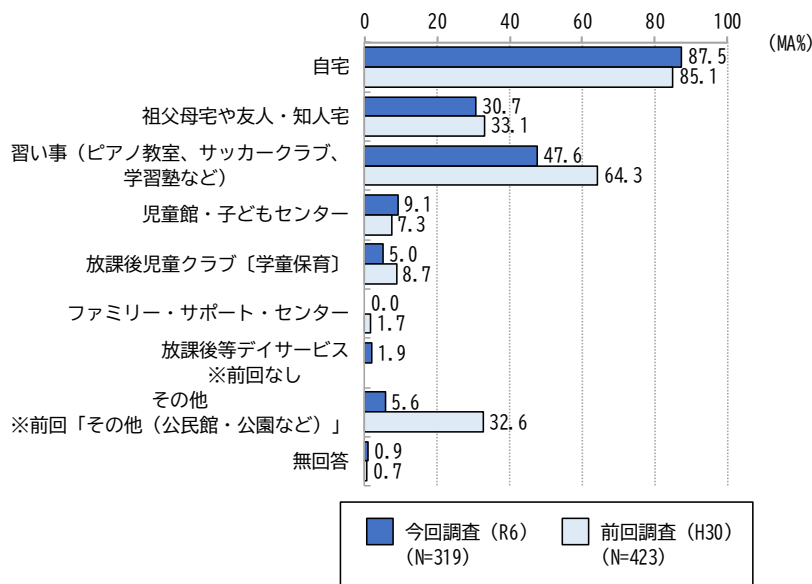
〔13〕 平日の放課後の過ごし方の希望

お子さんが小学5年生（令和6年3月1日現在）の方のみ

問B11 お子さんについて、放課後（平日の小学校終了後）の時間をどのような場所で過ごさせたいと思いますか。あてはまる番号すべてに○をつけ、それぞれ希望する週当たり日数を（ ）内に数字でご記入ください。また、「放課後児童クラブ」の場合には、利用を希望する時間も（ ）内に数字でご記入ください。時間は必ず（例）18時のように24時間制でご記入ください。これらの事業の利用にあたっては、一定の利用料がかかります。

「放課後児童クラブ」…地域によって学童保育などと呼ばれています。保護者が就労等により昼間家庭にいない場合などに、指導員の下、子どもの生活の場を提供するものです。

「ファミリー・サポート・センター」…子育てなどの援助をしてほしい人（依頼会員）と援助できる人（提供会員）が会員登録をして、援助を行う事業です。

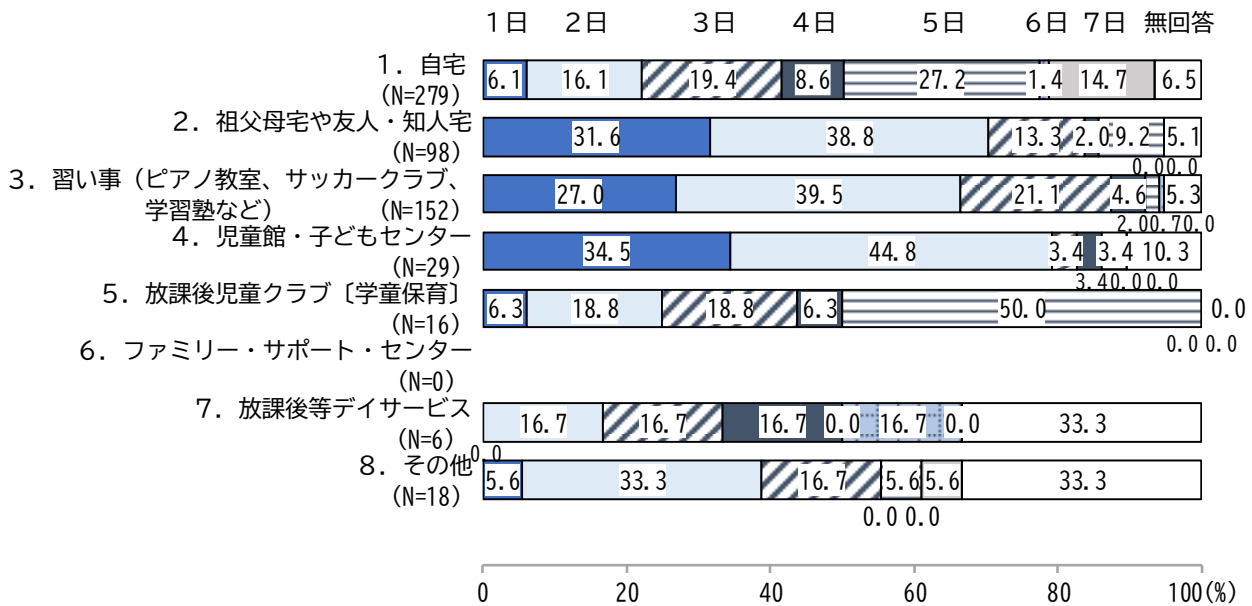


【母子父子世帯別／生活困難度別】

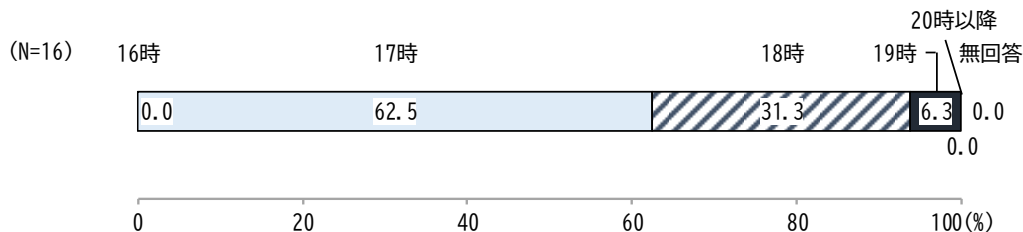
			N	(MA%)									
				自宅	祖父母宅や友人・知人宅	習い事（ピアノ教室、サッカークラブなど）	児童館・子どもセンター	放課後児童クラブ〔学童保育〕	ファミリー・サポート・センター	放課後等デイサービス	その他	無回答	
母子父子世帯別	小学5年生	全体	319	87.5	30.7	47.6	9.1	5.0	0.0	1.9	5.6	0.9	
		ひとり親家庭	51	80.4	35.3	31.4	5.9	9.8	0.0	0.0	11.8	2.0	
		うち、母子世帯	37	81.1	29.7	27.0	8.1	10.8	0.0	0.0	16.2	2.7	
		うち、父子世帯	14	78.6	50.0	42.9	0.0	7.1	0.0	0.0	0.0	0.0	
生活困難度別	小学5年生	全体	319	87.5	30.7	47.6	9.1	5.0	0.0	1.9	5.6	0.9	
		生活困難世帯	35	85.7	37.1	25.7	5.7	8.6	0.0	0.0	11.4	0.0	
		非生活困難世帯	263	87.1	30.4	50.6	9.9	4.9	0.0	2.3	5.3	0.8	

Ⅱ-3. 子どもの生活に関する調査

■ 週当たりの希望日数



■ 放課後児童クラブの利用希望終了時間



【母子父子世帯別】

			N	16時	17時	18時	19時	20時以降	無回答
母子父子世帯別	小学5年生	全体	16	0.0	62.5	31.3	6.3	0.0	0.0
		ひとり親家庭	5	0.0	60.0	40.0	0.0	0.0	0.0
		うち、母子世帯	4	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0
		うち、父子世帯	1	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0

子どもが小学5年生の方に、放課後（平日の小学校終了後）の時間をどのような場所で過ごさせたいと思うかについてたずねたところ、「自宅」が87.5%と最も多く、次いで、「習い事（ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など）」が47.6%となっています。母子世帯でも、「自宅」が81.1%と最も多くなっています。また、生活困難世帯では「習い事」が他の属性より低い一方、「祖父母宅や友人・知人宅」が他よりも高くなっています。

それぞれの過ごし方についての希望日数については、「自宅」では、「5日」が27.2%と最も多くなっています。

放課後児童クラブと答えの方の利用希望終了時間は、「17時」が62.5%と最も多く、次いで、「18時」が31.3%となっています。

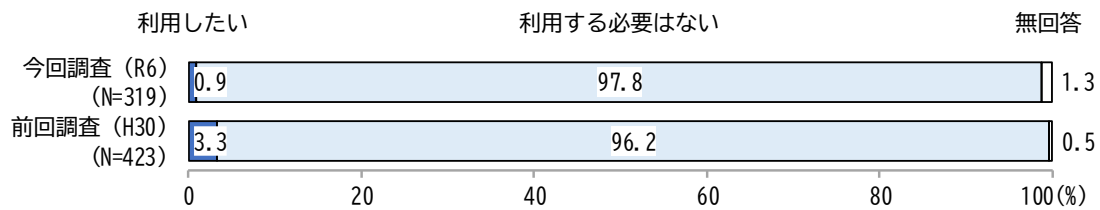
〔14〕 放課後児童クラブの利用希望

お子さんが小学5年生（令和6年3月1日現在）の方のみ

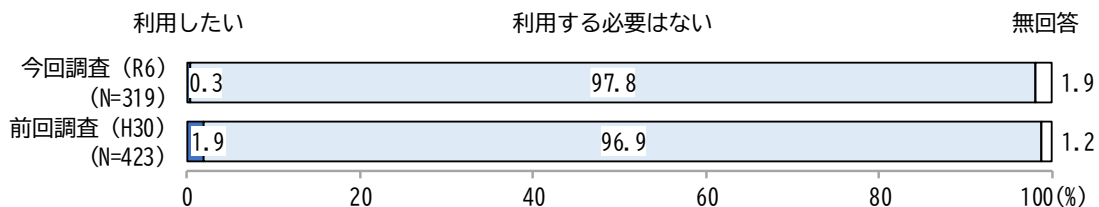
問B12 お子さんについて、土曜日と日曜日・祝日に、放課後児童クラブの利用希望はありますか。事業の利用には、一定の利用料がかかります。（1）（2）それぞれについて、当てはまる番号1つに○をつけてください。また利用したい時間帯を、（ ）内に（例）9時～18時のように24時間制でご記入ください。

■ 利用希望

【土曜日】



【日曜日・祝日】



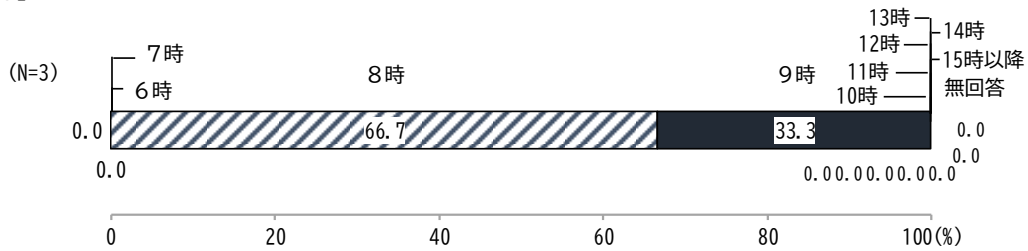
【母子父子世帯別／生活困難度別】

				N	利用 したい	利用 する必要は な	(%) 無回 答
【土曜日】							
子母 別世子 帯父	小学5年生	全体	319	0.9	97.8	1.3	
		ひとり親家庭	51	2.0	96.1	2.0	
		うち、母子世帯	37	0.0	97.3	2.7	
		うち、父子世帯	14	7.1	92.9	0.0	
度困生 別難活	小学5年生	全体	319	0.9	97.8	1.3	
		生活困難世帯	35	0.0	100.0	0.0	
		非生活困難世帯	263	1.1	98.1	0.8	
【日曜日・祝日】							
子母 別世子 帯父	小学5年生	全体	319	0.3	97.8	1.9	
		ひとり親家庭	51	0.0	98.0	2.0	
		うち、母子世帯	37	0.0	97.3	2.7	
		うち、父子世帯	14	0.0	100.0	0.0	
度困生 別難活	小学5年生	全体	319	0.3	97.8	1.9	
		生活困難世帯	35	0.0	100.0	0.0	
		非生活困難世帯	263	0.4	98.1	1.5	

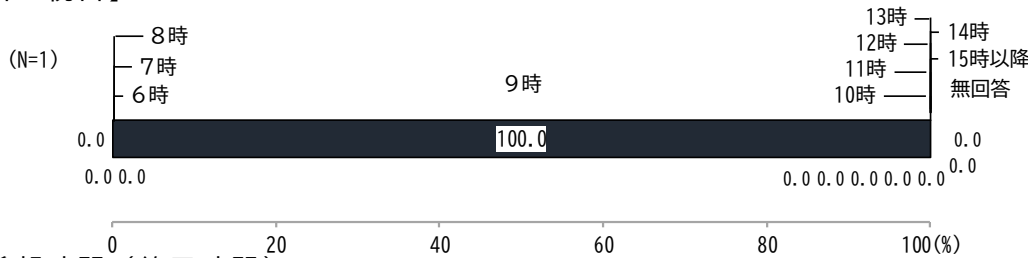
Ⅱ-3. 子どもの生活に関する調査

■ 利用希望時間（開始時間）

【土曜日】

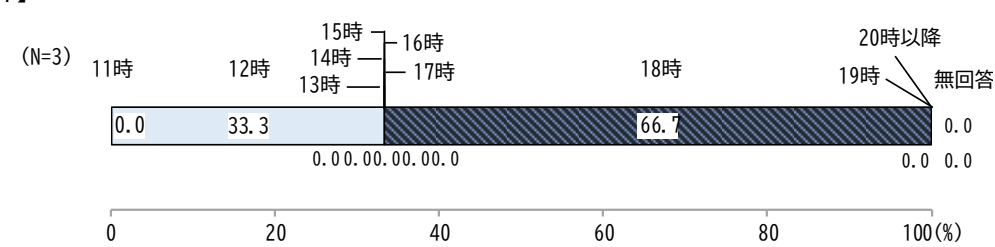


【日曜日・祝日】

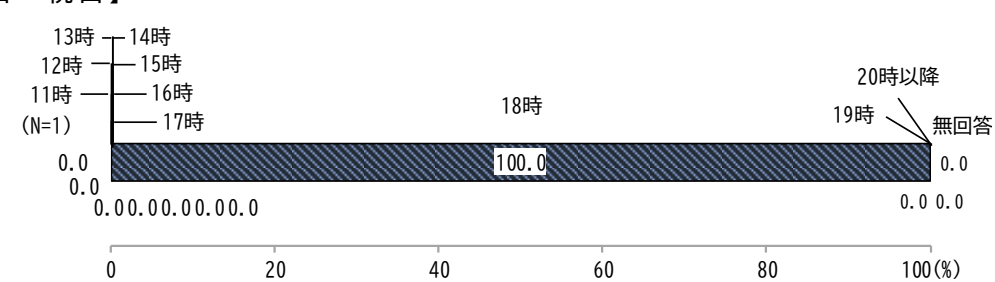


■ 利用希望時間（終了時間）

【土曜日】



【日曜日・祝日】



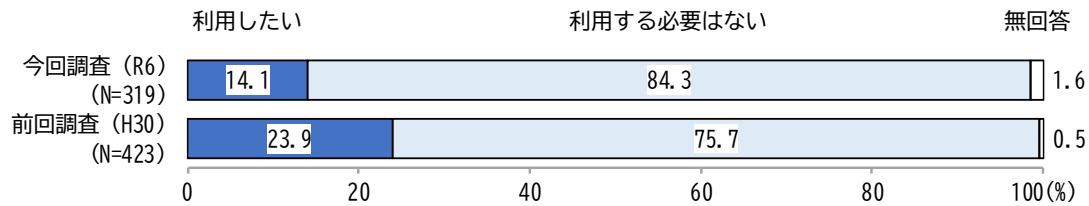
子どもが小学5年生の方に、土曜日と日曜日・祝日の、放課後児童クラブの利用希望についてたずねたところ、「利用する必要はない」が土曜日、日曜日・祝日ともに97.8%と多くなっています。母子世帯でも、「利用する必要はない」が土曜日、日曜日・祝日ともに97.3%と多くなっています。

〔15〕 長期休暇期間中の放課後児童クラブの利用希望

お子さんが小学5年生（令和6年3月1日現在）の方のみ

問B13 お子さんについて、夏休み・冬休みなどの長期の休暇期間中に、放課後児童クラブの利用希望はありますか。事業の利用には、一定の利用料がかかります。当てはまる番号1つに○をつけてください。また利用したい時間帯を、（ ）内に（例）9時～18時のように24時間制でご記入ください。

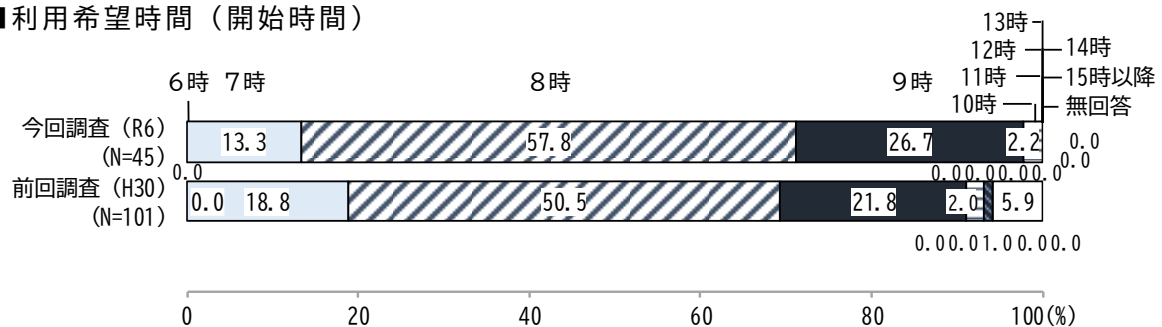
■ 利用希望



【母子父子世帯別／生活困難度別】

			N	利用したい (%)	利用する必要はない (%)	無回答 (%)
子母別世帯	小学5年生	全体	319	14.1	84.3	1.6
		ひとり親家庭	51	15.7	84.3	0.0
		うち、母子世帯	37	18.9	81.1	0.0
		うち、父子世帯	14	7.1	92.9	0.0
度困生別難活	小学5年生	全体	319	14.1	84.3	1.6
		生活困難世帯	35	14.3	85.7	0.0
		非生活困難世帯	263	14.4	84.8	0.8

■ 利用希望時間（開始時間）

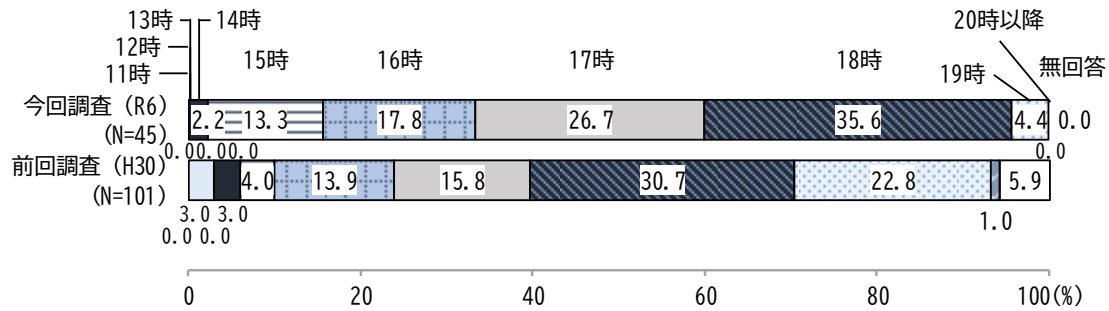


【母子父子世帯別／生活困難度別】

			N	6時 (%)	7時 (%)	8時 (%)	9時 (%)	10時 (%)	11時 (%)	12時 (%)	13時 (%)	14時 (%)	15時以降 (%)	無回答 (%)
子母別世帯	小学5年生	全体	45	0.0	13.3	57.8	26.7	2.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		ひとり親家庭	8	0.0	12.5	62.5	12.5	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		うち、母子世帯	7	0.0	14.3	57.1	14.3	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		うち、父子世帯	1	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
度困生別難活	小学5年生	全体	45	0.0	13.3	57.8	26.7	2.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		生活困難世帯	5	0.0	0.0	60.0	40.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		非生活困難世帯	38	0.0	15.8	57.9	23.7	2.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

Ⅱ-3. 子どもの生活に関する調査

■ 利用希望時間（終了時間）



【母子父子世帯別／生活困難度別】

			N	1 1 時	1 2 時	1 3 時	1 4 時	1 5 時	1 6 時	1 7 時	1 8 時	1 9 時	2 0 時 以 降	無 回 答	(%)
子 母 別 世 帯 父	小 学 5 年 生	全 体	45	0.0	0.0	0.0	2.2	13.3	17.8	26.7	35.6	4.4	0.0	0.0	
		ひ と り 親 家 庭	8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	12.5	25.0	50.0	12.5	0.0	0.0	
		う ち 、 母 子 世 帯	7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3	28.6	42.9	14.3	0.0	0.0	
		う ち 、 父 子 世 帯	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	
度 困 生 別 難 活	小 学 5 年 生	全 体	45	0.0	0.0	0.0	2.2	13.3	17.8	26.7	35.6	4.4	0.0	0.0	
		生 活 困 難 世 帯	5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	40.0	20.0	40.0	0.0	0.0	0.0	
		非 生 活 困 難 世 帯	38	0.0	0.0	0.0	2.6	13.2	15.8	28.9	34.2	5.3	0.0	0.0	

子どもが小学5年生の方に、夏休み・冬休みなどの長期の休暇期間中の、放課後児童クラブの利用希望についてたずねたところ、「利用する必要はない」が84.3%と多くなっています。母子世帯でも、「利用する必要はない」が81.1%と多くなっています。

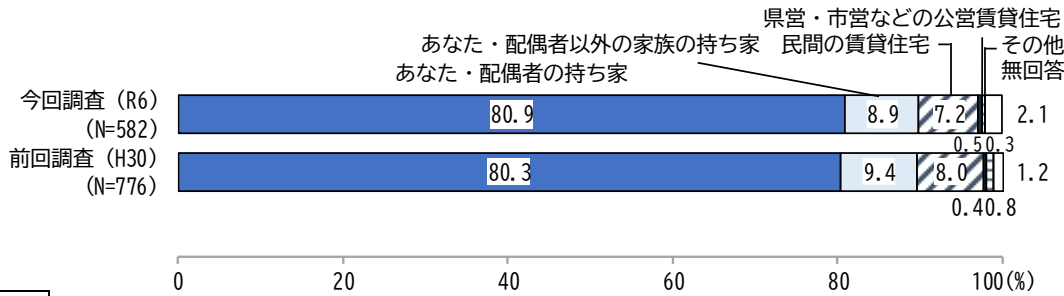
利用を希望される方の、利用希望時間（開始時間）は、「8時」が57.8%、利用希望時間（終了時間）は、「18時」が35.6%と最も多くなっています。母子世帯では、利用希望時間（開始時間）は、「8時」が57.1%、利用希望時間（終了時間）は、「18時」が42.9%と最も多くなっています。

C 世帯の状況

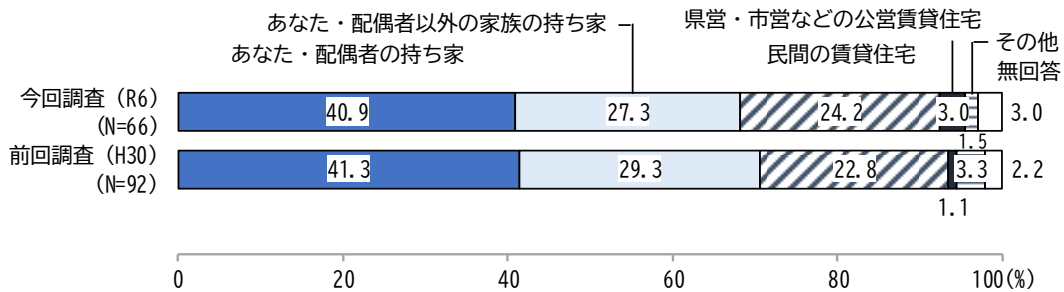
〔1〕世帯の状況

問CⅠ 現在のお住まいの状況について教えてください。(1つに○)

全体



母子世帯



【学年・生活困難度別】

			N						(%)
学年・生活困難度別	全体		582	あなた・配偶者の持ち家	あなた・配偶者以外の家族の持ち家	民間の賃貸住宅	県営・市営などの公営賃貸住宅	その他	無回答
	全体	生活困難世帯	58	80.9	8.9	7.2	0.5	0.3	2.1
		非生活困難世帯	482	50.0	27.6	20.7	1.7	0.0	0.0
	小学5年生	生活困難世帯	35	86.5	6.4	6.2	0.4	0.4	0.0
		非生活困難世帯	263	48.6	28.6	20.0	2.9	0.0	0.0
	中学2年生	生活困難世帯	23	84.0	8.4	6.8	0.0	0.8	0.0
		非生活困難世帯	217	52.2	26.1	21.7	0.0	0.0	0.0
	全体		217	89.4	4.1	5.5	0.9	0.0	0.0

現在の住まいの状況については、「あなた・配偶者の持ち家」が80.9%と最も多くなっています。

母子世帯でも、「あなた・配偶者の持ち家」が40.9%と最も多くなっています。

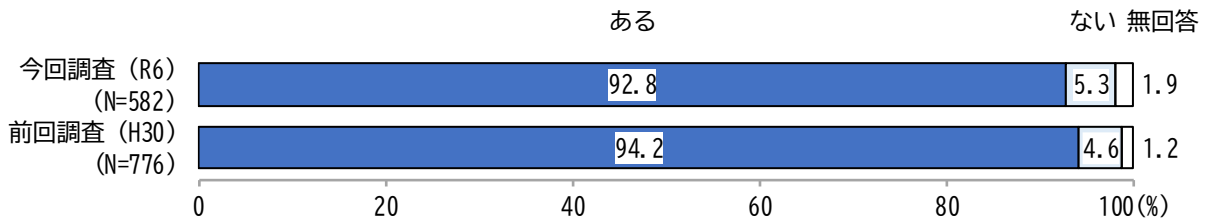
また、生活困難世帯では「あなた・配偶者の持ち家」は50.0%と、非生活困難世帯の86.5%よりも低く、「民間の賃貸住宅」が20.7%となっています。

Ⅱ-3. 子どもの生活に関する調査

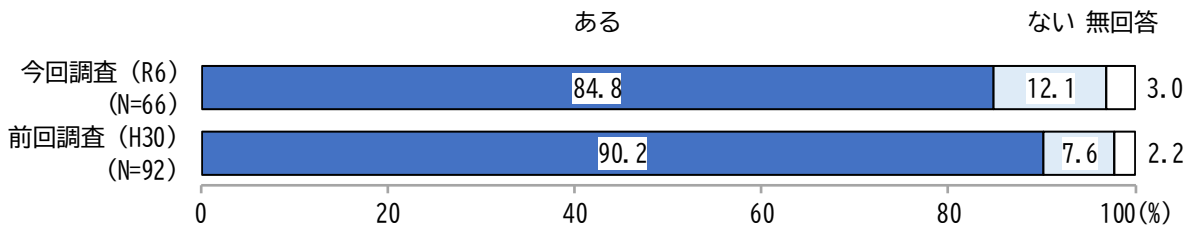
〔2〕 落ち着いて宿題などができる場所の有無

問 C 1-1 現在の住居には、お子さんが落ち着いて宿題などができる場所がありますか。(1つに○)

全体



母子世帯



【学年・生活困難度別】

			N	ある	ない	(%) 無回答
生活困難度別 学年・	全体		582	92.8	5.3	1.9
	全体	生活困難世帯	58	79.3	20.7	0.0
		非生活困難世帯	482	96.3	3.7	0.0
	小学5年生	生活困難世帯	35	77.1	22.9	0.0
		非生活困難世帯	263	96.6	3.4	0.0
	中学2年生	生活困難世帯	23	82.6	17.4	0.0
		非生活困難世帯	217	95.9	4.1	0.0

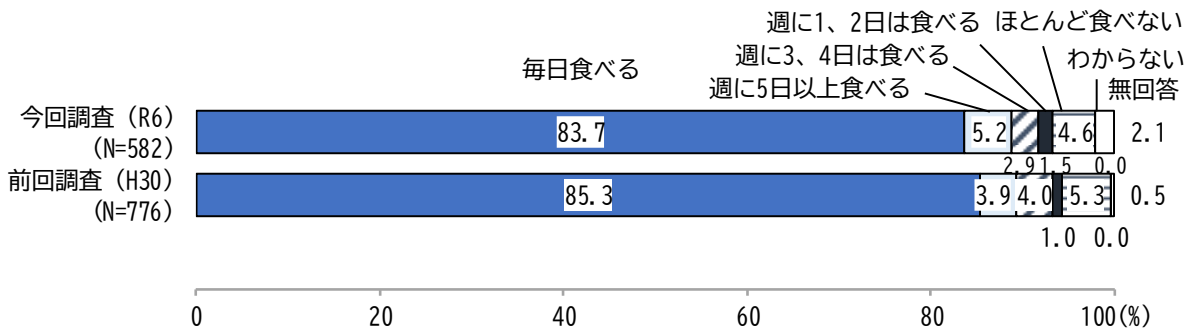
現在の住居に、子どもが落ち着いて勉強できる場所があるかについては、「ある」が92.8%と多くなっています。

母子世帯でも、「ある」が84.8%と多くなっています。

また、生活困難世帯では「ある」との回答割合が非生活困難世帯よりも低く、「ない」が高くなっています。

〔3〕朝食の頻度

問C2 あなたは、1週間に朝食をどれくらい食べていますか。最近1か月間の状況で、一番近いと思うものを選んでください。(1つに○)



【学年・母子父子世帯別／学年・生活困難度別】

			N	毎日 食べる	週に 5日 以上 食べ る	週に 3、 4日 は食 べる	週に 1、 2日 は食 べる	ほと んど 食べ ない	わ か ら な い	(%) 無 回 答
学年・ 母子 父子 世帯 別	全体	全体	582	83.7	5.2	2.9	1.5	4.6	0.0	2.1
		ひとり親家庭	92	76.1	4.3	3.3	2.2	10.9	0.0	3.3
		うち、母子世帯	66	71.2	4.5	4.5	3.0	13.6	0.0	3.0
		うち、父子世帯	26	88.5	3.8	0.0	0.0	3.8	0.0	3.8
	小学5年生	全体	319	86.5	4.4	2.8	0.9	4.7	0.0	0.6
		ひとり親家庭	51	82.4	3.9	3.9	0.0	9.8	0.0	0.0
		うち、母子世帯	37	78.4	5.4	5.4	0.0	10.8	0.0	0.0
		うち、父子世帯	14	92.9	0.0	0.0	0.0	7.1	0.0	0.0
	中学2年生	全体	255	82.0	6.3	3.1	2.4	4.7	0.0	1.6
		ひとり親家庭	38	73.7	5.3	2.6	5.3	13.2	0.0	0.0
		うち、母子世帯	27	66.7	3.7	3.7	7.4	18.5	0.0	0.0
		うち、父子世帯	11	90.9	9.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
年度別 生活困	全体	582	83.7	5.2	2.9	1.5	4.6	0.0	2.1	
	全体	生活困難世帯	58	75.9	3.4	3.4	3.4	13.8	0.0	0.0
		非生活困難世帯	482	86.7	5.4	2.9	1.5	3.5	0.0	0.0
	小学5年生	生活困難世帯	35	80.0	5.7	2.9	0.0	11.4	0.0	0.0
		非生活困難世帯	263	88.2	4.2	3.0	1.1	3.4	0.0	0.0
	中学2年生	生活困難世帯	23	69.6	0.0	4.3	8.7	17.4	0.0	0.0
		非生活困難世帯	217	84.8	6.9	2.8	1.8	3.7	0.0	0.0

1週間に朝食をどれくらい食べるかについては、「毎日食べる」が83.7%と最も多くなっています。

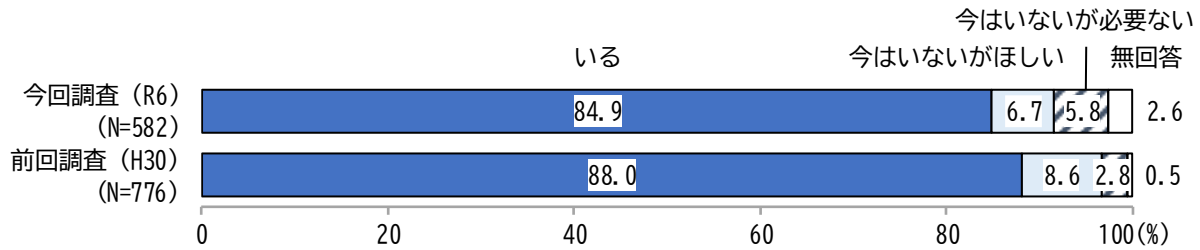
母子世帯でも、「毎日食べる」が71.2%と最も多くなっています。

また、小学5年生のいる生活困難世帯では「毎日食べる」との回答割合が非生活困難世帯よりも低くなっています。

Ⅱ-3. 子どもの生活に関する調査

〔４〕心おきなく相談できる相手の有無

問Ｃ３ あなたには、現在、心おきなく相談できる相手がありますか。（１つに○）



【学年・母子父子世帯別／学年・生活困難度別】

			N	いる	今はいないがほしい	今はいないが必要ない	(%) 無回答
学年・母子父子世帯別	全体	全体	582	84.9	6.7	5.8	2.6
		ひとり親家庭	92	78.3	10.9	6.5	4.3
		うち、母子世帯	66	78.8	10.6	7.6	3.0
		うち、父子世帯	26	76.9	11.5	3.8	7.7
	小学5年生	全体	319	87.8	4.7	6.3	1.3
		ひとり親家庭	51	80.4	9.8	7.8	2.0
		うち、母子世帯	37	81.1	10.8	8.1	0.0
		うち、父子世帯	14	78.6	7.1	7.1	7.1
	中学2年生	全体	255	83.1	9.4	5.5	2.0
		ひとり親家庭	38	81.6	13.2	5.3	0.0
		うち、母子世帯	27	81.5	11.1	7.4	0.0
		うち、父子世帯	11	81.8	18.2	0.0	0.0
学年・生活困難度別	全体		582	84.9	6.7	5.8	2.6
	全体	生活困難世帯	58	86.2	12.1	1.7	0.0
		非生活困難世帯	482	86.9	6.2	6.6	0.2
	小学5年生	生活困難世帯	35	88.6	11.4	0.0	0.0
		非生活困難世帯	263	88.2	3.8	7.6	0.4
	中学2年生	生活困難世帯	23	82.6	13.0	4.3	0.0
		非生活困難世帯	217	85.3	9.2	5.5	0.0

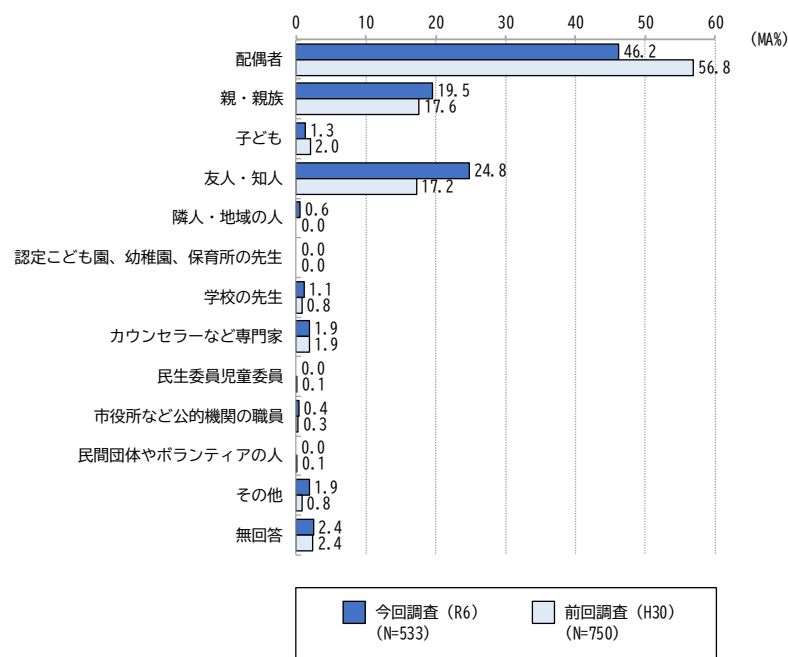
心おきなく相談できる相手がいるかについては、「いる」が 84.9%と最も多くなっています。

母子世帯でも、「いる」が 78.8%と最も多くなっています。

また、生活困難世帯では、「今はいないがほしい」が 12.1%と高くなっています。

〔5〕相談相手

問C3で「いる」または「今はないがほしい」を選んだ方のみ
問C4 その相談相手はどなたですか。(1つに○)



【母子父子世帯別／生活困難度別／相談相手の有無別】

		N													(%)	
			配偶者	親・親族	子ども	友人・知人	隣人・地域の人	生 稚 園、 保 育 所 の 先 生	認 定 こ ど も 園、 幼 稚 園	学 校 の 先 生	専 門 家 カ ウ ン セ ラ ー な ど	民 生 委 員 児 童 委 員	関 の 役 所 な ど 公 的 機 関 の 職 員	民 間 団 体 や ボ ラ ン テ ィ ア の 人	そ の 他	無 回 答
母子父子世帯別	全体	533	46.2	19.5	1.3	24.8	0.6	0.0	0.0	1.1	1.9	0.0	0.4	0.0	1.9	2.4
	ひとり親家庭	82	17.1	37.8	2.4	34.1	0.0	0.0	0.0	0.0	2.4	0.0	0.0	0.0	1.2	4.9
	うち、母子世帯	59	10.2	44.1	1.7	37.3	0.0	0.0	0.0	0.0	1.7	0.0	0.0	0.0	1.7	3.4
	うち、父子世帯	23	34.8	21.7	4.3	26.1	0.0	0.0	0.0	0.0	4.3	0.0	0.0	0.0	0.0	8.7
生活困難度別	全体	533	46.2	19.5	1.3	24.8	0.6	0.0	0.0	1.1	1.9	0.0	0.4	0.0	1.9	2.4
	生活困難世帯	57	33.3	24.6	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	1.8	0.0	0.0	0.0	1.8	5.3
	非生活困難世帯	449	47.9	18.0	1.6	24.7	0.7	0.0	0.0	1.1	2.0	0.0	0.4	0.0	1.8	1.8
相談相手の有無別	全体	533	46.2	19.5	1.3	24.8	0.6	0.0	0.0	1.1	1.9	0.0	0.4	0.0	1.9	2.4
	いる	494	49.2	20.9	1.2	23.7	0.6	0.0	0.0	1.2	1.0	0.0	0.4	0.0	1.8	0.0
	今はないがほしい	39	7.7	2.6	2.6	38.5	0.0	0.0	0.0	0.0	12.8	0.0	0.0	0.0	2.6	33.3

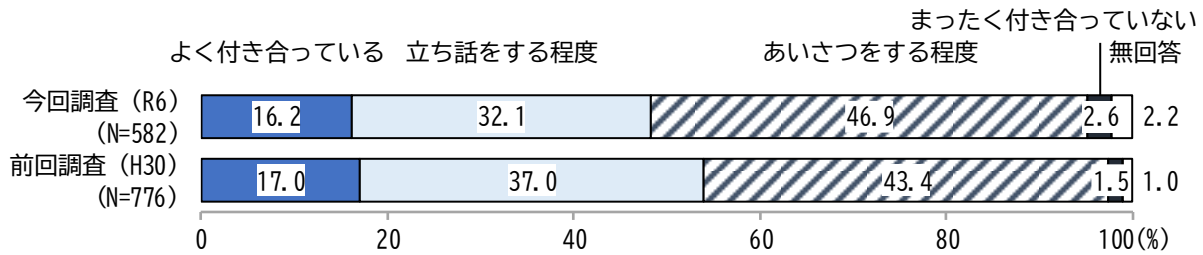
心おきなく相談できる相手が「いる」、「今はないがほしい」とお答えの方の相談相手は、「配偶者」が46.2%と最も多く、次いで、「友人・知人」が24.8%となっています。

母子世帯では、「親・親族」が44.1%と最も多く、次いで、「友人・知人」が37.3%となっています。

Ⅱ-3. 子どもの生活に関する調査

〔6〕 地域での付き合い

問 C 5 あなたは、地域での付き合いをどの程度していますか。(1つに○)



【学年・母子父子世帯別／学年・生活困難度別】

			N	よく付き合っている 立ち話をする程度	あいさつをする程度	まったく付き合っていない	無回答
学年・母子父子世帯別	全体	全体	582	16.2	32.1	46.9	2.6
		ひとり親家庭	92	15.2	26.1	47.8	7.6
		うち、母子世帯	66	16.7	25.8	45.5	9.1
		うち、父子世帯	26	11.5	26.9	53.8	3.8
	小学5年生	全体	319	19.1	32.3	44.8	2.8
		ひとり親家庭	51	17.6	25.5	49.0	7.8
		うち、母子世帯	37	18.9	24.3	45.9	10.8
		うち、父子世帯	14	14.3	28.6	57.1	0.0
	中学2年生	全体	255	12.5	32.5	51.0	2.4
		ひとり親家庭	38	13.2	28.9	50.0	7.9
		うち、母子世帯	27	14.8	29.6	48.1	7.4
		うち、父子世帯	11	9.1	27.3	54.5	9.1
学年・生活困難度別	全体	全体	582	16.2	32.1	46.9	2.6
		生活困難世帯	58	12.1	32.8	50.0	5.2
		非生活困難世帯	482	17.4	33.4	46.9	2.3
	小学5年生	生活困難世帯	35	14.3	34.3	48.6	2.9
		非生活困難世帯	263	20.5	33.5	43.3	2.7
	中学2年生	生活困難世帯	23	8.7	30.4	52.2	8.7
		非生活困難世帯	217	13.4	33.2	51.6	1.8

地域での付き合いの程度については、「あいさつをする程度」が46.9%と最も多く、次いで、「立ち話をする程度」が32.1%となっています。

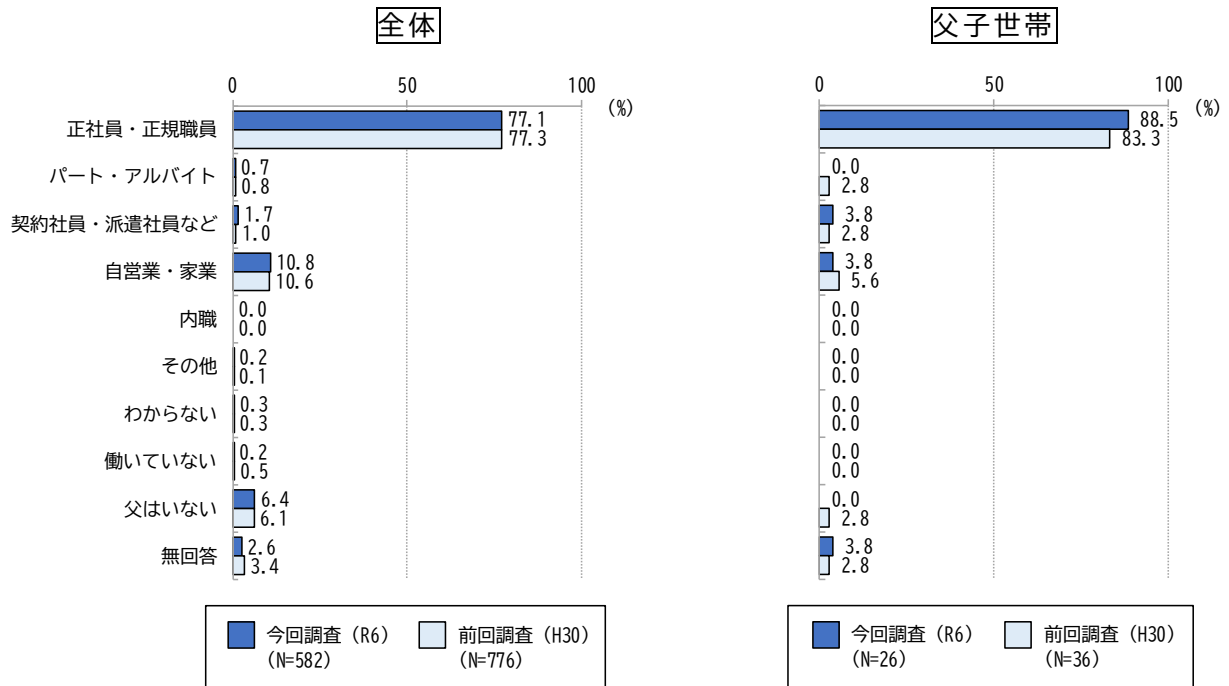
母子世帯でも、「あいさつをする程度」が45.5%と最も多く、次いで、「立ち話をする程度」が25.8%となっています。

また、母子世帯や生活困難世帯で「まったく付き合っていない」が5%以上と全体を上回っています。

〔7〕保護者の就労状況

問C6 お子さんのお父さん・お母さんの働き方を、それぞれお答えください。今後復帰予定の方は、予定されている働き方をお答えください。(①②それぞれについて、1つに○)
お父さん・お母さんがいない場合は、主に子育てをされている方の働き方を③にお答えください。(お子さんとの続柄を()に記入してください。)

【父親】

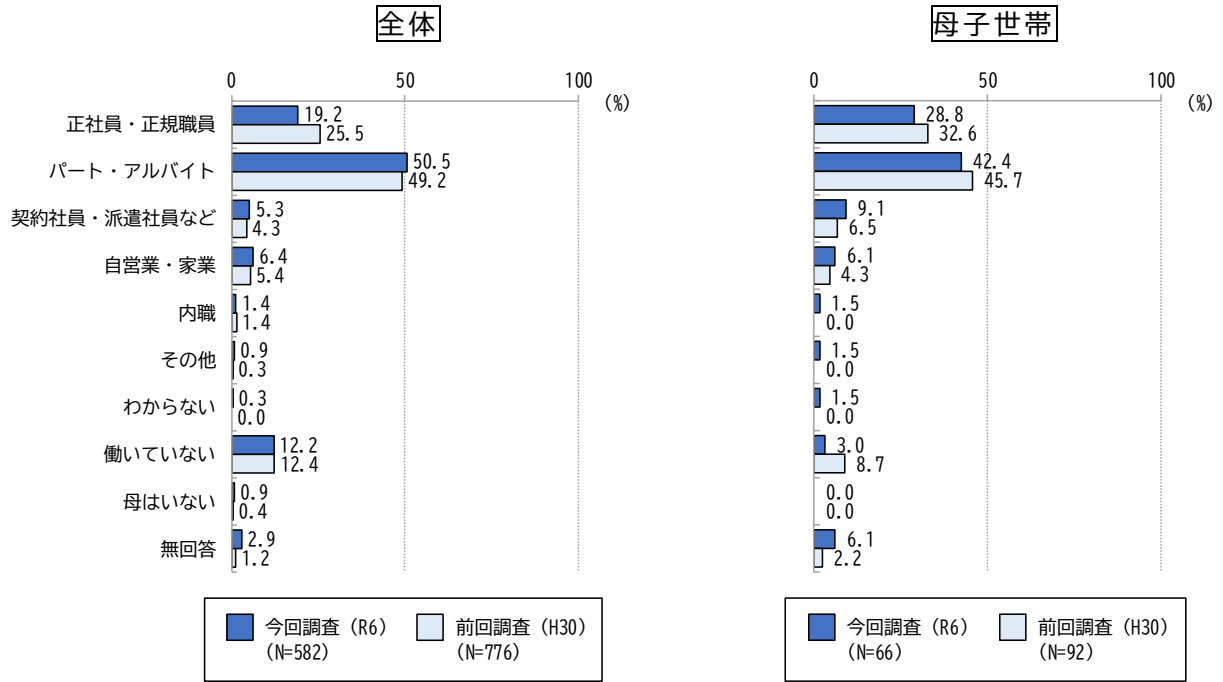


【学年・母子父子世帯別／学年・生活困難度別】

			N	正社員・正規職員	パート・アルバイト	契約社員・派遣社員など	自営業・家業	内職	その他	わからない	働いていない	父はいない	無回答
学年・母子父子世帯別	全体	全体	582	77.1	0.7	1.7	10.8	0.0	0.2	0.3	0.2	6.4	2.6
		ひとり親家庭	92	43.5	1.1	3.3	5.4	0.0	0.0	1.1	1.1	40.2	4.3
		うち、母子世帯	66	25.8	1.5	3.0	6.1	0.0	0.0	1.5	1.5	56.1	4.5
		うち、父子世帯	26	88.5	0.0	3.8	3.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.8
	小学5年生	全体	319	76.5	0.9	1.3	12.2	0.0	0.0	0.6	0.0	6.9	1.6
		ひとり親家庭	51	45.1	0.0	3.9	3.9	0.0	0.0	2.0	0.0	43.1	2.0
		うち、母子世帯	37	27.0	0.0	2.7	5.4	0.0	0.0	2.7	0.0	59.5	2.7
		うち、父子世帯	14	92.9	0.0	7.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	中学2年生	全体	255	79.6	0.4	2.4	9.4	0.0	0.4	0.0	0.4	5.9	1.6
		ひとり親家庭	38	44.7	2.6	2.6	7.9	0.0	0.0	0.0	2.6	39.5	0.0
		うち、母子世帯	27	25.9	3.7	3.7	7.4	0.0	0.0	0.0	3.7	55.6	0.0
		うち、父子世帯	11	90.9	0.0	0.0	9.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
学年・生活困難度別	全体	全体	582	77.1	0.7	1.7	10.8	0.0	0.2	0.3	0.2	6.4	2.6
		生活困難世帯	58	34.5	3.4	5.2	19.0	0.0	0.0	0.0	1.7	36.2	0.0
		非生活困難世帯	482	84.2	0.4	1.5	10.0	0.0	0.2	0.2	0.0	2.9	0.6
	小学5年生	生活困難世帯	35	40.0	2.9	5.7	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	31.4	0.0
		非生活困難世帯	263	82.5	0.8	0.8	11.0	0.0	0.0	0.4	0.0	3.4	1.1
	中学2年生	生活困難世帯	23	26.1	4.3	4.3	17.4	0.0	0.0	0.0	4.3	43.5	0.0
		非生活困難世帯	217	86.2	0.0	2.3	8.8	0.0	0.5	0.0	0.0	2.3	0.0

Ⅱ-3. 子どもの生活に関する調査

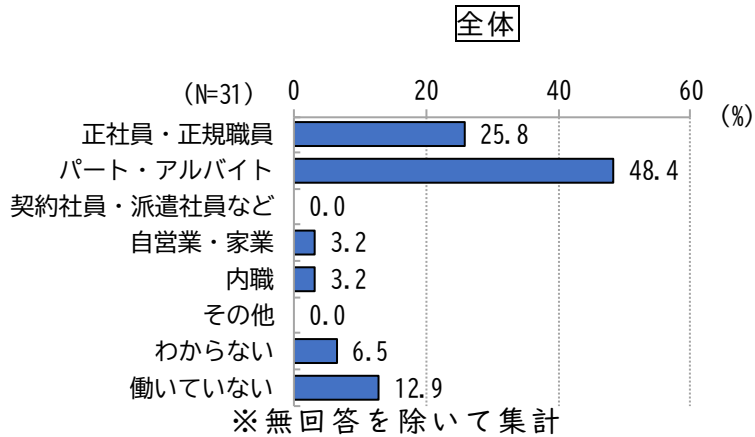
【母親】



【学年・母子父子世帯別／学年・生活困難度別】

			N	正社員・正規職員	パート・アルバイト	契約社員・派遣社員など	自営業・家業	内職	その他	わからない	働いていない	母はいない	無回答
学年・母子父子世帯別	全体	全体	582	19.2	50.5	5.3	6.4	1.4	0.9	0.3	12.2	0.9	2.9
		ひとり親家庭	92	29.3	39.1	7.6	5.4	1.1	1.1	1.1	3.3	5.4	6.5
		うち、母子世帯	66	28.8	42.4	9.1	6.1	1.5	1.5	1.5	3.0	0.0	6.1
		うち、父子世帯	26	30.8	30.8	3.8	3.8	0.0	0.0	0.0	3.8	19.2	7.7
	小学5年生	全体	319	20.1	50.5	4.7	7.8	1.6	0.6	0.0	12.5	0.6	1.6
		ひとり親家庭	51	35.3	35.3	11.8	5.9	2.0	0.0	0.0	2.0	3.9	3.9
		うち、母子世帯	37	32.4	43.2	13.5	5.4	2.7	0.0	0.0	0.0	0.0	2.7
		うち、父子世帯	14	42.9	14.3	7.1	7.1	0.0	0.0	0.0	7.1	14.3	7.1
	中学2年生	全体	255	18.8	51.4	6.3	4.7	1.2	1.2	0.8	12.2	1.2	2.4
		ひとり親家庭	38	23.7	47.4	2.6	5.3	0.0	2.6	2.6	5.3	7.9	2.6
		うち、母子世帯	27	25.9	44.4	3.7	7.4	0.0	3.7	3.7	7.4	0.0	3.7
		うち、父子世帯	11	18.2	54.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	27.3	0.0	0.0
学年・生活困難度別	全体		582	19.2	50.5	5.3	6.4	1.4	0.9	0.3	12.2	0.9	2.9
	全体	生活困難世帯	58	20.7	37.9	12.1	8.6	0.0	3.4	3.4	12.1	0.0	1.7
		非生活困難世帯	482	20.1	53.9	4.6	6.2	1.7	0.6	0.0	11.6	0.8	0.4
	小学5年生	生活困難世帯	35	20.0	42.9	14.3	11.4	0.0	0.0	0.0	11.4	0.0	0.0
		非生活困難世帯	263	21.3	52.5	3.4	7.2	1.9	0.8	0.0	11.4	0.8	0.8
	中学2年生	生活困難世帯	23	21.7	30.4	8.7	4.3	0.0	8.7	8.7	13.0	0.0	4.3
		非生活困難世帯	217	18.9	55.3	6.0	5.1	1.4	0.5	0.0	12.0	0.9	0.0

【父母以外】



父親の働き方は、「正社員・正規職員」が 77.1%と最も多く、次いで、「自営業・家業」が 10.8%となっています。母子世帯では、「父はいない」が 56.1%と最も多くなっています。

母親の働き方は、「パート・アルバイト」が 50.5%と最も多く、次いで、「正社員・正規職員」が 19.2%となっています。母子世帯でも、「パート・アルバイト」が 42.4%と最も多く、次いで、「正社員・正規職員」が 28.8%となっています。

父母以外の働き方は、「パート・アルバイト」が 48.4%と最も多くなっています。

また、生活困難世帯について、父親は、「正社員・正規職員」が 34.5%と低くなっており、「父はいない」が 36.2%と高くなっています。母親については、「パート・アルバイト」が 37.9%と低くなっています。

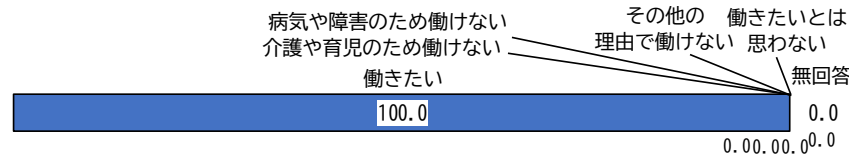
Ⅱ-3. 子どもの生活に関する調査

「働いていない」を選んだ方のみ

働きたいと思うかについてうかがいます。

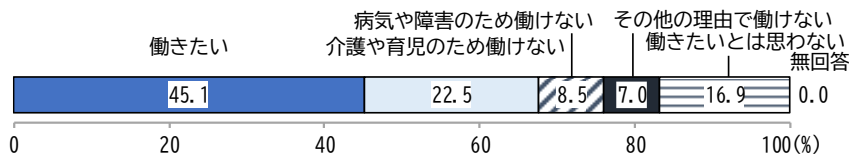
【父親】

(N=1)



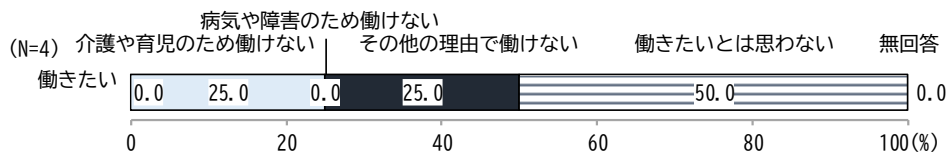
【母親】

(N=71)



【父母以外】

(N=4)



【母子世帯別（母親）】

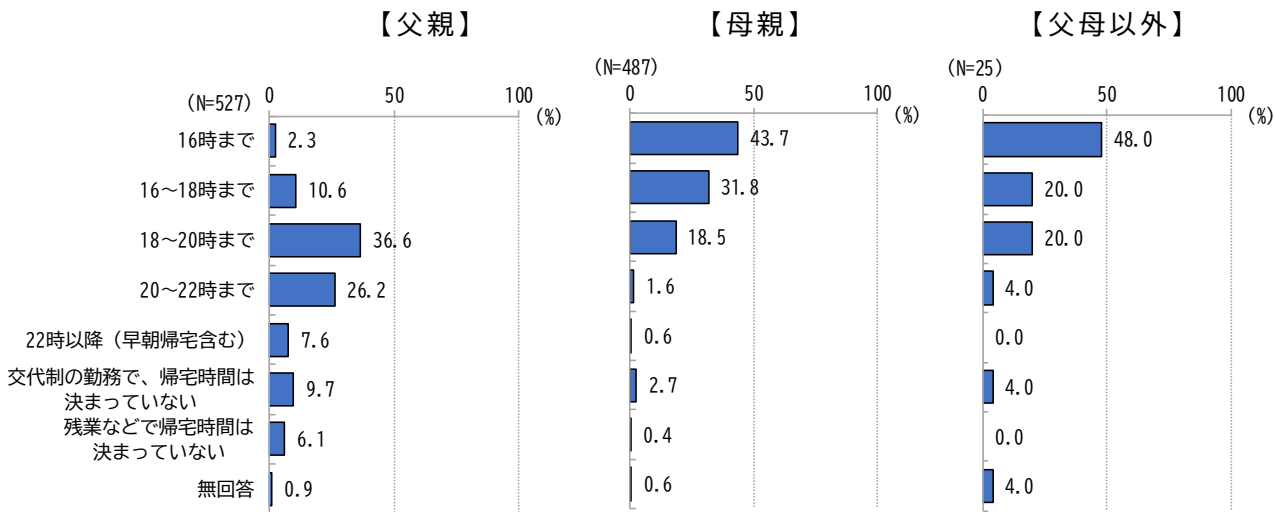
			N	働きたい	介護や育児のため働けない	病気や障害のため働けない	その他の理由で働けない	働きたいとは思わない	無回答
母子世帯別	全体	全体	71	45.1	22.5	8.5	7.0	16.9	0.0
		母子世帯	2	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0
	小学5年生	全体	40	47.5	20.0	5.0	5.0	22.5	0.0
		母子世帯	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	中学2年生	全体	31	41.9	25.8	12.9	9.7	9.7	0.0
		母子世帯	2	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0

働いていない方の就労意向については、母親については、「働きたい」が45.1%と最も多く、次いで、「介護や育児のため働けない」が22.5%となっています。

〔8〕働いている保護者の帰宅時間

現在働いている方にうかがいます。

問C6-1 お子さんのお父さん・お母さんが、普段仕事から帰宅する時間帯で、最も多い時間帯は何時ごろですか。(①②それぞれについて、1つに○)
お父さん・お母さんがいない場合は、主に子育てをされている方の帰宅時間を③にお答えください。(お子さんとの続柄を()に記入してください。)



【学年・母子父子世帯別】

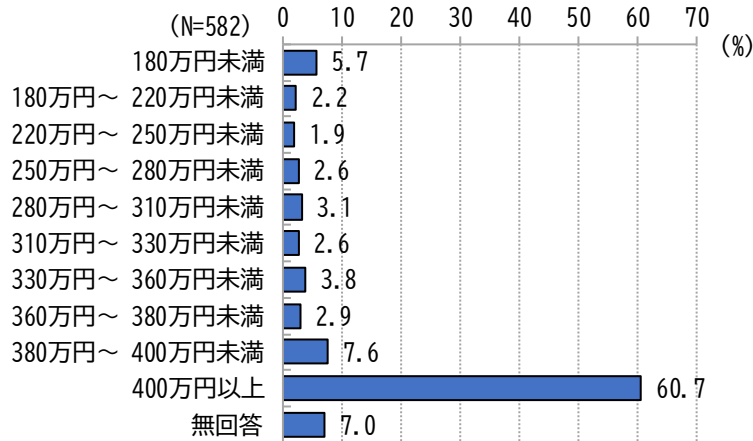
		N	16時まで	16～18時まで	18～20時まで	20～22時まで	22時以降 (早朝帰宅含む)	交代制の勤務で、帰宅時間は決まっていない	残業などで帰宅時間は決まっていない	無回答
【父親】										
全体	全体	527	2.3	10.6	36.6	26.2	7.6	9.7	6.1	0.9
	ひとり親家庭	49	2.0	26.5	30.6	20.4	10.2	4.1	4.1	2.0
	うち、母子世帯	24	4.2	25.0	20.8	29.2	8.3	0.0	8.3	4.2
	うち、父子世帯	25	0.0	28.0	40.0	12.0	12.0	8.0	0.0	0.0
小学5年生	全体	290	2.4	11.0	38.6	23.4	7.6	10.0	5.9	1.0
	ひとり親家庭	27	3.7	14.8	37.0	14.8	14.8	7.4	3.7	3.7
	うち、母子世帯	13	7.7	7.7	30.8	23.1	15.4	0.0	7.7	7.7
	うち、父子世帯	14	0.0	21.4	42.9	7.1	14.3	14.3	0.0	0.0
中学2年生	全体	235	2.1	10.2	34.5	29.4	7.7	8.9	6.4	0.9
	ひとり親家庭	22	0.0	40.9	22.7	27.3	4.5	0.0	4.5	0.0
	うち、母子世帯	11	0.0	45.5	9.1	36.4	0.0	0.0	9.1	0.0
	うち、父子世帯	11	0.0	36.4	36.4	18.2	9.1	0.0	0.0	0.0
【母親】										
全体	全体	487	43.7	31.8	18.5	1.6	0.6	2.7	0.4	0.6
	ひとり親家庭	77	26.0	45.5	22.1	1.3	1.3	2.6	1.3	0.0
	うち、母子世帯	59	25.4	49.2	16.9	1.7	1.7	3.4	1.7	0.0
	うち、父子世帯	18	27.8	33.3	38.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
小学5年生	全体	272	48.5	27.6	18.4	1.1	0.7	2.6	0.4	0.7
	ひとり親家庭	46	21.7	45.7	26.1	2.2	2.2	0.0	2.2	0.0
	うち、母子世帯	36	22.2	50.0	19.4	2.8	2.8	0.0	2.8	0.0
	うち、父子世帯	10	20.0	30.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
中学2年生	全体	213	37.6	37.1	18.8	2.3	0.5	2.8	0.5	0.5
	ひとり親家庭	31	32.3	45.2	16.1	0.0	0.0	6.5	0.0	0.0
	うち、母子世帯	23	30.4	47.8	13.0	0.0	0.0	8.7	0.0	0.0
	うち、父子世帯	8	37.5	37.5	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

働いている方の帰宅時間は、父親については、「18～20時まで」が36.6%と最も多く、次いで、「20～22時まで」が26.2%となっています。母親については、「16時まで」が43.7%と最も多く、次いで、「16～18時まで」が31.8%となっています。

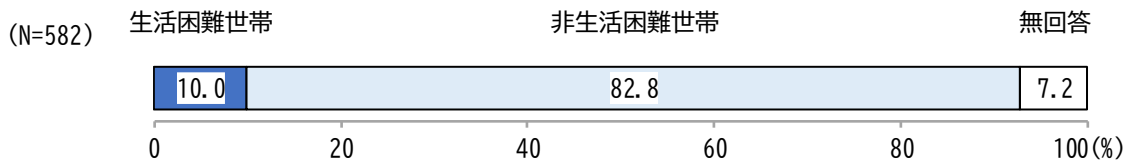
Ⅱ-3. 子どもの生活に関する調査

〔9〕世帯全体の手取り収入額

問 C 7 前年（令和 5 年 1 ～ 12 月の 1 年間）の世帯全体の手取り収入額の合計額はおおよそいくらですか。世帯全員の収入から、所得税などの税金や社会保険料（医療、年金、介護など）、企業年金の掛金、仕送りなどを差し引いた後のいわゆる手取り収入額（世帯で自由に使えるお金）でお答えください。（1 つに○）



■生活困難度（問 A 4 と問 C 7 をもとに再集計）



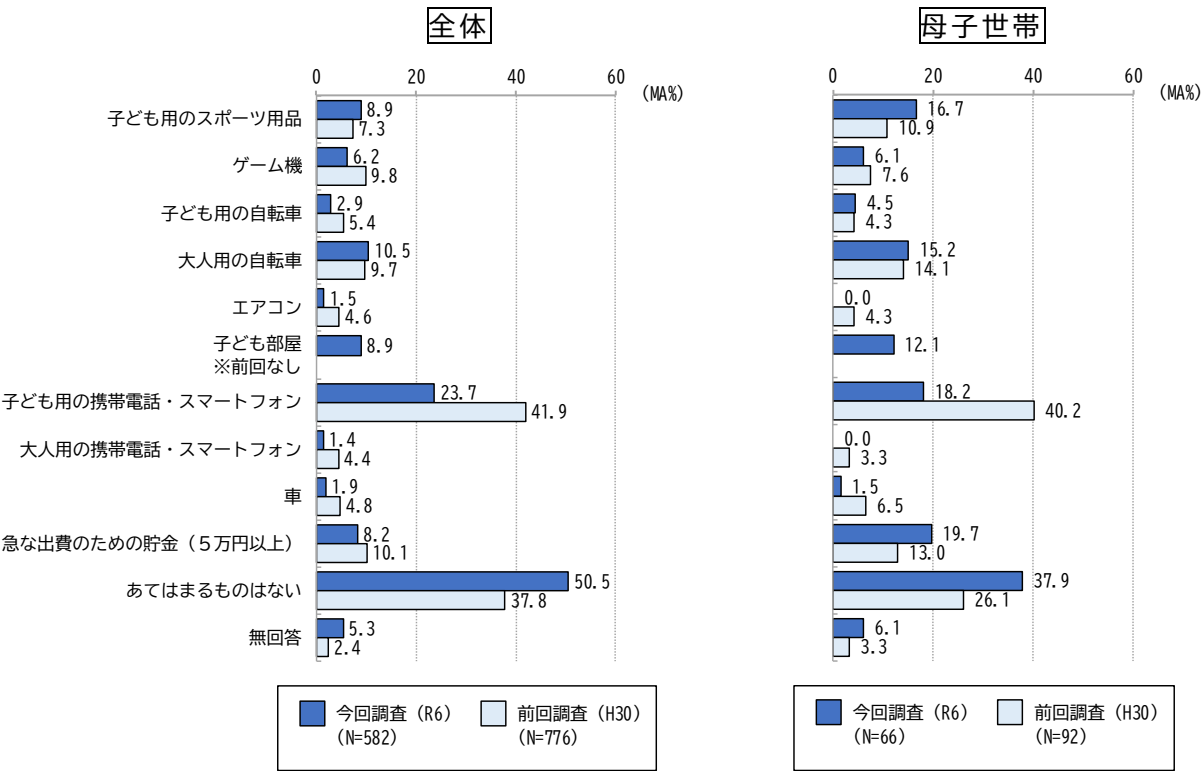
前年の（令和 5 年 1 ～ 12 月の 1 年間）の世帯全体の手取り収入額については、「400 万円以上」が 60.7%と最も多くなっています。

等価可処分所得（世帯手取り収入額 ÷ $\sqrt{\text{世帯人数}}$ ）が貧困線（127 万円）以下の方（生活困難世帯）は 10.0%となっています。

D 暮らしの状況

〔1〕 家庭にないもの

問D1 次のもののうち、あなたの家庭にないものはありますか。（あてはまる番号すべてに○）



【学年・生活困難度別／医療費の支払い困難別】

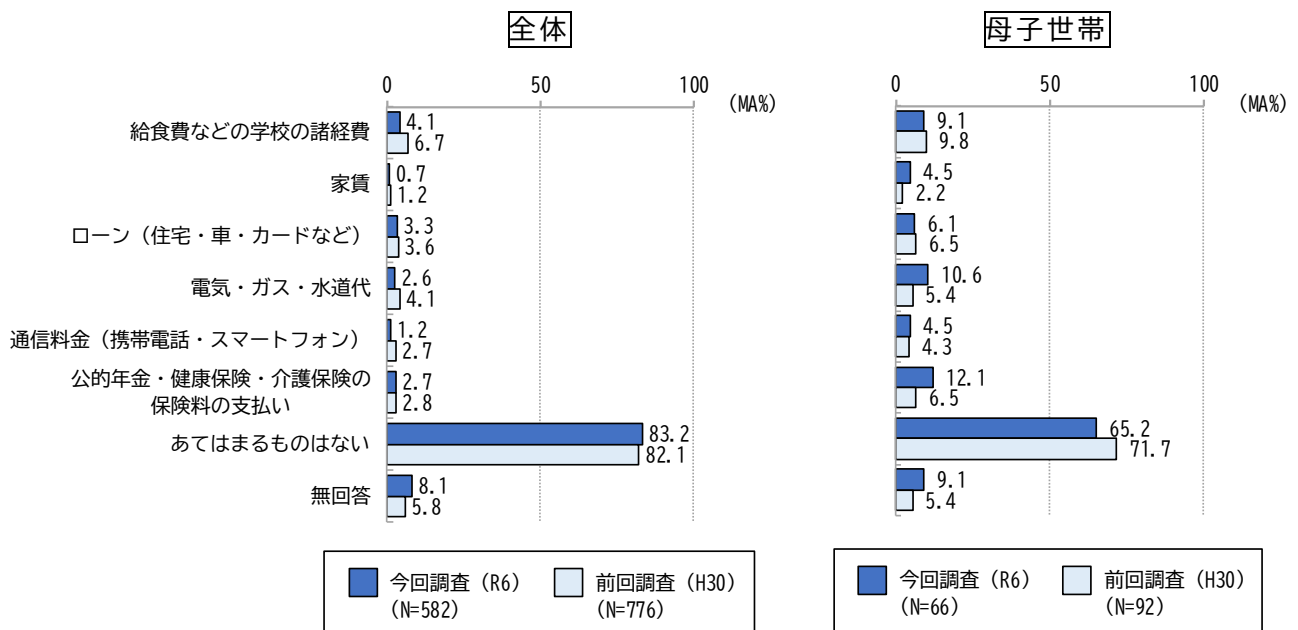
		N	子ども用のスポーツ用品	ゲーム機	子ども用の自転車	大人用の自転車	エアコン	子ども部屋	子ども用の携帯電話・スマートフォン	大人用の携帯電話・スマートフォン	車	急な出費のための貯金（5万円以上）	あてはまるものはない	無回答
学年・生活困難度別	全体	582	8.9	6.2	2.9	10.5	1.5	8.9	23.7	1.4	1.9	8.2	50.5	5.3
	全体	生活困難世帯	58	10.3	5.2	1.7	8.6	0.0	22.4	25.9	0.0	3.4	39.7	1.7
		非生活困難世帯	482	8.9	6.4	2.9	10.6	1.9	7.7	23.9	1.7	1.9	54.8	2.1
	小学5年生	生活困難世帯	35	11.4	5.7	2.9	8.6	0.0	28.6	28.6	0.0	2.9	37.1	2.9
		非生活困難世帯	263	9.1	6.1	3.0	11.4	2.3	9.9	35.7	1.9	1.9	45.2	1.5
	中学2年生	生活困難世帯	23	8.7	4.3	0.0	8.7	0.0	13.0	21.7	0.0	4.3	43.5	0.0
		非生活困難世帯	217	8.8	6.9	2.8	9.7	1.4	5.1	9.7	1.4	1.8	65.9	2.8
医療費の支払い困難の別	全体	582	8.9	6.2	2.9	10.5	1.5	8.9	23.7	1.4	1.9	8.2	50.5	5.3
	医療費の支払い困難世帯（問D4-1で3を選択）	13	15.4	7.7	0.0	7.7	0.0	0.0	7.7	0.0	0.0	23.1	53.8	0.0
	上記以外の世帯	545	9.2	6.4	3.1	11.0	1.7	9.5	25.0	1.5	2.0	8.3	52.5	1.7

家庭にないものについては、「子ども用の携帯電話・スマートフォン」が23.7%と最も多くなっています。母子世帯では、「急な出費のための貯金（5万円以上）」が19.7%と最も多くなっています。

Ⅱ-3. 子どもの生活に関する調査

〔2〕支払いが遅れたこと

問D2 次の費用のうち、過去1年間に支払いが遅れたことはありますか。(あてはまる番号すべてに○)



【学年・生活困難度別／医療費の支払い困難別】

		N	給食費などの学校の諸経費	家賃	ローン(住宅・車・カードなど)	電気・ガス・水道代	通信料金(携帯電話・スマートフォン)	公的年金・健康保険・介護保険の保険料の支払い	あてはまるものはない	無回答
学年・生活困難度別	全体	582	4.1	0.7	3.3	2.6	1.2	2.7	83.2	8.1
	全体									
	生活困難世帯	58	10.3	5.2	5.2	8.6	3.4	10.3	74.1	3.4
	非生活困難世帯	482	3.1	0.2	2.9	1.7	1.0	1.7	88.2	4.8
	小学5年生	35	5.7	2.9	2.9	8.6	0.0	2.9	82.9	5.7
	非生活困難世帯	263	2.7	0.0	3.0	1.1	0.4	1.1	88.2	4.9
	中学2年生	23	17.4	8.7	8.7	8.7	8.7	21.7	60.9	0.0
	非生活困難世帯	217	3.7	0.5	2.8	2.3	1.8	2.3	88.0	4.6
医療費の支払い困難別	全体	582	4.1	0.7	3.3	2.6	1.2	2.7	83.2	8.1
	医療費の支払い困難世帯(問D4-1で3を選択)	13	23.1	0.0	15.4	0.0	7.7	7.7	53.8	7.7
	上記以外の世帯	545	3.9	0.7	3.1	2.8	1.1	2.8	87.2	4.4

過去1年間に支払いが遅れたことについては、「給食費などの学校の諸経費」が4.1%と最も多く、次いで、「ローン(住宅・車・カードなど)」が3.3%となっています。

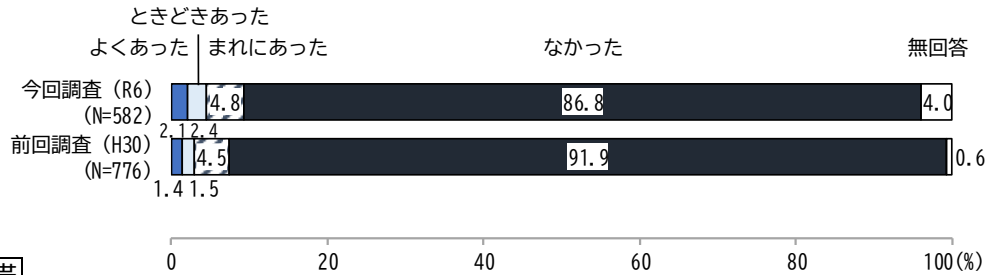
母子世帯では、「公的年金・健康保険・介護保険の保険料の支払い」が12.1%と最も多く、次いで、「電気・ガス・水道代」が10.6%となっています。

また、生活困難世帯では「あてはまるものはない」が全体の83.2%に比べ74.1%と低くなっています。

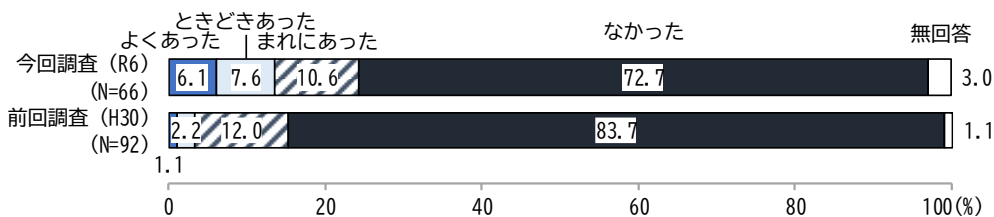
〔3〕必要なものが買えなかったこと

問D3 あなたは、過去1年間に、お金がなくて家族が必要とする食べ物や衣服が買えないことがありましたか。(1つに○)

全体



母子世帯



【学年・母子父子世帯別／学年・生活困難度別／医療費の支払い困難別／初めて子どもをもった保護者の年齢別】

			N	よくあった	ときどきあった	まれにあった	なかった	無回答	「あった」の合計 (%)
学年・母子父子世帯別	全体	全体	582	2.1	2.4	4.8	86.8	4.0	9.3
		ひとり親家庭	92	5.4	6.5	8.7	76.1	3.3	20.6
		うち、母子世帯	66	6.1	7.6	10.6	72.7	3.0	24.3
		うち、父子世帯	26	3.8	3.8	3.8	84.6	3.8	11.4
	小学5年生	全体	319	1.3	3.4	4.7	88.4	2.2	9.4
		ひとり親家庭	51	2.0	9.8	5.9	82.4	0.0	17.7
		うち、母子世帯	37	2.7	10.8	8.1	78.4	0.0	21.6
		うち、父子世帯	14	0.0	7.1	0.0	92.9	0.0	7.1
	中学2年生	全体	255	3.1	1.2	5.1	86.7	3.9	9.4
		ひとり親家庭	38	10.5	2.6	13.2	73.7	0.0	26.3
		うち、母子世帯	27	11.1	3.7	14.8	70.4	0.0	29.6
		うち、父子世帯	11	9.1	0.0	9.1	81.8	0.0	18.2
学年・生活困難度別	全体	全体	582	2.1	2.4	4.8	86.8	4.0	9.3
		生活困難世帯	58	6.9	6.9	17.2	69.0	0.0	31.0
		非生活困難世帯	482	1.2	1.9	3.3	92.9	0.6	6.4
	小学5年生	生活困難世帯	35	2.9	8.6	8.6	80.0	0.0	20.1
		非生活困難世帯	263	0.4	2.7	4.2	92.4	0.4	7.3
	中学2年生	生活困難世帯	23	13.0	4.3	30.4	52.2	0.0	47.7
		非生活困難世帯	217	2.3	0.9	2.3	93.5	0.9	5.5
	医療費の支払い困難世帯 (問D4-1で3を選択)		13	7.7	7.7	15.4	69.2	0.0	30.8
初めて子どもをもった保護者の年齢別	上記以外の世帯		545	2.0	2.4	4.8	90.6	0.2	9.2
	全体		582	2.1	2.4	4.8	86.8	4.0	9.3
	～19歳		9	11.1	0.0	11.1	77.8	0.0	22.2
	20～24歳		70	4.3	4.3	10.0	77.1	4.3	18.6
	25～29歳		225	0.9	2.7	4.9	88.4	3.1	8.5
	30～34歳		194	2.6	1.5	3.6	88.7	3.6	7.7
	35～39歳		65	1.5	3.1	3.1	87.7	4.6	7.7
	40歳～		11	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0

Ⅱ-3. 子どもの生活に関する調査

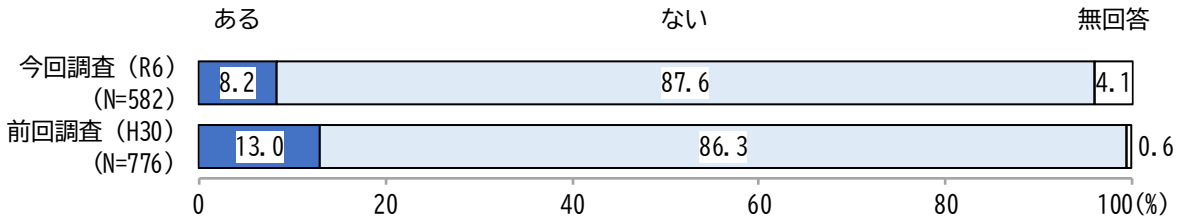
過去１年間で、必要とする食べ物や衣服が買えなかった経験の有無については、「なかった」が 86.8%と最も多くなっています。母子世帯でも、「なかった」が 72.7%と最も多くなっています。

「よくあった」、「ときどきあった」、「まれにあった」を合わせた『あった』は 9.3%となっています。母子世帯では、『あった』は 24.3%となっています。

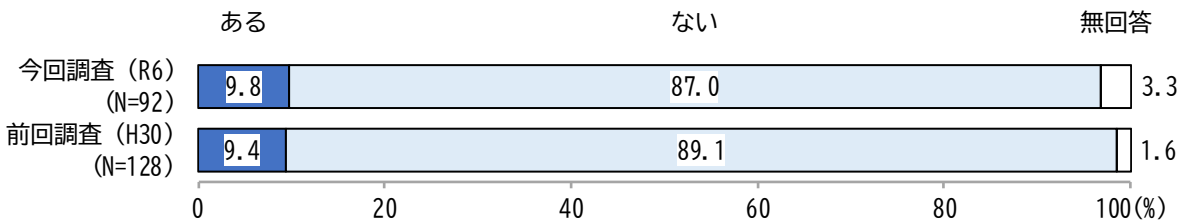
〔４〕 病院や診療所を受診したほうがいいのにしなかったこと

問Ｄ４ 過去１年間に、子どもの病気やけがの治療のため、病院や診療所を受診したほうがよいと思ったのに、受診しなかったことがありますか。（１つに○）

全体



ひとり親家庭



【学年・母子父子世帯別／学年・生活困難度別】

			N	ある	ない	(%) 無回答
学年・母子父子世帯別	全体	全体	582	8.2	87.6	4.1
		ひとり親家庭	92	9.8	87.0	3.3
		うち、母子世帯	66	10.6	86.4	3.0
		うち、父子世帯	26	7.7	88.5	3.8
	小学５年生	全体	319	7.8	89.3	2.8
		ひとり親家庭	51	11.8	88.2	0.0
		うち、母子世帯	37	16.2	83.8	0.0
		うち、父子世帯	14	0.0	100.0	0.0
	中学２年生	全体	255	9.0	87.5	3.5
		ひとり親家庭	38	7.9	92.1	0.0
		うち、母子世帯	27	3.7	96.3	0.0
		うち、父子世帯	11	18.2	81.8	0.0
学年・生活困難度別	全体		582	8.2	87.6	4.1
	全体	生活困難世帯	58	10.3	89.7	0.0
		非生活困難世帯	482	8.5	90.5	1.0
	小学５年生	生活困難世帯	35	14.3	85.7	0.0
		非生活困難世帯	263	7.2	91.6	1.1
	中学２年生	生活困難世帯	23	4.3	95.7	0.0
		非生活困難世帯	217	10.1	88.9	0.9

過去１年間で、子どもが病院や診療所を受診したほうがよいのに、受診しなかった経験の有無については、「ある」が８.２％、「ない」が８７.６％となっています。

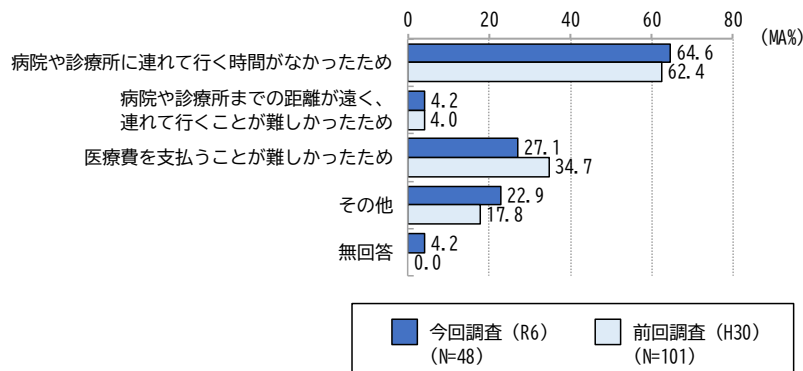
ひとり親家庭では、「ある」が９.８％、「ない」が８７.０％となっています。また、小学５年生のいる生活困難世帯では「ある」が１４.３％と全体を上回っています。

Ⅱ-3. 子どもの生活に関する調査

〔5〕 病院や診療所を受診しなかった理由

問D4で、「ある」を選んだ方のみ

問D4-1 病院や診療所を受診しなかった理由は何ですか。(あてはまる番号すべてに○)



【学年・母子父子世帯別／学年・生活困難度別（問D4で、「ない」と答えた方を含めて集計）】

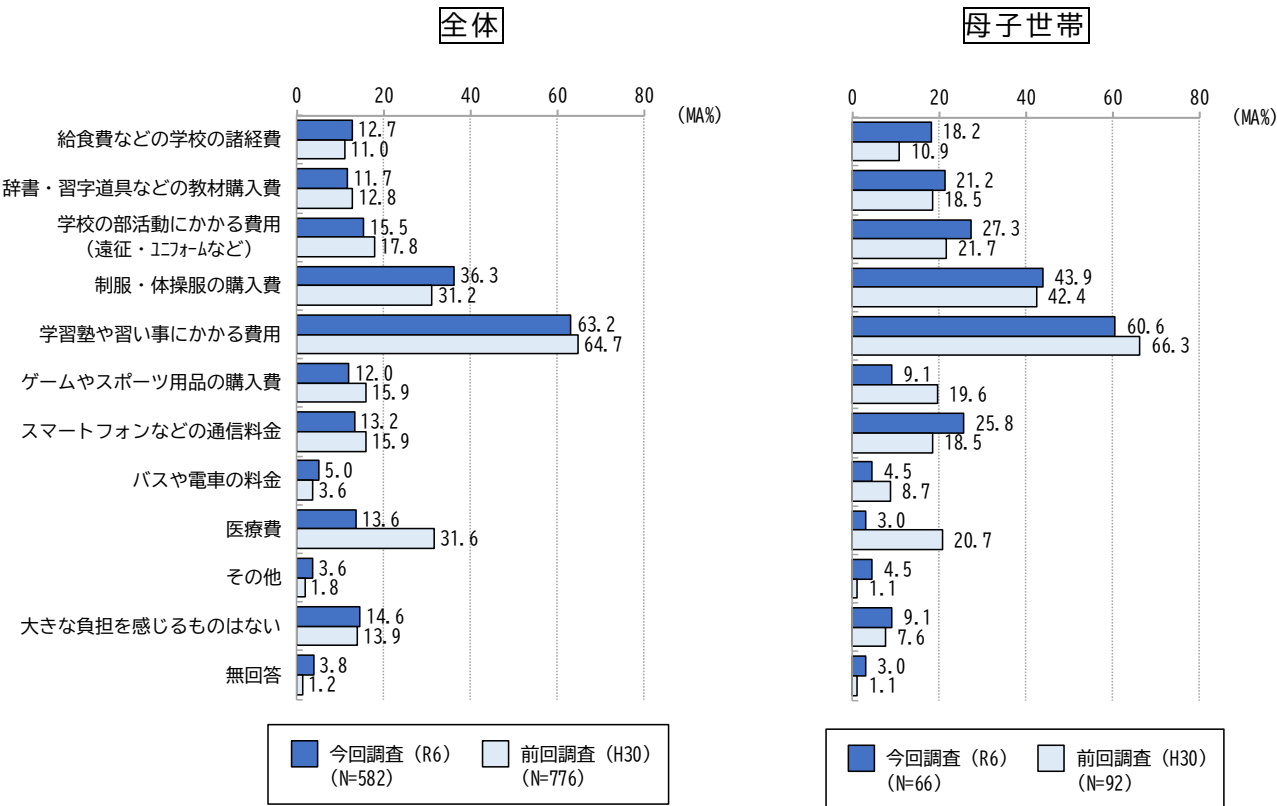
			N	1 難医 で世療 3 帯費 を（の 選問支 択D払 - 4 い - 困	左記 以外 の世 帯	(%) 無 回 答
学年・ 母子 父子 世帯 別	全体	全体	582	2.2	93.6	4.1
		ひとり親家庭	92	2.2	94.6	3.3
		うち、母子世帯	66	1.5	95.5	3.0
		うち、父子世帯	26	3.8	92.3	3.8
	小学5年生	全体	319	1.3	95.9	2.8
		ひとり親家庭	51	0.0	100.0	0.0
		うち、母子世帯	37	0.0	100.0	0.0
		うち、父子世帯	14	0.0	100.0	0.0
	中学2年生	全体	255	3.5	92.9	3.5
		ひとり親家庭	38	5.3	94.7	0.0
		うち、母子世帯	27	3.7	96.3	0.0
		うち、父子世帯	11	9.1	90.9	0.0
生活 困難 度 別	全体	全体	582	2.2	93.6	4.1
		生活困難世帯	58	1.7	98.3	0.0
		非生活困難世帯	482	2.5	96.5	1.0
	小学5年生	生活困難世帯	35	0.0	100.0	0.0
		非生活困難世帯	263	1.5	97.3	1.1
	中学2年生	生活困難世帯	23	4.3	95.7	0.0
		非生活困難世帯	217	3.7	95.4	0.9

病院や診療所を受診したほうがよいと思ったのに、受診しなかったことが「ある」とお答えの方に、その理由についてたずねたところ、「病院や診療所に連れて行く時間がなかったため」が64.6%と最も多く、次いで、「医療費を支払うことが難しかったため」が27.1%となっています。

医療費を支払うことが難しかったために病院や診療所を受診しなかった方は、調査対象者全体の2.2%となっています。母子家庭では、母子家庭全体の1.5%となっています。

〔6〕経済的に負担が大きいと感じるもの

問D5 お子さんにかかる費用のうち、経済的に負担が大きいと感じるものは何ですか。（あてはまる番号すべてに○）



【学年・生活困難度別／医療費の支払い困難別】

		N	給食費などの学校の諸経費	辞書・習字道具などの教材購入費	学校の部活動にかかる費用（遠征・ユニフォームなど）	制服・体操服の購入費	学習塾や習い事にかかる費用	ゲームやスポーツ用品の購入費	スマートフォンの通信料金	バスや電車の料金	医療費	その他	大きな負担を感じない	無回答
学年・生活困難度別	全体	582	12.7	11.7	15.5	36.3	63.2	12.0	13.2	5.0	13.6	3.6	14.6	3.8
	生活困難世帯	58	29.3	31.0	34.5	56.9	63.8	12.1	27.6	6.9	8.6	1.7	8.6	0.0
	非生活困難世帯	482	11.4	9.8	14.3	35.1	66.0	11.8	11.4	4.8	14.9	4.1	15.8	0.6
	小学5年生	35	25.7	40.0	22.9	60.0	62.9	8.6	11.4	5.7	5.7	2.9	14.3	0.0
	非生活困難世帯	263	12.9	10.6	12.2	33.8	62.7	15.2	10.6	4.9	9.5	4.2	18.3	0.8
	中学2年生	23	34.8	17.4	52.2	52.2	65.2	17.4	52.2	8.7	13.0	0.0	0.0	0.0
医療費の支払い困難別	生活困難世帯	217	9.7	8.8	17.1	36.4	69.6	7.8	12.4	4.6	21.7	4.1	12.9	0.5
	非生活困難世帯	217	9.7	8.8	17.1	36.4	69.6	7.8	12.4	4.6	21.7	4.1	12.9	0.5
	全体	582	12.7	11.7	15.5	36.3	63.2	12.0	13.2	5.0	13.6	3.6	14.6	3.8
医療費の支払い困難世帯（問D4-1で3を選択）		13	30.8	46.2	38.5	76.9	84.6	15.4	23.1	30.8	53.8	7.7	0.0	0.0
上記以外の世帯		545	12.8	11.4	15.6	36.9	65.0	12.3	13.6	4.6	13.2	3.7	15.6	0.2

経済的に負担が大きいと感じるものについては、「学習塾や習い事にかかる費用」が63.2%と最も多く、次いで、「制服・体操服の購入費」が36.3%となっています。

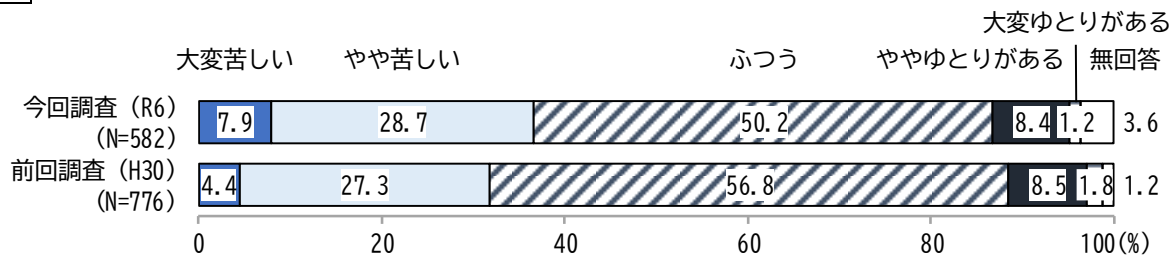
母子世帯では、「学習塾や習い事にかかる費用」が60.6%と最も多く、次いで、「制服・体操服の購入費」が43.9%となっています。

Ⅱ-3. 子どもの生活に関する調査

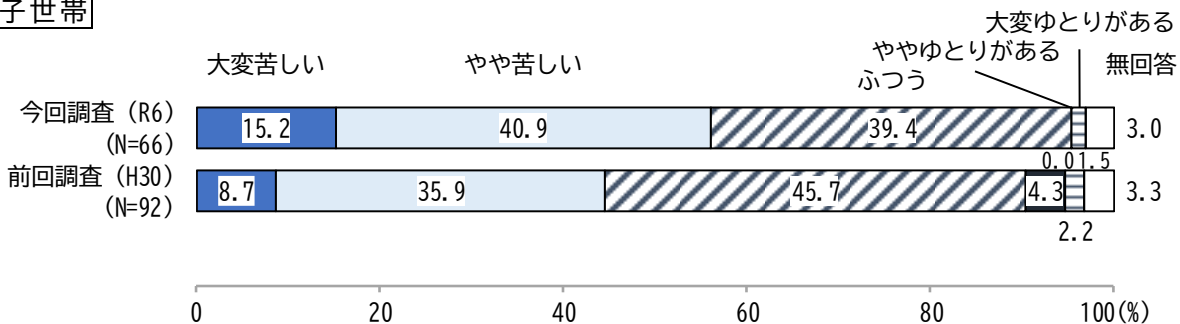
〔7〕暮らしの状況

問D6 現在の暮らしの状況を、どう感じていますか。(1つに○)

全体



母子世帯



【学年・母子父子世帯別／学年・生活困難度別／医療費の支払い困難別】

			N	大変苦しい	やや苦しい	ふつう	ややゆとりがある	大変ゆとりがある	無回答	「苦しい」の合計
学年・母子父子世帯別	全体	全体	582	7.9	28.7	50.2	8.4	1.2	3.6	36.6
		ひとり親家庭	92	13.0	37.0	43.5	2.2	1.1	3.3	50.0
		うち、母子世帯	66	15.2	40.9	39.4	0.0	1.5	3.0	56.1
		うち、父子世帯	26	7.7	26.9	53.8	7.7	0.0	3.8	34.6
	小学5年生	全体	319	6.6	27.0	53.6	9.4	1.3	2.2	33.6
		ひとり親家庭	51	11.8	37.3	47.1	2.0	2.0	0.0	49.1
		うち、母子世帯	37	13.5	40.5	43.2	0.0	2.7	0.0	54.0
		うち、父子世帯	14	7.1	28.6	57.1	7.1	0.0	0.0	35.7
	中学2年生	全体	255	9.8	31.8	46.7	7.5	1.2	3.1	41.6
		ひとり親家庭	38	15.8	39.5	42.1	2.6	0.0	0.0	55.3
		うち、母子世帯	27	18.5	44.4	37.0	0.0	0.0	0.0	62.9
		うち、父子世帯	11	9.1	27.3	54.5	9.1	0.0	0.0	36.4
学年・生活困難度別	全体	全体	582	7.9	28.7	50.2	8.4	1.2	3.6	36.6
		生活困難世帯	58	17.2	48.3	29.3	5.2	0.0	0.0	65.5
		非生活困難世帯	482	6.8	27.4	54.8	9.1	1.5	0.4	34.2
	小学5年生	生活困難世帯	35	14.3	42.9	37.1	5.7	0.0	0.0	57.2
		非生活困難世帯	263	5.3	25.5	57.0	10.3	1.5	0.4	30.8
	中学2年生	生活困難世帯	23	21.7	56.5	17.4	4.3	0.0	0.0	78.2
医療費の支払い困難の別支	医療費の支払い困難世帯 (問D4-1で3を選択)	全体	217	8.8	30.0	51.6	7.8	1.4	0.5	38.8
		全体	582	7.9	28.7	50.2	8.4	1.2	3.6	36.6
		上記以外の世帯	13	30.8	61.5	7.7	0.0	0.0	0.0	92.3

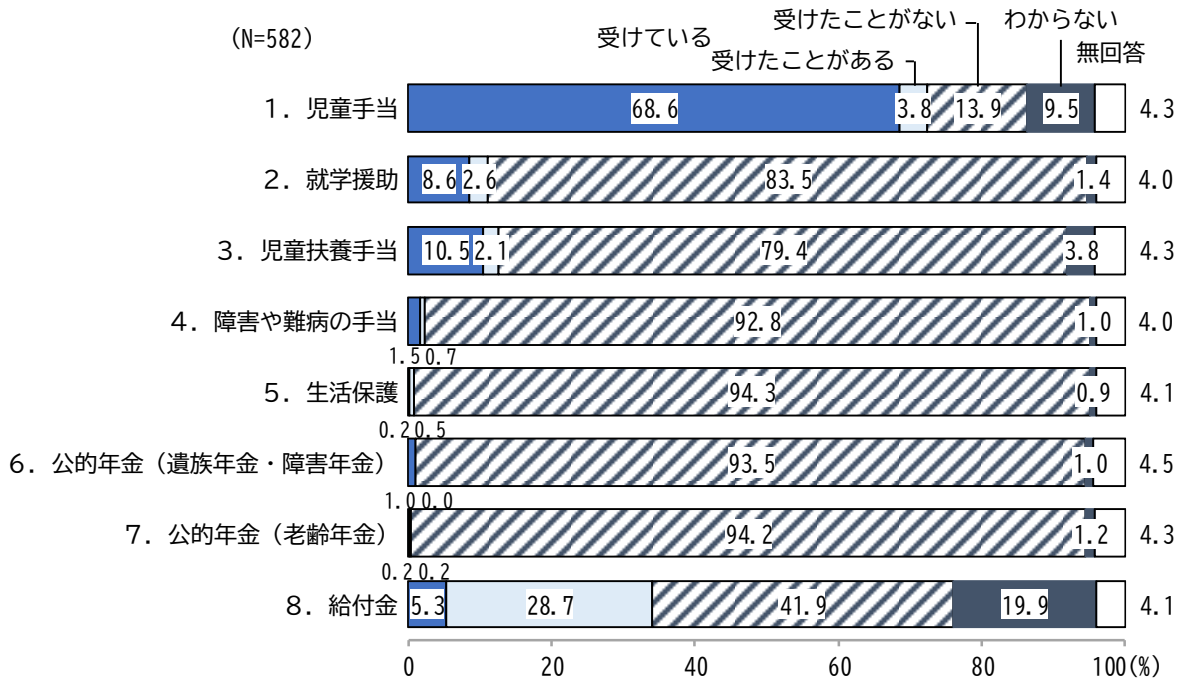
現在の暮らしの状況については、「ふつう」が50.2%と最も多くなっています。また、「大変苦しい」と「やや苦しい」を合わせた『苦しい』が36.6%となっています。

母子世帯では、「やや苦しい」が40.9%と最も多くなっています。また、「大変苦しい」と「やや苦しい」を合わせた『苦しい』が56.1%となっています。

E 市の取り組み

〔1〕 受けたことのある手当や援助

問 E 1 あなたは、過去 1 年間に、次の手当や援助などを受けたことがありますか。((1) ~ (8) それぞれについて、1 つに○)



【学年・母子父子世帯別／学年・生活困難度別】

(1) 児童手当

			N	受けている	受けたことがある	受けたことがない	わからない	無回答
学年・母子父子世帯別	全体	全体	582	68.6	3.8	13.9	9.5	4.3
		ひとり親家庭	92	76.1	1.1	13.0	6.5	3.3
		うち、母子世帯	66	84.8	1.5	7.6	3.0	3.0
		うち、父子世帯	26	53.8	0.0	26.9	15.4	3.8
	小学 5 年生	全体	319	72.4	3.8	11.6	9.4	2.8
		ひとり親家庭	51	80.4	2.0	9.8	7.8	0.0
		うち、母子世帯	37	89.2	2.7	5.4	2.7	0.0
		うち、父子世帯	14	57.1	0.0	21.4	21.4	0.0
	中学 2 年生	全体	255	65.1	3.9	17.3	9.8	3.9
		ひとり親家庭	38	76.3	0.0	18.4	5.3	0.0
		うち、母子世帯	27	85.2	0.0	11.1	3.7	0.0
		うち、父子世帯	11	54.5	0.0	36.4	9.1	0.0
学年・生活困難度別	全体	全体	582	68.6	3.8	13.9	9.5	4.3
		生活困難世帯	58	77.6	3.4	10.3	8.6	0.0
		非生活困難世帯	482	70.5	3.5	14.9	10.0	1.0
	小学 5 年生	生活困難世帯	35	82.9	2.9	11.4	2.9	0.0
		非生活困難世帯	263	73.0	3.8	11.8	10.3	1.1
	中学 2 年生	生活困難世帯	23	69.6	4.3	8.7	17.4	0.0
		非生活困難世帯	217	67.3	3.2	18.9	9.7	0.9

Ⅱ-3. 子どもの生活に関する調査

(2) 就学援助

			N	受 け て い る	受 け た こ と が あ る	受 け た こ と が な い	わ か ら な い	(%) 無 回 答
学年・ 母子父子世帯別	全体	全体	582	8.6	2.6	83.5	1.4	4.0
		ひとり親家庭	92	41.3	3.3	51.1	1.1	3.3
		うち、母子世帯	66	53.0	4.5	39.4	0.0	3.0
		うち、父子世帯	26	11.5	0.0	80.8	3.8	3.8
	小学5年生	全体	319	8.5	1.9	86.2	0.9	2.5
		ひとり親家庭	51	41.2	3.9	52.9	2.0	0.0
		うち、母子世帯	37	54.1	5.4	40.5	0.0	0.0
		うち、父子世帯	14	7.1	0.0	85.7	7.1	0.0
	中学2年生	全体	255	9.0	3.5	82.0	2.0	3.5
		ひとり親家庭	38	44.7	2.6	52.6	0.0	0.0
		うち、母子世帯	27	55.6	3.7	40.7	0.0	0.0
		うち、父子世帯	11	18.2	0.0	81.8	0.0	0.0
生活困 難度別	全体		582	8.6	2.6	83.5	1.4	4.0
	全体	生活困難世帯	58	51.7	3.4	41.4	3.4	0.0
		非生活困難世帯	482	3.9	2.7	91.9	0.8	0.6
	小学5年生	生活困難世帯	35	45.7	2.9	48.6	2.9	0.0
		非生活困難世帯	263	3.8	1.9	92.8	0.8	0.8
	中学2年生	生活困難世帯	23	60.9	4.3	30.4	4.3	0.0
		非生活困難世帯	217	4.1	3.7	90.8	0.9	0.5

(3) 児童扶養手当

			N	受 け て い る	受 け た こ と が あ る	受 け た こ と が な い	わ か ら な い	(%) 無 回 答
学年・ 母子父子世帯別	全体	全体	582	10.5	2.1	79.4	3.8	4.3
		ひとり親家庭	92	38.0	5.4	48.9	4.3	3.3
		うち、母子世帯	66	48.5	7.6	36.4	4.5	3.0
		うち、父子世帯	26	11.5	0.0	80.8	3.8	3.8
	小学5年生	全体	319	9.4	1.9	82.4	3.4	2.8
		ひとり親家庭	51	37.3	3.9	54.9	3.9	0.0
		うち、母子世帯	37	48.6	5.4	43.2	2.7	0.0
		うち、父子世帯	14	7.1	0.0	85.7	7.1	0.0
	中学2年生	全体	255	12.2	2.4	77.3	4.3	3.9
		ひとり親家庭	38	42.1	7.9	44.7	5.3	0.0
		うち、母子世帯	27	51.9	11.1	29.6	7.4	0.0
		うち、父子世帯	11	18.2	0.0	81.8	0.0	0.0
生活困 難度別	全体		582	10.5	2.1	79.4	3.8	4.3
	全体	生活困難世帯	58	39.7	5.2	41.4	13.8	0.0
		非生活困難世帯	482	7.5	1.7	87.1	2.7	1.0
	小学5年生	生活困難世帯	35	31.4	2.9	54.3	11.4	0.0
		非生活困難世帯	263	6.5	1.5	88.2	2.7	1.1
	中学2年生	生活困難世帯	23	52.2	8.7	21.7	17.4	0.0
		非生活困難世帯	217	8.8	1.8	85.7	2.8	0.9

(4) 障害や難病の手当

			N	受 け て い る	受 け た こ と が あ る	受 け た こ と が な い	わ か ら な い	(%) 無 回 答
学年・ 母子父子世帯別	全体	全体	582	1.5	0.7	92.8	1.0	4.0
		ひとり親家庭	92	1.1	1.1	93.5	1.1	3.3
		うち、母子世帯	66	1.5	0.0	95.5	0.0	3.0
		うち、父子世帯	26	0.0	3.8	88.5	3.8	3.8
	小学5年生	全体	319	2.2	0.3	93.7	1.3	2.5
		ひとり親家庭	51	2.0	0.0	96.1	2.0	0.0
		うち、母子世帯	37	2.7	0.0	97.3	0.0	0.0
		うち、父子世帯	14	0.0	0.0	92.9	7.1	0.0
	中学2年生	全体	255	0.4	1.2	94.1	0.8	3.5
		ひとり親家庭	38	0.0	2.6	97.4	0.0	0.0
		うち、母子世帯	27	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
		うち、父子世帯	11	0.0	9.1	90.9	0.0	0.0
生活 困難 度別	全体		582	1.5	0.7	92.8	1.0	4.0
	全体	生活困難世帯	58	1.7	1.7	93.1	3.4	0.0
		非生活困難世帯	482	1.7	0.6	96.3	0.8	0.6
	小学5年生	生活困難世帯	35	2.9	2.9	91.4	2.9	0.0
		非生活困難世帯	263	2.3	0.0	95.8	1.1	0.8
	中学2年生	生活困難世帯	23	0.0	0.0	95.7	4.3	0.0
		非生活困難世帯	217	0.5	1.4	97.2	0.5	0.5

(5) 生活保護

			N	受 け て い る	受 け た こ と が あ る	受 け た こ と が な い	わ か ら な い	(%) 無 回 答
学年・ 母子父子世帯別	全体	全体	582	0.2	0.5	94.3	0.9	4.1
		ひとり親家庭	92	1.1	3.3	91.3	1.1	3.3
		うち、母子世帯	66	1.5	3.0	92.4	0.0	3.0
		うち、父子世帯	26	0.0	3.8	88.5	3.8	3.8
	小学5年生	全体	319	0.0	0.3	96.2	0.9	2.5
		ひとり親家庭	51	0.0	2.0	96.1	2.0	0.0
		うち、母子世帯	37	0.0	2.7	97.3	0.0	0.0
		うち、父子世帯	14	0.0	0.0	92.9	7.1	0.0
	中学2年生	全体	255	0.4	0.8	94.1	0.8	3.9
		ひとり親家庭	38	2.6	5.3	92.1	0.0	0.0
		うち、母子世帯	27	3.7	3.7	92.6	0.0	0.0
		うち、父子世帯	11	0.0	9.1	90.9	0.0	0.0
生活 困難 度別	全体		582	0.2	0.5	94.3	0.9	4.1
	全体	生活困難世帯	58	1.7	1.7	94.8	1.7	0.0
		非生活困難世帯	482	0.0	0.4	98.1	0.6	0.8
	小学5年生	生活困難世帯	35	0.0	2.9	94.3	2.9	0.0
		非生活困難世帯	263	0.0	0.0	98.5	0.8	0.8
	中学2年生	生活困難世帯	23	4.3	0.0	95.7	0.0	0.0
		非生活困難世帯	217	0.0	0.9	97.7	0.5	0.9

Ⅱ-3. 子どもの生活に関する調査

(6) 公的年金（遺族年金・障害年金）

			N	受 け て い る	受 け た こ と が あ る	受 け た こ と が な い	わ か ら な い	(%) 無 回 答
学年・ 母子父子世帯別	全体	全体	582	1.0	0.0	93.5	1.0	4.5
		ひとり親家庭	92	4.3	0.0	91.3	1.1	3.3
		うち、母子世帯	66	4.5	0.0	92.4	0.0	3.0
		うち、父子世帯	26	3.8	0.0	88.5	3.8	3.8
	小学5年生	全体	319	1.3	0.0	94.7	1.3	2.8
		ひとり親家庭	51	5.9	0.0	92.2	2.0	0.0
		うち、母子世帯	37	5.4	0.0	94.6	0.0	0.0
		うち、父子世帯	14	7.1	0.0	85.7	7.1	0.0
	中学2年生	全体	255	0.4	0.0	94.5	0.8	4.3
		ひとり親家庭	38	2.6	0.0	97.4	0.0	0.0
		うち、母子世帯	27	3.7	0.0	96.3	0.0	0.0
		うち、父子世帯	11	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
学年・ 生活困難度別	全体		582	1.0	0.0	93.5	1.0	4.5
	全体	生活困難世帯	58	3.4	0.0	91.4	3.4	1.7
		非生活困難世帯	482	0.6	0.0	97.5	0.8	1.0
	小学5年生	生活困難世帯	35	2.9	0.0	91.4	5.7	0.0
		非生活困難世帯	263	0.8	0.0	97.3	0.8	1.1
	中学2年生	生活困難世帯	23	4.3	0.0	91.3	0.0	4.3
		非生活困難世帯	217	0.0	0.0	98.2	0.9	0.9

(7) 公的年金（老齢年金）

			N	受 け て い る	受 け た こ と が あ る	受 け た こ と が な い	わ か ら な い	(%) 無 回 答
学年・ 母子父子世帯別	全体	全体	582	0.2	0.2	94.2	1.2	4.3
		ひとり親家庭	92	0.0	1.1	93.5	1.1	4.3
		うち、母子世帯	66	0.0	1.5	93.9	0.0	4.5
		うち、父子世帯	26	0.0	0.0	92.3	3.8	3.8
	小学5年生	全体	319	0.3	0.0	95.3	1.3	3.1
		ひとり親家庭	51	0.0	0.0	96.1	2.0	2.0
		うち、母子世帯	37	0.0	0.0	97.3	0.0	2.7
		うち、父子世帯	14	0.0	0.0	92.9	7.1	0.0
	中学2年生	全体	255	0.0	0.4	94.9	1.2	3.5
		ひとり親家庭	38	0.0	2.6	97.4	0.0	0.0
		うち、母子世帯	27	0.0	3.7	96.3	0.0	0.0
		うち、父子世帯	11	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
学年・ 生活困難度別	全体		582	0.2	0.2	94.2	1.2	4.3
	全体	生活困難世帯	58	0.0	0.0	94.8	5.2	0.0
		非生活困難世帯	482	0.2	0.2	97.7	0.8	1.0
	小学5年生	生活困難世帯	35	0.0	0.0	94.3	5.7	0.0
		非生活困難世帯	263	0.4	0.0	97.3	0.8	1.5
	中学2年生	生活困難世帯	23	0.0	0.0	95.7	4.3	0.0
		非生活困難世帯	217	0.0	0.5	98.2	0.9	0.5

(8) 給付金

			N	受 け て い る	受 け た こ と が あ る	受 け た こ と が な い	わ か ら な い	(%) 無 回 答
学 年 ・ 母 子 父 子 世 帯 別	全 体	全 体	582	5.3	28.7	41.9	19.9	4.1
		ひとり親家庭	92	23.9	32.6	27.2	13.0	3.3
		うち、母子世帯	66	30.3	42.4	18.2	6.1	3.0
		うち、父子世帯	26	7.7	7.7	50.0	30.8	3.8
	小 学 5 年 生	全 体	319	5.3	30.4	40.1	21.3	2.8
		ひとり親家庭	51	21.6	37.3	23.5	17.6	0.0
		うち、母子世帯	37	27.0	48.6	16.2	8.1	0.0
		うち、父子世帯	14	7.1	7.1	42.9	42.9	0.0
	中 学 2 年 生	全 体	255	5.5	26.7	45.5	18.8	3.5
		ひとり親家庭	38	28.9	28.9	34.2	7.9	0.0
		うち、母子世帯	27	37.0	37.0	22.2	3.7	0.0
		うち、父子世帯	11	9.1	9.1	63.6	18.2	0.0
学 年 ・ 生 活 困 難 度 別	全 体		582	5.3	28.7	41.9	19.9	4.1
	全 体	生活困難世帯	58	25.9	41.4	15.5	17.2	0.0
		非生活困難世帯	482	3.1	28.2	47.1	20.7	0.8
	小 学 5 年 生	生活困難世帯	35	20.0	40.0	20.0	20.0	0.0
		非生活困難世帯	263	3.4	29.3	44.5	21.7	1.1
	中 学 2 年 生	生活困難世帯	23	34.8	43.5	8.7	13.0	0.0
		非生活困難世帯	217	2.8	26.3	50.7	19.8	0.5

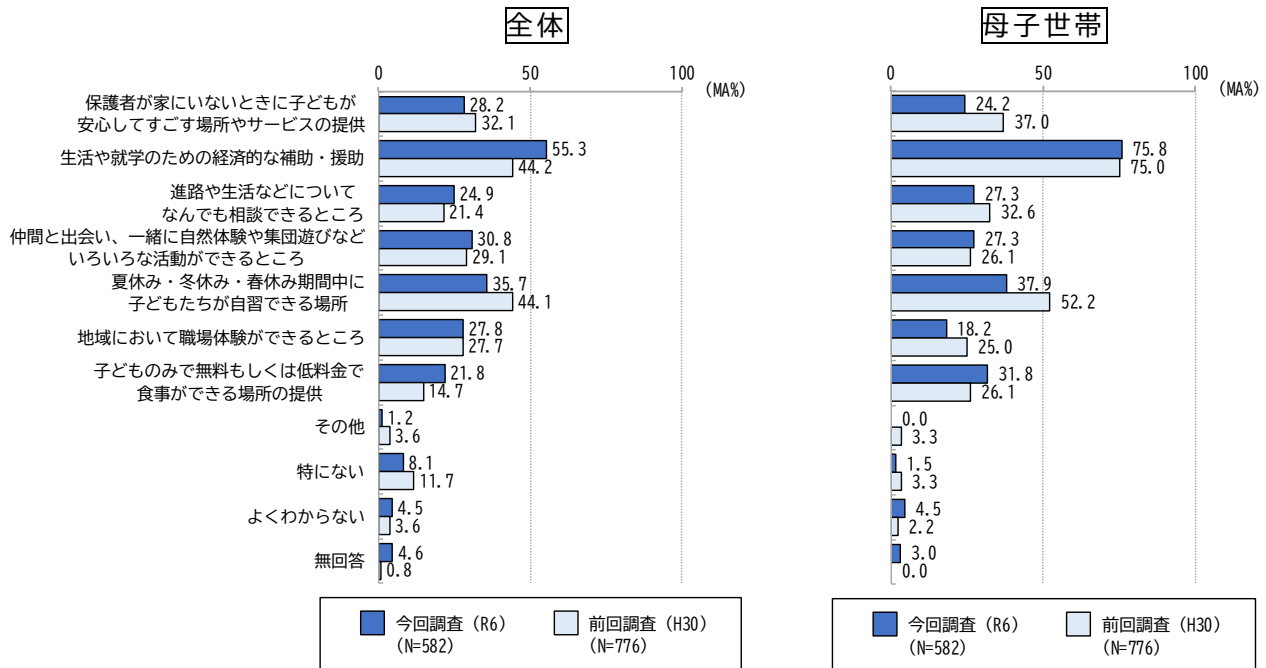
受けたことのある手当や援助については、「受けている」は、児童手当が68.6%、就学援助が8.6%、児童扶養手当が10.5%、障害や難病の手当が1.5%、生活保護が0.2%、公的年金(遺族年金・障害年金)が1.0%、公的年金(老齢年金)が0.2%、給付金が5.3%となっています。

母子世帯では、「受けている」は、児童手当が84.8%、就学援助が53.0%、児童扶養手当が48.5%、障害や難病の手当が1.5%、生活保護が1.5%、公的年金(遺族年金・障害年金)が4.5%、公的年金(老齢年金)が0.0%、給付金が30.3%となっています。

Ⅱ-3. 子どもの生活に関する調査

〔2〕利用したいと思う支援

問 E 2 お子さんにとって、現在または将来的に、次のような支援があった場合、利用したいと思いますか。(あてはまる番号すべてに○)



【学年・母子父子世帯別／学年・生活困難度別】

			N	(MA%)										
				保護者が家にいないときに子どもが安心して過ごす場所やサービスの提供	生活や就学のための経済的な補助・援助	進路や生活などについてなんでも相談できるところ	仲間と出会い、一緒に自然体験や集団遊びなどいろいろな活動ができる場所	夏休み・冬休み・春休み期間中に子どもたちが自習できる場所	地域において職場体験ができる場所	子どものみで無料もしくは低料金で食事ができる場所の提供	その他	特にない	よくわからない	無回答
学年・母子父子世帯別	全体	全体	582	28.2	55.3	24.9	30.8	35.7	27.8	21.8	1.2	8.1	4.5	4.6
		ひとり親家庭	92	25.0	69.6	28.3	26.1	33.7	21.7	30.4	0.0	3.3	5.4	3.3
		うち、母子世帯	66	24.2	75.8	27.3	27.3	37.9	18.2	31.8	0.0	1.5	4.5	3.0
		うち、父子世帯	26	26.9	53.8	30.8	23.1	23.1	30.8	26.9	0.0	7.7	7.7	3.8
	小学5年生	全体	319	35.1	52.7	23.5	40.4	40.8	29.2	22.9	1.3	8.2	3.4	3.4
		ひとり親家庭	51	31.4	70.6	25.5	33.3	35.3	27.5	35.3	0.0	5.9	2.0	0.0
		うち、母子世帯	37	29.7	75.7	29.7	32.4	37.8	24.3	37.8	0.0	2.7	2.7	0.0
		うち、父子世帯	14	35.7	57.1	14.3	35.7	28.6	35.7	28.6	0.0	14.3	0.0	0.0
	中学2年生	全体	255	20.0	59.6	27.1	19.2	30.2	26.7	21.2	1.2	8.2	5.9	3.9
		ひとり親家庭	38	18.4	73.7	34.2	18.4	34.2	15.8	26.3	0.0	0.0	10.5	0.0
		うち、母子世帯	27	18.5	81.5	25.9	22.2	40.7	11.1	25.9	0.0	0.0	7.4	0.0
		うち、父子世帯	11	18.2	54.5	54.5	9.1	18.2	27.3	27.3	0.0	0.0	18.2	0.0
学年・生活困難度別	全体		582	28.2	55.3	24.9	30.8	35.7	27.8	21.8	1.2	8.1	4.5	4.6
	全体	生活困難世帯	58	25.9	72.4	24.1	25.9	32.8	19.0	31.0	0.0	5.2	5.2	0.0
		非生活困難世帯	482	29.0	56.0	26.1	32.6	37.6	30.1	21.6	1.2	9.1	3.7	1.5
	小学5年生	生活困難世帯	35	22.9	68.6	20.0	31.4	31.4	22.9	31.4	0.0	2.9	8.6	0.0
		非生活困難世帯	263	36.9	52.1	24.7	43.3	42.6	30.8	22.1	1.1	9.5	2.3	1.9
	中学2年生	生活困難世帯	23	30.4	78.3	30.4	17.4	34.8	13.0	30.4	0.0	8.7	0.0	0.0
		非生活困難世帯	217	19.4	60.4	27.6	19.4	31.3	29.0	21.2	1.4	8.8	5.5	0.9

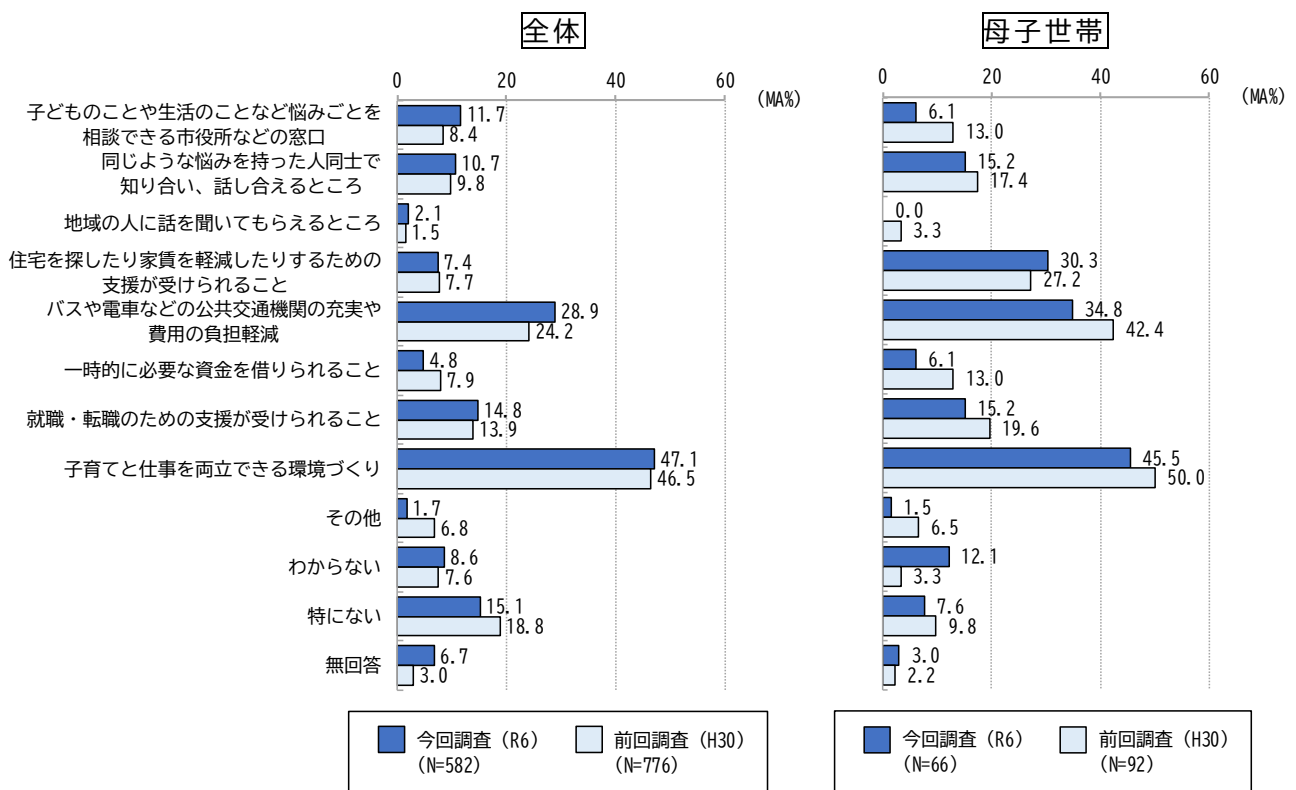
将来的に利用したいと思う支援については、「生活や就学のための経済的な補助・援助」が55.3%と最も多く、次いで、「夏休み・冬休み・春休み期間中に子どもたちが自習できる場所」が35.7%となっています。

母子世帯でも、「生活や就学のための経済的な補助・援助」が75.8%と最も多く、次いで、「夏休み・冬休み・春休み期間中に子どもたちが自習できる場所」が37.9%となっています。

また、生活困難世帯では「生活や就学のための経済的な補助・援助」が72.4%と高い割合となっています。

〔3〕必要としている支援

問E3 あなたが現在必要としていること、重要だと思う支援などは何ですか。
(あてはまる番号すべてに○)



Ⅱ-3. 子どもの生活に関する調査

【学年・母子父子世帯別／学年・生活困難度別／医療費の支払い困難別】

			N	保護者が家にいないときに子どもが安心してすごす場所やサービス提供	生活や就学のための経済的な補助・援助	進路や生活などについてなんでも相談できる場所	仲間と出会う機会がある場所	夏休み・冬休み・春休み期間中に子どもたちが自習できる場所	地域において職場体験ができる場所	子どものみで無料もしくは低料金で食事ができる場所の提供	その他	特にない	よくわからない	無回答
学年・母子父子世帯別	全体	全体	582	28.2	55.3	24.9	30.8	35.7	27.8	21.8	1.2	8.1	4.5	4.6
		ひとり親家庭	92	25.0	69.6	28.3	26.1	33.7	21.7	30.4	0.0	3.3	5.4	3.3
		うち、母子世帯	66	24.2	75.8	27.3	27.3	37.9	18.2	31.8	0.0	1.5	4.5	3.0
		うち、父子世帯	26	26.9	53.8	30.8	23.1	23.1	30.8	26.9	0.0	7.7	7.7	3.8
	小学5年生	全体	319	35.1	52.7	23.5	40.4	40.8	29.2	22.9	1.3	8.2	3.4	3.4
		ひとり親家庭	51	31.4	70.6	25.5	33.3	35.3	27.5	35.3	0.0	5.9	2.0	0.0
		うち、母子世帯	37	29.7	75.7	29.7	32.4	37.8	24.3	37.8	0.0	2.7	2.7	0.0
		うち、父子世帯	14	35.7	57.1	14.3	35.7	28.6	35.7	28.6	0.0	14.3	0.0	0.0
	中学2年生	全体	255	20.0	59.6	27.1	19.2	30.2	26.7	21.2	1.2	8.2	5.9	3.9
		ひとり親家庭	38	18.4	73.7	34.2	18.4	34.2	15.8	26.3	0.0	0.0	10.5	0.0
		うち、母子世帯	27	18.5	81.5	25.9	22.2	40.7	11.1	25.9	0.0	0.0	7.4	0.0
		うち、父子世帯	11	18.2	54.5	54.5	9.1	18.2	27.3	27.3	0.0	0.0	18.2	0.0
学年・生活困難度別	全体	全体	582	28.2	55.3	24.9	30.8	35.7	27.8	21.8	1.2	8.1	4.5	4.6
		生活困難世帯	58	25.9	72.4	24.1	25.9	32.8	19.0	31.0	0.0	5.2	5.2	0.0
		非生活困難世帯	482	29.0	56.0	26.1	32.6	37.6	30.1	21.6	1.2	9.1	3.7	1.5
	小学5年生	生活困難世帯	35	22.9	68.6	20.0	31.4	31.4	22.9	31.4	0.0	2.9	8.6	0.0
		非生活困難世帯	263	36.9	52.1	24.7	43.3	42.6	30.8	22.1	1.1	9.5	2.3	1.9
	中学2年生	生活困難世帯	23	30.4	78.3	30.4	17.4	34.8	13.0	30.4	0.0	8.7	0.0	0.0
		非生活困難世帯	217	19.4	60.4	27.6	19.4	31.3	29.0	21.2	1.4	8.8	5.5	0.9

現在必要としていること、重要だと思う支援については、「子育てと仕事を両立できる環境づくり」が47.1%と最も多く、次いで、「バスや電車などの公共交通機関の充実や費用の負担軽減」が28.9%となっています。

母子世帯でも、「子育てと仕事を両立できる環境づくり」が45.5%と最も多く、次いで、「バスや電車などの公共交通機関の充実や費用の負担軽減」が34.8%となっています。

〔4〕自由意見

問 E 4 日々の生活や子育てのなかで、彦根市に対してのご意見をご自由にお書きください。

医療費について
〔生活困難世帯〕 1 件 ・ 高 3 までの医療費負担を 0 割負担にして頂きありがとうございます！
〔非生活困難世帯〕 25 件 ・ 医療費無料の期間が伸びたのが大変ありがたいです。 ・ 子供の医療費を高校卒業まで無料にして欲しいです。
教育・学力・教員について
〔生活困難世帯〕 1 件 ・ 子どもが学校でいじめがあり、度々学校から連絡があったが 1 年間いじめが無くなることはありませんでした。学校にも対応できる限度があると思いますが市の方にも相談しましたが無くなることはありませんでした。お腹を殴られたり、金属製のヘラで殺すぞと脅されたこともあり我慢して学校に何とか通っていたので重大な事案にはならなかったのかもしれませんが、子どもが面談や別の部屋での待機などで無くなってしまった何時間もの学習する時間に対して何もフォローがなく、来年の受験に大変不安を感じています。学校に行けなくてもその日の学習ができる環境はコロナ禍で色々進み、対応できたのではないのでしょうか。いじめをなくすのも大切かもしれませんがそのような事態にあっても子どもの学習の時間を確保できるような、別教室でも授業を受けられるような対応をお願いしたいです。
〔非生活困難世帯〕 24 件 ・ 学校の先生の数を増やして欲しい。働き方改革からか、寄り添いが足りないと思う時がある。書類の簡略化などは良いと思う。 ・ 学校が、塾に行かなくても充分学力がつき、またいろいろな体験のできる教育現場になってほしい。
道路・交通について
〔生活困難世帯〕 1 件 ・ 路線バスが不便すぎる。
〔非生活困難世帯〕 19 件 ・ 車でしか行けない習い事が多いのに、駐車場は狭かったり、なかったりして困っています。バスの本数を増やして欲しいです。 ・ 歩道が確保されていないので危険な箇所が多いのでなんとかしてほしい。
給食について
〔非生活困難世帯〕 18 件 ・ 医療費無償より、給食費無償にしてほしい。

Ⅱ-3. 子どもの生活に関する調査

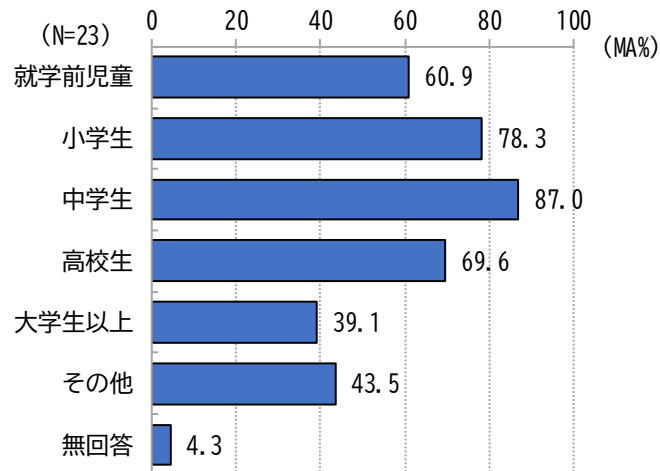
支援制度の所得等による制限について
〔生活困難世帯〕 1 件 課税世帯に属していても、決して生活が楽なわけではない世帯もある。現在の情勢では課税と非課税でのみ支援の待遇がかわる為、とりこぼされる世帯はどうすればよいのか。子供の学力向上を謳われるが、経済状況で差がついてしまう場合も多くある。全員が機会を得られる彦根市の環境作りをのぞむ。
〔非生活困難世帯〕 14 件 - 子ども手当などどんな給付にしても所得制限を設けるのはやめてほしい。税金をしっかりと払っているのだから受けられるものは同じように受けてほしい。所得制限をするのなら、一人の所得でなく、世帯合計の所得で行ってほしい。不平等。 - 子供の人数や収入に応じて子ども手当の額が変わるのは分からなくもないです。しかし、子どもを複数人育てるだけの時間や経済的な余裕がないから諦めて人並みの生活を何とかキープしているのに、子どもの数が少ないから、収入が一定以上あるから、という理由で手当に差が出たり無くなったりするのは辛いです。収入中間層は、余裕がある訳では無い事、ご理解頂きたいです。
市政全般について
〔生活困難世帯〕 2 件 税金が高すぎて生活が大変。
〔非生活困難世帯〕 11 件 - 市民税が低くなると、多少負担が軽くなるので、よろしくお願いします。 - 医療費助成の開始と期間延長など遅い。彦根市独自の取り組みが少ない。所得に関係なく一律の助成が必要。
学習支援・学習の場について
〔非生活困難世帯〕 15 件 - 学力向上のため、自習室を開設して欲しい。 - 塾へ行かなくても子どもの勉強を安くで教えてくれる場所が欲しい。スポ少でテニスや体操等女の子も入りやすいスポーツを増やしてほしい。
放課後等の子どもの居場所・遊び場等について
〔生活困難世帯〕 2 件 子どもたちが気軽に集まれる施設が増えてほしい。
〔非生活困難世帯〕 11 件 - 室内で遊べる体育館のような場所(子どもセンターの体育館のような場所)を増やしてほしい。 - 子どもセンターは大変ありがたい存在で助かっています。今後も利用させていただきたいです。自宅近くの公園はボール禁止など制限も多いです。市内各地に安全に遊べる遊具の設置や広場を提供、確保してほしいです。
学用品・習いごと・学習塾等への補助
〔生活困難世帯〕 1 件 学校準備品などに費用がかかるので、中古品等回収し、次に使ってもらえる仕組みづくりを考えてもらえると、良いと思います。
〔非生活困難世帯〕 10 件 - 入学祝い金みたいなのがあると、制服などの必要用具を買うときに助かります。 - 新学期、入学時の出費が多いその時期だけでも全家庭に援助がほしい。
子育て支援に力を入れてほしい
〔非生活困難世帯〕 9 件 近隣の他の地域と比べて子育て支援はされないのが、彦根市だとつくづく思う。
高校・大学について
〔非生活困難世帯〕 8 件 高校授業料の助成をお願いしたいです。

図書館について
〔非生活困難世帯〕 8 件 ・ 学校などで子どもの読書を推進されていますが、図書館が近くに無かったり、学区外で子どもだけではいけない。図書カードなどを配布してほしい。学校の職員への働き方改革は理解できるが、その分子どもたちへの勉強時間が減っているように思う。
不登校について
〔非生活困難世帯〕 8 件 ・ 不登校児が通えるフリースクール等、場所の充実を希望。
病院・医療機関について
〔生活困難世帯〕 1 件 ・ 出産できるクリニックが減ったと聞きます。それに合わせて助産師の紹介もなくなったと聞きました。問い合わせや自身で調べないとわからない上に、出産できる場が極端に少ないことは産みにくい町だと思うので改善して欲しい。
〔非生活困難世帯〕 5 件 ・ 休日に受診できる病院がない。昨年末に小児科を受診したかったがどこも休みか予約がいっぱいだった。かかりつけ医から、彦根市の休日診療に行ってみてはと言われ連絡したが、コロナとインフルでいっぱいだからと断られたのでとにかく病院がない。
保育園、幼稚園、こども園について
〔生活困難世帯〕 1 件 ・ 子供が保育園に在籍中、母親が妊娠した際、一時的に退園しなければならない制度をやめてほしい。きょうだいで同じ保育園に通えるようにしてほしい。
〔非生活困難世帯〕 4 件 ・ 働きたいのに保育園に入れることができない。まず仕事を先に決めてから保育園を探すなんて無理な話。
その他
〔生活困難世帯〕 4 件 ・ 生活が、本当に安定しません。就職もなかなか決まらず、受験生になるのに金銭的に受験できるのかとか、こんなので生活できるのかほんとに不安でしかありません。
〔非生活困難世帯〕 42 件 ・ 出産後にお母さんのケアをしてくれる仕組みが欲しい。ご飯を作ってくれたり、家事をしてくれたり、仮眠する間赤ちゃんを見てくれたり。関東の方では産後に 10 枚くらいチケットをもらえて家事代行してくれる方が来てくれると聞きました！今核家族が多い中この様な取り組みがあるととても助かります！ ・ 多子世帯にもう少し手厚い支援がほしい。 ・ 乳幼児には手厚い子育て制度ですが、実際お金がたくさんかかってくるのは小学校の高学年頃からだと思います。その頃からの支援が何かあれば、と思います。

Ⅱ-4. 子どもの生活に関する資源量調査（団体対象）

1 機関・団体について

日ごろの業務・活動の主な対象者



業務・活動の主な対象者は、「中学生」が 87.0%と最も多くなっています。

2 困難な家庭の状況

困難や課題のある家庭（困難な家庭）における保護者・子どもの状況

① 困難な家庭の特徴や背景、生活の状況

- ・ 保護者：知的障害 子ども：中1、小5、小2 母子家庭
- ・ 外国から来日したばかりの家庭は、保護者の仕事を探したり、住居を見つけたりする間、親戚の家に世話になっていることが多く、学校の教材などに支払うお金が無かったりするなど、経済的に困っている。
- ・ 離婚、シングルマザー。
- ・ 義務教育の年代でいじめから不登校になり高校も通信に行って、母親も子供が心配で働きもできない。
- ・ 海外から来られて数年のため、言葉の壁があり、地域や学校と疎遠になっている。
- ・ 子どもが人とコミュニケーションが取れない。来てもゲームをしている。保護者は疲れている。保護者も他者とコミュニケーションが取れない人が多い。パートナーに課題がある人が多いように思う。離婚や別居をしている。母親だけで子育てをしている。子どもに清潔感がない。親が子どもに依存している姿もある。困難を抱えている家庭の人はその人の周りにも困難を抱える人が集まり、助け合いの関係性が生まれてはいるが、本当にそれでいいのだろうかと思う。
- ・ こどもさんの障害によって精神的に弱っておられる方がおられる。一人親家庭の方の中には、経済的な問題を抱えておられる様子がうかがえる。
- ・ 現在は困難家庭はほとんどなく、乳幼児の子育て中の母親がほっこりできる場になっている。以前、父親が居なかったり、父親が土日出勤だったりの親子の利用があり、土日に家族でお出掛けなどできない代わりにおひさま文庫に来て楽しんでいるケースがあった。
- ・ 今の子育て世代の方に、地域との繋がりをそこまで求めていない方が多いと感じます。自分達の両親にですら出産後に頼らない方もいたり、育休を取る旦那さんも多いので、自分達だけでやる、という考えが多くなってきています。「色々言われるのが嫌」という理由が多いので、地域との繋がりというより、同じ子育て中のお母さん、お父さんとの繋がりを求めています。この現状から①の方々は、各団体が開催している子育て支援に参加したいけど、行きにくいと思っている方が多くみられます。家庭が円満、障害がないからこそ気軽に行けますが、ちょっとした不安があると、人との繋がりを求めているのに躊躇してしまっている方も多く見られます。
- ・ 困っていることを、困っていると言える方が少ないです。親に精神障害等があっても、子ども自身助けての声が出せないです。これが普通とされています。
- ・ ひとり親家庭。親のどちらかが病気で経済的に困窮している(生活保護)。親が発達障害である。
- ・ 母の障害や疾病による生活困窮(大半の世帯が生活保護受給)。8割強の世帯がDV被害者で、一部の子どもは被虐待児。
- ・ 経済的な問題、家庭内で問題がある。
- ・ 保護者の子ども依存が見られる。発達に特性が見られるなど、不登校状態になっている子どもも見られる。男性スタッフと関われなかったり、関わることで感情に反応がでて、次回から参加できない。
- ・ 困難な家庭の個々の特徴や背景、生活状況は正確には把握していない。しかし、当該家庭のことを、同学年や近所の地域住民の話から推測して、自治会や子ども会、学校の登校班に入っていない。孤立的な家庭と察する。
- ・ 特徴や背景、DVなどの理由による母子家庭であるが母は病気で働けず生活保護を受給している状況。母、兄妹(高校生、中学生、小学生2名)、子どもに発達障害、保護者には精神障害など、病気もあり。DVのための離婚、ネグレクトなどあり、借家。
- ・ 経済的に困難な家庭 離婚 家庭内が安定していない。

Ⅱ-4. 子どもの生活に関する資源量調査（団体対象）

②子どもの生活や学習の様子

- ・ 保護者の心身状態にて子どもが担当する家事が増える。朝食を食べずに起きれずに学校を遅刻することもある。
- ・ 「子どもにほんご教室 JUMP」に来ている子どもは、衣食住に困っていない子がほとんどだが、日本人との接触が少なく、日本語の習得が遅かったり、学習の遅れがあるのに、適当な塾が無かったりして困っている。
- ・ 朝が起きにくい。学習に対する拒絶反応。経済格差。
- ・ 弊社対象者は生活面に問題なく、不登校でも他の支援を受けて学習に意欲的である。
- ・ 子どもに今風の服は着させていない。体調不良などで食堂に来ることができない場合でも、持ち帰りしたいとの希望がある。何杯もおかわりをする。
- ・ 中3でも塾には通わない。高校入試は、公立だけになる家庭がある。
- ・ おひさま文庫は不特定多数の対象者であるが、両親共働きで学童保育に行く子が増えたり、母親が家にいる子は習い事などで忙しかったり、文庫に来られる子が少なくなっている。今までに文庫に来ていた子が、中学・高校と進む中で、学力は高い子が多い。
- ・ お母さん・お父さんがタ方家にいる家庭は、塾や習い事をしている子どもが多く、両親や片親がフルタイムで働いてる方はなかなか習い事に通っている子どもが少ないです。させたいけど、送迎の時間が…と子どもがやりたくてもさせてあげられない家庭。土日に行かせてあげたいけど、休みは家族と過ごしたり出かけたり…。今、習い事なども子ども達が自分で行くことが出来なくなっているの、やってる子とやっていない子の差が大きくなっています。送迎ができないから遊べない、家に親がいないから遊べない。大人だけでなく、子ども同士の繋がりも少なくなっていると感じています。親に聞いてみる、と自分たちだけで約束が出来なくなっていて、親同士が連絡先を知らないと遊べなくなっていると思います(特に低学年)。家にいても、オンラインでゲームが出来たり、携帯で連絡が気軽に出来たり、会わなくても良いという理由もあります。
- ・ 1日1食やお弁当の隅等が黒くなっているのも当たり前と思っています。同じ服を常に着ています。
- ・ 季節にあわない衣服の着用(経済的問題)。不登校の子。
- ・ 学校に対する拒否反応や登校しにくい子どもがいる。学習については、当施設で学習支援を行うとともに、中学生については市の学習支援の先生の個別指導も受けている。
- ・ 夕食を食べずに、塾に来る子。ゲーム漬けの子。学習プリント等の整理整頓（カバンの中、机の上）ができない子。学習に必要なものを持ってこられない。
- ・ ともにご飯を食べる時間があるが、みんなでは食わず、一人で食べるか、家に持ち帰る子どもも多い。勉強は女子生徒が熱心である。
- ・ 朝起きられず学校に行けないことが多い。夕食は、兄弟が準備することが多い。衣服は、体に合わないものを来ていることがある。高校生は学校に行けず家にいる。学習はできる状況にない。
- ・ 夕食を食べずに来る子、家庭学習が困難な子、学習に必要な物（筆記用具）等を持ってこられない、ゲーム漬けの子、学習プリント等の整理整頓ができない子、など。

③保護者の経済状況

- ・ 生活保護
- ・ 外国籍の家庭は、経済的なゆとりがあまり無いことが多い。生活保護を受けている家庭は、JUMPにはいないと思われる。ただ来日直後の家庭や、コロナ禍で職を失って別の仕事を探している保護者があった。
- ・ 生活保護者家庭に限らず、経済的に余裕のない家庭が多い。
- ・ 食糧の無料配布はとても助かるらしい。
- ・ 両親共に働いている方が多い。金銭面で、どうしても産後に仕事復帰を早くしたり、色々な所に参加したいけど、働いてないからそこにお金を使うのは…と参加できない、しない方もおられます。
- ・ 金銭的に困窮していても車を手放せない（買い物等に車が必要）。生活保護の申請に行っても車の維持費はどうするのですかと言われるのが辛い。金銭感覚に乏しく常にお金がない、何かの請求が来たらどうしようと悩んでいます。
- ・ 大半の世帯が生活保護受給中。金銭管理が十分にできない世帯もある。就労世帯も低賃金で余裕はない。
- ・ 両親ともに仕事に就いており、持ち家であり、経済的困窮とは感じない。しかし、家庭内の事情などは分からない。
- ・ 生活保護受給のため支援を受けている。高校生が長期間インターネットで知り合った人のところに出かけていたりする。

Ⅱ-4. 子どもの生活に関する資源量調査（団体対象）

④子どもと保護者の関わり

- ・ 保護者は朝寝ていることが多い。学校関係の準備等に心配がある。
- ・ 外国籍の家庭は、家族内の会話は母語なので、コミュニケーションは図れている。しかし、子どもの方が日本語を理解していて、保護者が日本語を話せないので、外部との通訳を子どもがしている場合がある。
- ・ 深夜まで働き、子どもが淋しい思いをしている。孤食。親子関係が良好な家庭が多い。父親の子ども理解が弱い。
- ・ 母親が仕事を変えないといけなくなったことで、送迎が難しくなり、当フリースクールに通えなくなった生徒がいました。
- ・ 親子の関りは良いが依存関係が見受けられる。
- ・ ほぼ一緒に参加されていた為、親子関係は良好である様子。
- ・ 閉じこもりになっていたり、不登校になっている子どもに対し、保護者が疲れているようだ。数年前より状況が良くないように見えた（3月開催時）。
- ・ 親子関係はだいたい良好な親子が多いが、子どもをしっかり注意や躾ができない保護者が増えているように感じる。
- ・ 親が帰りが遅いから、子どもとのコミュニケーションが取れないのではなく、そこに気持ちの余裕があるかないかです。働いていても上手に支援を使っている家庭は、親子関係はとても良いです。食事の宅配、ベビーシッター、習い事の送迎を頼む、などを頼める方は金銭面で余裕があるからこそ頼れる。でもそこまで余裕がないと、自分たちで対応しないとイケないので、親子関係より帰ってからの家事に追われてします。とても差が大きいです。
- ・ 親も子も共に依存されています。
- ・ 対面での会話が苦手で手紙でやり取りしているケースもあるが、施設と母や子どもとのコミュニケーションはとれているし、母と子とのコミュニケーションにも特に問題はない。
- ・ 反抗期でもあり、母親に対してのことばがきつい。こどもが母親に伝えないので、こどもの状況がわからない。
- ・ ブライトクラスに参加している家庭の保護者は、基本的に送迎をしてくる等、子どもへの関わりが強いという印象がある。
- ・ 親子参加のイベントや、文庫に親子で来る。子どもにこだわりの強さが、見られるからか、母は特に子どもに声かけなどはしない。子どものやりたいようにさせており、コミュニケーションをとっている姿は見受けられない。
- ・ 高校生とは共依存の関係、母の体調次第だが、関わらない日も多い。全員で食事をする習慣がなさそう。インターネットで知り合った人を泊めたり、人の出入りも多い。
- ・ 塾からのプリント等が子から保護者へ渡らない子。子どものことが見えない(塾に遅れてきている、学習に必要な物を持ってこれていない、塾からの連絡プリント等が届いていない)。

⑤子どもの性格面・意識面の状況

- ・挨拶ができるようになった。乱暴な言葉遣いをする時がある。
- ・母語を中心に生活している子どもは、自分の思いを日本語で表現できないので、日本人と関われなかったり、声が極端に小さかったりする。学習は、保護者に聞けないので、家庭学習が十分できない。
- ・比較的、良好。
- ・人との関りが苦手で友達もいない。すぐに言葉がでてこない。
- ・言葉の違いプラス選択性緘黙の特性故に自発的な関わりは難しかった様子。
- ・人と関われない子どもが見られる。ゲームに没頭している。
- ・感情的になりやすい。
- ・同じクラスでなくなると、友達関係が変わったり、友達だった子と関わりづらくなるなど、友達関係の難しさを感じる人が多い（昔はそんなに気を遣わず友達と関わっていたと思う）。
- ・何に関しても親が関わる事が多く 自分たちで判断出来ない子も多かったり、すぐに頼っている子や、外で発散してしまう子も多くいます。親に言っても、すぐに反対する、否定される。この繰り返しで、子どもが親に自分の意思を言えなくなったり、反抗に変わったりしている。その反動で、いない所で発散している。例えば、服を選ぶ。子どもはこんな服がいい！と思っても、親の好みで選ばされる。これが毎日続くと、否定されていると感じて、一緒にいる事も嫌になってしまいます。自分の好き・嫌いが分からなくなってしまうたり、誰かに言われないと行動出来なくなってしまう。
- ・コミュニケーション能力の低下が多く見られます。
- ・面前 DV や自身が虐待を受けたりで、大人を信じられなくなっている子どももいる。
- ・否定的な発言がよくでる。声が小さい。尋ねたことに対して、声をだして答えるのではなく、頭を振って返事をする。
- ・大学生サポーターが関わる事が多いので、活動時間中は対話をしたり、活動の参加者同士で、大きな輪になりゲームをしたりする。
- ・他の子どもたちとの関わりは少ない。3人兄妹で遊びも話も終わってしまいがち。
- ・人の気を引く試し行動が多く見られる。母と離れることに不安を持っていることもある。仕事や学習への意欲がない。異性への関心が高い。
- ・おとなしい。声が小さい。自己肯定感が低い。自分から話すことが少ない。

⑥保護者と各種支援制度・支援者との関係

- ・高校就学において検討。
- ・子どもにほんご教室 JUMP に参加する保護者は、日本語の上達とともに、支援者に話しかけたり、相談したりできるようになっている。
- ・できている。
- ・積極的に話し合いや、必要場面には参加されていた。
- ・おそらくは、子育て支援課からの支援はあるように思える。が、保護者は、子の育ちへの不安（小学・中学での不登校）が、精神的なしんどさとなっているように思える。
- ・参加者さんが参加者さんに相談されているのを見ることがある。
- ・特に支援を必要とする保護者はおられないと思う。子育ての中で困っていることなどは、おひさま文庫の中で自然な形でお話してきていて、役にたっているかはわからないが、私たちスタッフが自分の経験からアドバイスしている。
- ・Instagram など SNS の復旧で、上手に探せている方、探せない方が大きく別れます。保護者は、親同士で「こんなのやってるから一緒に行こう」と情報共有をしている。ただ親子サロンなど大人数の場所へは、最初は行きにくいと聞きます。もうグループが出来ている所に初めての方が行きにくかったり、大人数すぎて聞きたいことが聞けなかったり、保護者が何を求めているのかで支援者のと繋がりが変わってきます。
- ・親に支援の制度をお伝えしても理解が出来ないです、子に伝え共に動くことが多いです。
- ・詳しくはわからないが気になる？と感じる人は既に支援課 がフォローされてます。
- ・各種支援制度等については入所時に説明し、手続きにも同行している。
- ・年一度、保護者からの希望制で、キャリアカウンセラーとの相談会を実施している。毎年度、1、2名の希望がある。
- ・生活保護、障害者計画相談、訪問看護、就労継続事業所利用。

3 現行の支援の取組と課題

① 困難や課題のある家庭（困難な家庭）に対して現在実施している支援等の内容

教育の支援	就学前における支援	・ 3歳からの幼児を受け入れている。来年度は、4名の幼児の日本語を支援する。みんな保育園に通っていて、だいたいの日本語はわかるが、遊びや読み聞かせなどを通して、学校の学習にスムーズに入れるようしえんしている。 ・ 絵本の読み聞かせや折り紙、カードゲームやボードゲームをして一緒にやること、集中して折ったり、読むのを聞いたりする。 ・ 保護者が子育ての中で困っていることについて、スタッフの経験からのアドバイス。 ・ 特に行っていませんが、団体の年間行事の中で、他の母子の方と関わりの中で情報交換等を行っています。 ・ 就学前の困窮家庭の児童にランドセルや体操服の支援。 ・ 保育室における補完保育。 ・ 児童発達支援（療育）。
	学校における支援	・ 課外活動の準備への助言。 ・ 母国や学年、学習能力など様々な要素があり、個別に指導している。日本語指導を中心に置きながら、教科の補充をしたり、カルタなどを通して日本文化の学習も採り入れている。 ・ 小学校へ朝読の時間に読み聞かせのボランティア。 ・ 特に行っていませんが、団体の年間行事の中で、他の母子の方と関わりの中で情報交換等を行っています。 ・ 体操服・制服のリユース品。 ・ 登校支援。 ・ 放課後等ディサービス、特別支援学級、養護学校。
	就学支援 （義務教育～高校）	・ 学習支援への助言。 ・ 中学生の就学相談や支援を経験したことがある。希望や適性を考えて、教科の補充などをして、今まで3人の高校合格を果たせた。 ・ 一緒に体験学習やゲームを通して脳トレーニングをしたり、宿題を集中してやれる場の提供。 ・ 弊社の場所を提供し、他関係支援者による学習指導。 ・ 必要に応じて、無償や低額の学習支援を紹介している。 ・ 勉強が得意な生徒は少ないので、中3でも、中1程度の内容から学び直しをしている。中3の後半は県立高校対策として過去問を使う生徒もいるが、問題の中で優しい問題を確実に取るような勉強をしている。 ・ 奨学金制度の活用等をお知らせしています。 ・ 体操服・制服のリユース。 ・ 下校後の学習支援。 ・ 通信の高校を利用していたが続かない。 ・ 小学3年生から中学生の学習支援、学習習慣、わからないことを聞けるようになる。
	大学等への進学機会	・ 今はまだ支援した経験がない。 ・ 奨学金制度の活用等をお知らせしています。 ・ 退所後に大学等に進学している子どもはいる。 ・ 現在考えられない。

Ⅱ-4. 子どもの生活に関する資源量調査（団体対象）

教育の支援	生活困窮世帯等への学習支援	・ 希望して参加する子どもを支援しているので、それはしていない。 ・ 本スクールが行う学習支援（無料）。 ・ 必要に応じて、無償や低額の学習支援を紹介している。 ・ 市の学習支援員の派遣。中学生については措置費、小学生高学年については県補助金で塾代の一部助成がある。 ・ 本塾は、週２回（火、木）開設している。試験前や冬休みなどは、開設日を増やしている。落ち着いて学習できる、一人でなく他の人といっしょに学習する、安心して学習できる、分からないといえる、わからないところをたずねられる環境をつくる、学習意欲をひきだす、学習の基礎（丁寧に書く正しく書く、声を出して読むなど）（いまから学習するのに必要なものを確認する）を、学習習慣をつけていく、家庭学習の定着、整理整頓ができる。などなど ・ 週２回（火・木）夕方６：３０～８：３０ 希望者は６：００～ 冬休みや春休みは、塾の開設日の回数を増やしている。
	その他	・ 食育。 ・ お役に立ちたい気持ちはありますが個人でしているためできていないです サブスクタイプやワンコインの塾ができないか検討中です 物価高で塾や勉強の機会をなくしてほしくないです。 ・ 子ども第三の居場所。就労継続事業所。
生活の支援	保護者の生活支援	・ 傾聴。 ・ 子どもさんとの関り方などについて話をできる場作りをしている。 ・ 日本の文化、行事、習わしなどを共有。 ・ 子ども食堂で、無償の食糧配布をしている。 ・ 一人親家庭の方に食料等お届け。 ・ 食事を作らなくてもいい。ここに来たら子ども達も遊べる。という、ちょっとした気持ちに余裕を持ってもらうために毎月１回子ども食堂をしています。子ども達が目の見える所にはいるけれど、親と子ではなく、子と子が遊んだり、少し自分から離れる事で普段と違う一面が見れたりしています。親同士お話ししたり、支援者と話したり、色々な情報共有をしながら過ごせる場所を作っています。次の日子どもにも優しくできた！ あんなにゆっくり話せたの久しぶりだ～！ 子ども達が楽しかったからまた行きたいと言ってた！ と嬉しいお言葉も頂いています。 ・ 月に１度ですが子ども食堂などにて社会福祉協議会等から支給されたものを配布させていただいています。 ・ リユース品などで経済的な家計軽減。 ・ 居酒屋店舗等にてバイト募集。こっそりお助けお弁当配布。 ・ 金銭管理支援。居室清掃支援。 ・ 訪問看護。障害者生活支援。

Ⅱ-4. 子どもの生活に関する資源量調査（団体対象）

生活の支援	子どもの生活支援	・ 夕食提供、翌日の朝食や水分準備。食事方法、整容に関する助言。 ・ お菓子なども提供したり、いろいろな人と関りもてるような場作りをしている。 ・ 日本文化、行事、習わしなどを共有。 ・ 子ども食堂では、高校生までは無料で食事を提供している。 ・ 子ども食堂を通して、小さい子どもには「ご飯を作る」「みんなで食べる楽しさ」を感じてもらおうようにしています。家庭ではなかなかお手伝いさせてあげられないという意見が多く、就学前の子どもでもできる事からやってみようと、一緒に調理をしています。家では野菜を嫌がるけど、みんなが美味しいと食べてる姿を見て食べてみようという気持ちになった！など食育にも繋がっています。小学生以上の子どもには、調理のお手伝いから準備、後片付けもお手伝いしてもらっています。親がいない時、これなら作れるかな？と家庭でもできるようにしてもらいたいと考えています。その他に、スタッフの知識をお伝えする講座などを取り入れながら学習したり 他の学校の友達との繋がりを持ったり、自分より下の子のお世話をするなど、子ども同士で考えて行動する、やり取りできるようにしています。 ・ 月に1度ですが子ども食堂などにて社会福祉協議会等から支給されたものを配布させていただいています。 ・ 家庭の経済状況に関係なく学校に必要なリユース品・洋服を提供すること。 ・ 子ども食堂にてお菓子配布。食事提供。持ち帰り対応。 ・ 学習支援。 ・ 訪問看護。
	その他	・ 私達は学習支援なので、生活支援はあまりできていない。 ・ どんな制度があるのか、学童や民間学童の紹介などをして、安心して仕事と育児の両立ができるようにお話しています。障害のあるご家庭には、支援級の事や放デイなどについてもお話しています。 ・ 生理用品等の備品。 ・ 子ども第三の居場所。放課後等デイサービス。
就労支援	保護者の就労支援	・ 子どもを抱えて就労にはまだまだ縛りなどがあり、十分な就労とは言えません。 ・ 居酒屋店舗等にてバイト募集。お客様の中で求人の方に繋げること等。 ・ ハローワークへの同行や情報提供。
	子どもの就労支援	・ 義務教育を終えられ、公立高校といえども中学の出席日数等で進学も出来ず、通信の高校を選んでも金銭的な事情で通学が困難な状況となっています。
	その他	・ 当社で、県の事業（しがジョブパーク）を受託しているので、そちらに接続することは可能ですが、小学校高学年から中学生を対象にしているので、就労支援の話まではなりません。
経済的支援	各種金銭支援制度や貸付金等について	・ 日々の生活で、貸し付けなどを受けると自転車操業になってしまいます。 ・ 勉強させていただきます。 ・ 支援制度や貸付金制度についての案内。
	その他	・ 彦根市より利用料金の助成あり。 ・ 塾の月謝として、1,000円いただいている。夕方からの塾でもあり、週1回菓子パンを提供している。

Ⅱ-4. 子どもの生活に関する資源量調査（団体対象）

その他（心理面や社会性の支援など）	・ いつでも来られる場、ほっとできる場所となるようにしている。 ・ 勉強以外で、会話やゲームなどを通じた関わり合い。 ・ 親が求めているのは、実際に経験した人からの経験談です。これが良かったよ！、こうしたよ！、ここ良いよ！とロコミが影響を与えています。子育て支援でも、そういうお話ができる場所が必要だと感じています。それを踏まえて、子どもの事ばかりがメインになるのではなく、お母さん・お父さんがメインになる活動が必要だと週1回、色々な企画も組み入れながら居場所作りを進めています。 ・ お話を聞き、共に解決できるような支援を考えています。 ・ 心理士によるセラピーや個別支援。
--------------------------	--

Ⅱ-4. 子どもの生活に関する資源量調査（団体対象）

② 支援等を実施する上での問題点、課題等

教育の支援	・ フリースペースでは夕食提供をおこなっており、教育に関する支援について十分な把握ができていない。 ・ 彦根ユネスコ協会から、会場費や子どもの教材、お菓子などを委託金としていただいている。しかし、指導者の交通費や人件費まではもらえない。教師会会員は、それぞれ仕事や家庭の用事など忙しい中でのボランティアである。教育委員会などからの安くてもある程度の人件費がいただければ、もっと業務を拡大して支援にあたれると思う。また、教材などが増えていっても、置く場所がなく、毎回会員が運んでいる。それも以前から困っている。 ・ 居場所としての機能を果たしても、教育の支援というところはサポート出来る体制は整っていない、というのが正直なところだ。 ・ スタッフが1人しかいないので、子どもの人数が多い日は関われないこともある。 ・ 言葉の壁。支援者が中学生の問題が全て解けない。 ・ 不登校になり勉強についていけないことや、人と関われないことが、本人の課題でもあり、保護者の精神的負担になっている。 ・ 中学校だけの勉強では、内容理解が追いつかないことが多い。しかし、自分で学ぶことに慣れていないし、学び方がわからないし、聞ける人がいない。先生への相性や好き嫌いが、子どもの学ぶ意欲に影響している。 ・ 支援を必要とされている方へのアプローチ。 ・ 学習だけが支援ではなく日々日常の社会的動作等も十分に理解されていないと思われます。 ・ 塾等をするのに資格者が必要な場合もありますが全てボランティアでは難しい場合の支援。光熱費高のための支援。 ・ 発達障害等の特性がある子どもが多いため、学習の支援まで至らないことがある。保護者も家にいるため不登校でも気にならない様子が見られる（本人は行きたいと思っている）。中学生にいたっては、卒業日数は学校に行けているからもう来なくてもいいたら言われたと話していて、教師の指導が伝わっていないと思えることもあった。 ・ 家庭での学習習慣がつきにくい。塾での学習が学習。個別の指導が必要な子供たちが多い。基礎的なところからの学習。
生活の支援	・ 自宅の掃除ができていない。間食の摂取時間や量に留意が必要。 ・ そこまでは踏み込めていないです。 ・ 関わるスタッフ不足。 ・ どこまでプライベートに踏み込んで良いか。 ・ 子ども食堂で見られる姿は、シングルの家庭で、母親が育児と仕事の両面を背負っている。しかも、子どもが発達の課題を持っているということや、困難を抱えている保護者が、自分の周りのさらに困難を抱えた人を助けようとして、自分の課題解決よりも、周りの課題解決に力を入れてしまっている。 ・ 必要とされる方へのアプローチ。 ・ 参加費の設定。食材の物価高騰。周知する方法。お金を払えば広告などに掲載は出来るが、民間団体ではそれが難しい。 ・ 現在おひとりの方から、2か月に1度程度、生活費需品の支援をいただいています。もっと、多数の方の支援がと思う時があります。 ・ ☆こちらから申し出るのは難しい。 ・ 職員の労力の割には中々成果が上がらない。 ・ 検討中。 ・ 多くの支援が入っているが、時間など取り合うこともあり、支援事業所同士が連携していくことが必要と感じている。

Ⅱ-4. 子どもの生活に関する資源量調査（団体対象）

就 労 支 援	・ 仕事と居場所の必要性を感じる。どちらも、子どもや家庭から一定時間離れることが必要だと思う。 ・ 突発的な子どもの熱発などに対応していただける企業等はまだまだ少ないです。上司の方は理解されていても周りの方からの陰口などが聞こえてくると辛いと言われています。 ・ 障害や疾病のため就労困難な世帯が多い。
経 済 的 支 援	・ ボランティア活動になるため、会社としては、助成金等の仕組みがないと難しい。 ・ お金の支給ではなく、居場所としての仕事も含めた支援の必要性を感じる。 ・ 低収入の方や非課税家庭の方は政府などから支援がありますが、中間収入の方が一番苦勞されています。
そ の 他	・ 不登校や引きこもりなど、他者との関わりあいの機会が少なかった子どもは、学習支援活動でボランティアと関わるのが楽しく、関わり方が過度になることがある。が、ボランティア側にとっては、距離感が近くなることで、心理的にしんどさを感じることがある。 ・ 平日にやっているの、仕事復帰した方が参加しにくい。お父さんにももっと参加してもらいたい。そうすると土日の開催になってしまうが、支援者も子育て中のためなかなか難しい。 ・ 就労支援、金銭的権利擁護、学習支援。

4 今後必要な支援制度と連携による支援体制、具体的な支援方法

① 今後必要と思われる支援等の内容

教育の支援	・ 学校での日本語指導を補充する支援が必要である。ますます増える外国籍の子どもを支援する機関は私達だけであるので、いろんなところから問い合わせを受けても、対応しきれていない。公的な初期指導教室が開設されることを望む。 ・ 高校生のパソコンの無償化。 ・ 例えば「進研ゼミ」のような通信教育で、本人が学べるものを一緒にやってあげるといようなことはあっても良いかもしれませんが、まず心を開いてもらうためのコミュニケーションに時間がかかるのは事実なので、そこまでいけないまま卒業を迎えてしまうことが多いです。 ・ 保護者の精神的負担を減らすことにつながる施策。子どもが家をでて、一定時間は保護者が一人の時間を持てるようにすること。子どもが家以外で、エネルギーを回復するようなプログラム。 ・ 学校でいえば、教科の先生を選択できる仕組みが欲しい。先生によりモチベーションが変わってくる。小学生で言えば、教科によっては学年横断の授業があっても良い。学習支援活動の目線では、学校の先生のOBの方が、地域の学習支援を立ち上げたり、既存の学習支援活動に参画してもらえる仕組みが欲しい。 ・ 放課後や休日、小学生が友達と遊ぶ姿がほとんど見られない。時代背景もあるのは承知しているが、子ども同士が戸外で遊ぶ中で得るものは大きく、大人になった時の人格形成や人とのコミュニケーション力に非常に影響していることを危惧する。大きな問題で、私が主催するおひさま文庫でどうこうできる問題ではないが、せめて地域の親子のコミュニケーションの場づくりができればと思っている。が・・・保護者の諸事情で参加する親子も少ない。 ・ タブレット学習などが増えているので、各家庭だけでなく 各施設に Wi-Fi があると、学習支援にも効果的だと思います。 ・ どの人にもその子に合った教育をしてほしいです。一連の教育でなくその子に合わせた学習内容等が必要だと思います。 ・ 経済状況により塾に行けない子ども達にも同じように教育が受けられるような仕組みづくり。 ・ 子どもたち誰でもが平等に勉強できる環境、場所の提供。 ・ 教育の支援は、保・幼稚園、小学校、中学校を、卒業したら終わり、というのではなく、継続した校種間の連絡、連携が大事と考える。 ・ 将来の夢が持てる経験などができるような支援があるといいと感じている。子ども第三の居場所では、モリウミナスという体験施設に行ってもらったが、かなり刺激を受けて将来のことを考えていたので、そういうところがあるとより教育支援に繋がるのかと感じた。 ・ 学校、保護者、塾の連携。
--------------	--

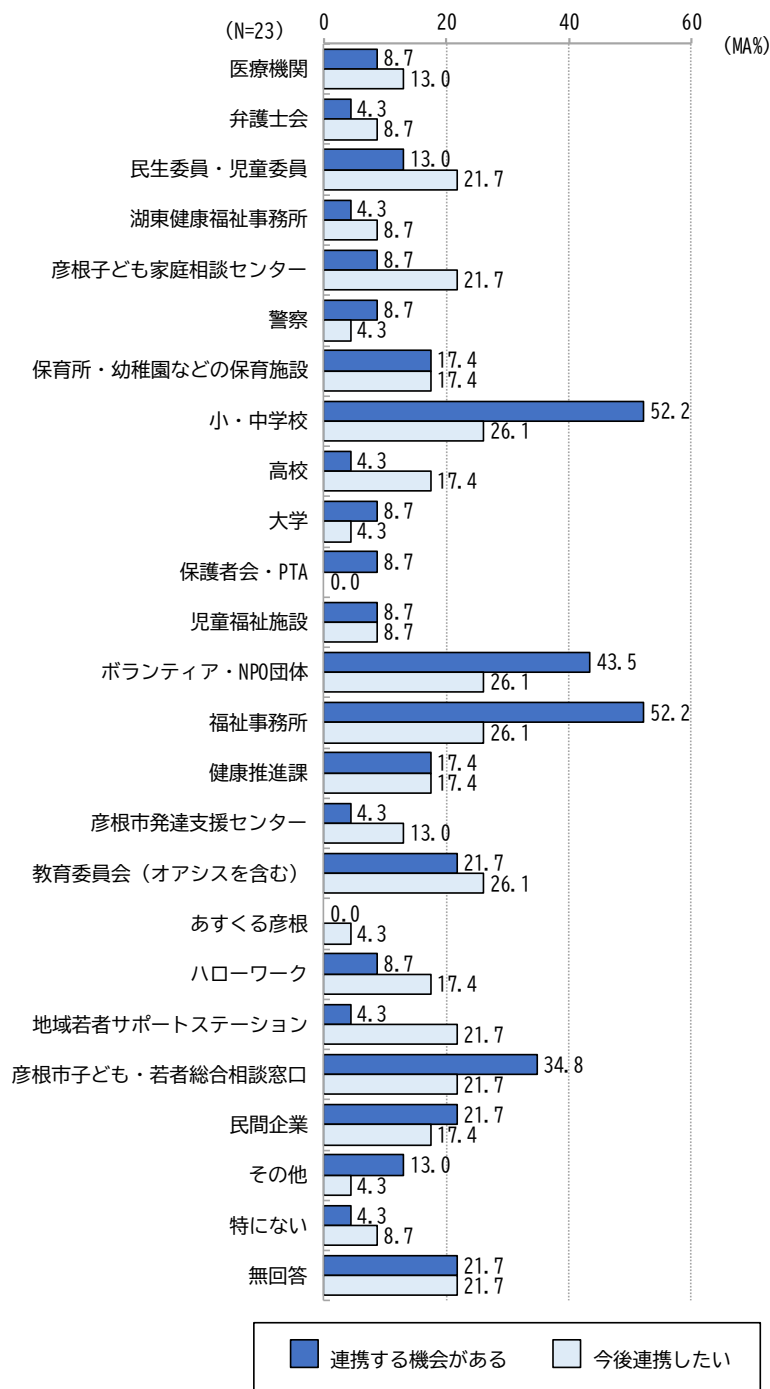
Ⅱ-4. 子どもの生活に関する資源量調査（団体対象）

生活の支援	・ 保護者が今何に困っているのか把握し、一緒に困り感を軽減できる方法を検討していく。 ・ 学校の給食費、教材費、修学旅行、校外学習の無償化。 ・ 必要なのは、個別の家の事情に耳を傾けながら自立支援をしていくことかな、と思いますが、中々簡単ではないですね。すぐに最善策までは思いつきません。すみません。 ・ 困難を抱えた人同士が集まり、そのコミュニティは助け合いにはなっているので悪くはないが、そのコミュニティのなかで、必要なものやことへの情報を集めて、具体的に支援を作り、実施していく施策。 ・ 実際に求められている支援をどう作るのか。彦根市だけではなく、産後ケアや親子サロンは増えているが、実際産後うつになる方も多い。妊娠中からのケアが大切だと感じています。どんな支援があって、どう利用するのか。使う、使わないではなく、知っていることが安心にも繋がっていくのではないのでしょうか。提示している、情報公開していると言っている、活用出来ていなければ意味がない。 ・ 日々の生活の中で、これは無くても代替えで出来るからと生活している方は多く見られます。これは我慢しよう、母親の思いが子にも我慢する悪循環が回っているように思われます。 ・ 支援が必要な家庭が自立していける支援が必要に思います。 ・ ホームヘルパーの派遣。 ・ 子どもが大きくなることで、母子分離や世帯分離など、子どもの人生と親の人生を一緒にしない支援が必要ではないかと感じている。
就労支援	・ 情報の周知徹底。支援団体のネットワーク化。 ・ 本人だけでなく、保護者の支援なども必要であればサポートしていくと良いと思いますが、それも「窓口設けるからきてね」ではなくて、一人ひとりと寄り添いながらサポートしていく体制でないと、利用者さんの心を開いていくのは難しいと思います。 ・ 生活ができる収入が得られる就労環境の確保。 ・ 企業だけの問題ではなく、社会の問題だと思います。
経済的支援	・ 教育に係る経費をすべて援助する。 ・ フリースクール等の参加助成は既にされてますし、特に思いつきません。 ・ 単にお金の支給ではなく、居場所としての仕事があり、その仕事を通じて経済的支援になるプログラム。 ・ 中間収入の方のも検討が必要だと思います。
その他	・ 産後だからと、子ども優先になってしまう親のケア。親に余裕があるからこそ、困難な家庭も減っていくと思います。困難な家庭だから行政が関わる。では、そうでない家庭だからと何もしてもらえないのでは意味がありません。大丈夫だと判断された人達が、不安を抱えている事を知っていますか？行政で手が負えないのであれば、民間や個人で支援している方達にも、助けてもらう必要があるのではないのでしょうか。 ・ その家庭に応じた就労支援、金銭的権利擁護、学習支援

Ⅱ-4. 子どもの生活に関する資源量調査（団体対象）

②連携による支援体制等のあり方

■連携する機会のある機関・団体／今後連携したい機関・団体



連携する機会のある機関・団体は、「小・中学校」、「福祉事務所」がそれぞれ 52.2%と最も多く、次いで、「ボランティア・NPO 団体」が 43.5%、「彦根市子ども・若者総合相談窓口」が 34.8%となっています。

今後連携したい機関・団体は、「小・中学校」、「ボランティア・NPO 団体」、「福祉事務所」、「教育委員会（オアシスを含む）」がそれぞれ 26.1%と最も多く、次いで、「民生委員・児童委員」、「彦根子ども家庭相談センター」、「地域若者サポートステーション」、「彦根市子ども・若者総合相談窓口」がそれぞれ 21.7%となっています。

他の機関や団体と連携する際の課題

連携する際の課題

- ・ 少しでも安心して過ごしてもらえる居場所として沢山の方に参加してもらえたらと思います。彦根社協さんへ案内を提示してもらっていますが、他機関へも是非知ってもらえたらと考えています。
- ・ 課題のある子どもの情報が共有されていない。
- ・ 特に、先生のＯＢの方とは具体的に出会える機会がないこと。
- ・ 窓口がバラバラで、出向くのにかかる。
- ・ 社会全体で考えていく問題だと思います。
- ・ 自団体の活動の内容を十分に知って頂ける機会。
- ・ シェルター機能と情報提供や地域との連携のあり方。

今後、困難な家庭の子どもや保護者に対する支援全般のため、彦根市としてどのような対策が必要だとお考えですか。

彦根市として必要な対策

- ・ 総合的に何でもいつでも相談できる窓口。
- ・ 学習支援の公的な機関をつくる必要があります。
- ・ 関係機関の情報の共有。横のネットワークができていない。
- ・ とても良く動いていらっしゃるように感じています。いつもサポートありがとうございます。
- ・ 必要なサポートをしてくれるサービスの提供。
- ・ 家庭訪問、学校との情報共有。
- ・ 保護者、特に母親が、子どもの課題を抱えてしまっていて、保護者が精神的にしんどくなっているように思う。護者が、子育てを離れ、自分一人の時間を持てるような支援が必要だと思う。そのためには、生活できる仕事と、子どもを置いておける施設・環境の整備が必要だと思う。
- ・ 学習支援の現場を考えると、一律に平等な施策は難しい。勉強がしたいが機会がない子どもへの施策、勉強に適性がなく、勉強以外のスポーツや芸術に適性のある子どもへの施策、特にどちらかに偏りのない子ども等への施策など、それぞれの子どもの自己肯定感を高める施策が必要だと思う。
- ・ 困難な方たちがアプローチ出来る環境を作る。
- ・ 数も必要だが、情報提供をどのようにしていくのか。
- ・ もっと行政が精神障害などの親やその家庭環境等を把握してほしいです。
- ・ 支援を受けながら自立していける支援。
- ・ こちらから申し出るのはデリケートで難しいので、機会をあたえていただけると嬉しいです。
- ・ 子ども:子どもの居場所づくり、学習できる場所の提供、毎日来られる場所、話せる大人、仲間、すぐに尋ねられる大人
保護者:話せる人、場所、就学前からのかわり

Ⅱ-4. 子どもの生活に関する資源量調査（団体対象）

最後に、子どもの貧困やその対策について、ご意見などがありましたら、ご自由にお書きください。

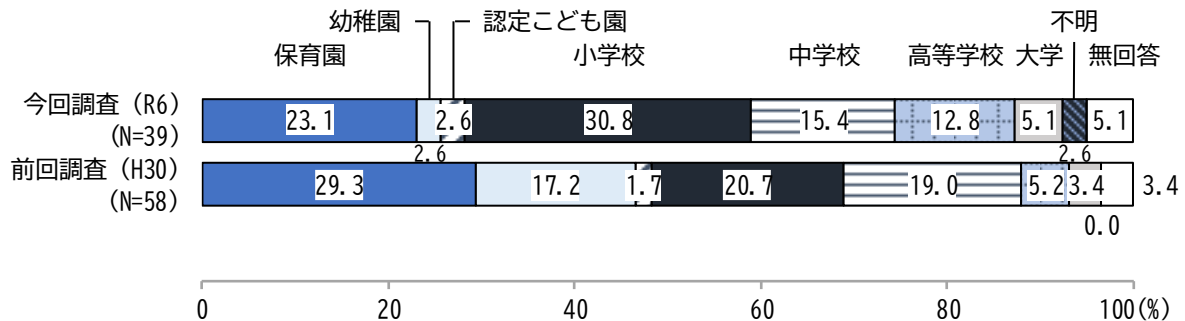
自由意見

- ・ 私自身ひとり親家庭でのぞみ会さんのサポートを受けていますがお弁当配布やハードバンクさんの支給を分けていただき助かっています。ひとり親として子育てする中で、集まれる居場所がほしいという思いからも開催している幸せキッチンでは材料費を徴収させていただいており、ひとり親さんや困窮家庭の方への無料さんかは実際には難しいところです。参加費の免除とは難しいですが、居場所のご案内としてお声かけいただけると嬉しいです。また活動を応援してくださる方からの寄付金を社協さんからいただける際には参加費を無料で提供しております。そのような寄付などいただけるとありがたいです。子供達の主体性を育む活動として提供する形ではなく共に作る活動を大切にしています。
- ・ 子ども貧困は、国策が生み出したものである。生活困窮家庭の負のサイクルから抜け出すことは難しい。現場だけで解決は困難。国に対しても、要望すべきである。
- ・ そこに 1 番気づきやすいのは学校の先生や近所の方だと思います プライバシーの問題もあり、踏み込み方がものすごく難しい時代ではあるので、学校と福祉機関との密な連携、地域の人々が気付いた事を気軽に福祉機関に通報(相談)出来るような環境であること →どこに電話していいかわからない、電話代がかかると躊躇する、フリーダイヤルであってほしい、匿名希望など。
- ・ まず、親が自分自身を大切にしていないと 子どもは自分を大切に出来ません。 ネットを通して、情報がたくさん溢れて、会ったこともない人たちを見て比べて… でも自分の意思は変えられないから葛藤して、自分はダメなんだと責めます。 もっと自分を大切にすることから始めないといけないと感じています。 大切にすることは、自分自身を知ることから始まります。 好き・嫌いすら分からず、人に合わせて生きている事で、 自分を見失って、夫婦関係にも子育てにも影響を与えています。 子どもを持つことで、自分が大変になる。自分のやりたいことができなくなる。子を育てる責任。 それに耐えられる自信がない。 と思わせている世の中になっている事自体が、問題だと感じています。 子どもは絶対産まないといけないわけではありませんが、結婚する、子を育てる事がどれだけ尊い事なのかを伝えていくことも必要ではないでしょうか。
- ・ 子どもの貧困の原因に親の貧困が問題だと思っています。
- ・ 難問です。
- ・ こちらから申し出るのはデリケートで難しいので、機会をあたえていただけると嬉しいです。
- ・ 子どものための給付金や手当が子どものために使用されていない。
- ・ 本塾「学問のすすめ」は、R5年10月から、保護者が経済的に一般の塾にかよわせるのが難しい家庭の小中学生を対象に、「学習支援」をおこなっています。R5年10月にスタートしました。まだ、半年たらずが、色んなことが見えてきています。 学力をつけることが目的なのですが、現実には、もっと広い意味の学びができる所でありたい。子どもが自分の思いを話せる、耳を傾けられる場所、大人がいる。個別指導、「わかる」「面白い」「楽しい」「もっと知りたい」「1から学び直したい」「力をつけたい」

Ⅱ-5. 子どもへの支援に関する調査（保幼小中高大対象）

〔1〕 学校園の種類

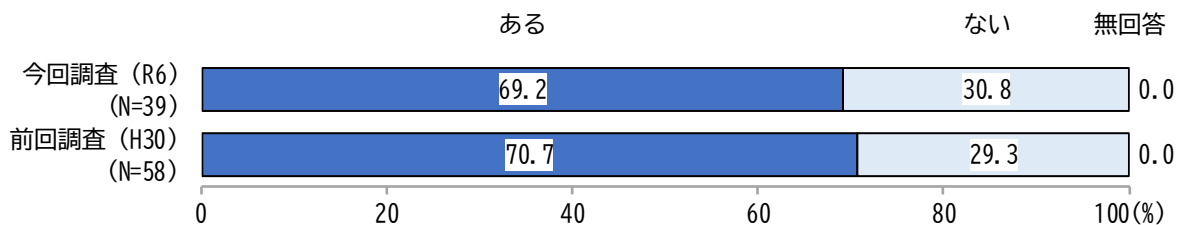
問1 貴校（園）について教えてください。



回答のあった学校園の種類は、「小学校」が30.8%と最も多く、次いで、「保育園」が23.1%となっています。

〔2〕 困難な家庭の子どもや保護者と接することがあるか

問2 貴校（園）における日ごろの業務の中で、経済的に困窮するなど困難や課題のある家庭（困難な家庭）の子どもや保護者に接することがあります。（1つに○）



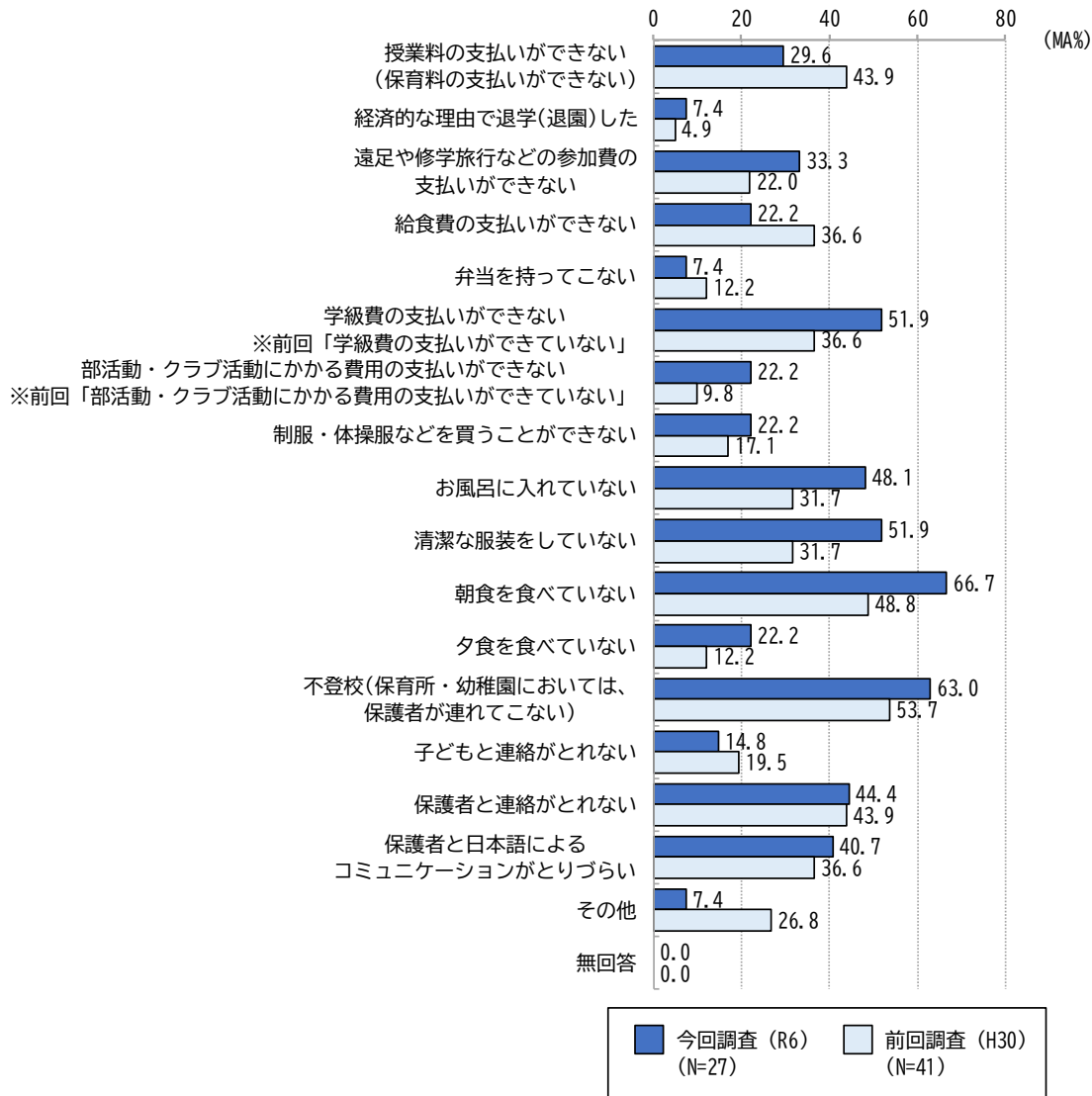
経済的に困窮するなど困難な家庭の子どもや保護者と接することがあるかについては、「ある」が69.2%、「ない」が30.8%となっています。

Ⅱ-5. 子どもへの支援に関する調査（保幼小中高対対象）

〔3〕 困難な家庭の状況

問2で「ある」を選んだ方のみ

問2-1 困難な家庭では、具体的に、どのような状況がありますか。（該当する番号すべてに○）



困難な家庭の子どもや保護者と接することがあるとお答えの方に、困難な家庭の状況についてたずねたところ、「朝食を食べていない」が66.7%と最も多く、次いで、「不登校（保育所・幼稚園においては、保護者が連れてこない）」が63.0%、「学級費の支払いができない」、「清潔な服装をしていない」がそれぞれ51.9%となっています。

〔４〕 困難な家庭の子どもや保護者に対し行っている支援

問３ 問２で答えていただいたような困難な家庭の子どもや保護者に対し、どのような支援を行っていますか。（「定期的な訪問」「相談窓口につないでいる」といったことも、行っている支援としてご記入ください。）

①子どもへの支援

〔保育所・幼稚園・認定こども園〕

- ・ 定期的に面談を行なっている。
- ・ 清潔が保たれていない子は、登園時にウェットティッシュ等で拭く。・登園後すぐにおむつ替えを行う。
- ・ 朝食と睡眠について、保護者に指導し、子どもの生活がしやすいよう支援している。
- ・ 定期的に相談窓口と連絡を取り合い、情報交換をしている。何か心配なことや、変わったことがあれば、その都度すぐに、お互いに連絡を取るようになっている。保護者に対しては、日頃から声を掛け、関わりを持ち、悩みや困りごとなど、寄り添えるようにしている。

〔小学校〕

- ・ 定期的に訪問 子育て支援課や人権福祉交流会館へつないでいる。
- ・ 衣食住に関する個別支援 定期的な家庭訪問 個別の学習支援
- ・ 定期的な家庭訪問 関係機関との連携を図った継続的な見守り。
- ・ 定期的な訪問 ・相談窓口につないでいる ・関係機関とつなぎ、そこからの支援。
- ・ スクールソーシャルワーカーに入ってもらってのケース会議 子育て支援課との定期的な情報交換。
- ・ 通級指導で、生活についての聞き取りや指導を行う。支援員が、体操服などを洗濯したり、着替えをさせたりする。個別に毎日の計画を伝えて、安心して教室には入れるようにしている。訪問教育相談員との面談。子育て支援課と連携し、家庭訪問などを行っている。
- ・ 定期的な家庭訪問、個別の学習支援。
- ・ 不登校に関わっては定期的に連絡をとっているほか、個別の支援をしている 学級費等は管理職、担任等で連絡、訪問をしている。

〔中学校〕

- ・ 進路選択に向けたキャリア教育および相談・放課後学習会・かすが質問教室への教員派遣（人権福祉交流会館）
- ・ 市の社会福祉課学力向上支援のサポートを受けている
- ・ 不登校傾向の生徒には、定期的に家庭訪問を行っている。社会福祉課、子育て支援課、SSWとの連携・情報共有により必要な支援ができるようにすすめている。
- ・ 放課後登校する生徒に担任や学年の教師が学習支援をしている。
- ・ 相談の機会を持つ。訪問相談員との面談。地域での食事支援につなぐ。地域での学習支援につなぐ。放課後の学習支援。
- ・ 学習プリントを作って渡す。

〔高等学校〕

- ・ 定期考査前に、学年主任などと協力し、学習支援を行っている。また、提出物が期限内に出せない生徒に対して、学級担任・教科担当と連絡を取り合い、遅れないように指導をしている。また、3学年次においては、就職や進学に向けた面接指導などを行っている。
- ・ 本人との面談による心理的不安の緩和を図っている。・不登校生徒に対しては、スクールカウンセラーを活用している。
- ・ 担任や学年部長、カウンセラーから困っていることはないか、など聞き取りを行い支援している。支援している。
- ・ 卒業生の物品の貸与。相談機関の紹介・連携。

Ⅱ-5. 子どもへの支援に関する調査（保幼小中高対象）

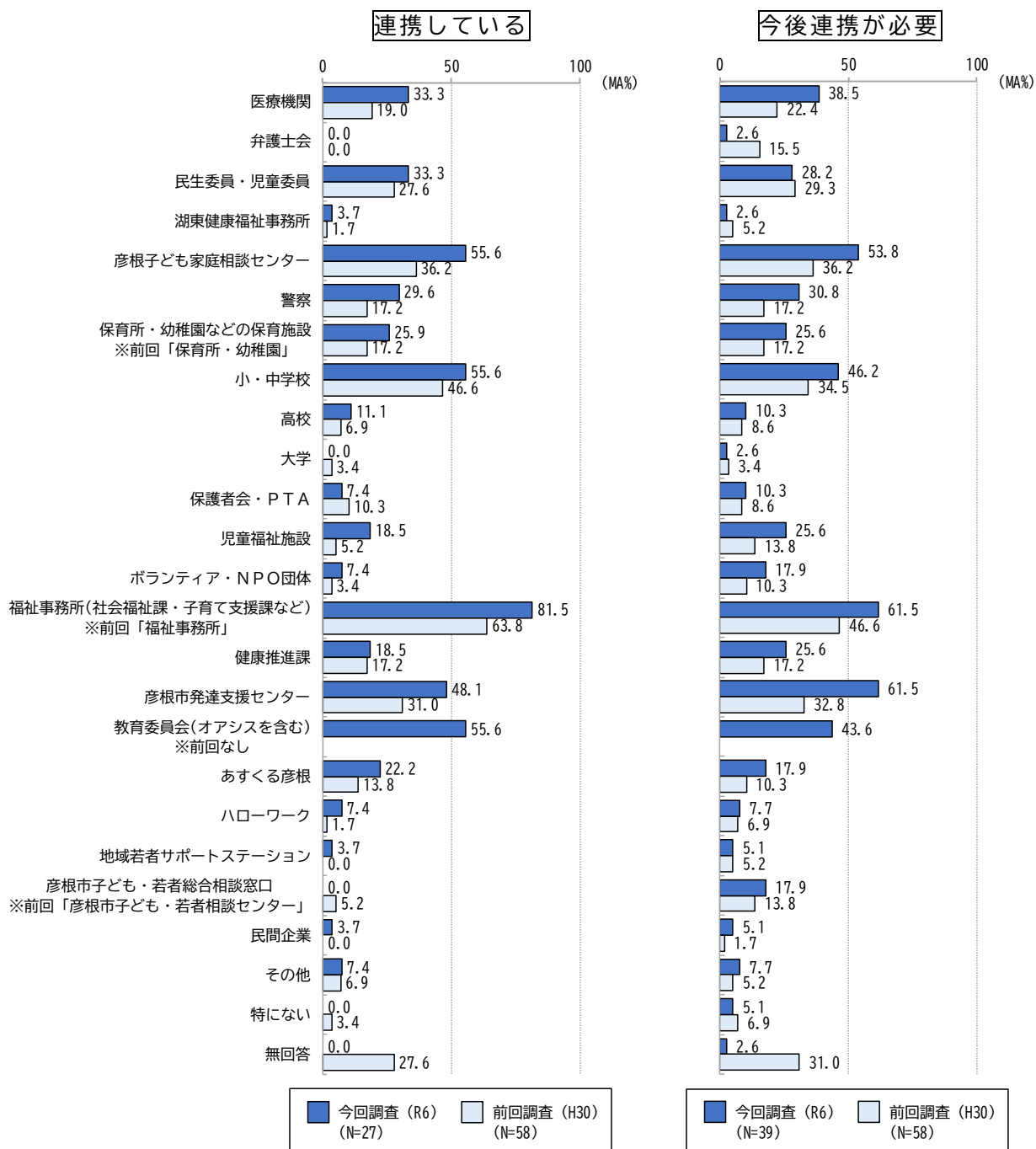
〔大学〕 ・ 学生支援センターでの相談対応（奨学金制度の紹介等） 学内での各種相談窓口につないでいる。 ・ 経済的に困難な状況の学生に対しては、各種の奨学金の案内（募集説明会の開催等）及び支給に係る手続を行っている。また、入学料・授業料免除、入学料徴収猶予の制度を設けている。 ・ 障がい学生支援室を設置し、学生生活・修学において困難を抱える学生に対して教職員による相談対応等のサポートを行っている。
〔不明・無回答〕 ・ 園で洗濯や沐浴等の衛生面の支援。

②親への支援

〔保育所・幼稚園・認定こども園〕 ・ お腹が空いて泣けてくる場合は別室で、バナナなどの軽い朝食を提供している。 ・ 相談機関につなぐ。行政の支援サービス等の情報をこまめに伝える。 ・ 衣・食・住について、保護者に指導すると同時に家庭の環境を子どもが生活しやすいよう、掃除等、家庭に出向いて、支援している。 ・ 彦根市からいただいたミルクや紙おむつ。諸経費は収入があるまで（月末）待つ。
〔小学校〕 ・ 中学入学に際しての制服を「ほどほどさん」にかしてもらおうよう、子育て支援課にお願いした。 ・ 相談機関につなぐ。定期的な家庭訪問による保護者とのつながり。 ・ 就学援助等、公的な支援の紹介 関係機関につなぐ。 ・ 定期的な訪問。相談窓口につないでいる。関係機関とつなぎ、そこからの支援。 ・ リユース情報を学校配信メールで広め情報提供を広く行っている。 ・ 子育て支援課と連携している。学習用具や食料などの支援（支援課）・SSWの訪問。特別支援教育コーディネーターと担任との懇談で、家庭でできることを紹介したり、学校で使用としていることを提案したりしている。 ・ 子育て支援課との連携。 ・ 家庭訪問を行い相談に乗っている。内容により必要な期間につないでいる。体操服のリユースを利用されるよう紹介した。 ・ 家庭のようすに応じて個別に声をかけている。
〔中学校〕 ・ 卒業生からの制服・体操服のリユース→急な転入、外国籍への生徒へ。家庭や訪宅や架電。 ・ 支払いの見通しを立てるようサポートしている。制服、体操服などのリユースを案内している。 ・ 関係機関と連携をとっている。制服・体操服の貸し出しを行っている。 ・ スクールカウンセラーや訪問相談員のカウンセリング等を行っている。 ・ 福祉との連携 s s wとの連携 制服・体操服（リユース品）の提供。 ・ 定期的に連絡を取る。
〔高等学校〕 ・ 基本的に、支援のために、相談機関に必ずつないでいる。保護者への連絡は、学級担任・学年主任を通じて行っている。リユースについては、卒業生から女子の制服を譲り受けたりしている。 ・ 不登校生徒に対しては、親にもスクールカウンセラーを活用していただいている。 ・ 保護者に就学支援のための公的な奨学金や、金融機関で行っている学資の貸し付けについて、紹介している。 ・ 自校の事務局との連携促し 奨学金の紹介。
〔大学〕 ・ 必要に応じて保護者からの相談も受け付けている。 ・ 相談があれば学生に対するカウンセリングの実施等、都度対応している。
〔不明・無回答〕 ・ 制服、体操服、日常の衣服の貸し出し。

〔5〕連携している機関や団体／今後連携が必要な機関や団体

- 問 4 現在、貴校（園）において困難な家庭の子どもや保護者に対する支援を行う上で、連携している機関や団体などはありますか。（該当する番号すべてに○）
- 問 6 今後必要な支援に取り組むため、連携が必要な機関や団体などはありますか。（該当する番号すべてに○）



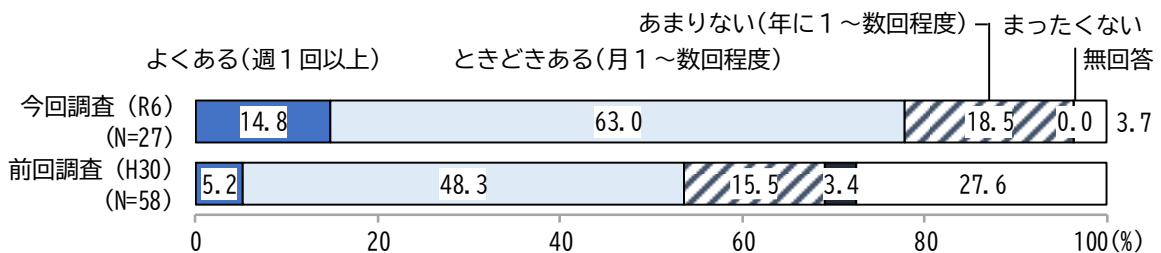
困難な家庭の子どもや保護者に対する支援を行う上で、連携している機関や団体などについては、「福祉事務所(社会福祉課・子育て支援課など)」が81.5%と最も多く、次いで、「彦根子ども家庭相談センター」、「小・中学校」、「教育委員会(オアシスを含む)」がそれぞれ55.6%となっています。

Ⅱ-5. 子どもへの支援に関する調査（保幼小中高対象）

今後必要な支援に取り組むため、連携が必要な機関や団体は、「福祉事務所(社会福祉課・子育て支援課など)」、「彦根市発達支援センター」がそれぞれ61.5%と最も多く、次いで、「彦根子ども家庭相談センター」が53.8%、「小・中学校」が46.2%、「教育委員会（オアシスを含む）」が43.6%、「医療機関」が38.5%となっています。

〔6〕他の機関や団体と連携する機会

問5 現在、貴校（園）において困難な家庭の子どもや保護者に対する支援を行う上で、他の機関や団体と連携する機会がどの程度ありますか。（該当する番号1つに○）



困難な家庭の子どもや保護者に対する支援を行う上で、他の機関や団体と連携する機会がどの程度あるかについては、「ときどきある（月1～数回程度）」が63.0%と最も多く、次いで、「あまりない（年に1～数回程度）」が18.5%となっています。

〔7〕 他の機関や団体と連携する際の課題

問7 他の機関や団体と連携する際の課題を教えてください。

〔保育所・幼稚園・認定こども園〕

- ・ 情報をこまめに伝えあうと共に、個人情報の取扱いに十分注意する。
- ・ 多忙な業務に追われる中で、いかに時間等を確保して、有意義な連携が図れるか。
- ・ 情報交換は行っているが、うまく伝わっていないこともある。 人事異動などの場合の引継ぎが上手くできていない。 ・ 書面での引継ぎがあっても目を通す時間もなく、把握できていない部分もあるので人事異動のタイミングが難しいと感じる。
- ・ 情報共有のタイミングや、内容について適切な関係機関や見極めが難しいと思うことがある。

〔小学校〕

- ・ どこまでお願いすればよいか、わからないこと。
- ・ それぞれの機関との連携を図ってはいるが、どこまで保護者が抱えている課題に入り込めるのかが難しい。
- ・ 日程の調整。
- ・ 知り合う機会が少ない。どこと繋がればよいかの判断が難しい。
- ・ 個人情報の取り扱い。
- ・ 電話連絡したいが、留守番電話機能が働き5：15以降つながらないので、夕方の緊急の連絡ができない。
- ・ 保護者の意向。
- ・ 日程と時間の調整。線引きが明確でない隙間の仕事を学校に任せようとするケースがある。
- ・ 相談の日程の調整 課題の焦点化

〔中学校〕

- ・ 記録を残し、次にしっかり繋げていくことが大切である。
- ・ 学校徴収金が未納になる家庭（生活保護家庭）への支援がうまくいっていない。
- ・ 個人情報の取り扱い。相談時間の設定（勤務時間内に設定することが難しいことがある）。連携の窓口となる教員の負担。

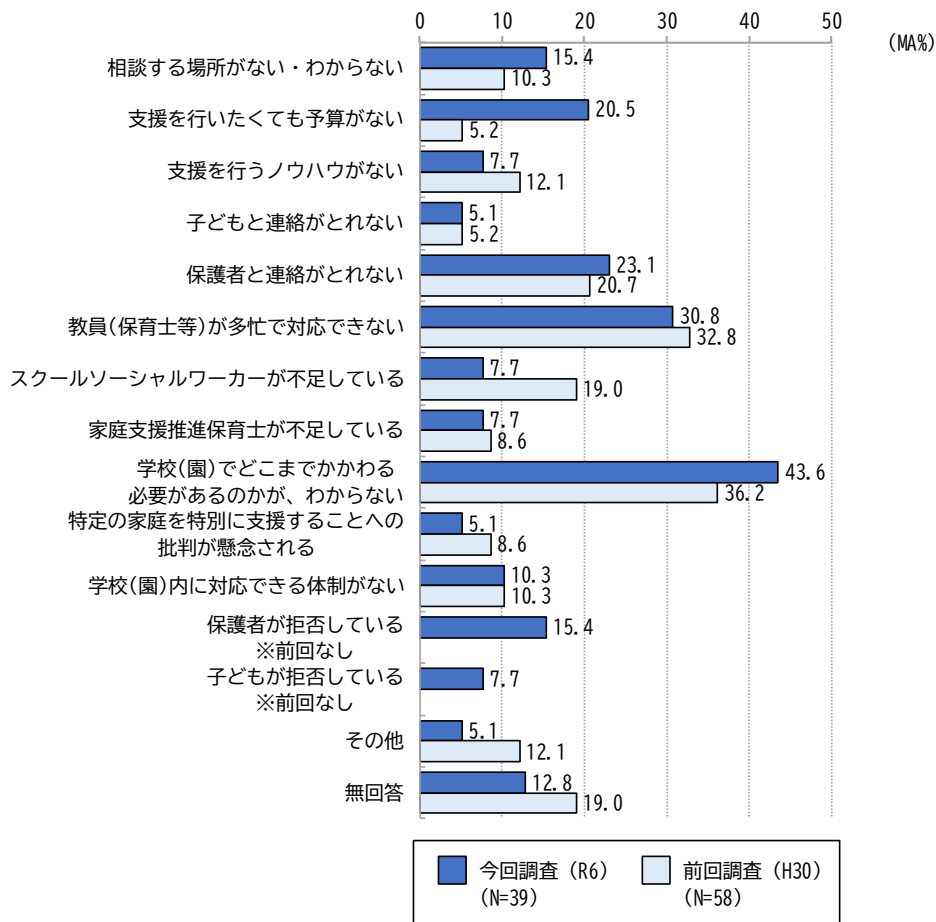
〔高等学校〕

- ・ 担当していただける方の窓口を、本校担当として一つにして頂きたい。生徒による担当者になると、本校全体を見ていただけないように感じる。
- ・ 個人情報の取り扱いが難しい。
- ・ 個人情報の取扱を厳重にしなければならない。

Ⅱ-5. 子どもへの支援に関する調査（保幼小中高対象）

〔8〕 困難な家庭の子どもや保護者に対する支援の課題

問 8 現在、貴校（園）において困難な家庭の子どもや保護者に対する支援を行う上で、課題になっていることは何ですか。（該当する番号すべてに○）



（その他内訳）

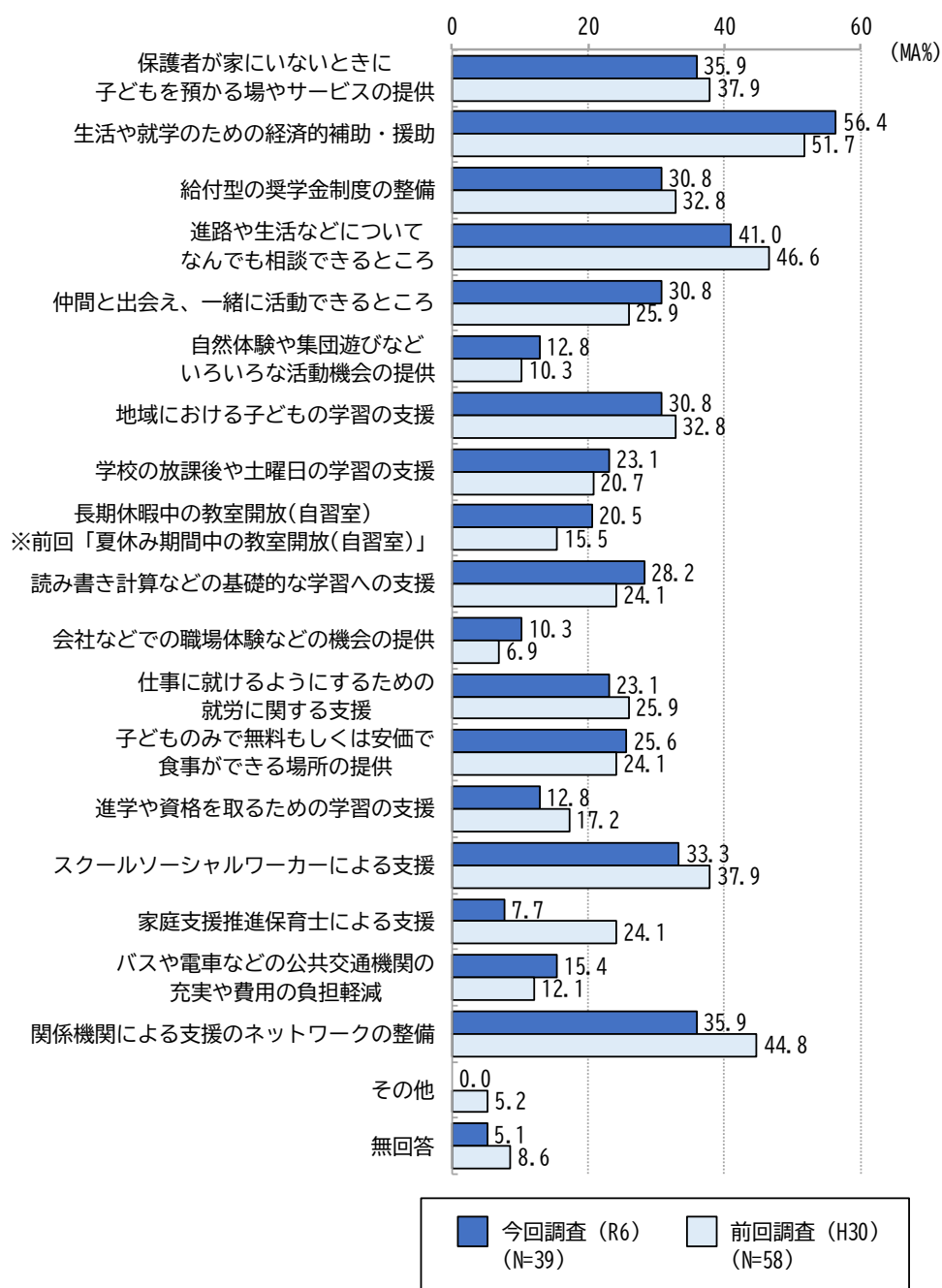
〔小学校・中学校〕

- ・ 学校の業務が多く時間が確保が困難なときがある
- ・ 課題のある児童が複数おり、対策会議を一日にいくつも行うことがあり、職員の超過勤務につながってしまう。

困難な家庭の子どもや保護者に対する支援の課題については、「学校（園）でどこまでかかわる必要があるのかが、わからない」が 43.6%と最も多く、次いで、「教員（保育士等）が多忙で対応できない」が 30.8%、「保護者と連絡がとれない」が 23.1%となっています。

〔9〕 困難な家庭の子どもや保護者に対して必要な支援

問 9 今後、困難な家庭の子どもや保護者に対し、どのような支援が必要であると思いますか。（該当する番号すべてに○）



困難な家庭の子どもや保護者に対し必要な支援については、「生活や就学のための経済的補助・援助」が56.4%と最も多く、次いで、「進路や生活などについてなんでも相談できる場所」が41.0%、「保護者が家にいないときに子どもを預かる場やサービスの提供」、「関係機関による支援のネットワークの整備」がそれぞれ35.9%となっています。

Ⅱ-5. 子どもへの支援に関する調査（保幼小中高対象）

〔10〕 自由意見

問10 最後に、子どもの貧困やその対策について、ご意見などがありましたら、ご自由にお書きください。

〔保育所・幼稚園・認定こども園〕

- ・ 貧困で苦勞している方が誰にも相談できずに抱えてしまっていることも少なくないと思うので、もっと気軽に相談できる体制を整えるべきだと思う。まずは、行政や学校・園等がいつでもどんなことでも相談してほしいという発信を今以上に積極的に行っていくようにすれば相談しやすいのではないのでしょうか。
- ・ 子どもの貧困世帯の状況を知りたい（どの程度が貧困家庭なのか）。

〔小学校〕

- ・ 生活保護費を全て親に渡してしまうと使い込んでしまうことがあるため、学費分だけ取り分けて支給することができると良い。彦根市にはその仕組みがない。
- ・ 家庭によって考え方が多様化している。教育委員会等が指針を明確にすることで学校が動きやすくなるほか、学校外部の組織からのアプローチが必要となっていくと考える。

〔中学校〕

- ・ まだまだ教師だけでは家庭内の様子がわからないことが多いので、関係機関との連携や情報の共有が大切であると思う。
- ・ 子どもの問題ではなく、親の問題が大きいので、何とか子どもたちを支援していきたいと考えています。

〔高等学校〕

- ・ 様々な理由で、困難な生徒が増えています。いろんな機関とスムーズな連携がとれるようによろしくお願いいたします。
- ・ 本校は私立学校のため、公的機関の活用方法について疎いと感じます。また、生徒の困難な問題について現段階では地域との連携が難しく（広範囲にわたる通学圏）彦根市内の公的機関についてどの程度、生徒・保護者に提供していただけるのか、今後コミュニケーションをとらせていただき機会がございましたら、よろしくお願いいたします。

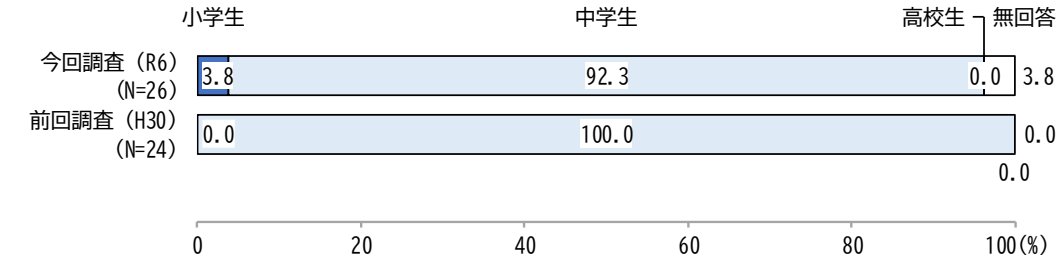
〔不明・無回答〕

- ・ 場所があっても行けない子どももいたりするので、訪問して提供できる支援もあればよいと思います。

Ⅱ-6. 子どもへの調査（学習支援児童生徒対象）

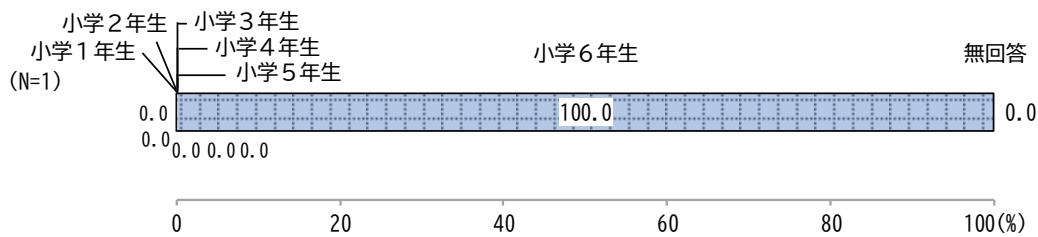
〔1〕 学年

問1 あなたの学年を教えてください。（令和6年3月1日時点）（あてはまる番号1つに○をつけ、（ ）の中に数字を書いてください）

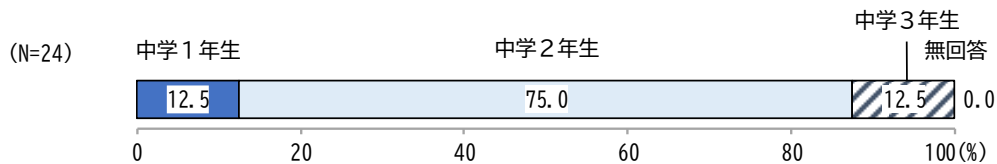


■ 学年

【小学生】



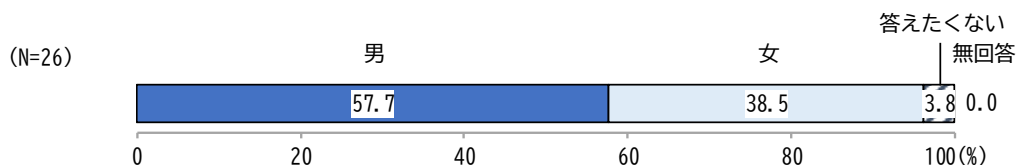
【中学生】



回答者は、「中学生」が92.3%と最も多く、学年は、「中学2年生」が75.0%と最も多くなっています。

〔2〕 性別

問2 あなたの性別を教えてください。（あてはまる番号1つに○）

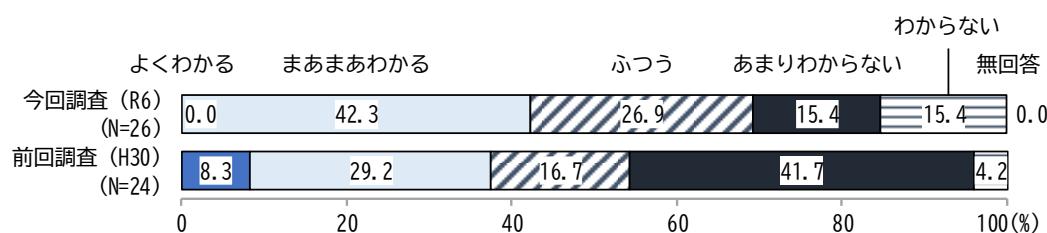


性別は、「男」が57.7%、「女」が38.5%となっています。

Ⅱ-6. 子どもへの調査（学習支援児童生徒対象）

〔3〕学校の授業（勉強）について

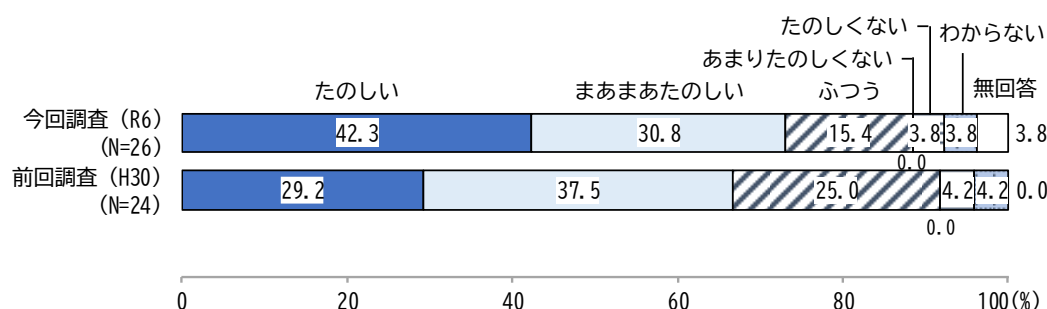
問3 あなたは、学校の授業（勉強）はよくわかりますか。（あてはまる番号1つに○）



学校の授業（勉強）の理解については、「まあまあわかる」が42.3%と最も多く、次いで、「ふつう」が26.9%となっています。

〔4〕学校について

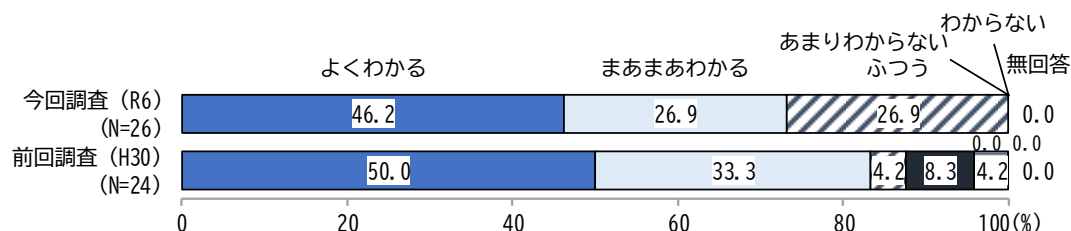
問4 あなたは、学校はたのしいですか。（あてはまる番号1つに○）



学校が楽しいかについては、「たのしい」と「まあまあたのしい」を合わせた『楽しい』が73.1%となっています。

〔5〕学習支援での勉強の理解について

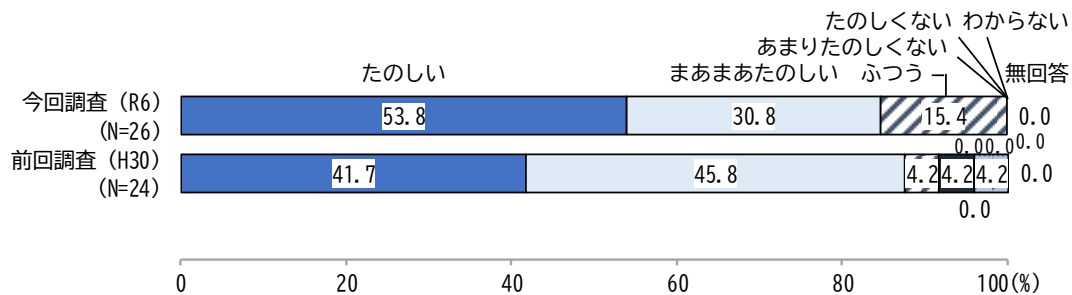
問5 あなたは、ここでの勉強はよくわかりますか。（あてはまる番号1つに○）



勉強がよくわかるかについては、「よくわかる」と「まあまあわかる」を合わせた『わかる』が73.1%となっています。

〔6〕 学習支援での勉強は楽しいか

問 6 あなたは、ここでの勉強はたのしいですか。（あてはまる番号１つに○）

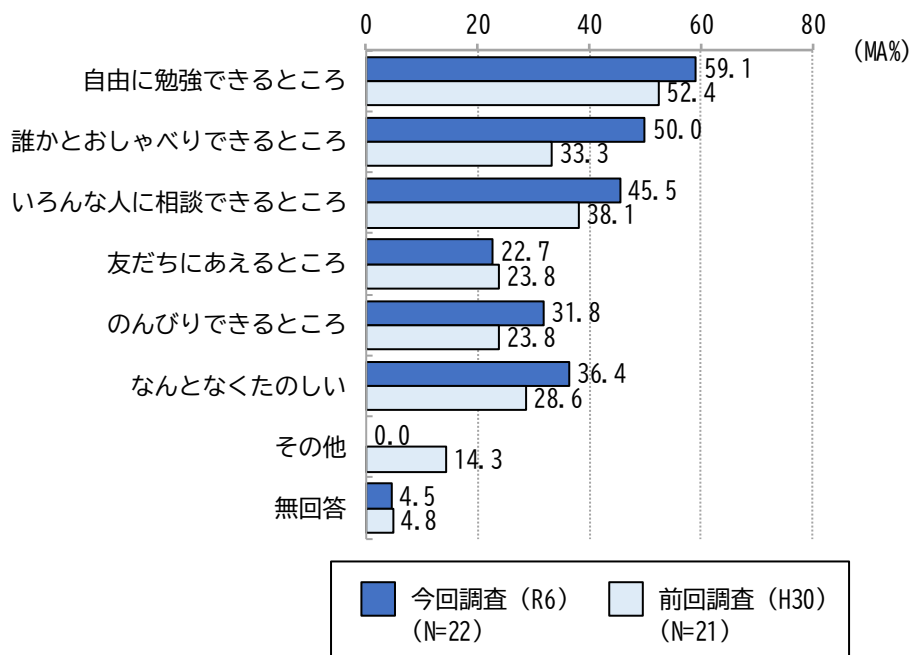


勉強は楽しいかについては、「たのしい」と「まあまあたのしい」を合わせた『楽しい』が 84.6%となっています。

〔7〕 学習支援での勉強が楽しいと思う理由

問 6 で「たのしい」か「まあまあたのしい」に○をつけた方のみ

問 6-1 ここは、どんなところがたのしいですか。「7. その他」を回答した人は、
（ ）の中にどんなところが楽しいかを書いてください。（あてはまる
番号すべてに○）



学習支援での勉強が「たのしい」、「まあまあたのしい」とお答えの方に、その理由をたずねたところ、「自由に勉強できるところ」が 59.1%と最も多く、次いで、「誰かとおしゃべりできるところ」が 50.0%、「いろんな人に相談できるところ」が 45.5%となっています。

Ⅱ-6. 子どもへの調査（学習支援児童生徒対象）

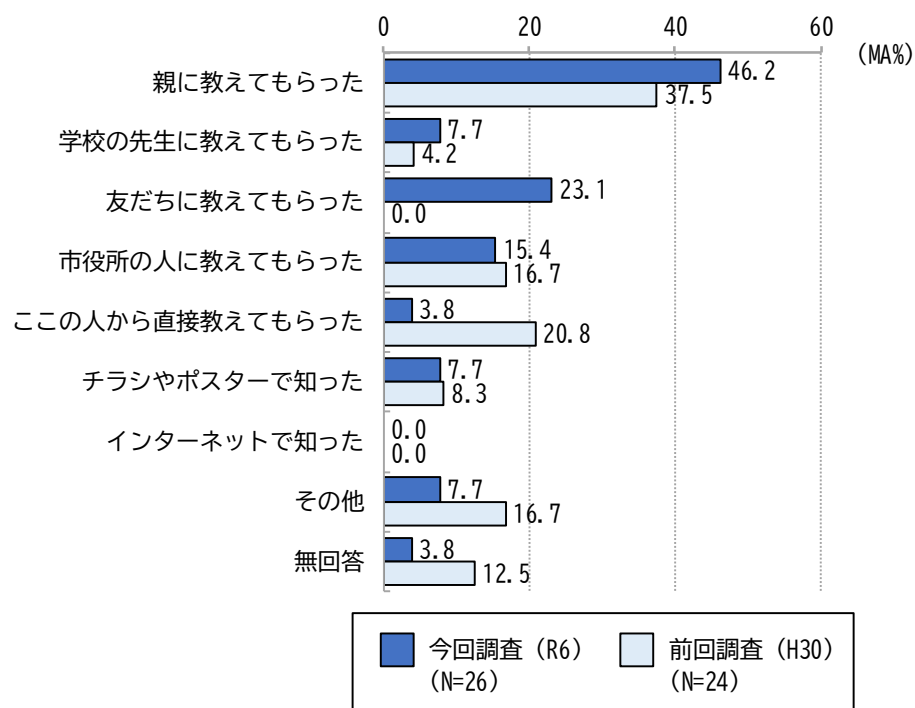
〔8〕学習支援での勉強が楽しくないと思う理由

問6で「あまりたのしくない」か「たのしくない」に○をつけた方のみ
問6-2 ここは、どんなところがたのしくないか教えてください。

※該当者なし

〔9〕学習支援に来ることになったきっかけ

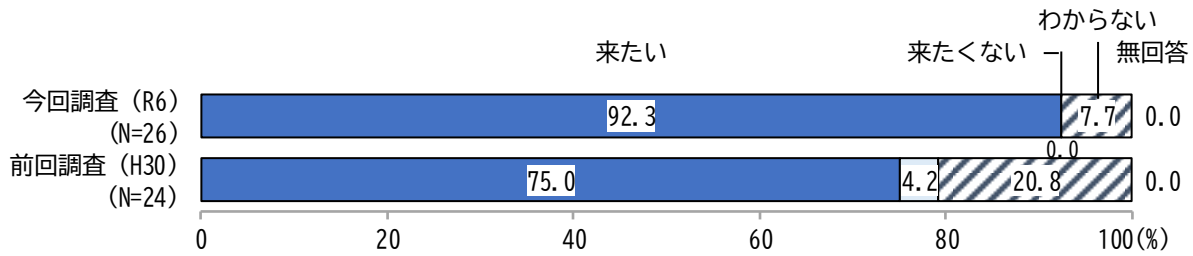
問7 あなたが、ここに来ることになったきっかけを教えてください。「8. その他」を回答した人は、（ ）の中に、どういうきっかけでここに来ることになったかを書いてください。（あてはまる番号すべてに○）



学習支援に来ることになったきっかけについては、「親に教えてもらった」が46.2%と最も多く、次いで、「友だちに教えてもらった」が23.1%、「市役所の人に教えてもらった」が15.4%となっています。

〔10〕 これからも学習支援に来たいか

問 8 あなたは、これからもここに来たいですか。（あてはまる番号１つに○）

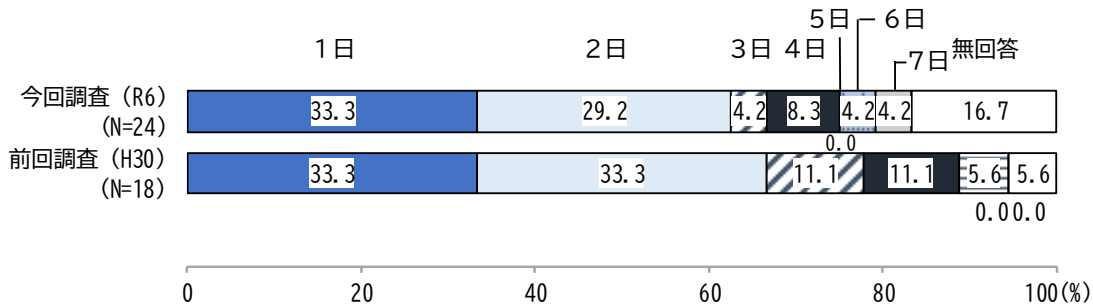


今後も学習支援に来たいかについては、「来たい」が 92.3%、「来たくない」が 0.0%、「わからない」が 7.7%となっています。

〔11〕 週に何日くらい来たいと思うか

問 8 で「来たい」を選んだ方のみ

問 8-1 あなたは、ここに、週に何日くらい来たいとおもいますか。（（ ）の中に、数字を書いてください）



週に何日くらい来たいと思うかについては、「1日」が 33.3%と最も多くなっています。

〔12〕 学習支援に来たくない理由

問 8 で「来たくない」を選んだ方のみ

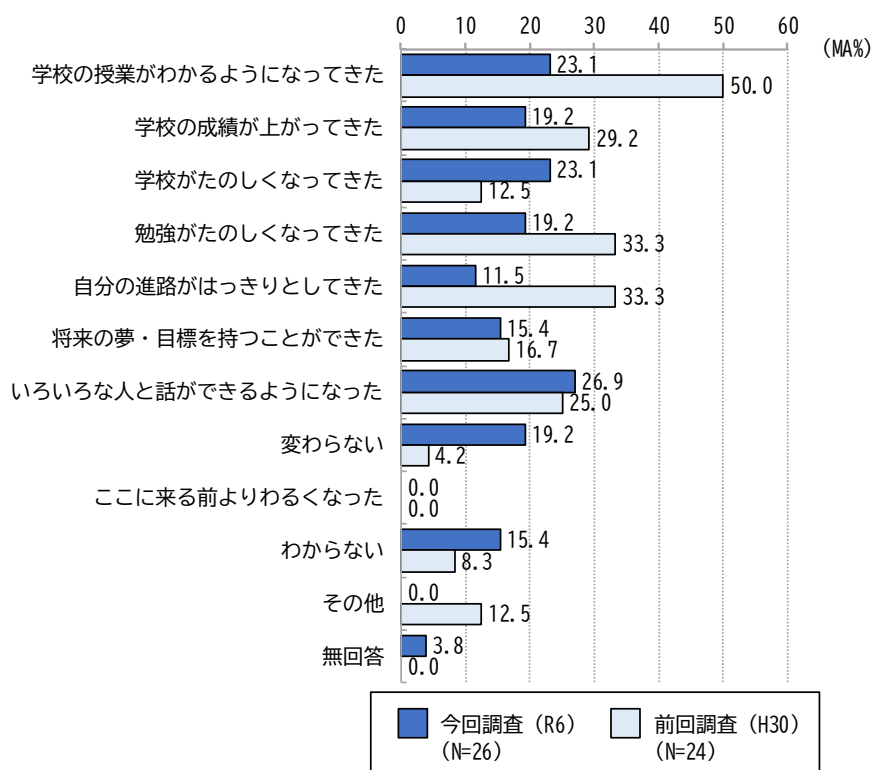
問 8-2 ここに来たくない理由を教えてください。

※該当者なし

Ⅱ-6. 子どもへの調査（学習支援児童生徒対象）

〔13〕 学習支援に来ることで変化はあったか

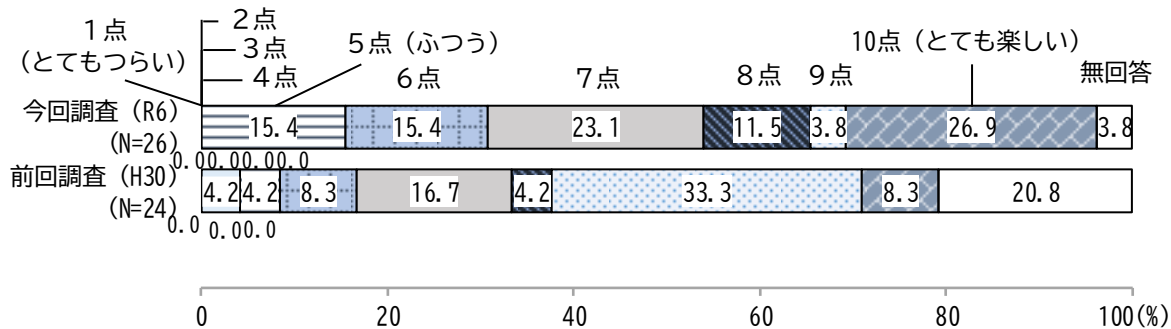
問 9 あなたは、ここに来ることで、何か変化はありましたか。（あてはまる番号すべてに○）



学習支援に来ることであった変化については、「いろいろな人と話ができるようになった」が26.9%と最も多く、次いで、「学校の授業がわかるようになってきた」、「学校がたのしくなってきた」がそれぞれ23.1%となっています。

〔14〕 気持ちの変化

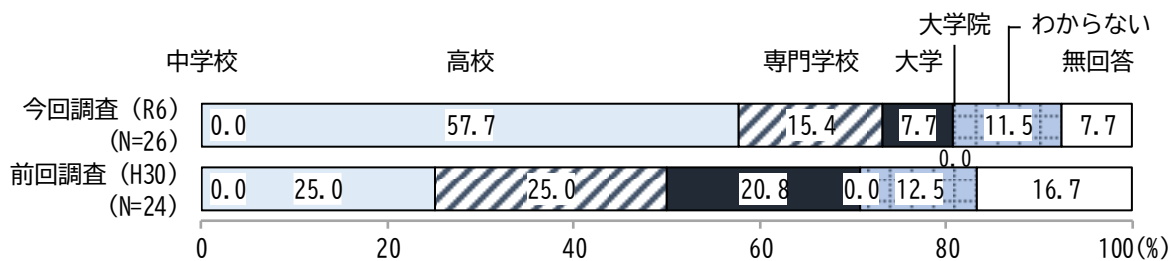
問10 あなたは、ここに来る前と今をくらべて、どんな気持ちの変化がありましたか。ここに来る前の気持ちを「ふつう（5点）」としたとき、今の気持ちを1～10点の間で回答してください。（あてはまる番号1つに○）



学習支援に来る前と比べてあった気持ちの変化については、良い方向への気持ちの変化があった子どもたちが多くなっています。

〔15〕 どの学校まで行きたいか

問11 あなたは、将来、どの学校までいきたいと思いますか。（あてはまる番号1つに○）



どの学校までいきたいと思うかについては、「高校」が57.7%と最も多くなっています。

Ⅱ-6. 子どもへの調査（学習支援児童生徒対象）

〔16〕 将来の夢や目標

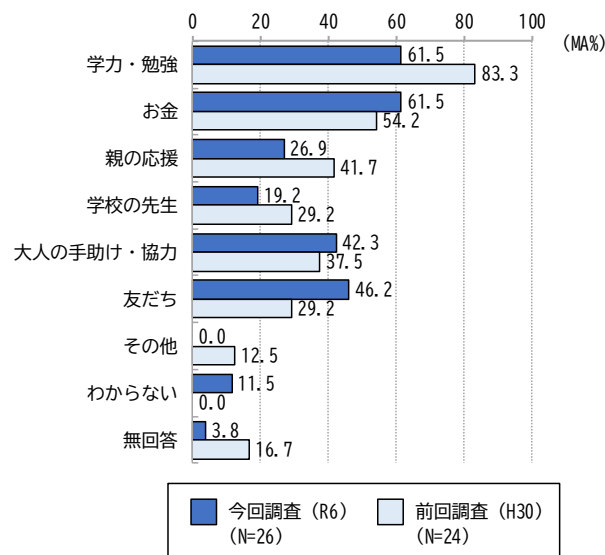
問12 あなたの、将来の夢や目標を教えてください。

将来の夢や目標

- ・ わからない・決まっていない。(5件)
- ・ 調理士
- ・ 美術の勉強
- ・ スーパーで働く→好きな人と結ばれる・推しに会う（えひめ）・千葉の友達と会う
- ・ 高校に行きたい。
- ・ やりたいことを見つけてそれをやる
- ・ 服系の仕事
- ・ 高校にうかる!!
- ・ イラストレーター
- ・ イラスト関係
- ・ 人の役に立つ。
- ・ 助産師
- ・ 将来の目標は、どんなことでも努力していく。
- ・ 料理人
- ・ イラストレーターかアニメーター
- ・ 生きること

〔17〕 将来の夢や目標をかなえるために必要なもの

問13 あなたの、将来の夢や目標をかなえるために、必要なものは何ですか。（あてはまる番号すべてに○）



将来の夢や目標をかなえるために必要なものについては、「学力・勉強」、「お金」がそれぞれ61.5%と最も多く、次いで、「友だち」が46.2%、「大人の手助け・協力」が42.3%となっています。

〔18〕 自由意見

問14 あなたが、ほかに伝えたいことや言いたいことがあれば、なんでもよいので自由に書いてください。

ほかに伝えたいことや言いたいこと

- ・ 手を器用になるようにしたい。
- ・ 笑えるしつもんやな。
- ・ もっと大人が勉強の学び直しができるところがほしい。
- ・ イェーイ!!